



Better Translation Technology

XTM ユーザ マニュアル  
管理者、  
プロジェクトマネージャ、  
リンギスト、  
カスタマー向け

XTM Version 11.4 ドキュメント

Published by XTM International Ltd.

© Copyright XTM International Ltd. All rights reserved. XTM International の書面による事前の承諾なしに、本書の内容の一部または全部を、いずれの方法によっても複製または送信することを禁じます。

更新:2019 年 1 月



XTM International Ltd, PO Box 2167, Gerrards Cross, SL9 8XF, UK  
Tel.: +44 (0)1753 480479 email: [sales@xtm-intl.com](mailto:sales@xtm-intl.com) <https://www.xtm.cloud>

## 目次

目次.....	3
<b>1. はじめに.....</b>	<b>10</b>
XTM のユーザとロール.....	10
PC のセットアップ.....	11
XTM Cloud 用にコンピュータをアクティベーションする.....	12
XTM でのファイルサイズの制限.....	12
<b>2. XTM Product の概要.....</b>	<b>13</b>
標準モジュール.....	13
標準サポート.....	14
XTM 翻訳プロジェクトのデータフロー.....	15
<b>3. XTM: 管理者向け.....</b>	<b>16</b>
XTM のライセンス.....	16
ログイン.....	16
ログアウト.....	16
ヘルプと情報.....	16
管理者に関するオプション.....	17
コンフィギュレーション.....	17
ユーザ詳細.....	17
マイアカウント.....	18
マイアカウント - サブスクリプションのリニューアル.....	18
マイアカウント - 追加ユーザ.....	19
マイアカウント - 支払い.....	19
マイアカウント - 追加ワード数.....	20
マイアカウント - 請求先情報.....	20
データ.....	20
データ - [言語コンビネーション]を設定する.....	20
データ - 言語グループ.....	23
データ - 概算見積り.....	24
データ - 主題係数.....	29
データ - メッセージ.....	30
データ - 配送サービス.....	31
データ - タグ.....	31
データ - プロジェクト カスタム フィールド.....	35
データ - 用語カスタム フィールド.....	36
設定.....	37
設定 - システム.....	37
設定 - 解析マネージャ.....	38
設定 - メール.....	40
メールをカスタマイズする.....	42
設定 - ファイル.....	44
設定 - LQA.....	45
設定 - プロジェクト.....	49
設定 - QA.....	53
設定 - セキュリティ.....	54

2 要素認証 .....	57
OAuth 2.0 または SAML 2.0 を使用したシングル サインオン (SSO: Single Sign-On) .....	58
設定 - 翻訳 .....	58
設定 - ワークフロー .....	73
XTM と LDAP .....	79
概要 .....	79
コンフィギュレーション .....	79
ユーザを追加する .....	80
ログイン履歴を表示 .....	87
[実行中セッション] タブ .....	87
サブコントラクト .....	88
概要 .....	88
サブコントラクトへのライセンス供与 .....	88
サブコントラクトの有効化 .....	88
サブコントラクト LSP を作成する .....	89
LSP エディタ - 接続 .....	90
LSP エディタ - 言語 .....	91
LSP エディタ - レートカード .....	91
LSP エディタ - アクセス権 .....	92
サブコントラクト LSP になるリクエストを受け入れる .....	93
LSP 用ライセンス .....	94
サブコントラクトされたプロジェクトの管理 .....	94
LSP LQA 結果 .....	94
<b>4. XTM: プロジェクトマネージャ向け .....</b>	<b>96</b>
ヘルプと情報 .....	96
カスタマー .....	96
カスタマーを追加する .....	96
カスタマーをインポートする .....	97
カスタマーを検索する .....	97
カスタマーを確認する .....	98
カスタマーを編集する .....	98
カスタマーエディタ - カスタマーの詳細 .....	98
カスタマーエディタ - 概算見積り係数 .....	100
カスタマーエディタ - 概算見積りオプション .....	102
カスタマーエディタ - 言語コンビネーション .....	102
カスタマーエディタ - QA .....	105
カスタマーエディタ - 主題係数 .....	106
カスタマーエディタ - 設定 .....	106
TAUS DQF との統合 .....	108
カスタマー プロジェクトマネージャを追加する .....	108
ユーザ .....	110
ユーザを追加する .....	110
ユーザエディタ - 一般 .....	110
ユーザエディタ - 住所 .....	111
ユーザエディタ - 言語 .....	111
ユーザエディタ - 主題 .....	112
ユーザエディタ - レートカード .....	112
ユーザエディタ - 資格 .....	113
ユーザエディタ - アクセス権 .....	113
ユーザエディタ - ユーザグループ .....	115

ユーザエディタ - 評価 .....	115
ユーザエディタ - タスク .....	116
リングストをインポートする .....	116
ユーザを確認する .....	117
ユーザを検索する .....	117
ユーザグループ .....	118
<b>プロジェクト</b> .....	<b>120</b>
プロジェクトを作成する .....	120
一般情報 .....	120
翻訳 .....	121
ワークフロー .....	126
設定 .....	128
機械翻訳 .....	130
タグを設定する .....	131
テンプレート .....	132
プロジェクト一覧でカスタマイズ可能なカラム .....	134
プロジェクトを検索する .....	135
スマート フィルター .....	136
プロジェクトに対するアクション .....	137
プロジェクトの[アーカイブ]と[有効化] .....	137
TM を承認 .....	138
TM を伴って、または伴わずにプロジェクトを削除する .....	138
ワークフローを管理する .....	138
プロジェクトのカスタム フィールドを更新 .....	139
レポート .....	142
プロジェクトを確認する .....	145
XTM Messenger .....	148
<b>ダッシュボード</b> .....	<b>152</b>
ダッシュボードの概要 .....	152
ウィジェットを設定する .....	152
<b>プロジェクト エディタ</b> .....	<b>154</b>
プロジェクト エディタ - 一般情報 .....	154
プロジェクト エディタ - メトリクス .....	155
プロジェクト エディタ - 統計情報 .....	156
プロジェクト エディタ - メトリクスと統計の比較 .....	157
プロジェクト エディタ - ワークフロー .....	158
メール通知 .....	165
プロジェクト エディタ - ワークフロー コンテキストメニュー .....	168
プロジェクト エディタ - ファイル .....	171
プロジェクト エディタ - 概算見積り .....	173
概算見積りパラメータと係数 .....	175
概算見積りの計算 .....	178
時間のログを取得する .....	181
プロジェクト エディタ - LQA .....	182
プロジェクト エディタ - グループ .....	182
<b>コンフィギュレーション:</b> .....	<b>185</b>
ユーザ詳細 .....	185
<b>5. XTM: 翻訳者、チェッカー、レビュアー向け</b> .....	<b>186</b>
ヘルプと情報 .....	186
タスク .....	186

LQA .....	187
タスクのコンテキストメニュー .....	187
XTM Messenger .....	190
コンフィギュレーション .....	191
XTM Workbench の概要 .....	191
翻訳メモリのマッチング .....	192
ICE (In Context Exact) マッチ .....	192
100%レバレッジドマッチ .....	192
あいまいマッチ .....	192
TM プロパゲート .....	193
機械翻訳マッチ .....	193
ID ベース マッチング .....	193
セグメントID 画像 .....	193
XTM Editor でマッチを表示させる .....	194
用語 .....	195
用語認識 .....	196
テキストに対するコンテキストメニュー .....	196
テキスト書式 .....	197
次の未完セグメントに移動 .....	197
現ユーザが編集した前のセグメントに移動 .....	197
コメントを追加 .....	197
コンコーダンス .....	197
TM に翻訳を保存しない .....	198
検索と置換 .....	198
セグメント履歴から復元 .....	199
Google で検索 .....	199
用語集 .....	199
プレビュー .....	199
ファイル オプション .....	199
セグメント オプション .....	200
インライン要素 .....	200
品質保証 .....	201
スペルチェック .....	201
その他 QA チェック .....	201
Xbench との連携 .....	202
LQA マーキング .....	203
XTM Workbench のその他機能 .....	204
セグメント フィルター .....	204
フィルター プロファイル .....	205
リポートをコピーする .....	206
セグメントを中央に配置する .....	206
セグメントをマージする .....	206
保存する、バージョンングする、旧バージョンを復元する .....	206
翻訳を入力する .....	207
XTM Editor で特殊文字を挿入する .....	207
セグメントのコメント .....	208
XTM Editor のタイトルバー .....	208
ドキュメント内の移動 .....	209
結合ファイル間のナビゲーション .....	209

ターゲット ファイルのプレビュー .....	210
XTM Connect for Adobe InDesign .....	210
セグメント ステータス .....	211
セグメント ステータスの概要 .....	211
セグメントのステータスを変更する .....	212
セグメントの XLIFF:doc ステータス .....	212
ロックされたセグメント .....	212
ターゲットテキストの長さ制限 .....	212
代替翻訳と逆翻訳 .....	213
翻訳メモリを保管して更新する .....	213
右から左へ書く言語 .....	214
双方向テキスト .....	214
設定 .....	215
オプション .....	215
フォント .....	216
キーボード ショートカット .....	216
特殊文字に対するカスタム ショートカット .....	220
セグメント フィルター .....	220
ツールバー .....	221
左手ツールバー .....	221
右手ツールバー .....	222
タスクのグループ化 .....	222
XTM Visual Editor .....	223
[コンコーダンス]ウィンドウ .....	226
<b>6. XTM Off-Line Editor .....</b>	<b>227</b>
はじめに .....	227
マクロを有効化する .....	227
XTM Offline Editor を開始する .....	229
アイコンバー .....	229
フィールドへ移動 .....	229
キーボード ショートカット .....	230
マウスを使用する .....	231
マウスの右クリックを使用する .....	231
印刷する .....	231
スペルチェック .....	231
<b>7. XTM Terminology .....</b>	<b>234</b>
概要 .....	234
用語を検索する .....	234
用語を表示する .....	236
用語をインポートする .....	237
用語をエクスポートする .....	239
<b>8. XTM TM Manager .....</b>	<b>240</b>
翻訳メモリ内でセグメントを検索して編集する .....	240
左手ツールバー .....	241
右手ツールバー .....	242

翻訳メモリをインポートする .....	242
翻訳メモリをエクスポートする .....	243
ソースファイルのセグメント ID に基づいて翻訳ユニットをエクスポートする .....	243
<b>XTM Align</b> .....	<b>244</b>
ドキュメントをアライメントする .....	244
Excel ファイルの概要 .....	244
Microsoft Excel でアライメントをチェックする .....	245
XTM へ翻訳メモリをアップロードする .....	245
<b>9. iOS/Android 用の XTM アプリ</b> .....	<b>246</b>
前提条件 .....	246
iPhone および iPad でのインストール .....	246
Android デバイスでのインストール .....	246
XTM App を初めて起動するとき .....	247
移動 .....	247
プロジェクト .....	248
プロジェクト一覧 .....	248
新しいプロジェクトを作成する .....	249
スマート フィルター .....	250
プロジェクトの詳細 .....	250
カスタマー .....	253
ユーザ .....	253
LSP .....	255
LSP 詳細 .....	255
タスク .....	255
マイアカウント .....	256
設定 .....	257
当社について .....	257
PIN を変更する .....	257
フィードバックを送信する .....	257
ログアウト .....	257
オフライン モード .....	257
<b>10. XTM Connect for Google Sheets</b> .....	<b>258</b>
はじめに .....	258
インストール .....	258
概要 .....	258
ログイン .....	258
言語コンビネーション .....	260
翻訳モード .....	260
列を翻訳する .....	260
言語をマッピングする .....	260
デフォルトを保存する/復元する .....	261
翻訳をリクエストする .....	261
シートを翻訳する .....	262
翻訳をリクエストする .....	262

<b>11. XTM Xchange .....</b>	<b>263</b>
XTM Xchange に登録する .....	263
企業ディレクトリ.....	266
フリーランサー ディレクトリ.....	267
ジョブリスト .....	268
ジョブに対する見積りを提出 .....	268
ジョブを公開する.....	270
ジョブに対する見積りを見直す .....	271
アカウント評価を提出する.....	271
<b>12. 附録 1 .....</b>	<b>273</b>
用語解説.....	273
<b>13. 附録 2 .....</b>	<b>277</b>
言語コード.....	277
<b>14. 附録 3 .....</b>	<b>280</b>
スペル辞書.....	280
<b>15. 附録 4 .....</b>	<b>281</b>
リングスト情報をインポートするための Excel ファイル書式.....	281
リングスト情報をインポートするための XML ファイル (例).....	282
カスタマー情報をインポートするためのファイル (例).....	283
言語コンビネーションを設定するためのファイル (例).....	284
<b>16. 附録 5 .....</b>	<b>285</b>
ITS 規則ファイルの例 1.....	285
ITS 規則ファイルの例 2.....	285
SRX 規則ファイルの例.....	286
<b>17. 附録 6 .....</b>	<b>287</b>
サーバの最小要件.....	287
<b>18. 附録 7 .....</b>	<b>288</b>
LQA - MQM イシューの階層.....	288

## 1. はじめに

このドキュメントは、「XTM Suite」と呼ばれる完全なスタンドアロン版と、「XTM Cloud」と呼ばれる SaaS 版の両方に対する「XTM ユーザ マニュアル」です。

### XTM のユーザとロール

XTM には特有の機能を伴う、あらかじめ定義されたロールが多数あります。管理者はユーザの最上位レベルにあります。

ユーザロールとその機能については以下の表を参照してください。

ユーザロール	機能
管理者	ほかの管理者を作成して編集する プロジェクトマネージャを作成して編集する XTM のコンフィギュレーションを設定する サブスクリプションを確認して更新する (XTM Cloud のみ) 以下のロールすべても作成して編集する
プロジェクトマネージャ	ほかの PM を作成して編集する リングストを作成して編集する カスタマーを作成する プロジェクトを管理する
PM – プロジェクトとカスタマー	カスタマー – 特定のカスタマーに対するカスタマー詳細とプロジェクトの編集が可能 プロジェクト作成 – 一般情報、言語、タグの閲覧が可能 LQA 結果を閲覧するためのアクセス権を有することが可能 プロジェクトエディタ – 以下の閲覧が可能: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般情報</li> <li>• メトリクス</li> <li>• ワークフロー (リングスト名は非表示)</li> <li>• ファイル</li> <li>• 概算見積り – 提案のみ</li> </ul>
PM – プロジェクト作成者と閲覧者	プロジェクトの作成が可能 プロジェクト エディタ – 特定のカスタマーのプロジェクト閲覧、さらに以下の閲覧が可能: <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般情報</li> <li>• メトリクス</li> <li>• ワークフロー (リングスト名は非表示)</li> <li>• ファイル (ダウンロードは可、生成は不可)</li> </ul> カスタマーまたはユーザへのアクセスなし LQA 結果を閲覧するためのアクセス権を有することが可能
カスタマー プロジェクトマネージャ	以下に対するアクセス レベルのカスタマイズ可能: プロジェクトを作成して管理する 翻訳メモリを管理する 用語集を管理する
用語管理者	定義可能な権限を伴って XTM Terminology へアクセスする
TM 管理者	定義可能な権限を伴って XTM TM Manager へアクセスする
リングスト	ワークフロー上の 4 つのステップいずれにもアクセスする

デフォルトのワークフロー ステップは 4 つあります。

ステップ	機能
翻訳	ソーステキストを翻訳する、もしくは TM マッチや MT マッチを受け入れて編集する
チェック	チェッカーは翻訳を編集できる
レビュー	レビュアーはコメントの挿入のみが可能
LQA	LQA を実行するための専用ステップ

このマニュアルは、ユーザロールまたはステップを基準として章を構成しています。複数のロールを有するユーザは、機能性の概要を把握するためには 2 つ以上の章を参照しなければならない可能性があります。また、このマニュアルの特定の章では、ロールごとの解説をできるかぎり完全で確実にするために繰り返されていることもあります。

### PC のセットアップ

XTM にアクセスするための Web アドレスは、XTM Cloud から受領するメール、またはサーバ管理者からの連絡を確認してください。ユーザの PC では Web ブラウザとインターネットへのアクセスのみが必要とされています。XTM は Firefox、Microsoft Internet Explorer、Safari、Google Chrome との互換性があります。最善のパフォーマンスと安定性を確保するため、これらのブラウザの最新版を使用することが強く推奨されています。PC のみでなくタブレットでもご利用いただけます。

ポップアップと JavaScript が有効になっていることを確認してください。ブラウザのプラグインによっては、システムへのログインや一部機能の利用に影響を及ぼす可能性もあることにご留意ください。以下のプラグインには互換性がありません。

- Browser Highlighter
- Fast Browser Search

PC から XTM Cloud へアクセスするための技術的な最低要件:

- 画面解像度 — 画面幅: 1000 ピクセル以上
- プロセッサ: Core 2 Duo
- RAM: 2 GB
- 帯域幅: 1 Mbs、ケーブル接続

XTM へのアクセスが可能なプラットフォームとブラウザ:

Windows:

- Edge 12 以上
- Internet Explorer 11 以上
- Firefox 4 以上
- Chrome 24 以上

Mac OS:

- Safari 6 以上
- Firefox 4 以上
- Chrome 24 以上

Linux:

- Firefox 4 以上
- Chrome 24 以上

モバイル端末:

- iPad 版 Safari 6 以上
- Android 版 Firefox 23 以上

### XTM Cloud 用にコンピュータをアクティベーションする

セキュリティ対策として、XTM Cloud のアカウントへアクセスする前にコンピュータを有効化する必要があります。以下を実行してください。

1. XTM Cloud のログインページを表示します。
2. 会社ログイン名、ユーザ名、パスワードを入力します。
3. 「このコンピュータは認証されていません...」というメッセージが表示されます。リンク[コンピュータをアクティベートする]をクリックします。
4. アクティベーション リンクが記載されたメールが XTM Cloud から送信されます。
5. メールを開き、アクティベーション リンクをコピーし、お使いのブラウザのアドレスバーに貼り付けて [Enter]キーを押します。

この後、お使いのブラウザが正常にアクティベーションされたとのメッセージが表示されます。

注:

- この操作は XTM へアクセスするコンピュータごとに 1 回必要とされます。
- アクティベーション リンクは 1 回のみ使用できます。
- ブラウザごとにアクティベーション リンクを生成する必要があります。
- 上記の操作は同一のコンピュータ上で実行する必要があります。
- このセキュリティ レベルは[コンフィギュレーション] > [設定] > [セキュリティ]で変更できます。

### XTM でのファイルサイズの制限

以下のプログラム エリアでは、一度にアップロードできるファイルサイズが XTM Cloud では 550 MB 未満、XTM Suite では 150 MB 未満に制限されます。

- プロジェクト作成におけるソースファイル
- プロジェクトまたはカスタマー用の参考資料
- 翻訳メモリのインポート
- 用語集のインポート
- カスタマー データのインポート
- ユーザデータのインポート

規定のファイルサイズを超過してしまう場合、ZIP に圧縮することでサイズを軽減できることがあります。

## 2. XTM Product の概要

XTM は企業規模の翻訳管理システム(Translation Management System:TMS)であり、高度なワークフロー、翻訳メモリ、用語管理のツールが組み込まれています。ブラウザ経由でアクセスして作成や管理をするプロジェクトがきわめて複雑であろうとも、柔軟性と制御性がもたらされます。

自社サーバにインストールする **XTM Suite** と、SaaS(Software as a Service)型の **XTM Cloud** として、XTM をご利用いただけます。いずれにも以下の機能が搭載されています。



### 標準モジュール

以下のモジュールは XTM のいずれのバージョンにも標準装備されています。

#### XTM Workflow

プロジェクトマネージャがプロジェクトを作成して管理するためのモジュールです。ソース文書をロードし、標準的に使用する設定をテンプレートで適用します。または、ターゲット言語の設定、使用する翻訳メモリと用語集の定義、カスタマイズしたワークフローの選択、タスクに対する翻訳者やレビュアーの割り当てをマニュアル操作で実行することもできます。最新のステータス概要を経由し、プロジェクトに対するフルコントロールを保持したまま、LSP(Language Service Provider、翻訳会社)へタスクをサブコントラクト(再委託)するにも、シンプルに実行できます。ユーザへは、割り当てられたタスクに関する通知メールが送信されます。カスタマー提案やサプライヤー費用は自動的に算出され、メール送信も可能です。大規模な多言語プロジェクトにおける翻訳作業の同時展開は、かつてないほど簡単に実現可能です。

#### XTM Engine

翻訳用のファイルを自動的に用意するためのモジュールです。ドキュメントからテキストを抽出し、テキストを文章またはフレーズにセグメント化します。お使いの翻訳メモリを適用し、ご希望の機械翻訳システムへリンクし、ICE マッチ、レバレッジドマッチ、あいまいマッチを翻訳者に提示します。プロセスのいずれの段階においても、翻訳済みテキストを確認するための PDF や HTML のプレビューが XTM Engine によって提示されます。翻訳に続いてレビューを実行した後に翻訳済みドキュメントを生成し、新たな翻訳メモリを保管します。

#### XTM Workbench

Web ベースのトランスレータ ワークベンチには簡単に使用できるツールの完全なセットが装備されており、翻訳者を効率的に支援します。複数の翻訳者が同じジョブに対して同時に作業できるため、ターンアラウンドタイムはいままで以上に短縮されます。システムにはリアルタイムのメトリクスや、各セグメントのテキストの旧版とコンコーダンスも保持されます。必要に応じて、ターゲットテキストの長さチェックや、セグメントへのコメント挿入も可能です。

#### XTM QA Manager

品質保証のコンポーネントによってユーザの翻訳には最善の品質がもたらされます。90 以上の言語辞書が利用され、スペルチェックが実行されます。書式、句読点、ローカリゼーションといった観点でテキストがチェックされます。LQA(Linguistic Quality Assessment、言語品質評価)機能により、翻訳品質に対する客観テストを実行できます。

### XTM TM Manager

TM(Translation Memory、翻訳メモリ)管理システムによってユーザの翻訳アセットを保持し、新しい翻訳メモリをインポートできます。さらに、翻訳メモリを選択して業界標準形式にエクスポートし、ほかの翻訳ツールで利用できます。翻訳メモリは再利用の目的で対訳フレーズとしてデータベースに保管され、ユーザ定義タグを付与することもできます。

### XTM Terminology

XTM には完全な用語集モジュールが組み込まれています。この用語データベースには、コンセプト、定義、コンテキスト、画像、多言語訳、コメントが含まれます。XTM Editor では、用語ベースに登録された用語のソーステキストがシステムによって識別され、ハイライト表示されます。承認済みの訳語と追加データがポップアップ ウィンドウに表示されます。この機能によって承認された用語を一貫して使用することが推進されます。ソースファイルから用語リストを自動的に生成することも、既存の用語リストを XTM にインポートしてワークベンチから用語を追加または編集することも可能です。

### XTM Xchange

XTM Xchange は、翻訳者と翻訳案件を有するユーザの出会いの場です。フリーランス翻訳者と企業が情報を公開し、翻訳会社や企業が翻訳者のスキルとリファレンスを閲覧してジョブ要件と照合できるディレクトリがあります。このマーケット プレイスではユーザがローカリゼーション案件を掲示し、選択された登録ユーザが見積りを提示して XTM でタスクを完成させることができます。

## オプション モジュール:

### XTM Portal

このモジュールを組み込むと、顧客が翻訳プロジェクトを開始できます。顧客がファイルをアップロードしてターゲット言語やその他要件を設定し、見積りを受け取り、確認して支払いを実施することが可能です。顧客がアカウントを作成して、自らのプロジェクトをモニターして管理することもできます。

### XTM Connect

XTM Connect によって、XTM とほかのシステムとの統合がシンプルに実現されます。一般的な CMS のための OOTB コネクタや、サンプルコードを伴う完全に文書化された Web サービスの SDK とのカスタム インテグレーションの構築を可能とするコネクタも多数あります。現在、以下の OOTB コネクタをご利用いただけます。

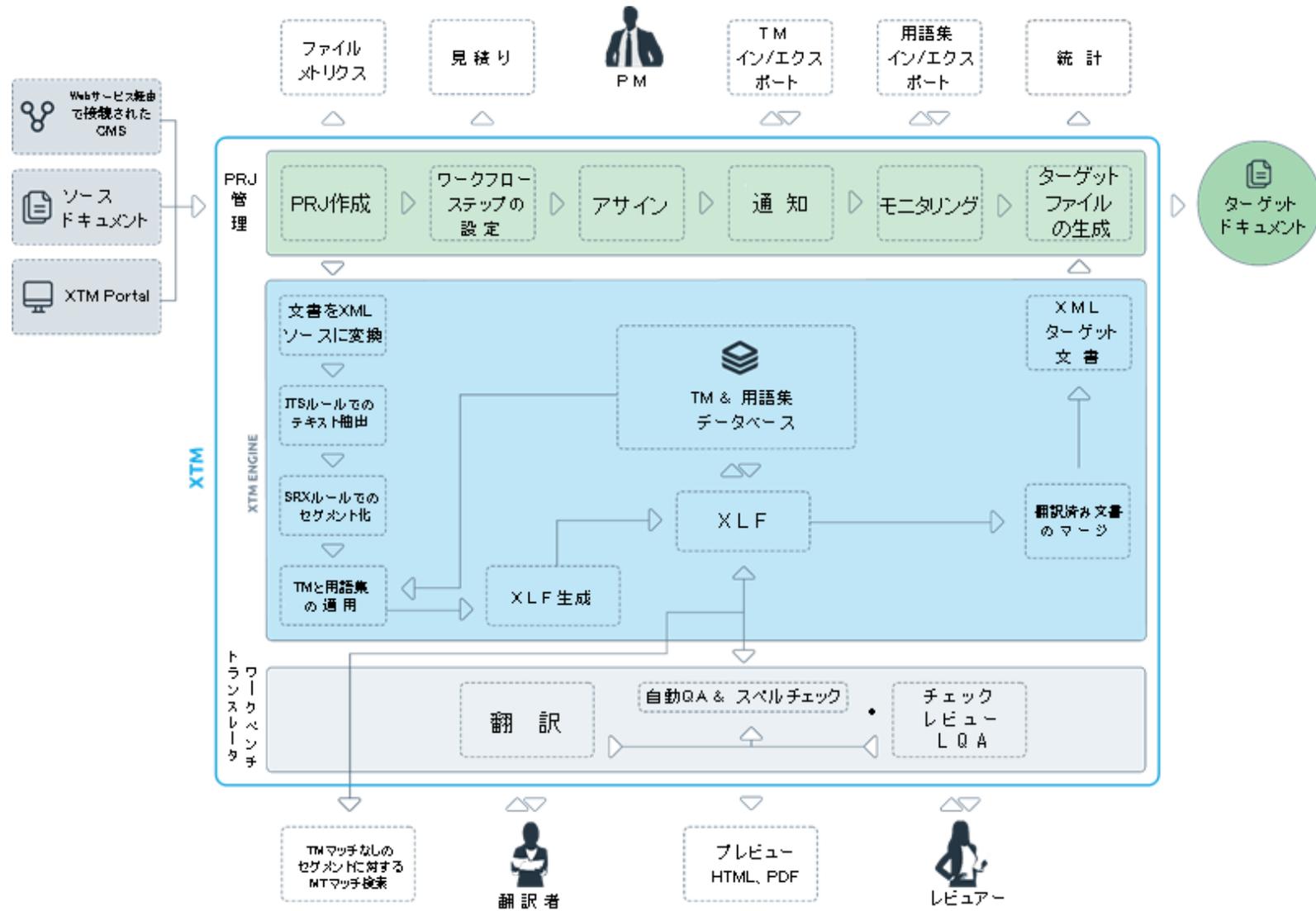
- XTRF
- Plunet
- Easyling
- Wordpress
- Drupal
- Adobe Experience Manager
- Claytablet (AEM, Sitecore)
- Ixiasoft
- Instinct tools
- SDL Live Content
- Autocad
- InDesign server

これらオプションの価格については [sales@xtm-intl.com](mailto:sales@xtm-intl.com) へお問い合わせください。

## 標準サポート

弊社はオープン スタンドアードの使用と開発に専心し、多数の Open Standards Technical Committee に積極的に取り組んでいます。XTM が対応しているスタンダードすべてについては、弊社 Web サイトの資料 (<https://xtm.cloud/docs/xtm-standards-support.pdf>) を参照してください。

XTM 翻訳プロジェクトのデータフロー



### 3. XTM: 管理者向け

---

#### XTM のライセンス

XTM Suite は多数のコンカレント ユーザに対して使用が許可されます。システム上、作成できるユーザ数に制限はありませんが、同時に接続できるユーザ数はライセンスによって制限されます。すべてのタイプのユーザが、使用許諾を受けたユーザとしてカウントされます。

XTM Cloud の使用許諾はご購入のアカウント タイプによって異なります。Freelance アカウントおよび Group アカウントは指名ユーザ ライセンスです。このアカウント タイプでは、サブスクリプション契約に明記された数のみのユーザを作成できます。Enterprise アカウントのサブスクリプションは、XTM Suite に類似するコンカレント ユーザライセンスです。

デフォルトとして XTM Portal の登録ユーザは作成と閲覧の権限を有するカスタマー プロジェクトマネージャ (CPM) となり、「使用許諾を受けたユーザ数」にはカウントされません。ただしアカウント タイプがアップグレードされ、XTM のプロジェクトマネージャ モジュールへのさらに完全なフルアクセスが付与された場合、「使用許諾を受けたユーザ数」にカウントされます。

#### ログイン

XTM Cloud の使用を開始して XTM に初めてログインする際、コンピュータのアクティベーションが求められます。受信メールに記載されているリンクをクリックし、コンピュータが登録されることが確認されます。

まず、アカウント作成時に発行されたパスワードを変更するためのページにリダイレクトされます。最小でも 6 つの文字と数字を含む、覚えやすいパスワードの使用を推奨しています。

#### ログアウト

単にブラウザを閉じるよりも、[ログアウト]ボタンを使用することを推奨しています。ログアウト操作によってユーザによるプログラムの終了が正しく認識され、ユーザに割り当てられた(作業中はロックされる可能性を有する)いずれのレコードもリリースされます。ログアウトが適正に実行されない、またはインターネット接続に不具合が発生した場合、別のメカニズムが作用します。XTM にログオンして作業を実行している間、ユーザが依然として能動的に作業中であると知らせるための「ハートビート」がブラウザからシステムへと送信されます。XTM によってハートビートが 60 分間検知されない場合、ユーザはもはや能動的に作業中ではないと見なされ、セッションは自動的にクローズされます。

#### ヘルプと情報

[コンフィギュレーション]画面へ移動するためのギア(歯車)のアイコンと、ユーザ プロファイル画像の間に表示される疑問符(?)をクリックすると[ヘルプと情報]サイドバーが表示され、ヘルプなどの関連情報へクイックアクセスできます。本ユーザマニュアル、Knowledge Base、XTM Webinar に関する情報へのリンクも含まれています。さらに、XTM Community を利用して業界の仲間からの支援を受けたり、弊社のセールスやサポート担当に連絡することもできます。サイドバーには、サブスクリプション利用規約や XTM Privacy Policy へのリンクもあります。



## ヘルプと情報

### 管理者に関するオプション

管理者のオプションはお使いのアカウント タイプと、割り当てられたアクセス権によって異なります。XTM Cloud のマルチユーザ アカウントおよび XTM Suite システムでは、管理者に以下のオプションがあります。



#### 管理者ユーザに対するオプション

Freelance アカウントは管理者権限を有しますが、単独ユーザアカウントであるため、[ユーザ]タブが不要とされています。



#### XTM Cloud の Freelance ユーザ向けオプション

以下の章では、管理者に特に関与する[コンフィギュレーション]タブと[管理]タブのみを対象としています。プロジェクトマネージャ(PM)が利用できるほかのタブについては、本マニュアルの別の章で説明しています。

### コンフィギュレーション

[コンフィギュレーション]タブには多数のオプションがあります。XTM Cloud と XTM Suite とでは表示されるオプションが異なります。

1. ユーザ詳細
2. マイアカウント
3. データ
4. 設定

SaaS 型 XTM である XTM Cloud をお使いの場合、第 2 アイテムも表示されます。

#### ユーザ詳細

写真、メールアドレス、パスワード、表示言語を含め、自分に関する基本情報を更新するにはこのフォームを使用します。

業務の稼働状況を設定することもできます。たとえば業務予定が詰まっている、病気をしている、休暇を取得する際には[休止中]と設定できます。プロジェクトマネージャ(PM)は、ユーザの稼働ステータスを確認して発注の可否を検討します。

管理者ユーザの詳細

初めてログオンする際、[タイムゾーン]、[日付形式]、[時刻形式]の設定が求められます。

システムで[TAUS]が有効にされている場合、ユーザは[TAUS Dynamic Quality Framework (DQF)]と接続するためのメールアドレスとパスワードを指定できます。PMはクオリティ ダッシュボードで翻訳の生産性を追跡できます。TAUS アカウントを作成するには [サブスクライブ]ボタンをクリックします。TAUS DQFに関する詳細やアカウント作成については <https://www.taus.net/evaluate/about-quality-dashboard> を参照してください。

## マイアカウント

[マイアカウント]タブには5つのセクションがあります。お使いのアカウント タイプによって表示されるセクションが異なります。

### マイアカウント - サブスクリプションのリニューアル

利用中の XTM サブスクリプションの詳細が上部セクションに表示されます。アカウント タイプ、使用開始日と終了日、ユーザ数、月間翻訳単語数と残数、月次のアカウントの自動リニューアルといった情報が含まれます。自動リニューアルが選択されている場合、関連する詳細が記載されたメールがリニューアル日以前に、そして、リニューアル実行直後には確認と請求を通知するメールがユーザ宛に発信されます。

下部セクションでは、サブスクリプションを手動でリニューアルできます。新しい期日、アカウント タイプ、ユーザ数、月間翻訳単語数を選択できます。英ポンド、ユーロ、米ドルで費用が算出されます。希望の通貨を選択して[購入]ボタンをクリックします。支払画面に移動し、クレジットカードまたはデビットカードの詳細を入力します。

既存サブスクリプションに未使用日数がある状態でサブスクリプションを変更する場合、請求や新規作成されるサブスクリプションに未使用日数が反映されます。



[マイアカウント]タブ > [サブスクリプションのリニューアル]

### マイアカウント - 追加ユーザ

Enterprise アカウントをお使いの場合、このセクションには短期間ユーザを追加購入するためのオプションが表示されます。増員を要する大規模プロジェクトが突発的に発生した場合に活用いただけます。必要なユーザ数を入力し、期間をドロップダウンメニューで選択します。費用が英ポンド、ユーロ、および米ドルで表示されます。通貨を選択して[購入]ボタンをクリックすると、クレジットカードに関する詳細を入力できます。



[マイアカウント]タブ > [追加ユーザ]

### マイアカウント - 支払い

[支払い]タブには、XTM Cloud のサブスクリプションに関する弊社への支払情報が一覧として表示されます。このスクリーンで最右列の[請求書]アイコンをクリックすると、請求書のコピーをダウンロードできます。



[マイアカウント]タブ > [支払い]

## マイアカウント - 追加ワード数

月間翻訳単語数に上限が設定されている Freelance または Group アカウントをお使いの場合、このセクションで現在のサブスクリプション用に単語数を追加購入できます。

## マイアカウント - 請求先情報

弊社 Web サイトで XTM Cloud のサインアップを実行した場合、請求先情報は自動的に入力されます。一方、トライアル アカウントを完全な有償アカウントへアップグレードする場合、アップグレードを実行する前にこのページでの入力を完成させる必要があります。

[マイアカウント]タブ > [請求先情報]

## データ

管理者はこのセクションで XTM をカスタマイズできます。ここで設定される変更は、カスタマーを新規作成する際にデフォルト値として使用されます。そして個別のカスタマー向けの設定を変更できます。『プロジェクトマネージャ — カスタマー エディタ』を参照してください。

### データ - [言語コンビネーション]を設定する

プロジェクトを作成する際、プロジェクトマネージャ (PM) がいずれのソース言語とターゲット言語でも選ぶことができるよう、XTM にはあらゆる言語コンビネーションが用意されています。しかしながら、たいていのユーザは特定のソース言語とターゲット言語を使用するのみです。[言語コンビネーション]セクションではユーザが使用する言語のみを表示させるようカスタマイズできます。管理者は XTM システム全体に対する言語コンビネーションを設定できます。管理者または PM は個別のカスタマー向けの特定の言語コンビネーションを設定できます。

### [カスタマイズ]タブ

[カスタマイズ]タブには、変更して言語コンビネーションを使用するための以下の 3 つのオプションがあります。

1. [システムデフォルトの言語コンビネーション]: 変更されていない言語コンビネーションの完全なセット。
2. [カスタマイズ済み言語コンビネーションを伴うシステムデフォルト]: 一部のパラメータをカスタマイズした可能性がある言語コンビネーションのフルセット。

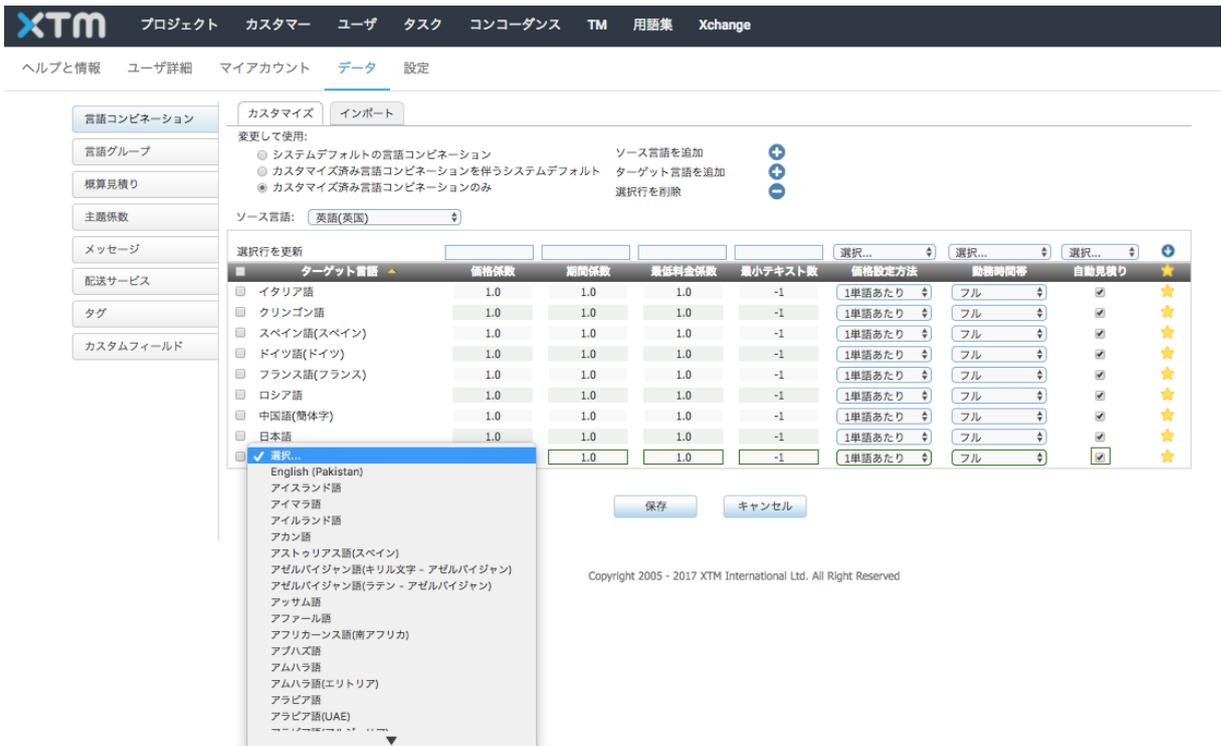
3. [カスタマイズ済み言語コンビネーションのみ]: カスタマイズ済みの言語コンビネーションのみ。



言語コンビネーションをカスタマイズする

カスタマイズ済みオプションの 1 つを選択した場合、ソース言語とターゲット言語を追加や削除できます。

既存するソース言語に対してターゲット言語を追加するには、まずドロップダウンリストからソース言語を選択します。次に[ターゲット言語を追加]をクリックすると、ターゲット言語一覧の最下部に新しい行が表示されます。ドロップダウンリストからターゲット言語を選択し、必要に応じて係数を編集します。



ターゲット言語を追加する

新しいソース言語および、対応するターゲット言語を追加するため、[ソース言語を追加]ボタンをクリックすると下図のウィンドウが表示されます。複数のソース言語とターゲット言語を選択できるため、必要とされる言語コンビネーションのすべてが作成されます。



対応するターゲット言語とともにソース言語を追加する

言語コンビネーションを削除するには、最左列のチェックボックスを選択して[選択行を削除]ボタンをクリックします。

このページの下部セクションでは、言語コンビネーションごとの概算見積り作成に使用する係数を編集できます。ここで設定する係数はシステム全体のデフォルト値となります。係数はカスタマーごとにもカスタマイズできます。98 ページの『カスタマーを編集する』を参照してください。

以下を変更できます。

- **[価格係数]:** ベース価格は価格係数によって乗算されます。価格係数に「1」(デフォルト)が設定されている場合、価格は変更されません。価格係数に「1 よりも大きい数値」が設定されている場合は価格が増加し、価格係数に「1 よりも小さい数値」が設定されている場合は価格が減少します。
- **[期間係数]:** 価格係数に類似して翻訳プロセスの期間を変更し、期日に影響を与えます。
- **[最低料金係数]:** カスタマーの[最低料金]は[最低料金係数]により乗算され、最低料金が増加(>1)、減少(<1)、またはそのまま(=1)にされます。
- **[最小テキストカウント]** (単語または文字): デフォルト値は、指定されたいずれかの値(>= 0)により上書きされます。「-1」はデフォルトを採用するという意味です。
- **[価格設定方法]:** 単語数ではなく文字数を基に請求する場合、ここで設定します。日本語や中国語などの言語には文字数を使用します。
- **[利用可否]:** 以下の 3 つの選択肢があります。
  - [フル]: この言語コンビネーションはカスタマーと PM が利用できます。
  - [PM のみ]: PM のみがこの言語コンビネーションのプロジェクトを作成できます。
  - [停止]: この言語コンビネーションは提供しません。
- **[自動見積り]:** このフィールドによって、翻訳会社が早急に翻訳作業を開始できる一般的に使用される言語コンビネーション(自動見積り)と、まずリングストに確認しなければ価格や納期を予測できない言語コンビネーション(非自動見積り)を区別できます。
- この列にはどのように言語コンビネーションが定義されたかが表示されます。黄色の星  はコンビネーションがシステム全体に対して定義されたことを示し、星のアイコンが表示されない場合はデフォルトの設定が使用されていることを意味します。

係数の設定変更は自動生成される見積りに反映されます。カスタマーは自動生成された見積りをシステムから受信するか、PM から通知を受けるかについては[自動見積り]列で定義します。

### [インポート]タブ

[インポート]タブでは、必要な言語コンビネーションが保存された XML ファイルをアップロードできます。緑色の矢印のボタンをクリックするとサンプル ファイルをダウンロードできます。ダウンロードしたサンプル ファイルはそのまま使用できます。またはサンプル ファイルをテンプレートとして使用し、必要に応じて変更することもできます。さらに、本マニュアルの末尾の『附録 2』にも例を掲載しています。[参照]ボタンをクリックして準備したファイルを選択し、[インポート]ボタンをクリックします。

[既存コンビネーションの削除]チェックボックスを選択した場合、既存する言語コンビネーションはクリアされ、言語コンビネーションが新たに作成されます。このオプションが選択されていない場合、新規の言語コンビネーションは既存の言語コンビネーションに追加されます。

### データ - 言語グループ

言語グループはリングストのレートカードの作成と保守に役立ちます。FIGS (French: フランス語、Italian: イタリア語、German: ドイツ語、Spanish: スペイン語) のような言語グループに対して、同じワード単価を割り当てることが可能です。つまり、レートカードは 1 つのみを管理すれば済むことになります。



#### 言語グループを作成する

言語グループを作成するには[+]タブをクリックして希望する言語を右側のボックスに移動します。そして[保存]ボタンをクリックします。

データ - 概算見積り

提案係数

XTM
プロジェクト
カスタマー
ユーザ
タスク
コンコーダンス
TM
用語集
Xchange

ヘルプと情報
ユーザ詳細
マイアカウント
データ
設定

言語コンピネーション
提案係数
ポータルオプション
プロモコード
為替レート
発注書の設定
費用設定

- 言語グループ
- 概算見積り
- 主題係数
- メッセージ
- 配送サービス
- タグ
- カスタムフィールド

基本事項

名前	値
1ページあたりの基本料金	<input type="text" value="3000.0"/>
1ワードあたりの基本料金	<input type="text" value="20.0000"/>
1文字あたりの基本料金	<input type="text" value="10.0000"/>
1日あたりの基本ページ数	<input type="text" value="30.0"/>
1日あたりの基本ワード数	<input type="text" value="3000"/>
1日あたりの基本文字数	<input type="text" value="7000"/>
最小単語数	<input type="text" value="250"/>
最小文字数	<input type="text" value="500"/>
最低料金	<input type="text" value="3000.00"/>
最低料金に割引を選択	<input type="checkbox"/>
1ページごとに概算見積りを算出	<input type="checkbox"/>
通貨	<input type="text" value="日本円(JPY)"/>
計算方法	<input type="text" value="乗算"/>
作業スケジュール	<input type="text" value="月~金"/>
日数計算時の端数切り上げ基準値	<input type="text" value="0.20"/>
VAT支払い	<input type="checkbox"/>
プロジェクト管理費	<input type="text" value="5000.00"/>
プロジェクト割引日数係数	<input type="text" value="1.00"/>
プロジェクト割引価格係数	<input type="text" value="1.00"/>

部数

名前	値
1部あたりの価格係数	<input type="text" value="1.00"/>
1部あたりの価格	<input type="text" value="0.00"/>

スピード・プレミアム

名前	価格レート	期間係数
もっと早く?	<input type="text" value="30.00"/>	<input type="text" value="0.80"/>

メトリクス

名前	価格レート	1日あたりのテキスト係数
翻訳不要	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.10"/>
ICE	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.10"/>
レバレッジド	<input type="text" value="6.00"/>	<input type="text" value="0.30"/>
DBあいまいマッチ(95%~99%)	<input type="text" value="12.00"/>	<input type="text" value="0.50"/>
DBあいまいマッチ(85%~94%)	<input type="text" value="12.00"/>	<input type="text" value="0.70"/>
DBあいまいマッチ(75%~84%)	<input type="text" value="12.00"/>	<input type="text" value="0.90"/>
リビート	<input type="text" value="10.00"/>	<input type="text" value="0.20"/>
あいまいリビート(95%~99%)	<input type="text" value="8.00"/>	<input type="text" value="0.50"/>
あいまいリビート(85%~94%)	<input type="text" value="8.00"/>	<input type="text" value="0.70"/>
あいまいリビート(75%~84%)	<input type="text" value="8.00"/>	<input type="text" value="0.90"/>
MT	<input type="text" value="4.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>

ワークフロー

名前	価格レート	期間係数
DTP	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>
チェック1	<input type="text" value="25.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>
チェック2	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>
チェック3	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>
レビュー1	<input type="text" value="30.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>
レビュー2	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>
レビュー3	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>

ドキュメント認証

名前	価格レート	期間係数	1ファイルあたりの価格	1ファイルあたりの期間
証明	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.00"/>
公証	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.00"/>
アポステイユ	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.00"/>

Copyright 2005 - 2017 XTM International Ltd. All Right Reserved

XTM のデフォルトの概算見積り係数を設定する

24ページ

このタブでは、カスタマーに対する費用と納期の概算見積りを自動的に算出するために使用するデフォルトの係数を設定できます。係数には以下の項目があります。

- 1 ページあたりの基本料金
- 1 単語あたりの基本料金
- 1 文字あたりの基本料金
- 1 日あたりの基本単語数
- 1 日あたりの基本文字数
- 最小単語数
- 最小文字数
- 最低料金
- 最低料金に割引を適用
- 1 ページあたりの概算見積りを使用
- 通貨
- 計算方法
- 作業スケジュール
- VAT 支払い
- プロジェクトに対する割引: 日数係数
- プロジェクトに対する割引: 価格係数
- 部数に対する係数
- スピード係数 > 割引: 長時間・安価については 3 つのレベルがあります。
- スピード係数 > プレミアム: 短時間・高価については 3 つのレベルがあります。
- 異なるマッチングのタイプすべてに対するメトリクス係数。
- ワークフロー内の追加ステップに対する価格と期間に関する係数
- 文書認証に対する実際価格または係数

部数、納期スピード、メトリクス、ワークフロー、文書認証に対する概算見積り係数または実際価格を設定することも可能です。概算見積り係数に関する詳細は『プロジェクト エディタ』の『概算見積り』を参照してください。

### ポータルに関するオプション

XTM Portal を購入いただいた場合、顧客に対して多数のオプションを提示させることができます。このページで選択した項目が XTM Portal にオプションとして表示されます。これらのサービスに関する費用は[提案係数]タブで設定されます。



XTM Portal に対するオプションを設定する

## プロモコード

お使いのシステムで XTM Portal が有効にされている場合、この画面が表示されます。定義済みの言語ペアに対する割引を顧客に対して適用するためのプロモーション コードを設定できます。

XTM Portal 向けにプロモーション コードを作成する

## 為替レート

サプライヤーのレートカードにはいずれの通貨も設定できます。したがって請求に使用する通貨で費用を算出するには為替レートを設定する必要があります。まず請求通貨を選択し、サプライヤーに対する希望の為替レートを入力します。

Copyright 2005 - 2017 XTM International Ltd. All Right Reserved

XTM で使用する通貨の為替レートを設定する

## 発注書を設定する

XTM で生成される発注書には発注書番号が通して付与されます。[発注書の設定]タブでは、生成される発注書すべてに対して自動的に付与する発注書番号と形式を設定できます。[発注書番号の接頭辞]と[発注書の開始番号]を設定できます。[発注書の現在の番号]が上記 2 つのフィールドの下部に表示されます。

[コンフィギュレーション] > [データ] > [概算見積り] > [発注書の設定]タブ

**[発注書]**セクション: 直近で発行された発注書に付与された[発注書の現在の番号]とは異なる番号から連番を付与する場合、[発注書の開始番号]フィールドに任意の番号を入力します。[発注書の番号の接頭辞]は、企業団体の翻訳発注書番号に関するニーズに合わせて調整できます。

**[デフォルト PO]**セクション: このセクションでは、XTM で生成されるデフォルトの発注書の表示とレイアウトを指定できます。発注書は、[言語]または[言語とワークフロー ステップ]の内訳を含めて PDF か Excel ファイルとして生成できます。[言語とワークフロー ステップ]の内訳を含める場合、発注書にはベンダーごとのレポートをリストすることも可能です。

発注書上、費用は自動的に算出されます。マッチカテゴリごとの単語数が単価で乗算され、これらを加算するか、もしくは、発注書の総計額から減算されます。

発注書には、カスタム フィールド、コメント、フッターを含めることもできます。コメントとフッターのフォントはサイズを調整できます。また、発注書をリンギストおよび発注書作成者へ送信するかどうかを選択するためのオプションもあります。

## 費用を設定する

XTM には、ワークフロー内のステップに対して請求可能かどうかを設定するためのオプションがあります。顧客が特定のサービス水準を事前に購入済みである場合、このオプションが役立ちます。あるステップに対する特定のサービス水準を超過した場合、請求対象にできません。[費用設定]タブではこの機能のオン/オフ切り替えができるのみでなく、リンギストのアクセスを許可するか、プロジェクトマネージャのみに限定することも定義できます。また、概算見積りを算出する際に使用する[デフォルトの費用タイプ]に、[メトリクス]、[現在のメトリクス]、[ソース統計情報]、[ターゲット統計情報]などを選択できます。



**[請求可能]チェックボックスの選択または非選択**

選択した場合、[ワークフローエディタ]に請求対象とするためのチェックボックスが、デフォルトではオンにされた状態で表示されます。



**ワークフローエディタに表示された[請求可能]チェックボックス**

リンギストに対しては、[タスク]タブに編集可能な追加カラムとして[請求可能]チェックボックスが表示されません。



**[タスク]画面に編集可能なカラムとして表示される[請求対象]チェックボックス**

## 継続プロジェクトの自動化

このセクションでは、継続プロジェクトに対して自動的に費用の概算を生成する設定が提示されます。「継続プロジェクト」はソースファイルに対する更新が断続的に継続され、さらに新しいバージョンへソースファイルがアップデートされるたびにプロジェクトを別途に作成することを回避します。

単一の継続プロジェクトにおいてソースファイルを何度でも置き換えることが可能です。これを考慮し、プロジェクトのメトリクス、統計情報、時間や費用の追跡の履歴が保存される際には継続プロジェクト用に実行します。費用の概算見積りを生成する際、プロジェクト履歴に対する条件を選択します。

### プロジェクト履歴に対する費用生成のオプション

特定のリングストにレートカードが作成されていない、時間追跡が設定されていない場合に「ゼロ」を使用するかどうか設定できます。ワークフロー全体、またはリングストがまだアサインされていない場合、自動的に費用の概算見積りを生成する際にレートカードを流用することが可能な[ダミーリングスト]のオプションもあります。

## データ - 主題係数

主題を追加	選択した主題を削除	Business Services	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> ビジネス・商業	<input type="checkbox"/>	Healthcare / Medical Equipment	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> メディカル	<input type="checkbox"/>	Undefined Sector	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 一般	<input type="checkbox"/>	Construction / Real Estate	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 不動産	<input type="checkbox"/>	Chemicals	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 化学・物理	<input type="checkbox"/>	Retail & Wholesale Distribution	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 小売	<input type="checkbox"/>	Construction / Real Estate	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 建設・建築	<input type="checkbox"/>	Construction / Real Estate	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 建造・建設	<input type="checkbox"/>	Cloud Services & Computer Softw	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 情報技術	<input type="checkbox"/>	Business Services	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 放送・印刷・出版	<input type="checkbox"/>	Education	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 教育	<input type="checkbox"/>	Legal Services	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 法律	<input type="checkbox"/>	Transportation / Logistics	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 物流・運輸	<input type="checkbox"/>	Energy, Water & Utilities	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/>	Financial Services	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 経済	<input type="checkbox"/>	Automotive	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 自動車	<input type="checkbox"/>	Aerospace / Aviation	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 航空宇宙	<input type="checkbox"/>	Humanities / Arts / Religion	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 芸術・文化	<input type="checkbox"/>	Pharmaceuticals & Biotechnology	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 製薬	<input type="checkbox"/>	Financial Services	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 財政	<input type="checkbox"/>	Public Sector / Non-Profit	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 軍事・民間防衛	<input type="checkbox"/>	Food Services / Agriculture	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 農業	<input type="checkbox"/>	Telecommunication	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 通信	<input type="checkbox"/>	Transportation / Logistics	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 運送	<input type="checkbox"/>	Undefined Sector	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 鉱業	<input type="checkbox"/>	Consumer Goods / Electronics &	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 電気製品	<input type="checkbox"/>	Humanities / Arts / Religion	1.0	1.0	★
<input type="checkbox"/> 音楽・芸術	<input type="checkbox"/>				

XTM 用にシステム デフォルトの主題係数を設定する

[主題係数]タブでは、プロジェクト作成時に使用する[主題]リストにアイテムを追加および削除できます。

また、主題ごとに価格係数と期間係数を変更できます。いずれのアイテムにもデフォルト値には 1.0 が設定されています。1.1 以上に係数値を上げると、費用または期間の見積りが標準よりも増加します。同様に係数値が 0.9 以下に設定されると、見積り値も減少します。

## データ - メッセージ

このセクションは、重要事項をユーザへ通知するメッセージを作成するために使用します。[このメッセージを再表示させない]チェックボックスを選択しない限り、ユーザが XTM へログオンしたときや、ページ間を移動するとき、ポップアップでメッセージが表示されます。



[メッセージ管理]ウィンドウ

メッセージには以下のプロパティがあります。

- 件名
- コンテンツ(メッセージ本文)
- メッセージの利用開始日時
- メッセージの利用終了日時
- 代替として、サーバが停止したときにはメッセージを無効とするようにも設定できます。
- メッセージを受信するユーザのタイプまたはロール

新しいメッセージを追加するために[新規メッセージ]ボタンをクリックすると、下図のウィンドウが表示されます。メッセージの詳細を入力して[保存]をクリックします。



新しいメッセージを作成する

## データ - 配送サービス

XTM Portal を購入した場合、ターゲット文書の配送や費用および期間に対するさまざまな方法を定義できます。



XTM Portal 用に利用可能な配送サービスを定義する

## データ - タグ

### タグの概要

[タグ]タブでは、関連するタグとともに[タググループ]を作成したり、翻訳メモリや用語のペナルティ プロファイルを作成するために使用します。

プロジェクトマネージャがプロジェクトを作成する際、プロジェクトで使用する[タグ]と[タググループ]を設定できます。したがってプロジェクト作成時に生成される翻訳メモリ(TM)には、自動的にタグが付与されます。

TM や用語のペナルティ プロファイルは、該当プロジェクトに選択された XTM データベース内の TM または用語を定義された条件セットと比較し、条件に合致する場合はペナルティが適用されます。

TM ペナルティ プロファイルを適用することで、PM は特定のプロジェクトで使用される TM を柔軟性をもって制御することが可能となり、各マッチが翻訳者に提示される際に優先させることができます。

用語ペナルティ プロファイルを使用する際、PM は XTM Editor で用語がハイライトされるかどうか、そして翻訳者に推奨の訳語が提示されるかを選択できます。



関連するタグを伴うタググループの一覧

### タグを追加および編集する

新しいタググループおよび関連するタグを追加するには、[追加]ボタンをクリックします。ポップアップ ウィンドウにタググループの名前を入力し、タグを個別に入力します。タググループとタグはすべてのカスタマー、または特

定のカスタマーのみで利用できます。[全カスタマー]チェックボックスを非選択すると、タググループおよびタグを利用できるカスタマーを選択できます。タググループまたはタグにはスペースを使用できないため、入力したスペースは自動的にアンダースコアで置き換えられます。



タグを伴う新しいタググループ追加する

### データ - TM ペナルティ プロファイル

TM ペナルティ プロファイルによって、[タグ]と[タググループ]に基づき XTM データベースから特定の TM を選択できるようになり、ソースファイルの解析時にマッチに対してペナルティを与えます。



既存する TM ペナルティ プロファイルの一覧

TM ペナルティ プロファイルを編集、削除、無効にするには、テーブルの最左列のメニューアイコンをクリックします。

新しい TM ペナルティ プロファイルを作成するには、[追加]ボタンをクリックします。[プロファイル名]を入力し、必要に応じて[概要]も入力します。任意のセグメントが 2 つ以上のペナルティ条件に該当する場合、[有効]チェックボックスを選択し、ペナルティを合計するか、最大値のペナルティのみを使用するかを設定します。さらに、マッチを並べて表示させる基準として[マッチタイプ]か[優先度]を選択します。

続いて、ドロップダウンメニューで選択可能であれば、フィールド、オペレータ、TM タググループ、TM タグを選択して規則を作成します。以下のオプションが利用できます。

フィールド	比較
全タグ	このプロジェクトのために選択されたタグに対する XTM TM データベース内の任意のセグメントのタグすべて
いずれのタグでもない	このプロジェクトのために選択されたタグに対する XTM TM データベース内の任意のセグメントのいずれのタグでもない
カスタマー	プロジェクトのカスタマーに対する XTM TM データベース内の任意のセグメントのカスタマー
ステータス	XTM TM データベース内の任意のセグメントの XTM ステータスが承認済みまたは非承認のどちらかである
XLIFF:doc ステータス	XTM TM データベースの任意のセグメントの XLIFF:doc ステータスには[却下済み]、[新規]、[翻訳済み]、[校正済み]、[検証済み]がある
ターゲット言語	このプロジェクトのために選択されたターゲット言語に対する XTM TM データベース内の任意のセグメントのターゲット言語
マッチタイプ =[ICE]・[レバレッジド]	マッチは ICE マッチまたはレバレッジド マッチいずれかである
タグ	このプロジェクトのために選択されたタグに対する XTM TM データベース内の任意のセグメントのタグの 1 つ
いずれかのタグ	このプロジェクトのために選択されたタグに対する XTM TM データベース内の任意のセグメントのタグのいずれか
バリエーションのマッチタイプである	マッチは、プロジェクトで指定されたターゲット言語のバリエーションの翻訳メモリからきている

条件が合致する際に適用されるペナルティを入力し、規則を完成させます。ペナルティマッチの表示順に優先度を付与するか、そして、さらにペナルティ アクションを適用させるかを選択します。以下から選択できます。

- 1) マッチを削除
- 2) マッチに適用させるペナルティ率を指定
- 3) ICE マッチからレバレッジドマッチへダウングレード
- 4) 優先度を設定するのみ

マッチが表示されている優先度に影響を及ぼすペナルティ アクションを作成する際、ノンペナルティ マッチのデフォルトの優先度と比較することを忘れないようにしてください。ノンペナルティ マッチのデフォルトの優先度は、ペナルティ マッチの優先度よりも高いはずです。

ペナルティ プロファイルで指定した条件に一致する翻訳を優先する場合、ペナルティ プロファイルの優先度を増やし、ペナルティ アクションには[なにもしない]を選択します。

ペナルティ プロファイルごとに、該当アクションを含む複数の規則を有することができます。

**TMペナルティプロフィールを編集**

プロファイル名:   
 概要:   
 ステータス:  有効  
 ペナルティ:  合計ペナルティ  
                    最大ペナルティを選択  
 マッチング順序:  マッチタイプ基準  
                    優先度基準  
 ペナルティのないマッチに対するデフォルトの優先度:

ルール	フィールド	オペレータ	TMタググループ	TMタグ	アクション
TMセグメントの場合	タグ	↓   である	Sweets	Chinese	このとき: 優先度を設定 <input type="text" value="1 (高)"/> および: <input type="radio"/> マッチを削除 <input type="radio"/> ペナルティ <input type="text" value=""/> % <input type="radio"/> [ICE]から[レバレッジド]にダウングレード <input checked="" type="radio"/> なにもしない(優先設定のみ)
TMセグメントの場合	タグ	↓   である	Sweets	American	
TMセグメントの場合	タグ	↓   である	Sweets	Japanese	
TMセグメントの場合	タグ	↓   である	Sweets	French	
TMセグメントの場合	選択...				
TMセグメントの場合	タグ	↓   でない	Hardware	Tablets	このとき: 優先度を設定 <input type="text" value="1 (高)"/> および: <input type="radio"/> マッチを削除 <input type="radio"/> ペナルティ <input type="text" value=""/> % <input type="radio"/> [ICE]から[レバレッジド]にダウングレード <input checked="" type="radio"/> なにもしない(優先設定のみ)
TMセグメントの場合	選択...				

### TM ペナルティ プロファイルを追加または編集する

ペナルティ プロファイルが複数行にまたがる複数の規則を含む場合、規則の行間には[AND](および)があります。プロフィールに複数行がある場合、規則の行間には[OR](または)があります。

### データ - 用語ペナルティ プロファイル

TM ペナルティ プロファイルと同様に、用語マッチにもペナルティを適用させることができます。

XTM プロジェクト カスタマー ユーザ タスク コンコーダンス TM 用語集 Xchange

ヘルプと情報 ユーザ詳細 マイアカウント **データ** 設定

言語コンビネーション  
言語グループ  
概算見積り  
主題係数  
メッセージ  
配送サービス  
**タグ**  
カスタムフィールド

タグ TMペナルティプロフィール 用語ペナルティプロフィール

用語ペナルティプロフィール

プロフィール名	概要	有効
Automotive-owner		<input checked="" type="checkbox"/>
Cooking		<input checked="" type="checkbox"/>
synonym		<input checked="" type="checkbox"/>
Tablets		<input checked="" type="checkbox"/>
webinar		<input checked="" type="checkbox"/>
datesonly		<input type="checkbox"/>

### 既存する用語ペナルティ プロファイルの一覧

新しい用語ペナルティ プロファイルを作成するには[追加]ボタンをクリックします。

**用語ペナルティプロフィールを編集**

プロファイル名:   
 概要:   
 ステータス:  有効

ルール	フィールド	オペレータ	用語タググループ	用語タグ	アクション
用語セグメントの場合	タグ	↓   でない	Hardware	Tablets	このとき: <input checked="" type="radio"/> 用語を削除
用語セグメントの場合	選択...				

### 新しい用語ペナルティ プロファイルを追加する

[プロフィール名]を入力し、必要に応じて[概要]も入力します。[有効]チェックボックスを選択して有効化します。

続いて、[オペレータ]、[用語タググループ]、[用語タグ]を選択します。[マッチを削除]のみがペナルティとして選択可能であり、XTM Editor 上で用語がハイライトされなくなります。

最後に[保存]ボタンをクリックします。

## データ - プロジェクト カスタム フィールド

XTM ではプロジェクトに対するカスタム フィールドを作成し、プロジェクト作成時に完成させて[高度な検索]画面で使用できます。



既存するカスタム フィールドの一覧

## 新しいプロジェクト カスタム フィールドを追加する

[追加]ボタンをクリックして[フィールド名]を入力します。

6つのカスタム フィールドのタイプから1つを選択します。

- チェックボックス
- 日付
- ドロップダウン
- 複数選択
- 数字
- テキスト

[ドロップダウン]または[複数選択]のどちらかを選択した場合、このフィールドで選択するための値リストを入力する必要があります。

新しいプロジェクト カスタム フィールドを追加する

カスタム フィールドを[有効]にし、必須とするか決定して[保存]ボタンをクリックします。

## データ - 用語カスタム フィールド

XTM では、[用語集マネージャ]で表示させるためのカスタム フィールドを作成できます。フィールドにはコンセプトまたは用語についての詳細を追加できます。



### 既存する用語カスタム フィールドの一覧

### 新しい用語カスタム フィールドを追加する

[追加]ボタンをクリックして[フィールド名]を入力します。

5つのカスタム フィールドのタイプから1つを選択します。

- ドロップダウン
- ハイパーリンク
- 複数選択
- 数字
- テキスト

[ドロップダウン]または[複数選択]のどちらかを選択した場合、このフィールドで選択するための値リストを入力する必要があります。

The screenshot shows a dialog box titled 'カスタムフィールドを追加'. It contains the following fields and options:

- \* フィールド名: [Text input field]
- \* フィールドタイプ: [Dropdown menu with 'ドロップダウン' selected]
- TBX名: [Text input field]
- \* 表示対象:  concept  term
- 有効:
- フィールド値: [Progress indicator]
- 値: [Text input field]

At the bottom of the dialog are two buttons: '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel).

### 新しい用語カスタム フィールドを追加する

[TBX 名]は、用語が TBX ファイルにエクスポートされた際の用語プロパティに関連します。

[コンセプト]または[用語]のラジオボタンによってフィールドが表示される箇所を定義できます。

[有効]チェックボックスを選択して、このカスタム フィールドを有効化します。

カスタム フィールドを定義して[保存]ボタンをクリックします。

## 設定

XTM の設定の数多くはシステムレベルでコンフィギュレーションすることが可能であり、必要に応じてカスタマーレベルおよびプロジェクトレベルで調整できます。

### 設定 - システム

#### 一般

[システム] > [一般]タブに表示されている詳細は、以下に使用されます。

- ユーザの Web サイトのホームページへのリンクを XTM に設定する
- メール通知にアプリケーション名を設定する
- サブコントラクト機能を有効にする
- 全ユーザに対して XTM のイントロダクション ページの表示のオン/オフを切り替える
- TIPP ファイルのアップロードおよびダウンロードの有効性のオン/オフを切り替える
- XTM Xchange へ登録して使用する
- TM タグと用語タグを使用する
- ログインページおよび各ページのヘッダーの左上部に表示される XTM のロゴを、自社のロゴをアップロードして置き換える。ロゴは PNG、JPEG、JPG、GIF 形式にします。サイズは自動的に 120 x 50 ピクセルに調整されます。

The screenshot shows the XTM user interface. At the top, there is a navigation bar with 'XTM' logo and menu items: 'プロジェクト', 'カスタマー', 'ユーザ', 'タスク', 'コンコーダンス', 'TM', '用語集', 'Xchange'. Below this is a secondary navigation bar with 'ヘルプと情報', 'ユーザ詳細', 'マイアカウント', 'データ', and '設定'. The main content area is titled 'システム' and has two tabs: '一般' (selected) and 'ライセンス'. On the left, there is a sidebar menu with items: 'システム', 'QA', 'セキュリティ', 'ファイル', 'プロジェクト', 'ポータル', 'メール', 'ワークフロー', '支払い', '翻訳', '解析マネージャ'. The '一般' tab contains the following settings:

ホームページURL	https://xtm-intl.com
アプリケーション名	XTM
サブコントラクトを有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
イントロページを表示	<input checked="" type="checkbox"/>
TIPPを有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
XTM Xchangeを有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
TMタグと用語タグを有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
XTM Messengerを有効化	<input checked="" type="checkbox"/>
会社ロゴ	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません

At the bottom of the settings area, there is a '登録' button and a '保存' button.

[設定] > [システム] > [一般]タブ

#### ライセンス

アサインされたタスクを担当するサブコントラクト(委託)先の LSP(翻訳会社)では、以下が可能です。

- XTM のサブスクリプションを購入済みであり、LSP 独自のライセンスを使用する。
- 無料アカウントにサインアップ済みであり、委託元のライセンスを使用する。
- LSP 独自のライセンスと、委託元ライセンスどちらをも使用する。

このタブでは、委託元が保有するライセンスの内いくつを委託先 LSP が使用するか定義できます。

画面上部では、委託元ユーザ用に留保されたライセンス数を確認できます。

下部のテーブルには委託先 LSP の一覧が表示されます。LSP ごとに以下を指定できます。

- 利用可能な委託元ライセンスすべてを使用
- 指定したライセンス数まで使用
- 委託元ライセンスを使用する前に、LSP 独自のライセンスを使用する必要がある



[設定] > [システム] > [ライセンス] タブ

## 設定 - 解析マネージャ

解析マネージャによって、XTM でのファイルごと、言語ごとのプロセスをカスタマイズできます。これらの規則を変更することは技術的に高度なタスクであり、XML のスキルに長けており、SRX 規則と ITS 規則を熟知しているユーザのみに限定することが推奨されています。2 つのセクションがあります。

- 1) [セグメンテーション]セクションでは、SRX 規則を閲覧、編集、新規作成できます。
- 2) [コンテンツ]セクションでは、ITS 規則を閲覧、編集、新規作成できます。

規則は両方とも、システム全体で、またはカスタマーを限定して利用できます。既存の規則をダウンロードして変更したり、新しい規則を追加することもできます。

## セグメンテーション

[セグメントテーション]タブには、「SRX 規則」と呼ばれるセグメント化規則が一覧として表示されます。ページ上部では検索を実行することもできます。

XTM は、3 つのレベルの SRX 規則の設定に対応しています。

1. XTM に装備されているデフォルト設定
2. お使いの特定の XTM インスタンス用にカスタマイズされた規則のセット (システム デフォルト)
3. 個別のカスタマー用にカスタマイズされた規則のセット

[セグメントテーション]タブの上部の検索フィールドを利用して規則を検索できます。規則リストの最左列のメニューアイコンをクリックするか、規則そのものをクリックすると、規則を編集、ダウンロード、削除できます。編集または削除できるのはカスタム規則のみであることに留意してください。



[設定] > [解析マネージャ] > [セグメンテーション]

カスタマイズした SRX 規則を追加するには[ルールを追加]ボタンをクリックします。表示されるウィンドウで[名前]、[カスタマー]や[ソース言語]を指定します。そして、新規の、または改訂済みの「SRX 規則ファイル」をアップロードするか、[段落セグメンテーションのみ]チェックボックスを選択します。最後に[作成]ボタンをクリックします。



[設定] > [解析マネージャ] > 新しいセグメンテーションの[ルールを追加]

コンテンツ

[コンテンツ]セクションには、システムで使用する ITS 規則の一覧が表示されます。ITS 規則によってソースファイル内の翻訳対象部分が定義されます。システムによってサポートされているファイル形式すべてに対する ITS 規則が XTM には搭載されていますが、翻訳プロセスによっては特別な設定が必要とされることもあります。

[コンテンツ]タブの上部の検索フィールドを利用して規則を検索できます。規則リストの最左列のメニューアイコンをクリックするか、規則そのものをクリックすると、規則を編集、ダウンロード、削除できます。編集または削除できるのはカスタム規則のみであることに留意してください。

ファイル解析中は以下の順序でチェックされ、適用する ITS 規則が抽出モジュールによって決定されます。

1. ファイルの拡張子
2. ファイル拡張子が認識されない場合、XML ファイルと見なされる
3. ルート要素の名前

XTM は 3 つのレベルの ITS 規則の設定に対応しています。

1. XTM に装備されているデフォルト設定
2. お使いの特定の XTM インスタンス用にカスタマイズされた規則のセット(システム デフォルト)
3. 個別のカスタマー用にカスタマイズされた規則のセット

3つのレベルに基づき、以下の順序で規則が適用されます。

1. まず、カスタマー コンフィギュレーションに適切な規則があるかどうかチェックされます。
2. カスタマー コンフィギュレーションに規則が見つからない場合、システム コンフィギュレーションが検索されます。
3. システムに規則が見つからない場合、デフォルトのコンフィギュレーションが検索されます。
4. デフォルト コンフィギュレーションが見つからない場合、提供されたファイルに対して、システムによって自動的に規則が生成されます。

ルールごとに HTML パーサを使用するか、ファイル内の空白文字(スペース)を保持するかを定義できます。

HTML が含まれているものの、ソースファイルは XML、Word、Excel、プロパティファイルである可能性がある場合、HTML から翻訳可能なテキストを抽出するための HTML パーサを使用できます。そうでなければ、HTML はすべて翻訳対象と見なされます。XML に HTML を埋め込む場合、XML タグと競合させないため HTML は CDATA セクションに囲む、または HTML タグをエスケープします。

ソースファイル内の空白文字やタブをそのまま保持する場合、このオプションに[はい]を選択します。そうしない場合、連続する複数の空白文字は1つに集約されます。また、複数のタブは単独の空白文字に置き換えられます。

ITS 規則の例は本マニュアルの『附録 5』を参照してください。

カスタマー名	名前	ファイルの拡張子	ルート要素名	HTMLパーサを使用	スペースを保持	タイプ
全カスタマー		psid	xhtml	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	標準
全カスタマー		psid	psid-layers	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	標準
全カスタマー		custom-variables		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	標準
全カスタマー		yml, yaml		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	標準
全カスタマー		json		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	標準
全カスタマー		xmi, dita, ditamap	ddn	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	標準

[設定] > [解析マネージャ] > [コンテンツ]

## 設定 - メール

[メール]の設定によって、システムからメールを発信させるためのメール アカウントを設定できます。デフォルトでは XTM のアカウントが使用されています。特別にアカウントの変更を希望しない限り、デフォルト設定のままにしておくことが推奨されています。

[設定] > [メール]タブ

メールに関連して以下を設定します。

- 1) [ホスト]: メールサーバのアドレスです。デフォルトでは XTM サーバが設定されています。メールは弊社の内部サーバから送信されるため、認証は不要です。スパムメッセージの問題が発生する場合は、独自のメールサーバの利用が推奨されます。
- 2) [ポート]: メールサーバとの接続に使用するポート番号です。
- 3) [認証]: このオプションが選択されている場合、メッセージはメールアドレスから送信されます(ユーザ、パスワードがチェックされます)。このオプションがチェックされていない場合、メッセージは特定のメールサーバから認証なしで送信されます。
- 4) [ユーザ]: メッセージ送信に使用されるメール アカウントの名前です。
- 5) [パスワード]および[新規パスワードを再入力]: 特定のメール アカウントのパスワードを変更するために使用するフィールドです。
- 6) [TLS]: このオプションが選択された場合、SMTP ホストとのコミュニケーションに TLS プロトコルが使用されます。

以下の 7~10 はメールの書式に関連します。

- 7) [メール件名の接頭辞]: ここに入力されるテキストは、すべてのメール件名の接頭辞に使用されます。メールに対してフィルターを設定する際に役立ちます。
- 8) [デフォルトの差出人名]: メール[送信者名](差出人名)フィールドにメール アカウント名として表示される送信者の名前です。

- 9) [デフォルトの差出人アドレス]: メールの[送信者名](差出人名)フィールドにメール アカウント アドレスとして表示される送信者のアドレスです。
- 10) [ワークフローメールの差出人名]: 以下の 3 つのオプションから選択します。上記設定済みのデフォルト値、ユーザの姓名、ユーザのユーザ名
- 11) [ワークフローメールの差出人アドレス]: オプションから 1 つを選択します。上記設定済みのデフォルト値またはユーザのメールアドレス
- 12) [フッターに連絡先を挿入]: 選択した場合、メールにはフッターが付加されます。フッターには、「自動的に生成されたメッセージである」、「無視することもできる」、「詳細が掲載されている Web サイトの URL」が情報として含まれます。
- 13) [メールすべてのコピーを管理者に送信]: 左記動作を有効にするにはチェックボックスを選択します。
- 14) [プロジェクトが未開始のときもワークフローメールをリングストに送信]: 未開始のプロジェクトにアサインされている、またはアサイン解除された旨を知らせるため、リングストに対してワークフロー メールを送信します。
- 15) [任意のワークフローステップの期限日を後続ワークフローステップの開始日に使用]: 後続ワークフローステップの開始を示すため、ほかのワークフローステップの期限日を指定します。
- 16) [リングスト宛メールのタスクを並べ替える]: リングスト宛のメールにタスクを記載する順序をファイル名にするか、タスクのステータスにするかを選択します。
- 17) [リングスト宛メールに全アサインタスク(変更済みのみでなく)を表示]: リングスト宛の通知メールにアサインされたタスクすべてを記載する場合、このオプションを選択します。
- 18) [次の値以上が含まれるプロジェクトはリングスト宛メールに[未変更ジョブ]をリストしない]: ジョブ数がドロップダウンリストで選択した数値を超過しており、リングスト宛メールに未変更ジョブは記載しない場合、このオプションを使用します。
- 19) [PM 宛メールに全ジョブ(変更済みのみでなく)を表示 ]: プロジェクトマネージャ宛通知メールに担当するプロジェクト タスクすべてを含めるには、このオプションを選択します。
- 20) [次の値以上が含まれるプロジェクトは PM 宛メールに[未変更ジョブ]をリストしない]: ジョブ数がドロップダウンリストで選択した数値を超過しており、プロジェクトマネージャ宛メールに未変更ジョブは記載しない場合、このオプションを使用します。
- 21) [制限付き PM に対して PM 宛通知を使用しない]: 制限付きプロジェクトマネージャに対して送信されるメールを軽減させるため、このオプションを選択します。
- 22) [PM 宛メールのタスクを並べ替える]: プロジェクトマネージャ宛のメールにタスクを記載する順序をファイル名にするか、言語にするかを選択します。

## メールをカスタマイズする

### 会社またはアプリケーションの名前

メール通知に表示されるアプリケーション名(デフォルトでは「XTM」)を[コンフィギュレーション] > [設定] > [システム] > [アプリケーション名]にて、ご希望の会社やアプリケーションの名前に変更できます。

### XTM Cloud メール通知の詳細

通知メールは HTML を使用して設計されており、2 種類の変数が含まれています。

- 大文字のローカリゼーション変数: ユーザーインターフェースと同じ言語でテキストが入力されています。残りの部分のテキストはテンプレート上で直接変更できますが、ユーザがダイアログ言語を変更してもメッセージは変更されません。カスタマイズしたテキストの訳文を表示させるためには、メッセージファイルを言語ごとに用意する必要があります。
- 小文字のデータ変数: プロジェクト名、ファイル名、ファイルリストなどのデータのための変数

## XTM Support による XTM メールのカスタマイズ

### ユーザインターフェース

XTM Support チームでは、XTM メールの高度なカスタマイズを実行しています。メールのテンプレート ファイル(変数を含む HTML ファイル)をカスタマイズします。

- XTM Cloud の通知メール テンプレートを弊社よりご提供いたします。
- また、カスタマイズされた通知メール テンプレートのサーバへのアップロードも承ります。

### 変数

メールには、以下の追加変数を含むこともできます。

1. ユーザインターフェースに表示される変数であり、計算を必要としていません。
  - プロジェクトタイプ: id, name, customer name, status, minimum/maximum workflow status, creator, pm, information about MT, payment status, confirmation status, final estimate prices, create date, due date, finished date, if subcontracted, number of translation files, number of reference material files, number of words, analysis/editor properties such as use not approved memory, not editable ICE matches, target length restrictions
  - ユーザタイプ: id, username, role, address details, personal details, last login date, last logout date, preferred language, time zone, currency, mother tongue
  - タスク: タイプによるグループ
2. 計算、解析、または複雑なクエリを要する変数は反映できますが、対応に長時間を要することがあります。

いずれの変数タイプも使用は必須とされていません。ローカリゼーション変数のみ、データ変数のみ、両方または一方のみを使用することを決定できます。

### 変数名のローカリゼーションと変更

1 つの言語で、または複数の言語にローカライズして表示される変数の名前を変更できます。

変更および/または翻訳を伴うリストを以下の様式で作成し、弊社サポートチーム宛に送信ください。

- 1 言語内での変更:
  - 英語:
 

```
<text id="PROJECT_DETAILS">Project details</text>
```
  - 英語:
 

```
<text id="PROJECT_DETAILS">Project information</text>
```
- ローカリゼーション:
  - 英語:
 

```
<text id="PROJECT_DETAILS">Project details</text>
```
  - ポーランド語:
 

```
<text id="PROJECT_DETAILS">Szczegóły projektu</text>
```

### カスタマイズされた通知メール テキストのローカリゼーション

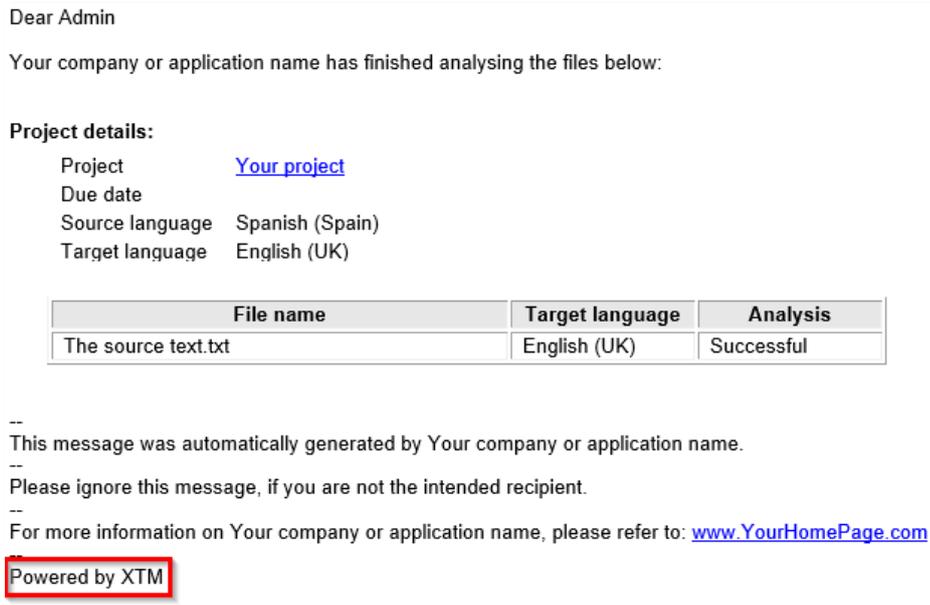
カスタマイズされた通知メールのテンプレート ファイルは、英語やドイツ語などのディレクトリ構造の中に手動で置くことができます。そして、ユーザインターフェースの言語に一致するテンプレート ファイルが XTM Cloud で使用されます。

### メール通知の件名フィールド

弊社サポートチームでは、お使いのローカリゼーション ファイルでの通知メールの件名フィールドのカスタマイズを承ります。件名フィールドにはプロジェクト名、完全な言語名、言語コードなどの変数を使用できます。

## XTM 表示

通知メール テキストに「XTM」というワードがない場合、「Powered by XTM」というフレーズが自動的に追加されます。



*「Powered by XTM」が追加された通知メール*

## 設定 - ファイル

[ファイル]セクションでは、ファイルに対するダウンロードおよびアップロードのオプションを設定できます。

### ファイルのアップロード

このセクションには、ターゲット ファイルが手動でアップロードされたときに表示させるカスタム メッセージを入力します。

### ファイルのダウンロード

- 1) [ZIP ファイル]を選択すると、ダウンロード前にいずれのファイルも ZIP に格納されます。
- 2) [ターゲットファイルの名前に言語コードを追加または更新]を選択すると、ファイル名に言語コードが含まれ、ターゲット言語のフォルダにファイルがダウンロードされます。

### ファイルの生成

[ファイルの生成]セクションでは以下を実行できます。

- 1) [[全ファイル]のダウンロードに含める]ファイルの種類を選択します。選択肢には、[空]のファイル、[解析不可能]のファイル、[非対応]のファイルがあります。
- 2) [疑似翻訳の生成を有効化]を選択します。このオプションによって、翻訳対象として抽出されたテキストがすべてアンダースコア( \_ )で置き換えられたファイルをダウンロードできます。これによって実際には翻訳せずとも、翻訳対象のテキストが適正に抽出されたかを迅速に確認できます。



[設定] > [ファイル]タブ

## 設定 - LQA

### LQA

#### 概要

XTM の LQA 機能は、QT Launchpad プロジェクトの一部として設計された MQM (Multidimensional Quality Metrics) モデルに基づく翻訳品質のスコアリング システムです。MQM に関する詳細は <http://www.qt21.eu/launchpad/> を参照してください。XTM には、以下のようなシステムとして統合されています。

- 柔軟性: 精巧さと簡潔さのバランスがとれたスコアリング システムである
- 公平性: 問題の要因を追求できる
- MT も含むすべての翻訳メソッドに適している
- 比較可能: ほかのテスト結果とも比較できる
- 業界標準に基づく: MQM によって特質的な基盤として [ISO/TS 11669](https://www.iso.org/standard/54548.html) が大きく活用されている
- 精度: 多角的な精度に対応している

MQM は定義と例を伴う 120 を超える 이슈タイプのカatalogを提供しています。イシューの階層図は『附録 7』を参照してください。

[コンフィギュレーション] > [設定] > [QA] > [LQA]にて、イシューの完全リストや、いずれかのサブセットを選択できます。アイテムごとに重みを設定し、軽度、重度、深刻といった重要度も設定できます。



LQA の 이슈を設定する

イシューの名前を変更するにはコンテキストメニューから[詳細]を選択します。MQM 名は参照用として常に保持されます。

XTM Editor でイシューを表示させるか、レポートを平面リストにするか階層リストにするかを定義できます。

LQA TAUS DQF

LQA TAUS DQF のエラーカテゴリーは TAUS DQF quality の設定に基づいています。翻訳プロジェクトに対して TAUS DQF への接続が有効にされた場合、標準の LQA エラーの重要度マトリクスの代わりに、LQA TAUS DQF エラーの重要度マトリクスが使用されます。



LQA TAUS DQF の 이슈を設定する

## LQA ステップ

ワークフローで利用可能なデフォルトの LQA ステップがあります。さらにワークフローエディタで該当するチェックボックスを選ぶことによって、ワークフロー内のいずれのステップにおいても LQA を実行できるようになります。



[チェック]ステップでLQA を実行するよう設定されている[ワークフローエディタ]ウィンドウ

## XTM Editor 上での LQA

任意のステップで LQA が有効にされている場合、XTM Editor 上の各セグメントの下部に LQA セクションが表示されます。LQA を実行するユーザは、エラーと重要度を容易に選択できます。イシューはシステムに記録され、LQA セクションの上部と LQA レポート、そしてステータス列の三角表示板アイコンにマウスをかざすと表示されます。



XTM Editor でLQA を実行する

## LQA レポート

LQA レポートはプロジェクト一覧のコンテキストメニューや、[プロジェクト エディタ] > [ワークフロー]タブのコンテキストメニューの[ダウンロード]アイテムからダウンロードできます。

# XTM ユーザ マニュアル - 管理者

重要度乗数		LQAレポート		2017/09/19 16:16				
中立	0							
軽度	1							
重度	5							
深刻	9							
プロジェクト	005-LQA	単語数	147	総計	81.63%			
問題のタイプ	重み	問題数				ペナルティ		ターゲットサブスコア
		中立	軽度	重度	深刻	未加工	調整	
総計	1	1	3	3	1	27	27	81.63%
スタイル	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
ロケール慣習	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
不鮮明	1	0	0	0	1	9	9	93.88%
文法	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
文法的レジスター	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
法的要件	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
用語集	1	1	0	0	0	0	0	100.00%
翻訳	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
言語	日本語	単語数	147	総計	81.63%			
問題のタイプ	重み	問題数				ペナルティ		ターゲットサブスコア
		中立	軽度	重度	深刻	未加工	調整	
総計	1	1	3	3	1	27	27	81.63%
スタイル	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
ロケール慣習	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
不鮮明	1	0	0	0	1	9	9	93.88%
文法	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
文法的レジスター	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
法的要件	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
用語集	1	1	0	0	0	0	0	100.00%
翻訳	1	0	0	1	0	5	5	96.60%

## LQA レポート: 非階層的イシュー

重要度乗数		LQAレポート		2017/09/19 15:51				
中立	0							
軽度	1							
重度	5							
深刻	9							
プロジェクト	005-LQA	単語数	147	総計	81.63%			
問題のタイプ	重み	問題数				ペナルティ		ターゲットサブスコア
		中立	軽度	重度	深刻	未加工	調整	
総計	1	1	3	3	1	27	27	81.63%
スタイル	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
ロケール慣習	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
用語集	1	1	0	0	0	0	0	100.00%
事実性	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
法的要件	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
正確さ	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
翻訳	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
流暢さ	1	0	0	2	1	19	19	87.07%
不鮮明	1	0	0	0	1	9	9	93.88%
文法	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
文法的レジスター	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
言語	日本語	単語数	147	総計	81.63%			
問題のタイプ	重み	問題数				ペナルティ		ターゲットサブスコア
		中立	軽度	重度	深刻	未加工	調整	
総計	1	1	3	3	1	27	27	81.63%
スタイル	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
ロケール慣習	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
用語集	1	1	0	0	0	0	0	100.00%
事実性	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
法的要件	1	0	1	0	0	1	1	99.32%
正確さ	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
翻訳	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
流暢さ	1	0	0	2	1	19	19	87.07%
不鮮明	1	0	0	0	1	9	9	93.88%
文法	1	0	0	1	0	5	5	96.60%
文法的レジスター	1	0	0	1	0	5	5	96.60%

## LQA レポート: 階層的イシュー

階層的なビューが使用される場合、最下レベルに対するイシューの数とツリーの全アイテムがレポートに表示されます。または、より高いレベルに対する入力があった場合、「一般的な」アイテムに対してイシューの数が表示されます。

ペナルティ スコア (Penalty score: P) は以下の数式で算出されます。

$$P = (\text{イシュー}_{軽} \times \text{軽度乗数} + \text{イシュー}_{重} \times \text{重度乗数} + \text{イシュー}_{深刻} \times \text{深刻乗数})$$

調整されたペナルティ スコア (Adjusted Penalty: AP) は以下の数式で算出されます。

$$AP = P \times \text{イシュータイプの重み}$$

トータル スコア (Total score: TS) は以下の数式で算出されます。

$$TS = AP \times 100 / \text{ワードカウント}$$

## 設定 - プロジェクト

### プロジェクトのビュー

プロジェクトに多数のファイルがある場合、ファイル個別ではなくグループで管理する方が容易になる傾向があります。XTM にはファイルを簡易にグループ化するための機能があります。定義したファイル数を超過すると[プロジェクトエディタ]に[グループ化]タブが自動的に表示されます。管理者は[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト]でこの制限ファイル数を設定します。

プロジェクトのビュー	
[グループ化]を表示させるファイル個数	10
言語ビューを表示させる単一言語プロジェクトのファイル個数	100

[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト] > [プロジェクトのビュー]

さらに、多数のファイルを伴う単一言語のプロジェクトがある場合、ファイルレベルではなく言語レベルでプロジェクトを管理することもできます。言語ビューを表示させる単一言語プロジェクトのファイル数を同様に設定できます。

XTM で解析不可能なファイルの翻訳を管理するには、このチェックボックスを選択します。これによって解析不可能なファイルのための特別なワークフローを設定し、タスクに担当者をアサインできるようになります。

### プロジェクトのタイプ

このセクションでは[代替翻訳]や[匿名化]を有効化でき、[代替翻訳]機能を使用するプロジェクトでのセグメンテーションを選択します。

プロジェクトのタイプ		
	許可	デフォルト設定
代替翻訳	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
代替翻訳セグメンテーション		
匿名化を使用	<input type="checkbox"/>	

標準セグメンテーション

[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト] > [プロジェクトのタイプ]

**代替翻訳:** このオプションは「トランスクリエーション」と呼ばれるプロジェクトで活用される傾向が強くあり、翻訳者が「代替翻訳」や「逆翻訳」を入力できるように XTM Editor のレイアウトを変更できます。

[代替翻訳]を有効にするにはチェックボックスを選択し、代替のデフォルト入力数を設定します。システムに対するここでの設定は、カスタマーおよび特定のプロジェクト向けに変更できます。

このオプションを選択した場合、各ソースセグメントは指定した回数分が XTM Editor に表示されます。まず推奨訳があり、設定された回数の代替翻訳が続きますが、いずれにしても翻訳者が完成させることができます。代替翻訳ごとに逆翻訳を入力するためのフィールドがあります。さらに、[プロジェクトエディタ]の[ファイル]タブの[プレビュー]で、[代替翻訳レポート]を生成してダウンロードできます。Excel ファイルのレポートにはすべての翻訳、逆翻訳、コメントが 1 つのシート上に含まれます。

[コメント]セクションは各翻訳に対する理由を入力するために使用できます。レビューアは希望する代替翻訳を選択し、代替翻訳から[推奨訳]にコピーできます。ターゲット ドキュメントの生成には推奨訳のみが使用されます。

**代替翻訳セグメンテーション:** [代替翻訳]オプションが選択された場合、システム上で標準的なセグメンテーション規則を使用するか、ソーステキストの段落ごとにセグメンテーションするかを選択できます。セグメンテーション規則は代替翻訳を含むプロジェクトのプロセスに際し、すべてのカスタマーおよびプロジェクトに対して適用されます。

**匿名化:** この機能によって、名前、固有名詞、日付、住所、電話番号、メールアドレス、URL や、いずれかの数値などの機密の個人情報を識別してプレースホルダと置き換えます。翻訳作業が人手や機械で行われようと機密情報が漏洩するリスクがありません。ローカリゼーションが完了してターゲット文書が再構築される

際、機密情報は自動的に再挿入されます。この機能は、現在、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スウェーデン語、デンマーク語、オランダ語、スペイン語、ポルトガル語のソーステキストに対して有効です。

Read the release notes to discover all of the features included in the XTM v9.7 release!	<b>U</b>
Click the links below to join the exciting webinars about the new features in XTM v9.7 delivered by our international training expert Mikolaj Lauer on 8{1}th {1} of August, 4:00 PM CEST and 12{2}th{2} of August, 10:00 AM CEST time:	<b>U</b>

### 匿名化を利用していない2つのセグメント

Read the release notes to discover all of the features included in the {1} v{2} release!	<b>U</b>
Click the links below to join the exciting webinars about the new features in {3} v{4} delivered by our international training expert {5} on {1}th{1} of {6}, {7} and {2}th{2} of {8}, {9} AM CEST time:	<b>U</b>

### 匿名化を利用している同じ2つのセグメント

システム上で[匿名化]を有効にするにはチェックボックスを選択します。デフォルトではすべてのカスタマーに対して匿名化が有効にされます。カスタマー個別の[設定]タブにて、特定のカスタマーに対して匿名化を無効にできます。

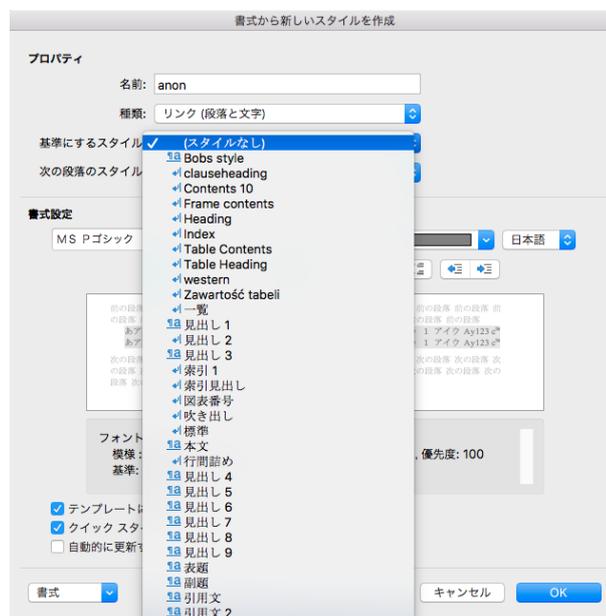
標準的な匿名化機能に加えて、Word のソースファイル上でテキストをマニユア選択してカスタム スタイルを適用することによって匿名化の対象とすることもできます。スタイルの名前の冒頭部に「anon」を置くことで、匿名化のメカニズムによって認識されます。

Word で新しいスタイルを作成するには、[スタイル ウィンドウ]を表示させて[新しいスタイル]をクリックします。



### Word で新しいスタイルを作成する

スタイル名には「anon」と入力するか、「anon」で始まる名前を入力します。[基準とするスタイル]リストから [(スタイルなし)]を選択します。これを保存し、匿名化の対象とするテキストに対して適用します。



### Word で匿名化スタイルを設定する

## セットでファイルを結合

このセクションでは、プロジェクト作成時にファイルを結合するためのオプションを設定できます。

**ファイル結合の設定:** [ファイルを結合]を無効にするか、簡易フォームまたは拡張フォームを表示するかを定義します。プロジェクトに対して結合オプションが選択された場合、プロジェクトの言語は更新できません。

**デフォルト値:** このオプションによって、プロジェクトを作成する際に [ファイルを結合] をデフォルトとして有効か無効かに設定します。

**ファイル結合の基準:** 拡張インターフェースが選択された場合、以下の [ファイル結合の基準] を選択できます。

- 拡張子: プロジェクト内で同じ拡張子を有するファイルすべては 1 つに結合されて表示されます。
- DITA Map レベル: プロジェクト内で指定された DITA Map レベルが 1 つに結合されて表示されます。ファイルは指定されたレベルの与えられた構造内でのみ結合され、同じレベルの複数の結果ファイルがもたらされることもあります。結果ファイルの数は、指定されたレベルの平行のサブ構造の数に一致します。XTM では、<topichead>と<topicref>のタグに基づいて DITA Map 構造の深さが認識されます。DITA Map レベルのファイル結合を動作させるにはこれらのタグが必要です。結果ファイルの名前は、結合された構造とファイルの名前を引き継ぎます。

### 例 1

DITA Map レベル 0: 全ファイルが 1 つにマージされる

DITA Map レベル 1: レベル 1 のサブ構造ごとにファイルが 1 つにマージされる

DITA Map レベル 2: レベル 2 のサブ構造ごとにファイルが 1 つにマージされるが、レベル 1 のサブ構造のファイルはマージされない

DITA Map レベル 3: レベル 3 のサブ構造ごとにファイルが 1 つにマージされるが、レベル 2 と 1 のサブ構造のファイルはマージされない

### 例 2

```
<topichead navtitle="b">
<topichead navtitle="a">
<topicref type="topic" id="a" href="topic/section/9.dita">
<topicref navtitle="test section" type="topic" id="a" href="topic/section/10.dita">
<topicref type="topic" id="4" href="topic/section/11.dita"/>
<topicref type="topic" id="4" href="topic/section/12.dita"/>
</topicref>
<topicref type="topic" id="a" href="topic/section/13.dita"/>
</topicref>
</topichead>
<topicref type="topic" id="a" href="topic/section/14.dita"/>
</topichead>
```

DITA Map レベル 0: 翻訳対象としてアップロードされたファイルすべてから単一の結果ファイルが生成される

**DITA Map レベル 1:** グループ “b”内のファイルすべてから単一の結果ファイルが生成される

**DITA Map レベル 2:** topichead “a”からのファイルすべては単一のファイルへマージされる。ファイル 14.dita は分かれたまま

**DITA Map レベル 3:** topichead “a”からのファイルすべては単一のファイルへマージされる。ファイル 14.dita は分かれたまま

**DITA Map レベル 4:** topichead “a”からのファイルすべては単一のファイルへマージされる。ファイル 13.dita と 14.dita は分かれたまま

## カスタマーのアクティビティをモニターする

このセクションは標準的なカスタマーの休止状態をモニターするのに役立ちます。この機能を設定するには以下を実行します。

- 休止をモニターする時刻を選択します。
- アラート発信前にカスタマーが休止中であるとみなす時間数を入力します。

- カスタマー休止の警告メールを受け取るプロジェクトマネージャを入力します。
- モニター対象は全カスタマーか、選択済みのカスタマーのみかを選択します。このオプションが選択されていない場合、[カスタマー]タブにて任意のカスタマー レコードを開き、[設定]タブにて[このカスタマーが休止している場合は PM に通知]を選択します。

## 期日

このセクションを使用してプロジェクトの期日を管理し、警告メールを発信できます。以下のフィールドがあります。

フィールド	概要
期日までのデフォルト日数	期日を自動的に算出するには本日から数えて何日後を期日とするか、デフォルトの日数を設定できます。必要に応じて、プロジェクトの作成過程でこのデフォルト値を編集できます。
デフォルトの期限時刻	プロジェクトの期限とするデフォルトの期限時刻を設定できます。この値は上記で入力した日数に追加されます。2つのオプションがあります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現在の時刻に指定の時間数を加算したものをデフォルトとする</li> <li>2) 1日のうちの特定の時刻</li> </ol>
期日メールの送信先	期日が近い、または経過したプロジェクトについて警告メールの送信先を選択できます。
期日メールの送信時刻	メールを送信する時刻を設定できます。1日に複数回送信できます。
対象プロジェクトの期日までの残り日数	期日までの期間に応じて、通知メールの対象とするプロジェクトを設定できます。

## 時間追跡

このセクションでは、ステップごとに時間を記録できるユーザと記録方法を管理します。

- [時間追跡(手動)の有効化の対象]: XTM Editor での作業に費やした時間を記録できるユーザを選択します
- [時間追跡(自動)]: 自動的に時間追跡を実行する場合はこのボックスを選択します
- [特急案件を有効化]: 特急案件に対するプレミアムの使用を有効にするため、このボックスを選択します
- [時刻が入力されていない場合はリングストに警告]: タスクが完了する際に[時間]フィールドが空の場合、値を入力するためのウィンドウを表示させます

## TAUS DQF との連携

XTM に TAUS DQF (Dynamic Quality Framework) を連携させ、翻訳の生産性と品質を追求できます。XTM でプロジェクトを作成して TAUS ヘデータを送るように設定すると、TAUS Quality Dashboard で新しいマスター プロジェクトが作成されます。翻訳中、XTM から TAUS へ翻訳ユニットが送られます。翻訳ユニットには、ソーステキスト、ターゲットテキスト、XTM Editor 上でユーザにより確定された編集済みテキストが含まれます。

まず、[www.taus.net](http://www.taus.net) で TAUS アカウントを作成します。XTM から TAUS DQF へ直行してサブスクライブできます。以下に TAUS へのリンクがあります。

- [コンフィギュレーション] > [ユーザ詳細]
- [ユーザ] > [ユーザを編集] > [一般]

TAUS アカウントを作成する前に TAUS に関するオプションを選択した場合、その時点以降に収集されたデータにアクセスできます。

## XTM での TAUS アカウント設定

- プロジェクトマネージャまたは管理者は[ユーザを編集] > [一般]にてユーザ用の TAUS アカウントを設定できます。
- ユーザは個別の TAUS アカウントの詳細を[ユーザ詳細]タブで入力できます。

## 設定 - QA

### QA プロファイル

[QA]タブには、XTM Editor のターゲット テキストに自動的に実行される品質保証の設定が含まれています。QA 設定は、プロジェクト作成時に選択できる QA プロファイルで調整されます。デフォルトとしてすべてのプロジェクト、カスタマー、言語に適用されるグローバル QA プロファイルがあります。

カスタマーに限定して、または特殊な条件のために特別な設定が必要な場合、独自の QA プロファイルを作成できます。また、特定の言語に対する特別な設定として単一の QA プロファイルを作成できます。



[コンフィギュレーション] > [設定] > [QA 機能]

### 特定の言語のための QA 設定

言語特定の設定を指定する:

1. プロファイルのポップアップでターゲット言語を選択します。
2. [QA プロファイル]ウィンドウで[一般]タブの隣に表示される[言語別]タブに移動します。
3. ドロップダウンリストから言語を選択します。
4. 任意の言語に適用する設定を選択します。
5. [保存]をクリックします。

選択された言語に対する言語特定の QA プロファイルが XTM Editor 上で適用されます。グローバル QA 設定は、言語特定の QA プロファイルがない言語に対して使用されます。



QA プロファイルの言語別設定

## QA オプション

QA プロファイルでは以下のアイテムを選択できます。

### 数字

- 不足または不正にフォーマットされた数字
- 単語内の数字
- ターゲットテキストの余分な数字

### 句読点

- 句読点後のスペース不足
- 文章内の句読点の重複
- 文章内のスペースの重複
- 句読点前のスペース
- 対フランス語(スイス): 句読点前のスペースなし
- インライン周辺のスペース
- 2 バイト文字周辺のスペース
- 文頭/文末のタブ/スペース
- 開き括弧と閉じ括弧の不統一

### 言語

- 波括弧内の翻訳不要テキストをチェック
- 禁止文字
- 同一のソースとターゲット
- 単語の重複
- スペルエラー

### 用語集

- 禁止用語の使用
- 却下用語の使用
- 訳語の不足
- 用語集に訳語がない

## 設定 - セキュリティ

XTM はきわめて安全な環境です。XTM Cloud は、HTTP 経由での安全なコミュニケーションを確実にするために SSL 証明書を使用しています。XTM Suite をインストールする場合もセキュリティの向上だけでなく、サブコントラクト先の異なる XTM インスタンスと接続する際の互換性を保証するためにも、同様に SSL 証明書の使用が推奨されています。

ユーザのニーズに合わせて XTM のセキュリティ機能を設定するオプションがあります。

XTM
プロジェクト   カスタマー   ユーザ   タスク   コンコーダンス   TM   用語集

ユーザ詳細
マイアカウント
データ
設定

<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">システム</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">LQA</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">QA連携</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px; border: 1px dashed #ccc;">セキュリティ</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ファイル</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">プロジェクト</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ポータル</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">メール</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ワークフロー</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">支払い</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">翻訳</div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">翻訳マネージャ</div>	<div style="border: 1px solid #2c3e50; background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>認証</b> <span style="float: right; font-size: 0.8em;">?</span> </div> <p>新規ユーザに対してAPI認証を許可 <input checked="" type="checkbox"/></p> <div style="border: 1px solid #2c3e50; background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>ログイン</b> <span style="float: right; font-size: 0.8em;">?</span> </div> <p>ログイン試行回数の制限 <input style="width: 100%;" type="text" value="0"/></p> <p>休止アカウントを無効化(休止日数を指定) <input style="width: 100%;" type="text" value="0"/></p> <div style="border: 1px solid #2c3e50; background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>コンピュータのアクティベーション</b> <span style="float: right; font-size: 0.8em;">?</span> </div> <p>コンピュータのアクティベーション レベル</p> <p><input checked="" type="radio"/> 全ユーザ</p> <p><input type="radio"/> CFMを除く全ユーザ</p> <p><input type="radio"/> PMのみ</p> <p><input type="radio"/> なし</p> <div style="border: 1px solid #2c3e50; background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>パスワード</b> <span style="float: right; font-size: 0.8em;">?</span> </div> <p>ユーザによるパスワード変更を許可 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>パスワードの有効期限(日数) <input style="width: 100%;" type="text" value="0"/></p> <p>以前に使用されたパスワードをチェック(回数) <input style="width: 100%;" type="text" value="0"/></p> <p>パスワードの最小長(文字数) <input style="width: 100%;" type="text" value="1"/></p> <p>ブルートフォース攻撃を使用 <input type="checkbox"/></p> <p>初回ログイン時にパスワードを強制的に変更 <input type="checkbox"/></p> <p>パスワードの強度</p> <p><input checked="" type="radio"/> 弱</p> <p><input type="radio"/> 中</p> <p><input type="radio"/> 強</p> <div style="border: 1px solid #2c3e50; background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>プライバシー</b> <span style="float: right; font-size: 0.8em;">?</span> </div> <p>TMマッチにユーザ情報を表示 <input type="radio"/> 全ユーザ <input checked="" type="radio"/> PMのみ <input type="radio"/> 対象者なし</p> <p>コメントにユーザ情報を表示 <input type="radio"/> 全ユーザ <input checked="" type="radio"/> PMのみ <input type="radio"/> 対象者なし</p> <p>セグメントのコメント更新を許可 <input type="radio"/> 全ユーザ <input checked="" type="radio"/> 作成者のみ <input type="radio"/> 現在のステップでのみ</p> <p>セグメントフィルターにユーザ情報を表示 <input type="radio"/> 全ユーザ <input checked="" type="radio"/> PMのみ <input type="radio"/> 対象者なし</p> <p>ユーザがロックするセグメントの詳細を表示 <input type="radio"/> 全ユーザ <input checked="" type="radio"/> PMのみ <input type="radio"/> 対象者なし</p> <p>同様にユーザ情報を表示 <input type="radio"/> 全ユーザ <input checked="" type="radio"/> PMのみ <input type="radio"/> 対象者なし</p> <p>表示するユーザ情報 <input checked="" type="radio"/> ユーザ名 <input type="radio"/> ユーザID <input type="radio"/> 姓・名 <input type="radio"/> イニシャル</p> <div style="border: 1px solid #2c3e50; background-color: #2c3e50; color: white; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <b>2段階認証</b> <span style="float: right; font-size: 0.8em;">?</span> </div> <p>2段階認証 <input type="checkbox"/></p>
--	--

保存

[コンフィギュレーション] > [設定] > [セキュリティ] タブ

[セキュリティ]タブでは企業環境での機能性に対するログを制御できます。

機能	概要
ログイン試行回数の制限	指定された回数ログオンに失敗するとアカウントはロックされ、ユーザはシステムにアクセスできなくなります。ロックを解除するには、管理者が[ユーザ]タブにてユーザー一覧の左列にあるメニューアイコンから[アカウントのロック解除]を選択する必要があります。
休止アカウントを無効化	指定された期間中にログインがないユーザのアカウントはロックされます。前述のとおり、管理者がアカウントのロックを解除する必要があります。
コンピュータのアクティベーション レベル	初回ログオン時に PC アクティベート プロセスを実行する必要があるユーザを指定します。このプロセスでは Cookie のダウンロード用メールも自動的に生成されます。
パスワードの有効期間	ユーザ パスワードの有効期間を指定します。この期間後、ユーザはパスワードを変更する必要があります。
以前に使用されたパスワードをチェック	現在のパスワードに使用できない旧パスワードの個数を指定します。
パスワードの最小長	パスワードに必要な文字数を指定します。
ブルートフォース辞書を使用する	<p>パスワードに使用不可能な単語をこの辞書で定義します。デフォルトでは以下の単語とコンポーネントは除外されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザの姓または名</li> <li>• Administrator</li> <li>• Reviewer</li> <li>• User</li> <li>• Admin</li> <li>• Test</li> <li>• Super</li> <li>• qwe</li> <li>• 1111</li> <li>• 111</li> <li>• Password</li> <li>• Translator</li> <li>• XTM</li> <li>• Guest</li> <li>• Sys</li> <li>• Pass</li> </ul>
初回ログイン時にパスワードを強制的に変更	このオプションを有効にするにはチェックボックスを選択します。
パスワードの強度	<p>パスワードに混在させる文字を定義するパスワード強度には 3 つのレベルがあります。文字は 4 つのグループに分かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大文字</li> <li>• 小文字</li> <li>• 数字</li> <li>• 記号</li> </ul> <p>パスワードの強度は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 軽 少なくとも 1 つのグループから複数の文字を使用する必要があります。</li> <li>• 中 少なくとも 2 つのグループから複数の文字を使用する必要があります。</li> <li>• 強 少なくとも 3 つのグループから複数の文字を使用する必要があります。</li> </ul>

## プライバシー

このセクションを使用してセグメントのコメントを更新する、システムのその他ユーザの名前や詳細を隠すなどを定義します。

XTM Editor 上でユーザ情報が表示されるエリアは以下のとおりです。

- セグメントのコメント
- マッチに関する追加情報
- 用語に関する追加情報
- セグメントをロックしているユーザ
- セグメント フィルター

エリアごとに 3 つのオプションがあります。

- 全員がユーザ情報を閲覧可能
- PM のみが情報を閲覧可能
- 全員が情報を閲覧不可能

[表示するユーザ情報]:このオプションによって提示される情報を定義できます。オプションには、[ユーザ名]、[ユーザ ID]、[姓・名]、[イニシャル]があります。

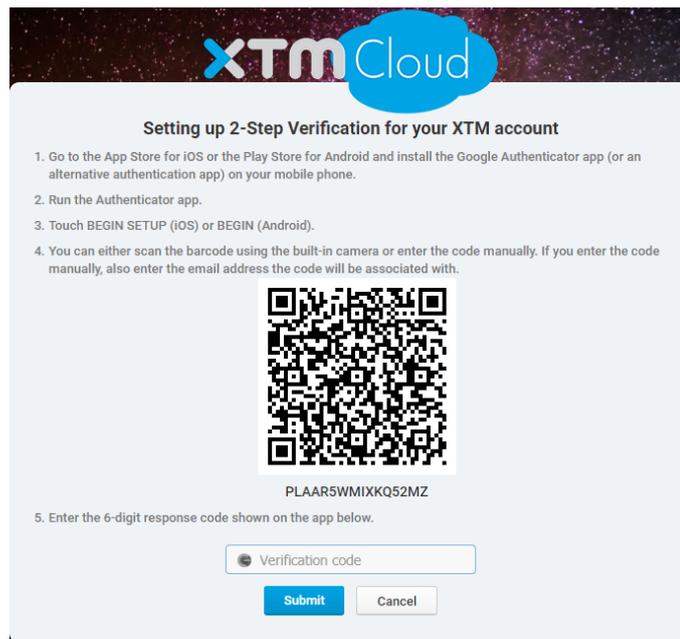
## 2 要素認証

### 2 段階認証

2 段階認証はセキュリティを向上させたログイン方法のオプションです。ログインのプロセスが変更され、パスワードおよび、携帯電話にテキスト、音声、またはモバイルアプリを経由して送られるコードが必要になります。Google 2 段階認証については <https://www.google.com/landing/2step/>を参照してください。

#### お使いのアカウントへ 2 段階認証を設定する

まず、[コンフィギュレーション] > [設定] > [セキュリティ]にて[2 段階認証]を選択します。XTM からログアウトします。XTM への再ログインを試行します。XTM ログイン画面に 2 段階認証設定が表示されます。画面上の手順にしたがいます。



2 段階認証が有効化された後、初めて XTM にログインする

お使いのモバイル機器に認証アプリをインストールするよう求められます。アプリをダウンロードして起動し、設定するための手順にしたがいます。アプリに認証コードが表示されます。[認証]フィールドにコードを入力して[送信]をクリックすると、XTM へログインできます。

次回 XTM へログインする際、ログイン画面には[認証コード]フィールドがその他の認証情報を入力するためのフィールドとともに表示されます。



2 段階認証が有効化されたときに XTM へログインする

### OAuth 2.0 または SAML 2.0 を使用したシングル サインオン (SSO: Single Sign-On)

シングル サインオンのログイン方法では、ユーザが使用を希望するサービスへのログインを試行する前にユーザ ID を確認するサードパーティーの認証サービスを活用されます。XTM へアクセスする前にユーザが認証されることによって、XTM を開く際に認証情報が求められなくなります。

SSO は、Google や Facebook のように OAuth 2.0 を使用して、または Google や Ping Identity のように SAML 2.0 を使用して、数多くのプロバイダーによって設定できます。該当機能はユーザインターフェース上では有効にできません。有効化するには[弊社サポートチーム](#)へ連絡してください。

## 設定 - 翻訳

### ID ベース マッチング

オリジナルのファイルが XML、YAML、プロパティファイル、Microsoft Excel であり、同じファイルのプロセスが繰り返される場合、ID に基づいたマッチングを使用するよう設定できます。この種類のマッチングは、特にコンテキストが関連性を示さないソフトウェアのインターフェース テキストやゲームを翻訳するにはきわめて便利です。レバレッジドマッチがエグザクト ID マッチとして表示されるため、マッチングが向上します。

「ID ベースマッチ」は、テキストの隣に ID が置かれているドキュメントで効果を発揮します。XML ファイルの場合は、ソーステキストの隣に置かれている属性や別のエレメント、パッケージ名やストリングキーのように XML の階層を構成することができる ID を使用可能です。Excel ファイルの場合、セグメント ID は別の列に置かれます。

翻訳メモリにセグメントが保管される際、セグメント ID を伴って保存されます。したがってドキュメントが再処理されると、ID が同じ 100% マッチは ICE マッチとして取り扱われます。このように、ICE マッチの判別にはストリングのコンテキストは使用されません。

ID ベースマッチに対する XTM のコンフィギュレーションはワンタイム プロセスです。ファイルタイプ、カスタマー、XML ファイルのルート要素名に応じた ID ベースマッチのコンフィギュレーション作成は、弊社にご依頼ください。ID ベースマッチの使用をご希望の場合、ID をハイライトしたサンプルファイルを [support@xtm-intl.com](mailto:support@xtm-intl.com) へ送信してください。

## 翻訳 - TM

ユーザ詳細   マイアカウント   データ   **設定**

システム   LQA   QA機能   セキュリティ   ファイル   プロジェクト   ポータル   メール   ワークフロー   支払い   **翻訳**   解析マネージャ

TM   ワークフローとアクセス   メトリクス   機械翻訳   用語集   セグメントフィルター

**マッチー全般**

	許可	デフォルト設定
TMセグメントの履歴を保存	<input checked="" type="checkbox"/>	
インラインが相違する場合は[あいまいマッチ]に設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
未承認メモリを使用	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
逆方向メモリマッチング	<input checked="" type="checkbox"/>	
全言語バリエーションに対するマッチング	<input checked="" type="checkbox"/>	
TM言語バリエーション ペナルティ プロファイル	<input checked="" type="checkbox"/>	synonym
言語バリエーションマッチが挿入されたセグメントをハイライト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
セグメントを[ロック済み]に設定(次の場合)	<input checked="" type="checkbox"/>	選択...
プロジェクトセグメント(ソーステキスト)が同一の場合、既存のTMレコードを修正	<input type="checkbox"/> ソース <input type="checkbox"/> インライン <input type="checkbox"/> コンテキスト <input type="checkbox"/> タグ	
翻訳不要のマッチング	<input checked="" type="radio"/> 翻訳不要として残す <input type="radio"/> TMとマッチング	

**ICEマッチ**

マッチをターゲットに挿入    インラインが同じ場合のみ

表示するマッチ数   3

	許可	デフォルト設定
ICEマッチセグメントの編集を許可	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
未承認TMからの[ICEマッチ]を[済み]に設定	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 全ステップ <input type="radio"/> 最初のステップのみ <input type="radio"/> 最終ステップを除くすべて

[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [TM]タブ

## マッチ - 全般オプション

- [逆方向メモリマッチング]: このオプションを選択した場合、保管された翻訳メモリの言語を逆方向にして使用できます。たとえば英語からフランス語へと設定されたプロジェクトでは、まず英仏 TM のマッチングが実行され、そして仏英 TM のマッチングが実行されます。逆方向メモリマッチングは、任意のセグメントに対するマッチが標準 TM 内で検出されない際に行われます。

XTM では、翻訳メモリはデータベースにソース言語とターゲット言語のペアとして保存されます。ターゲット言語ごとにテーブルがあり、ソース言語に関わらず、該当するターゲット言語のセグメントすべてが保存されます。

逆マッチングのプロセスでは:

- まずプロジェクトのターゲット言語を基に標準テーブルが検索され、ソーステキストのマッチングが実行されます。
- いずれかのマッチが検出されると訳例として使用され、逆マッチングは実行されません。
- ソーステキストのマッチが見つからない場合、プロジェクトのソース言語を基に TM テーブルを検索して逆マッチが検索されます。
- マッチが見つかると適正なランゲージペアに対するマッチとして使用されます。

逆マッチングにより、ICE マッチ、レバレッジドマッチ、あいまいマッチが返されます。しかしながらワークフローの最後では、ICE マッチに使用されるマッチのコンテキストは TM に保存されるのみであることに注意してください。つまり旧プロジェクトが完了している場合のみ、ICE マッチを取得できます。現在、逆マッチングはシステム全体に対して有効または無効にされるため、すべてのプロジェクトに適用するかしないかを選択できます。

- [TM セグメントの履歴を保存]: このオプションを選択した場合、TM セグメントの履歴すべてが保存されます。TM マネージャでセグメント右側の情報アイコン  をクリックするとポップアップが表示されます。ポップアップ内の時計アイコン  をクリックすると履歴が表示されます。
- [インラインが相違する場合は[あいまいマッチ]に設定]: インライン要素のみが相違するマッチに対して 100%・ICE マッチとみなすか、99%のあいまいマッチとしてマークするかをこのオプションで定義します。

- [未承認メモリを使用]: 翻訳者がターゲットテキストを変更して次のセグメントへ移動すると、XTM ではただちに翻訳メモリが作成され、保管されます。まず[未承認]として保管されますが、ジョブの完了時には[承認済み]に変更されます。このオプションによって[承認済み]または[未承認]の翻訳メモリを使用するかどうかを選択できます。
- [全言語バリエーションに対するマッチング]: このオプションによってマッチングにすべての言語バリエーションを使用するか選択できます。たとえば、en-GB[英語(英国)]から sp-SP[スペイン語(スペイン)]に翻訳されている際にこのオプションが選択されている場合、まず en-GB → sp-SP の TM が検索され、続いて英語のバリエーションすべて(en-US[英語(米国)]、en-AU[英語(オーストラリア)]など)とスペイン語のバリエーション(sp-MX[スペイン語(メキシコ)]、sp-CL[スペイン語(コロンビア)]など)の TM が検索されます。このオプションに対して[許可]を選択すると、対象とする言語が表示されて指定できるようになります。対象言語には、アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語が含まれます。
- [TM 言語バリエーション ペナルティ プロファイル]: [言語バリエーションマッチ]に使用するペナルティ プロファイルを指定できます。以下の条件に見合うときのみ、このオプションは機能します。
  - [全言語バリエーションに対するマッチング]オプションが選択されている
  - [コンフィギュレーション] > [データ] > [タグ] > [ペナルティプロファイル]にて、[フィールド]に [バリエーションのマッチタイプである]オプションが選択された[TM ペナルティプロファイル]が 1 つ以上ある
  - マッチはターゲット言語の異なるバリエーションの翻訳メモリからきている
- [言語バリエーションマッチが挿入されたセグメントをハイライト]: [全言語バリエーションに対するマッチング]が選択された場合、言語バリエーションマッチがターゲットセルに取り込まれると、[セグメント番号]フィールドがオレンジ色で表示されます。

4

XTM Project Manager

#### 言語バリエーションマッチが挿入されたセグメントをハイライト

- [セグメントを[ロック済み]に設定(次の場合)]: 特定の種類のセグメントをロックするため、以下のオプションを選択できます。
  - [マッチタイプが承認済みまたは未承認の[ICE]か[レバレッジド]である]: 翻訳メモリのステータスが[承認済み]か[未承認]かに関わらず、[ICE マッチ]および[レバレッジドマッチ]が挿入されたセグメントはロックされます。
  - [マッチタイプ=承認済みの[ICE]と[レバレッジド]]: 翻訳メモリのステータスが[承認済み]の [ICE マッチ]および[レバレッジドマッチ]が挿入されたセグメントのみはロックされます。
  - [Xliff.doc ステータス=>=翻訳済み]: Xliff.doc ステータスが[翻訳済み]、[校正済み]、[検証済み]のセグメントはロックされます。
  - [Xliff.doc ステータス=>=校正済み]: Xliff.doc ステータスが[校正済み]および[検証済み]のセグメントはロックされます。
  - [Xliff.doc ステータス=検証済み]: Xliff.doc ステータスが[検証済み]のセグメントのみはロックされます。
- [翻訳不要のマッチング]: 翻訳不要のセグメントには数字のみのテキスト、アルファベットと数字のみ、または句読点のみが含まれます。このオプションによって、翻訳不要のテキストをそのまま保持するか、翻訳メモリ内で検索するかを選択できます。
- [既存 TM の修正]: デフォルトでは、提示された訳例をいかに変更した場合は、新しい TM レコードが作成されます。このオプションによって翻訳メモリの重複を管理できます。したがって、ソーステキストやインライン、コンテキスト、タグが同一の場合、TM レコードが更新されます。

TM 内では以下の例のように重複が取り扱われます。

プロジェクト①で翻訳を終え、同じファイルを対象にプロジェクト②を作成したとします。プロジェクト②には文脈もテキストも同一の文章がありますが、異なる翻訳を挿入します。デフォルトでは新しい TM エントリが作成され、プロジェクト②のタグなどのデータも含まれます。

しかし翻訳者がターゲットテキストを変更せずに単に受け入れたのみの場合、翻訳メモリの更新が強制的に実行されます。緑色の ICE マッチがなく、未承認メモリとしてオレンジ色に設定されている場合、このような状況となります。この場合、既存 TM の日付が更新され、新規タグのすべてが既存メモリに追加され確定されます。

相違するタグを伴うメモリがインポートされる場合、タグの確定も発生します。たとえば TM ファイル①には{タグ 1}があり、TM ファイル②には{タグ 2}があるとします。両方のファイルをインポートした後、すべての類似セグメントには両方のタグが含まれます。

既存 TM とプロジェクト②の翻訳が相違する場合の取り扱い方法を、[コンフィギュレーション]セクションで定義できます。TM エントリが作成された、または旧レコードが上書きされた場合、制御が可能です。つまり TM には翻訳が 1 つあるのみで、ソーステキストおよび同様のコンテキストに対して重複はもたらされません。

重複する TM エントリの取り扱いの例は、以下を参照してください。

#### 例 1

ソースファイル:

- ① sentence.
- ② {1}sentence{1}. (文章全体が太字)
- ③ sentence.

②は「Drugie {1}zdanie{1}」と訳されました。このとき、ほかの訳は重要ではありません。

重複 TM に対する設定:

ソース、コンテキスト、インラインが同じ場合は既存 TM を修正する。  
プロジェクト②で翻訳②を変更した場合、既訳は上書きされます。

#### 例 2

設定を変更して厳密性を低下させます。

ソーステキスト、インラインが同じ場合、既存 TM を修正する。

ソースファイル:

- ② {1}sentence{1}.
- ③ sentence.

文章①は削除され、このファイルを使用してプロジェクト③が作成されます。

最新のプロジェクトで変更が生じると上書きされ、TM のコンテキストが変更されるのみです。ファイル①を使用して別のプロジェクトを作成した場合、ICE マッチはまったく見つからなくなるという深刻な状況がもたらされます。このオプションを使用する場合は注意が必要です。

#### 例 3

インラインに関連する場合、さらに注意が必要です。

文章②が太字ではないデータを対象に、プロジェクト④を作成します。

- ② sentence. (太字なし)

ICE マッチを編集する際、データベース内の唯一の訳を変更することになります。

ファイル①(インラインあり)に対してインラインなしのマッチは類似率が低くなるという危険を伴います。

## 重複に対するタグの設定

新プロジェクトと同様にすべてのタグが旧プロジェクトに含まれている(またはタググループがまったく含まれていない)場合、翻訳は重複として取り扱われます。

### 例 4

プロジェクト①にはタグ TM\_Status: Working があります。  
プロジェクト②にはタグ TM\_Status: Working があります。

これらは明らかに重複です。

### 例 5

プロジェクト①にはタグ TM\_Status: Working, Golden があります。  
プロジェクト②にはタグ TM\_Status: Working があります。

これらも重複です。

### 例 6

プロジェクト①にはタグ TM\_Status: Working があります。  
プロジェクト②にはタグ TM\_Status: Working, Golden があります。

これらは重複ではありません。プロジェクト②を変更する際、新しいセグメントが作成されます。

### 例 7

プロジェクト①にはタグ TM\_Status: Working があります。  
プロジェクト②にはタグ TM\_Status: Working; Year: 2014 があります。

プロジェクト①でタググループが定義されていない場合、プロジェクト②ではタグは無視されます。つまり、この場合は TM Status:タグのみが使用されます。

## 完全一致タグのオプション

上記の例を簡潔にするタグのさらなるオプションがあります。[同一タグのみ]と呼ばれています。

Modify the existing TM record if the project  Source  Inlines  Context  Tags  Only if exact tags

このオプションが選択された場合、プロジェクト①と②ですべてのタググループが完全に一致する場合のみ TM が更新されます。

- マッチタイプ([承認ステータス]および[XLIFF:doc ステータス])によって XTM Editor でセグメントをロックできるとき、セグメントを[ロック済み]としてマークします。2つの標準オプションがあります。
  - マッチタイプ=承認済みまたは未承認の[ICE]・[レバレッジ]
  - マッチタイプ=承認済みの[ICE]・[レバレッジ]

[コンフィギュレーション] > [設定] > [システム]で[TIPP を有効化]オプションが選択されていると、さらに3つのオプションがあります。

- XLIFF:doc ステータス>=翻訳済み
- XLIFF:doc ステータス>=校正済み
- XLIFF:doc ステータス>=検証済み

この方法でセグメントがロックされている場合、セグメントはグレーアウトされ、ステータス列には鍵アイコン  が表示されます。この状態ではターゲットテキストをクリックしてもセルはアクティブになりません。セグメントをアンロックするには鍵アイコンをクリックします。

### ICE マッチに関するオプション

- [マッチをターゲットに挿入]によって ICE マッチを自動的に挿入するか定義できます。2 つのオプションがあります。
  - インラインが同じ場合のみ
  - 実行しない
- [表示するマッチ数]: ボックスに表示させるマッチ数を選択します。
- [[ICE マッチセグメントの編集を許可]: コンテキストも一致する ICE マッチは翻訳やレビューにおいても編集は不要ですが、このオプションを選択すれば編集できるようになります。
- [未承認 TM の ICE マッチを[済み]にマークする]: このオプションによって、ワークフローのいずれかのステップにおいて該当マッチのセグメントステータスを自動的に[済み]にマークします。

### レバレッジドマッチに関するオプション

- [ICE マッチがない場合にのみ検索]: デフォルトでは ICE マッチがあるときはレバレッジドマッチを検索しません。このチェックボックスを非選択にすると動作が変わります。
- [レバレッジドマッチを表示]: 翻訳者へ提示するレバレッジドマッチについて 5 つのオプションがあります。
  - はい
  - 承認ステータス>=[ICE]
  - XLIFF:doc ステータス>=[ICE]か[レバレッジド]
  - XTM・XLIFF:doc ステータス>=[ICE]か[レバレッジド]
  - いいえ
- [マッチをターゲットに挿入]: レバレッジドマッチをターゲットに自動的に挿入する場合、3 つのオプションがあります。
  - 常に、インラインの違いを修正
  - インラインが同じ場合のみ
  - 実行しない
- [表示するマッチ数]: ボックスに表示させるマッチ数を選択します。
- [[済み]として自動的に設定される場合、レバレッジドマッチのコンテキストを TM に保存]: このオプションを選択した場合、100%レバレッジドマッチは自動的に[済み]にマークされ、コンテキスト情報を伴って保存されます。結果として将来のプロジェクトでは ICE マッチが増えます。
- [承認済み TM のレバレッジドマッチを[済み]にマークする]: このオプションによって、ワークフローのいずれかのステップにおいて、該当マッチのセグメントステータスを自動的に[済み]にマークします。相違するインラインを含む 100%レバレッジドマッチは[済み]としてマークされず、オレンジ色のまま残ることに注意してください。
- [未承認 TM からのレバレッジドマッチを[済み]にマークする]: 上記と同様ですが、まだ承認されていない TM に関連します。

### あいまいマッチのオプション

- [次のマッチが検出された場合も[あいまいマッチ]を検索]: デフォルトでは ICE マッチやレバレッジドマッチがある場合、あいまいマッチは検索されません。オプションの[[ICE]か[レバレッジド]]のチェックボックスを選択すると動作を変更できます。

- [表示]: あいまいマッチのレベルごとに、翻訳者へ提示するマッチについて 5 つのオプションがあります。
  - はい
  - 承認ステータス>=[ICE]か[レバレッジド]
  - XLIFF:doc ステータス>=[ICE]か[レバレッジド]
  - XTM·XLIFF:doc ステータス>=[ICE]か[レバレッジド]
  - いいえ
- [ターゲットに挿入]: あいまいマッチをターゲットに自動的に挿入する場合、3 つのオプションがあります。
  - 常に、インラインの違いを修正
  - インラインが同じ場合のみ
  - 実行しない
- [表示するマッチ数]: ボックスに表示させるマッチ数を選択します。
- [セグメントに異なる数字が 1 つある場合は数字を置き換え、[あいまいマッチ]から[レバレッジド]に格上げを試みる]: TM と該当セグメントの相違が 1 つの数字のみの場合、正しい数字で置き換えてレバレッジドマッチとします。

#### リピート

- [リピートセグメントの非表示を許可]: このオプションが選択された場合、プロジェクト作成時に[リピートセグメントを隠す]オプションが表示されます。このオプションによってリピートセグメントの初出のみを翻訳をすることができ、重複するセグメントはバックグラウンドで処理されます。プロジェクト作成時にはリピート割合の値を指定します。翻訳対象ファイル内でこの値を超過するとリピートセグメントを隠す機能が実行されます。

#### あいまいリピートに関するオプション

- [次のマッチが検出された場合も[あいまいリピート]を検索]: デフォルトでは ICE マッチやレバレッジドマッチがある場合、あいまいリピートは検索されません。オプションの[ICE]および/または[レバレッジド]のチェックボックスを選択すると、動作を変更できます。
- [表示]: マッチレベルごとに[あいまいリピート]を表示するかどうかを決定します。
- [ターゲットに挿入]: あいまいリピートのレベルごとに[あいまいリピート]をターゲットに自動的に挿入するかどうかを決定するオプションが 3 つあります。
  - 常に、インラインの違いを修正
  - インラインが同じ場合のみ
  - 実行しない
- [表示するマッチ数]: 表示させるリピート数をリストから選択します。

#### セグメント ステータス

- [チェッカーが変更していない場合、後続のステップでセグメントを[済み]にマーク]: このオプションが選択されていて、チェッカー1 がセグメントを変更せずに緑色にマークした場合、後続のステップはすべて[済み]にマークされます。該当セグメントがチェッカーにより緑色にマークされない、またはターゲットテキストが変更された場合、後続のステップはすべて[要処理]としてマークされます。
- [チェッカーが変更していない場合、後続のステップでセグメントを[済み]としてマーク]: このオプションはチェッカーに続くリングリストのワークロードを軽減するために使用できます。チェッカーによって変更されたセグメントのみに対して作業する必要があります。
- [[翻訳不要]を[済み]としてマーク]: まずこのオプションをインターフェース上に表示させるかどうかと、デフォルト値を選択します。[翻訳不要]を[済み]とし、これらのセグメントを自動的に緑色にして、リングリストの確認を不要にします。そして 3 つのオプションがあります。

- 1) すべてのステップを[済み]にマークする
- 2) 最初のステップのみ
- 3) 最後のステップを除くすべて

レビュアーまたはチェッカーがすべてのセグメントをチェックする場合、オプション②か③を選択します。

## 翻訳 - ワークフローとアクセス

The screenshot shows the XTM user interface. At the top, there's a navigation bar with 'XTM' logo and menu items: 'プロジェクト', 'カスタマー', 'ユーザ', 'タスク', 'コンコーダンス', 'TM', '用語集'. Below that, a sub-navigation bar includes 'ユーザ詳細', 'マイアカウント', 'データ', and '設定' (highlighted). The main content area is titled 'ワークフローとアクセス' and contains several sections:

- Linguist metadata access:** A table with settings for 'プロジェクト概要へアクセス', 'Access to reference ID', 'Access to custom fields', 'Define Linguist custom fields access', and 'Define LSP custom fields access'. Each has a dropdown menu.
- リンギストのオプション:** A section with various checkboxes and dropdowns for permissions like 'Show Customer name on LSP account', 'TMXのダウンロード', 'XTM Editorで開くプロジェクトのファイル', and 'リンギストにダウンロードを許可'. It includes a grid of checkboxes for file types like 'ターゲット', 'Excel', 'HTML', 'XLF', etc.
- リンギストのワークフローオプション:** A section with a dropdown for 'XTM Editorでタスクを完了または却下'.

[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [ワークフローとアクセス] タブ

### リンギストによるメタデータへのアクセス

リンギストや LSP に対してプロジェクトの[概要]、[参照 ID]、カスタム フィールドへアクセスを許可するか指定できます。

### リンギストの一般に関するオプション

- [リンギストにダウンロードを許可]: このオプションによって、ユーザによるダウンロードやオフラインでの作業、完了ファイルのアップロードを許可または防止できます。これには、ソース、ターゲット、PDF、HTML、TMX、TIPP、XLIFF、XTM Excel Editor、Excel 拡張テーブル、代替翻訳、レビュー PDF、Unclean doc が含まれます。
- [リンギストにアップロードを許可]: 上に同じ
- [全グループタスクを単独のリンギストにアサイン]: このオプションによって任意のリンギストにアサインするグループタスクを制御します。4 つのオプションがあります。
  - 選択したタスクのみ
  - 可能な全ステップのうち選択したタスクのみ
  - 選択したステップで利用可能な全タスク
  - 全ステップで利用可能な全タスク

- [XTM Editor で開くプロジェクトのファイル]: 同じターゲット言語に対して作業する翻訳者が複数いる場合、このオプションを使用してファイルへのアクセスを制御します。
- [TM メタデータとコンコーダンスへアクセス]: このオプションによって[コンコーダンス]タブヘリングストがアクセスできるかを定義します。翻訳者は[コンコーダンス]タブで翻訳メモリを対象にフレーズを検索し、コンコーダンス マッチを検出できます。リングストにこのアクセスを許可する場合、ユーザに対して表示されるコンコーダンスと TM メタデータ内の潜在的な機密データをどのように提示するかを定義できます。
- LSP アカウントでカスタマー名を表示。LSP に対してカスタマーの名前かニックネームを表示させるか、または表示させないかを指定できます。
- [用語集アクセスレベル]: 用語集のメタデータ内のカスタマー詳細を翻訳者が閲覧可能とするかどうかをこのオプションで定義します。
- [TMX のダウンロード]: 5 つのオプションがあります。
  - 翻訳済みセグメントおよびファイル全体からのマッチすべて
  - ファイル全体からアサインされた翻訳済みセグメント
  - 翻訳済みセグメントおよびユーザにアサインされたマッチすべて
  - ユーザにアサインされた翻訳済みセグメント
  - ユーザによって修正された翻訳済みセグメントのみ

#### リングストのワークフローに関するオプション

- [XTM Editor でタスクを完了または却下]: この機能によってリングストは[タスク]タブに移動することなく、XTM Editor 内でアイコンをクリックすることによってタスクを完了または却下できます。4 つのオプションがあります。
  - 許可しない
  - 完了のみ
  - 手動で完了または却下
  - セグメント ステータスに応じて自動的に完了または却下

担当しているワークフローのステップで手動オプションを選択した場合、XTM Editor 上に双方向の矢印が表示されます。赤色の矢印  をクリックするとタスクを却下してワークフロー上の前のステップに戻し、緑色の矢印  をクリックするとタスクを完了してワークフロー上の次のステップへ自動的に移動します。

自動オプションを選択した場合、セグメントステータスによって XTM Editor 上の矢印アイコンは赤/緑アイコン  に変更されます。このアイコンをクリックするとセグメントは青色の[要却下]ステータスとなり、ワークフロー上の前のステップに戻されます。もしくは、このアイコンをクリックすると、ワークフロー上の次のステップのタスクへ移動します。

- [リングストがステップを完了したときのメッセージ]: ここにメッセージを入力すると、各ステップの終了時に次のタスクへの移動する前に確認するようリングストに求められます。
- [リングストが最終ステップを完了するときのメッセージ]: ここにメッセージを入力すると、ワークフローの最終ステップの末尾において、完了前に確認するようリングストに求められます。
- [リングストがいずれかのステップを完了するときに一貫性をチェック]: このオプションによって翻訳の一貫性がチェックされ、リングストがタスクを完了する前に認識する必要があるとのカスタムメッセージが表示されます。タスクがサブコントラクトされた場合、サブコントラクトのシステム設定は考慮されないため、このオプションの動作はメインシステムの設定により制御されます。以下のチェックを有効にできます。
  - あいまいマッチを使用した編集されていない
  - 同じソーステキストに対する異なる翻訳
  - 異なるソーステキストに対する同じ翻訳

- 無効なインラインタグ
- 不完全なセグメント。赤色またはオレンジ色のセグメントがタスクにある場合、警告カスタムメッセージが表示されます。

### テキスト書式

ソース文書とターゲット文書のテキスト書式は、XTM Editor 上では{1}のような波括弧で囲まれた数字で表現されます。このセクションで[テキスト書式を許可]を選択すると、ターゲットテキストに書式を追加できます。この機能が無効の場合、波括弧で囲まれた数字はソーステキストとターゲットテキストで等しく保持される必要があります。この機能は、たとえば、任意のストリングがソース言語では連続していないのにターゲット言語では連続している場合に便利です。このテキスト書式の追加はファイル形式が限定されていることに留意してください。

システム コンフィギュレーションとしてテキスト書式が有効に選択されると、該当オプションはカスタマー設定でも選択できるようになります。カスタマーごとに[テキスト書式]を設定できます。

[システムデフォルト]チェックボックスを選択すると、下部のボックスに表示されるファイル形式に対して、XTM インスタンスのデフォルトとして[テキスト書式]が選択されたこととなります。

テキスト書式を追加する対象となるファイル形式はボックス内で非/選択できます。

システム コンフィギュレーションまたは特定の顧客設定として[テキスト書式]オプションが選択された後に作成されたプロジェクトのみを対象として、XTM Editor 上でテキスト書式機能を利用できます。テキスト書式を選択して作成されたプロジェクトでは、XLIFF、Excel Editor、TIPP を含むオフライン翻訳用のファイルやパッケージを生成できなくなることに留意してください。テキスト書式を伴うプロジェクトに対して XLIFF の生成やインポートを可能にするには support@xtm-intl.com へ連絡してください。

### 翻訳 - メトリクス

文字を基準としてメトリクスを算出する言語について、係数によって文字数を割ることで「単語数」のメトリクスを算出します。したがってセグメント上の単語数を示すために最も近い整数に四捨五入され、セグメントごとの単語数が合算されてドキュメント内の合計単語数が算出されます。

デフォルトでは以下の値が使用されます：韓国語 3.3、中国語(繁体字) 2.8、日本語 3、タイ語 6、中国語(香港) 2.8、中国語(簡体字) 2.8。係数は希望に応じて変更できます。

言語	文字/単語
タイ語	6
中国語(簡体字)	2.8
中国語(繁体字)	2.8
中国語(香港)	2.8
日本語	3
韓国語	3.3

[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [メトリクス]タブ

## 翻訳 - 機械翻訳

機械翻訳エンジンを XTM と連携させるには、この[機械翻訳]タブで設定できます。選択されたセグメントは MT エンジンへ送られて MT マッチが翻訳者に提示される、またはポスト エディティング用に挿入されます。

使用する MT エンジンを選択し、表示されるフィールドに詳細を入力します。エンジンの概要については以下を参照してください。

TM マッチのないセグメントすべては MT マッチング用に送信されます。TM マッチのバリエーションを探すためにセグメントを送信することも可能です。送信するマッチタイプを選択します。

インライン要素を考慮して MT マッチをターゲットセグメントに挿入するためのオプションもあります。

[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [機械翻訳]タブ

**[Google Machine translation]:** デフォルトではオフにされています。これは、お使いのデータのセキュリティと機密性を確実にするためです。XTM サーバではデータは安全に保存されていますが、Google Machine translation でプロセスされるために送信される際、弊社は機密性を保証できかねます。機密性を伴う情報の作業ではない場合のみ、このオプションを選択することを推奨します。

Google 機械翻訳へテキストを送信するのは、プロジェクト解析中か、XTM Editor での作業中か、両方かを指定できます。

Google Translate API v2 は有償のサービスであり、お使いの XTM サブスクリプションではカバーされていません。したがって、このオプションを使用する場合、API キーを生成して Google 社に支払う必要があります。

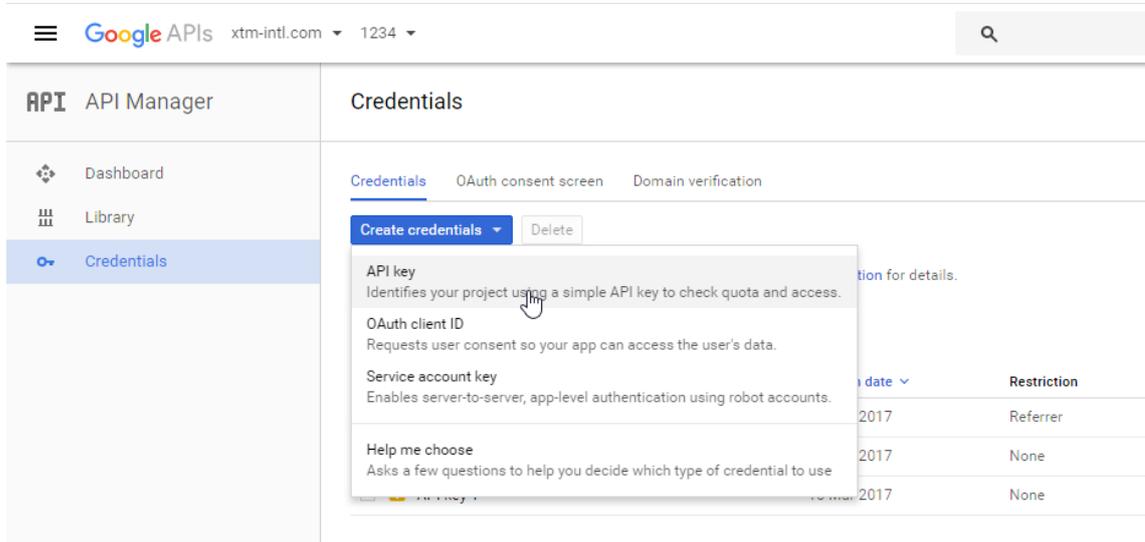
以下を実行します。

- <https://code.google.com/apis/console> に移動します。
- お使いの Google アカウントへサインインします。
- アカウントをお持ちでない場合、<https://console.developers.google.com/iam-admin/projects> に移動してプロジェクトを作成します。
- <https://console.developers.google.com/apis/api/translate.googleapis.com/overview> に移動して [ENABLE] をクリックします。

- <https://console.developers.google.com/apis/credentials> に移動して[Create credentials]ボタンをクリックし、[API key]を選択します。
- [Restrict key]をクリックして[Key restriction]の下で[HTTP referrers (websites)]を選択し、入力フィールドに<https://www.xtm-cloud.com/>を貼り付けて[Save]ボタンをクリックします。
- <https://console.developers.google.com/billing> に移動して請求先情報を入力します。
- キーをコピーして XTM の[キー]フィールドに貼り付けます。

Google Machine translation を使用する費用については

<http://code.google.com/apis/language/translate/v2/pricing.html> を参照してください。Google の文字カウントはソース言語を基準とし、スペースも含まれます。



[Credentials] > [Create credentials] > [API key]

**[Omniscien Language Studio]:** <https://omniscien.com/> XTM は Language Studio API を使用して Language Studio translation および training と連携します。Language Studio を XTM に設定する前に Omniscien でアカウントを作成する必要があります。Omniscien から提供される情報を使用して[コンフィギュレーション]セクションのフィールドに入力してください。そしてカスタマーごと、または新規プロジェクトの作成時に Language Studio を使用するよう設定できます。Language Studio プロジェクトおよび Domain に対して Language Studio をオンに切り替える、デフォルト設定を変更するなど実行できます。

連携は次のように機能します。新しいプロジェクトを作成する際、XTM ではソースファイルが解析され、お客様の TM を対象にセグメントごとにマッチングが実行されます。TM マッチが見つからなかったセグメントは XLIFF として Language Studio に送られ、マッチングが実行されます。このプロセスには多少の時間を要するため、プロジェクト作成に要する時間が長いと感じることがあるかもしれません。プロセスが完了すると MT マッチングが実行された XLIFF が XTM に戻され、ファイルは XTM Editor で翻訳作業に使用できます。

**[Tayou]:** tayou <language technology>は、分野に特化した機械翻訳ソリューションを LSP に提供しています。顧客ごとのプライベート翻訳メモリと追加のパブリック ドメインデータによって、翻訳グロッサリと禁止語リストを含むクライアント専用のシステムを tayou は製作します。tayou は 30 以上の言語(および、それらのコンビネーション)における経験を有しています。

詳細やアカウント設定については [info@tayou.com](mailto:info@tayou.com) 宛にメールを送信してください。

## SmartMATE

Capita TI により提供されています。詳細は <https://www.smartmate.co/>を参照してください。

## Microsoft translator

Microsoft Translator では、指定された言語へのテキストの自動翻訳(機械翻訳)がもたらされます。最新鋭の統計的機械翻訳システムで、サポート言語のいずれのコンビネーションにも対応し、日々、きわめて多数の翻訳を供給しています。詳細は <https://www.microsoft.com/en-us/translator/default.aspx> を参照してください。

Microsoft Translator へアクセスするには、いくつかのレベルがあります。

### 1. Collaborative Translation Framework を使用

[Collaborative Translation Framework を使用]を選択した場合、Microsoft Translator を無料で使うことができ、クライアント ID やクライアント シークレットは不要です。XTM の認証情報を使用し、[マッチなし]または[あいまいマッチあり]のソースセグメントが翻訳のために XTM Editor から送信されます。翻訳者に対してマッチが提示され、必要に応じて編集できます。ターゲットセグメントへ翻訳を挿入した後、Microsoft Translator によってマッチングされたターゲットセグメントは Microsoft へ返され、他の Microsoft Translator ユーザが使用できるようになります。

### 2. [Collaborative Translation Framework を使用]を選択しない場合、Microsoft Translator API を使用するためのアクセス トークンを取得する必要があります。このトークンによって Microsoft Translator への安全なアクセスがもたらされ、Azure Marketplace でお使いのアカウントを使用する Microsoft Translator サービスへのリクエストに関連付けられます。この使用レベルでは一般的な分野であり、お客様の翻訳は Microsoft へは返送されず、一般公開はされません。

Microsoft 社はアクセス トークンを安全に、繰り返して、簡単に取得するメソッドを提供しています。アクセス トークンを取得するには以下のステップを実行します。

- Azure Marketplace で Microsoft Translator API をサブスクライブする
- Azure DataMarket にお使いのアプリケーションを登録します。

### Microsoft Azure を使用して Microsoft Translator API をサブスクライブする

ひと月に 200 万文字までのベーシック サブスクリプションは無償です。ひと月に 200 万文字位上を翻訳する場合、有償となります。詳細は <https://azure.microsoft.com/en-us/services/cognitive-services/translator-text-api/>を参照してください。

### 3. Microsoft Translator HUB

Microsoft Translator HUB によって特定のキーに対するプライベート メモリが作成されます。このメモリは共有されず、オンラインで公開されません。ドメイン専用 TM としてこのメモリを学習させることができます。

Microsoft Hub では、お客様独自の TM を使用してカスタム MT エンジンを作成できます。Windows Azure 用にビルドされた Microsoft Translator Hub は [Microsoft Translator](#) プラットフォームとサービスの拡張機能です。詳細は <https://hub.microsofttranslator.com/SignIn?returnURL=%2FHome%2FIndex> を参照してください。

## Amazon Translate

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <https://aws.amazon.com/translate/>を参照してください。

## KantanMT

- [デフォルト設定]: 新しいカスタマーおよびプロジェクトに KantanMT を使用するかどうかのデフォルト設定。
- [API URL]: KantanMT サーバのエンドポイント。デフォルト値は <http://www.kantanmt.com/api> です。
- [トークン]: Kantan MT より提供される KantanMT API のパスワード。翻訳中に KantanMT サーバへ送られる値。翻訳者へは送られません。

MT 翻訳プロセスには時間を要することにも留意する必要があります。KantanMT を使用する場合、解析プロセスには通常よりも長時間を要することがあります。

## CrossLang

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <http://www.crosslang.com/en/machine-translation/services> を参照してください。

## Amplexor

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <https://www.amplexor.com/en/our-solutions/globalcontent-language-solutions/translation-management-technology/machine-translation.html> を参照してください。

## Lingo24

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <http://www.lingo24.com/services/machine-translation/> を参照してください。

## Oneliner

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <http://oneliner.be/index.html> を参照してください。

## Lionbridge GeoFluent

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <https://www.lionbridge.com/en-gb/geofluent> を参照してください。

## SYSTRAN Pure Neural™

本機械翻訳エンジンに関する詳細は <http://www.systransoft.com/systran/translation-technology/pure-neural-machine-translation/> を参照してください。

## 翻訳 - 用語集

[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [用語集] タブでは、すべてのユーザに対する基本的なオプションを選択できます。

### 用語集のオプション

- [全用語バリエーションをハイライト]: このオプションによって XTM に保管されている用語のみをハイライトするか、XTM Editor 上で用語のバリエーションすべてをハイライトするためにステミングするかを決定します。
- [用語抽出を実行]: このオプションを選択した場合、ファイル解析において追加のステップとして用語集の候補リストが抽出されます。候補用語は Excel シートとして、プロジェクト一覧のコンテキストメニューの[ダウンロード]オプションからダウンロードできます。
- [承認済み用語のみを使用]: このオプションを使用して[承認済み]ステータスを有する用語のみを使用します。
- [用語ハイライトを無効化]: このオプションを選択した場合、XTM Editor 上のソース言語で検出される用語を強調表示させるかどうかを、プロジェクト作成時に全ユーザが選択できるようになります。このオプションを選択したとしても、ワードを選択してコンテキストメニューから用語集へ追加することは依然として実行できます。

- [翻訳がない用語をハイライト]:このオプションを非選択にすると、該当言語の翻訳がない用語はハイライトされません。この機能が有効にされると特定の言語の訳語がない場合も、すべての言語で用語がハイライトされます。

### 用語集エンジン

『XTM Terminology』に記載されているとおり、XTM にはきわめて包括的な用語集モジュールが搭載されています。



[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [用語集] タブ

XTM には Interverbium Technology の TermWeb を完全に連携させることもできます。このオプションが有効にされた場合、XTM Terminology モジュールの機能性すべてが TermWeb に取って代わられます。XTM 内で TermWeb をセットアップするには TermWeb アカウントが別途に必要であり、[会社名]、[ユーザ名]、[パスワード]、[リンク]を入力する必要があります。TermWeb アカウントに関する詳細は Interverbium Technology ([www.interverbiumtech.com](http://www.interverbiumtech.com)) へお問い合わせください。

### 翻訳 - セグメント フィルター



[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [セグメントフィルター]

[セグメントフィルター]タブでは、ユーザの使用を許可するフィルターとフィルター プロファイルを管理者として設定できます。デフォルトではすべてのフィルターとプロファイルが有効にされています。表示させないフィルターまたはプロファイルは非選択して[保存]をクリックします。

### フィルター プロファイル

2つ以上のセグメント フィルターをAND/OR 演算子を使用して結合し、組み合わせをフィルター プロファイルとして保存することによって、カスタマイズした高度なフィルターを作成できます。簡易に再利用するため、頻繁に使用する設定を単一のフィルターとして保存することもできます。保存されたフィルター プロファイルは[セグメントフィルター]リストの最上部に、左側にアイコン  を伴って表示されます。

### フィルター プロファイルを作成する

[フィルター プロファイルを追加]ボタンをクリックすると[フィルター プロファイルを追加]ウィンドウが表示されます。

1. リスト上で任意のフィルターの隣のチェックボックスを選択し、パラメータを設定します。条件に一致するセグメントを表示させない場合、[除外]を選択します。
2. 2つ以上のフィルターが選択された場合、フィルターリスト上部のラジオボタン ([AND]と[OR])を使用して組み合わせるかどうかを決定します。
  - a. [AND]ボタンを選択すると、すべての条件に合致するセグメントが表示されます。
  - b. [OR]ボタンを選択すると、選択した条件のいずれか 1 つに一致するセグメントが表示されます。
3. フィルター プロファイルに対して分かりやすい名前を[プロファイル名]フィールドに入力します。
4. [プロファイルを保存]ボタンをクリックしてフィルター プロファイルを保存します。新しいフィルター プロファイルは[セグメントフィルター]リストの最上部に表示されます。

### フィルター プロファイルを有効または無効にする

フィルター プロファイルはほかのセグメントフィルターと同様に、有効または無効にできます。デフォルトでは新規作成されるフィルター プロファイルはすべて有効にされます。フィルター プロファイルを無効にするには[有効]列のボックスを非選択して[保存]をクリックします。ユーザは無効にされたフィルター プロファイルを使用できなくなります。

### フィルター プロファイルを変更する

フィルター プロファイル名の左側のアイコン  をクリックしてドロップダウン メニューから[編集]を選択し、[フィルター プロファイルの編集]ウィンドウを開きます。現在の[プロファイル名]、[AND]と[OR]のラジオボタン、選択されたフィルターおよびパラメータが表示されます。プロファイル設定に任意の変更を実施して[保存]をクリックします。

### フィルター プロファイルを削除する

フィルター プロファイル名の左側のアイコン  をクリックして、ドロップダウン メニューから[削除]を選択します。[確認]ウィンドウが表示されるので[OK]をクリックします。

## 設定 - ワークフロー

[ワークフロー]タブでは新しいワークフローのステップを定義し、ワークフローの定義を新規作成できます。

ワークフローのステップ、ステップ間の遷移、ワークフローの定義に関する詳細は、本マニュアルの『設定 - ワークフロー定義』を参照してください。

## ワークフローの定義



### 既存するワークフローの定義

新しいワークフロー定義を追加するには、[追加]ボタンをクリックして以下のウィンドウを表示させます。デフォルトでは選択されたステップに基づく名前が自動的に入力されます。アイコン  をクリックして必要なステップを追加し、プルダウンメニューからステップのタイプを選択してステップ間の遷移を選択します。各ステップに対する納品日を自動算出するためにプロジェクトのワークフロー全体の時間に対する割合、どのステップでTMを承認するか、ユーザにより手入力される時間に基づくコスト計算を許可するか、LQA機能を含むか、プロジェクト完了をプロジェクトウォッチャーに通知するか、セグメントステータスを緑(済み)に変更するかどうかを指定できます。最後に[保存]をクリックします。



### 新しいワークフロー定義を作成する

## ワークフロー ステップ

[ワークフロー ステップ]をクリックすると、現時点で既存するステップの一覧が表示されます。



既存のワークフロー ステップを見直す

新しいステップを追加するには[追加]ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。プルダウンメニューには多数の異なるタイプのステップがリストされます。



新しいワークフロー ステップを追加する - ステップのタイプ

表示される標準ステップを利用して同様の機能を有する新しいステップを作成し、別の名前を付けることができます。

追加ステップには異なる3つのタイプがあります。

- 1) 管理タスク。  
例: 翻訳プロセスを開始する前の承認ステップ。
- 2) CAT ツールを使用しないプロセス。  
例: 翻訳後の DTP ステップ。エンジニアがターゲットファイルをダウンロードし、プロジェクトを完了させる前にレイアウトを調整します。このタイプのステップで発生するターゲット テキストへの変更は、翻訳メモリまたは用語ベースへ保存されません。
- 3) 自動タスク。  
以下を実行可能です。
  - a) 選択済みセグメントを TM として承認する。
  - b) 全セグメントの XTM ステータスを[緑/済み]にマークする。
  - c) [コンフィギュレーション] > [設定]で TIPP が有効にされている場合、自動ステップによって、ワークフロー上の特定の時点においてセグメントの[最小 XLIFF:doc ステータス]を設定するオプションがもたらされます。

TM の承認について、セグメントを選択するための以下のオプションがあります。

- a) ターゲットテキストが変更されたセグメント
- b) ステータスが[済み]のセグメント
- c) ステータスが[要確認]のセグメント

- d) マッチタイプが[ICE マッチ]、[レバレッジドマッチ]、[翻訳不要]のセグメント
- e) [XLIFF:doc ステータス]が[翻訳済み]、[校正済み]、[検証済み]

新しい自動ワークフロー ステップを追加する > TM ステータスを[承認]にする

[XLIFF:doc ステータス]を更新する際、まずプルダウンメニューから最小ステータスを設定し、[XTM セグメントステータス]を[緑/済み]に更新するかを決定します。

新しい自動ワークフロー ステップを追加する > 最小 XLIFF:doc ステータスを更新する

上記の自動的なアクションすべてについて、理由に関わらずアクションが失敗した場合にどうするかを定義できます。同じステップにとどまるか、次のステップに進むことができます。

## ワークフローのオプション



### [ワークフロー オプション]タブ

以下のオプションがあります。

- 1) [全セグメントが[緑/済み]の場合はステップを自動的に完了]: このオプションを選択すると、緑色のセグメントのみ(つまり[ICE マッチ]か、[承認済み/未承認 TM からの ICE/レバレッジドマッチを処理済みにマークする]または[翻訳不要を処理済みにマークする])を使用して処理済みにマークされたセグメントのみ)が含まれているファイルのステップは自動的に完了させます。
- 2) [解析不可能ファイルのワークフロー]: JPG などの解析できないファイルをワークフローに含む場合、このオプションを選択します。これによって、プロジェクトを作成する際、解析が不可能なファイルに対するワークフローを選択するためのオプションが表示されます。



### プロジェクト作成 > 解析不可能ファイルのワークフローを設定する

- 3) [要承認プロジェクト](特定の単語数以上のプロジェクトでは CPM による認証が必要): このオプションが選択された場合、デフォルト値([いいえ]、[はい]、[はい、次の単語数以上の場合のみ])を入力できます。
- 4) [プリプロセス]: このオプションによって、PM はプリプロセスのワークフローを伴うプロジェクトを作成できます。以下の場合に役立ちます。
  - a. セグメントをロックして翻訳されないようにする。
  - b. 解析および翻訳の前にソーステキストを編集する。この場合、オリジナルのソース言語と新しいソース言語とは同一です。
  - c. 中間言語を使用する。この場合、ソース言語はまず任意のターゲット言語に翻訳されます。そしてこのターゲット言語が、今度はほかの複数のターゲット言語へ翻訳するための新しいソース言語となります。

[プリプロセス]が有効にされた場合、プロジェクト作成時のデフォルト動作を以下から選択できます。

- [いいえ]: プロジェクト作成時にプリプロセスを有効にできますが、デフォルトでは無効です。
- [はい、ソースのセグメンテーション]: 新規ソーステキストのセグメンテーションは、オリジナルのソーステキストのセグメンテーションと同じにします。

- [はい、新規ソースのセグメンテーション]: プリプロセス ステップで提供されるコンテンツに基づいて新規ソーステキストがセグメント化されます。結果として、プリプロセスと、実際の翻訳ワークフロー ステップの間でセグメンテーションの相違が発生する可能性があります。
- 5) [完全な言語コード(バリエーションも含む)に基づいてリングストやLSPを選択]: この機能は、バリエーションも含めてプロジェクトの言語と完全に一致する言語コンビネーションが設定されているリングストとLSPのみをアサインするために有効にします。たとえばこのオプションを無効にした場合、[英語(米国)]のソーステキストに対して、ソース言語に[英語(英国)]が設定されているリングストをアサインすることが可能です。

## XTM と LDAP

### 概要

LDAP サーバ(例: Active Directory)をすでに使用している場合、XTM ユーザの認証にも使用できます。この認証メソッドによって、パスワード期限など会社独自のパスワード ポリシーを設定できます。管理者にとっても、ユーザごとに共通のアカウントを容易に管理できます。ユーザはこの方法で複数のアプリケーション(例: LDAP 認証が有効にされた XTM)へログインするため、単一のアカウント名とパスワードを使用します。

LDAP 認証を有効にする前に、各ユーザが LDAP のログイン詳細と同じ XTM のアカウントを持っていることを確認してください。それぞれのアカウントは XTM データベースに格納されており、パスワードは LDAP サーバによってのみチェックされることとなります。

以下のいずれかの方法で LDAP 認証を設定できます。

- ユーザは識別名 (DN: Distinguished Names) を使用して認証されている
- LDAP へ接続するため、外部サービスアカウントが XTM によって使用されます。この場合、ユーザは完全なユーザ DN を提供する必要がありません。sAMAccountName またはメールアドレスなど別の条件を使用することが可能です。

### コンフィギュレーション

XTM LDAP コンフィギュレーション ファイルは、XTM ルート ディレクトリ(例: `/xtm/xtm/confs/common/ldap-conf.xml`) の下の `xtm/confs/common/ldap-conf.xml` に置かれています。

LDAP 認証を有効にするには、コンフィギュレーション ファイルを以下のように編集する必要があります。

- a. `active` を `yes` に設定
- b. `host` にお使いの LDAP サーバアドレスを設定
- c. `domain` にお使いのドメインを設定
- d. 正確な `userTableName` (例: `Users`) を設定
- e. 特定のユーザグループに対してのみ XTM へのログインを有効にする場合、`group-name` にログインを許可するグループを設定
- f. SSL (Secure Sockets Layer) を有効にする場合:
  - i. `ssl` を `yes` に設定
  - ii. Java のキーストロークに `keystore_path` を設定 (キーストロークには 2.b のホストの証明書が含まれている必要があります)
  - iii. Java のキーストロークに `keystore_password` を設定

XTM を起動した後、LDAP サーバの認証情報を使用してログインできます。

## ユーザを追加する

管理者はいずれのロールを有するユーザをも追加して編集できます。自分以外に別の管理者を追加することも可能です。プロジェクトマネージャは、管理者以外のロールすべてを有するユーザの追加と編集が可能です。管理者または PM 以外のロールを有するユーザは、ユーザを追加または編集できません。自らの詳細を編集できるのみです。

お使いのシステムでユーザを追加するには[ユーザ]タブをクリックし、ユーザー一覧上の[ユーザを追加]ボタンをクリックします。まず、ユーザに関する一般情報を入力します。入力必須フィールドは赤色のアスタリスクで示されています。[ロール]フィールドでユーザタイプを決定します。ユーザが実行するロールを選択します。

[保存]をクリックすると、ほかのタブでの入力を求められます。また、プロフィール写真を追加することもできます。

### 新規ユーザを追加する > 一般

選択したロールによって左側に表示されるタブが変わります。以下のオプションがあります。

**住所:** ユーザの住所および連絡先の詳細を入力します。

The screenshot shows the 'Edit User' (ユーザを編集) interface. On the left is a sidebar with a user profile picture and navigation menu items: 一般, 住所, 言語, 主題, レートカード, 資格, アクセス権, ユーザグループ, 評価, タスク. The '住所' (Address) section is active and contains the following fields:

- 住所1: 上野2-12-18
- 住所2: 池之端ヒロハイツ2階 インスクエア内
- 市: 台東区
- 県/国: 東京都
- 郵便番号: 110-0005
- 国: 日本
- タイムゾーン: (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京
- 日付形式: yyyy/MM/dd (2017/09/24)
- 時刻形式: HH:mm (20:31)
- 週の開始日: 日曜日
- 電話番号: +81 (0)3-4405-9854
- 携帯電話:
- Webサイト: https://xtm-intl.com/
- メモ:

A '保存' (Save) button is located at the bottom of the form.

新規ユーザを追加する > 住所

**言語:** ユーザがリンギストの場合、対応可能な言語を定義する必要があります。[言語を追加]ボタンをクリックし、任意のソース言語とターゲット言語を選択して[保存]をクリックします。

The screenshot shows the 'Add Language' (言語を追加) interface. The '言語コンビネーション' (Language Combination) section contains two columns of language options:

- \* ソース言語を選択 (Source Language):** 英語(バキスタン), 英語(マレーシア), 英語(南アフリカ), 英語(米国), 英語(香港), 韓国語
- \* ターゲット言語を選択 (Target Language):** 中国語(繁体字), 中国語(香港), 北部ソト語(南アフリカ), 古代ギリシャ語, 英語(UAE), 英語(アイルランド)

Green arrows point from the source languages to the target languages. A '保存' (Save) button is at the bottom.

新規ユーザを追加する > 言語

**主題:** ユーザが専門としている主題を選択します。

新規ユーザーを追加する > 主題

**レートカード:** XTMには柔軟性の高いレートカード機能が装備されており、定義された通貨での請求プロセスを実行できます。まず、プルダウンリストから請求通貨を選択します。各ユーザーは、有効な請求通貨を1つのみ有することができます。ユーザーに対して発注書を作成する場合、関連するレートカードとこの通貨が使用されます。

新規ユーザーを追加する > レートカード

[追加]ボタンをクリックして新しいレートカードを追加します。各レートカードには以下を設定できます。

1. 名前
2. 説明
3. レートカードが有効か無効か
4. 1つ以上の言語コンビネーション > 単一の言語または言語グループ
5. 1つ以上の主題

タスクに関する費用をどのように算出するかを定義できます。係数または実際価格をベースにできます。さらに、単語または文字をベースに算出するかどうかも定義できます。

係数を選択した場合、基本価格を入力する必要があります。費用を算出するには各ステップのマッチタイプごとのパーセンテージ値で乗算されます。

実際価格を選択した場合、各ステップの各マッチタイプに対して実際の価格を入力する必要があります。どちらの計算においても以下を定義できます。

1. 1日あたりの単語数
2. 最低料金

[一般固定価格]には以下を定義できます。

- プロジェクトあたりの固定価格
- 言語あたりの固定価格
- ファイルあたりの固定価格
- 管理費 (%)

ワークフロー ステップごとに以下を定義できます。

1. プロジェクトあたりの固定価格
2. 言語あたりの固定価格
3. ファイルあたりの固定価格
4. 管理費 (%)
5. 最低料金
6. 時間あたりの価格

[あいまいマッチ]に対するレートの[係数]および[実際価格]は、グローバルまたは個別の値として帯ごとに設定できます。

 や  のアイコンをクリックしてステップを追加または削除することもでき、下部の青色の矢印を使用してワークフロー ステップ間の値をコピーできます。

レートカードの入力を完了し、[保存]ボタンをクリックします。

ユーザ用レートカードを追加 - AtomADMIN

---

• レートカード名

有効

• 言語コンビネーション

このユーザ用の全コンビネーション設定

選択...  変更後:

概要

• 主題  すべて

EU

その他

---

計算方法:  係数  実際価格 課金タイプ:  1単語あた  文字あた

• 基準レート  JPY 1日あたりの単語数  最低料金  JPY

一般固定価格

ワークフローステップ

固定価格	翻訳	チェック	レビュー	LQA
マッチなし	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
ICEマッチ	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
レバレッジドマッチ	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
あいまいマッチ	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
機械翻訳	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
翻訳不要	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
リピート	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %

新規ユーザを追加する > レートカード

**資格:** ユーザの免許や資格を入力します。

資格を編集 ✖

**資格**

<b>* 資格名</b>	英検一般
<b>概要</b>	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 20px;"></div>
<b>* 言語</b>	英語(英国) <span style="float: right;">▾</span>
<b>* 日付</b>	2016/08/30

保存

[新規ユーザを追加する > 資格](#)

**アクセス権:** ユーザに[管理者]以外のロールを付与した場合、[アクセス権]タブが表示されます。このタブでは、これらのエリアにおいて該当ユーザが実行できることを定義できます。

### カスタマー

カスタマーを特定しない場合、ユーザはすべてのカスタマーのプロジェクトで作業が可能です。ユーザが全カスタマーへのアクセスを有する場合、新たに作成されるカスタマーへもアクセスできます。リストから一部のカスタマーが選択された場合、ユーザは選択済みのカスタマーに対してのみアクセスできます。この場合、新たに作成されたカスタマーのプロジェクトは閲覧できません。

### プロジェクト

[このユーザのプロジェクトのみを表示]オプションを選択した場合、ほかのユーザが作成したプロジェクトは閲覧できません。

### エディタ

ユーザに対して任意のセグメントをロックおよびロック解除すること、ロック解除のみすること、またはロックの権限は付与しないよう設定できます。また、ユーザが XTM Editor でメトリクスを表示できるかどうかも決定します。

### LQA

被評価者または評価者に対する LQA 結果を閲覧するためのアクセス権をユーザに付与した場合、[タスク]タブに[LQA]タブが表示されます。付与された権限によって、該当ユーザが被評価者または評価者、もしくは両方として関連したプロジェクトが[LQA]タブが表示されます。

### 用語集と翻訳メモリ

TM と用語集に対して: 2 つのアカウント タイプがあります。

- 1) カスタマー限定。この[アカウントの種類]では、選択されたカスタマーの TM と用語集にのみアクセスできます。このオプションが選択された場合、対象カスタマーをセレクトボックスで選択します。
- 2) グローバル エキスパート。この[アカウントの種類]では、システム上のカスタマーすべての TM と用語集にアクセスできます。

また、ユーザが TM や用語集へアクセスするに際して、[ユーザの言語コンビネーション]にのみ限定するよう設定することもできます。

用語集について、該当ユーザが用語を変更、インポート、エクスポート、閲覧、追加できるかどうかを決定します。翻訳メモリについて、該当ユーザが TM を変更、インポート、エクスポート、閲覧できるかどうかを決定します。

## コンコーダンス

[TM メタデータとコンコーダンスへのアクセス]: ユーザに対するシステムのグローバル設定を使用するよう、XTM インスタンスに設定できます。もしくは、ユーザごとに権限を定義することもできます。以下のオプションがあります。

- グローバル設定を使用
- フルアクセス
- カスタマーの詳細情報なしでアクセス
- カスタマーまたはプロジェクトの詳細情報なしでアクセス
- アクセスなし

ユーザを編集



- ① 一般
- 🏠 住所
- 🗨️ 言語
- 📌 主題
- 👤 レートカード
- 📄 資格
- 🔒 アクセス権
- 👥 ユーザグループ
- 👍 評価
- 📅 タスク

**カスタマー**

カスタマー  全カスタマー  選択済みカスタマー

AEM Connector	Test
aluso-1	
Damie	

**プロジェクト**

このユーザのプロジェクトのみを表示

**エディタ**

セグメントのロック権限

**LQA**

被評価者のLQA結果を表示

評価者のLQA結果を表示

**用語集**

\* アカウントの種類  グローバル  カスタマー限定

ユーザの言語コンビネーションを使用

用語集へのアクセス権

提案	追加
	更新・承認
	削除
	表示
	インポート
	エクスポート

**翻訳メモリ**

\* アカウントの種類  グローバル  カスタマー限定

ユーザの言語コンビネーションを使用

TMへのアクセス権

	表示
	変更
	インポート
	エクスポート
	削除
	アライメント

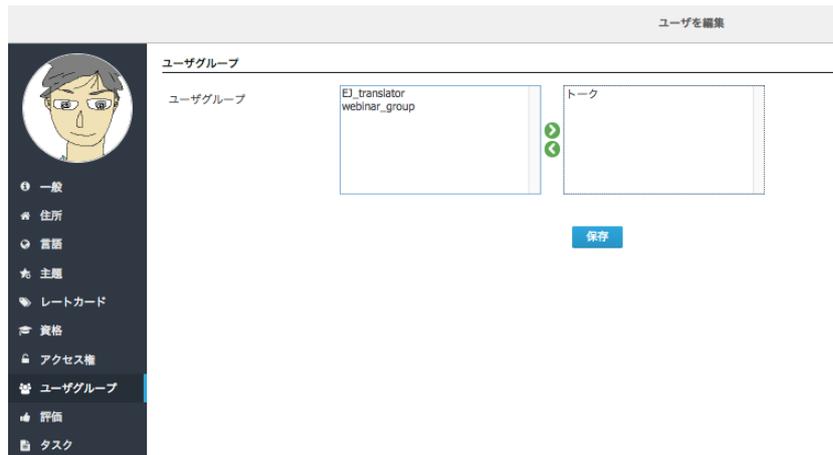
**コンコーダンス**

\* TMメタデータとコンコーダンスへのアクセス  グローバル設定を使用  フルアクセス  カスタマーの詳細情報なしでアクセス

カスタマーまたはプロジェクトの詳細情報なしでアクセス  アクセスなし

新規ユーザを追加する > アクセス権

**ユーザグループ:** 対象ユーザをいずれかのユーザグループに追加する場合、[ユーザグループ]タブを選択します。そして、左側のボックスに表示されるユーザグループの内、追加を希望するユーザグループをダブルクリックします。



新規ユーザを追加する > ユーザグループ

## ログイン履歴を表示

日付	ユーザ名	アクション	ブラウザの名前	セッション日付の最後のアクション
2017-09-25 24:28:48 GMT	AtomADMIN	LOGIN	mozilla/5.0 (macintosh; intel mac os x 10_12_4) applewebkit/537.36 (KHTML, like Gecko) chrome/60.0.3112.113 safari/537.36	
2017-09-24 12:15:27 GMT	AtomADMIN	LOGOUT	mozilla/5.0 (macintosh; intel mac os x 10_12_4) applewebkit/537.36 (KHTML, like Gecko) chrome/60.0.3112.113 safari/537.36	2017-09-24 12:13:41 GMT
2017-09-24 10:23:02 GMT	AtomADMIN	LOGIN	mozilla/5.0 (macintosh; intel mac os x 10_12_4) applewebkit/537.36 (KHTML, like Gecko) chrome/60.0.3112.113 safari/537.36	
2017-09-24 08:46:49 GMT	AtomADMIN	LOGOUT	mozilla/5.0 (macintosh; intel mac os x 10_12_4) applewebkit/537.36 (KHTML, like Gecko) chrome/60.0.3112.113 safari/537.36	2017-09-24 08:46:47 GMT

[ログイン履歴履歴を表示]画面

この画面では、いずれのユーザがいつシステムにログインし、ログアウトしたかを確認できます。

## [実行中セッション]タブ

[実行中セッション]タブには、現時点で XTM にログオンしているユーザのリストが表示されます。

ユーザ名	名	姓	メール	電話番号	ロール	作成日	前回のアクセス
AtomADMIN	阿藤	民	xtmjpn@gmail.com	+81 (0)3-4405-9854	管理者, リンダスト, TM管理者, プロジェクトマネージャ, 用語管理者	2017/09/25 09:28	2017/09/25 09:33

実行中セッションの一覧

下図のようにコンテキストメニューのオプションを選択して、特定のユーザを強制的にログアウトさせることもできます。

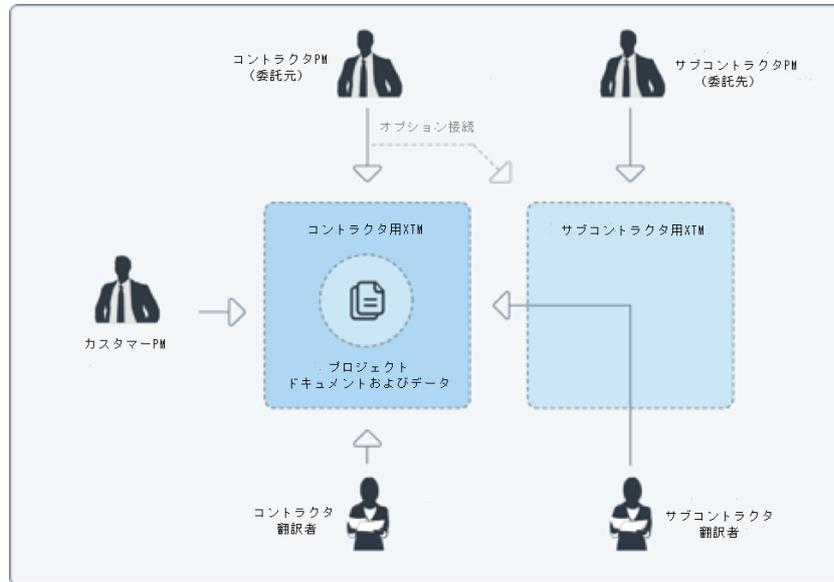


ユーザを強制的にログアウト

## サブコントラクト

### 概要

「貴社の XTM システム」を「他社の XTM システム」とリンクさせることができます。つまり、お客様のワークフローにおいて「別の翻訳会社」へタスクを割り当てたり、「ほかの翻訳会社」からタスクを受理することが可能です。



XTMサブコントラクト模式図

お使いの XTM でプロジェクトを作成すると、サブコントラクト機能を利用して、ワークフロー上で個人ではない LSP (Language Service Provider、翻訳会社) へタスクを割り当てることができます。「サブコントラクト LSP」は自社の翻訳者の連絡先やレビューの機密情報を開示することなく、タスクを請け負うことが可能です。翻訳データすべてはお使いの XTM 上で保持されます。サブコントラクトの翻訳者は、単にブラウザを経由して接続するのみです。必要に応じて、孫請けする別の LSP へ「サブコントラクト LSP」からタスクを割り当てることも可能です。メトリクスと統計は双方のシステム上でリアルタイムに更新され、いずれの XTM でも最新ステータスを確認できます。

### サブコントラクトへのライセンス供与

サブコントラクトである場合、無償・制限付きバージョンの XTM を使用できます。サブコントラクトとしての作業は実行可能ですが、独自に新しいプロジェクトを作成することはできません。もしくは、有償の完全版 XTM をお使いいただくこともできます。

タスクを実行するに際して無料の Subcontractor ライセンスをご利用の場合、主要システムの有償ライセンスの 1 つを使用することになります。サブコントラクトが利用できるライセンスの本数は、発注者の XTM アカウントで設定されています。ユーザが XTM アカウントを購入している場合、サブコントラクト タスクを遂行する際、ユーザ自身のライセンスの 1 つを使用することになります。

### サブコントラクトの有効化

サブコントラクトになる、またはほかの LSP ヘジョブをサブコントラクト(委託)する場合、[コンフィギュレーション] > [設定] タブにて、[サブコントラクトを有効化]を選択する必要があります。



[サブコントラクトを有効化]を選択する

インストール済みの XTM Suite でサブコントラクト機能を使用する場合、2 つの XTM インスタンスを接続する際の互換性や、HTTPS 経由でのコミュニケーションにおいて安全性を確保するため、SSL 証明書を使用する必要がありますことに留意してください。SSL 証明書を使用しない場合、サブコントラクト機能が動作しない可能性があります。

### サブコントラクト LSP を作成する

新しい LSP アカウントを作成するため、[ユーザ]タブを選択して[LSP]を選択します。そして、[LSP を追加]ボタンをクリックします。



### LSP一覧

ポップアップ ウィンドウが表示され、サブコントラクトの会社名、担当者の名前やメールアドレスの入力が求められます。希望に応じて 2 つめの住所、連絡先の詳細、TAUS DQF の認証情報を入力する、コスト作成のためのダミーユーザとするユーザを選択するなど可能です。

[PM]リストでは、この LSP に対する担当として自社のプロジェクトマネージャを選択できます。この PM は、関連するプロジェクトのワークフローにおいて XTM によって生成されるステータスの更新通知などのメールすべてを受信します。また、この LSP がお客様自身に対してもタスクをアサインする場合、該当するタスクはこの PM のリストに表示されます。

PM が選択されない場合、プロジェクトに関するメール通知はすべての PM 宛に発信されます。

新しいLSPを追加する

LSP エディタ - 接続

[LSP を追加]ウィンドウ下部の[追加]ボタンをクリックするとレコードが作成され、ただちに[LSP エディタ]の[接続]タブにリダイレクトされます。このタブには 4 つのセクションがあります。

1. [LSP のタイプ]: お客様から該当 LSP に対してプロジェクトを送信しているのか、および/または、該当 LSP からプロジェクトを受信するかどうかを指定できます。[この LSP にタスクを送る]を選択した場合、ワークフロー上でリソースを選択する際にこの LSP も表示されます。
2. [LSP からの接続情報]セクションでは、[LSP の XTM サーバアドレス]、[会社ログイン名]、[LSP ID]、[パスワード]を入力します。
3. [LSP に送信する接続情報]セクションは自動的に生成されます。このセクションでは[パスワード]を編集できるのみです。

LSPエディタ > 接続

そして、[メールを送信]ボタンをクリックします。これで、接続に関する詳細がサブコントラクタである LSP に送信されます。該当メールの受信後、サブコントラクタはメールの情報にしたがって新しい XTM Cloud アカウントを作成するか、既存アカウントを使用して自らのシステム上に接続情報を入力します。サブコントラクタが[保存]をクリックすると、お客様のシステム上で接続情報が自動的に完成します。続いて、双方向の接続が成立した、または、接続に問題が発生しているかを通知するメールがサブコントラクタに送信されます。

サブコントラクタ LSP 一覧の最右列[接続]にて、双方向接続が成立したかを確認できます。緑: 接続は良好です。赤: 接続情報が入力されていない、または不正です。双方向接続が成立した際は、自動通知メールが発信されます。

## LSP エディタ - 言語

デフォルトではサブコントラクタ LSP は全言語をプロセスできます。タスクをアサインする際、LSP の名前は常に表示されます。ランゲージペアを制限するには[言語]タブをクリックして[カスタマイズした言語コンビネーション]を選択し、ランゲージペアを作成します。[ソース言語を追加]の右側のプラス符号をクリックします。[ソース言語を追加]ウィンドウで任意の[ソース言語]と[ターゲット言語]をダブルクリックして選択し、[追加]をクリックします。



### LSPエディタ > 言語

[ソース言語を追加]ウィンドウで任意の[ソース言語]と[ターゲット言語]をダブルクリックして選択し、[追加]をクリックします。



### LSPエディタ > 言語コンビネーションを追加する

## LSP エディタ - レートカード

レートカード: XTM には柔軟性の高いレートカード機能が装備されており、定義された通貨での請求プロセスを実行できます。

各レートカードには以下を設定できます。

1. 名前
2. 概要
3. レートカードが有効か無効か
4. 1つ以上の言語コンビネーション > 単一の言語または言語グループ
5. 1つ以上の主題

タスクに関する費用をどのように算出するかを定義できます。係数または実際価格をベースにできます。さらに、単語または文字をベースに算出するかどうかも定義できます。

係数を選択した場合、基本価格を入力する必要があります。費用を算出するには各ステップのマッチタイプごとのパーセンテージ値で乗算されます。

実際価格を選択した場合、各ステップの各マッチタイプに対して実際の価格を入力する必要があります。

どちらの計算においても以下を定義できます。

1. 1日あたりの単語数
2. 最低料金

[一般固定価格]には以下を定義できます。

- プロジェクトあたりの固定価格
- 言語あたりの固定価格
- ファイルあたりの固定価格
- 管理費 (%)

ワークフロー ステップごとに以下を定義できます。

1. プロジェクトあたりの固定価格
2. 言語あたりの固定価格
3. ファイルあたりの固定価格
4. 管理費 (%)
5. 最低料金
6. 時間あたりの価格

[あいまいマッチ]に対するレートの[係数]および[実際価格]は、グローバルまたは個別の値として帯ごとに設定できます。

 や  のアイコンをクリックしてステップを追加または削除することもでき、下部の青色の矢印を使用してワークフロー ステップ間の値をコピーできます。レートカードの入力を完了し、[保存]ボタンをクリックします。

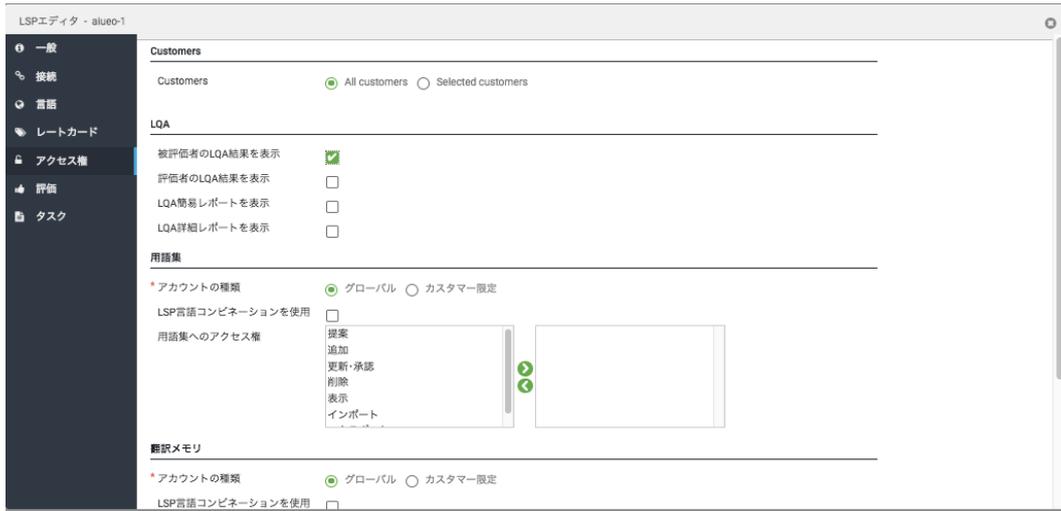
### 新規ユーザを追加する > レートカード

## LSP エディタ - アクセス権

LQA 結果、翻訳メモリ、用語集について、サブコントラクタ LSP のアクセス権も定義できます。

被評価者または評価者に対する LQA 結果を閲覧するためのアクセス権を LSP に付与した場合、[プロジェクト]タブに[LSP LQA]セクションが表示されます。付与された権限によって該当ユーザが被評価者または評価

者、もしくは両方として関連したプロジェクトが[LQA]タブが表示されます。設定によって LSP は簡易版または拡張版の LQA レポートもダウンロードできます。



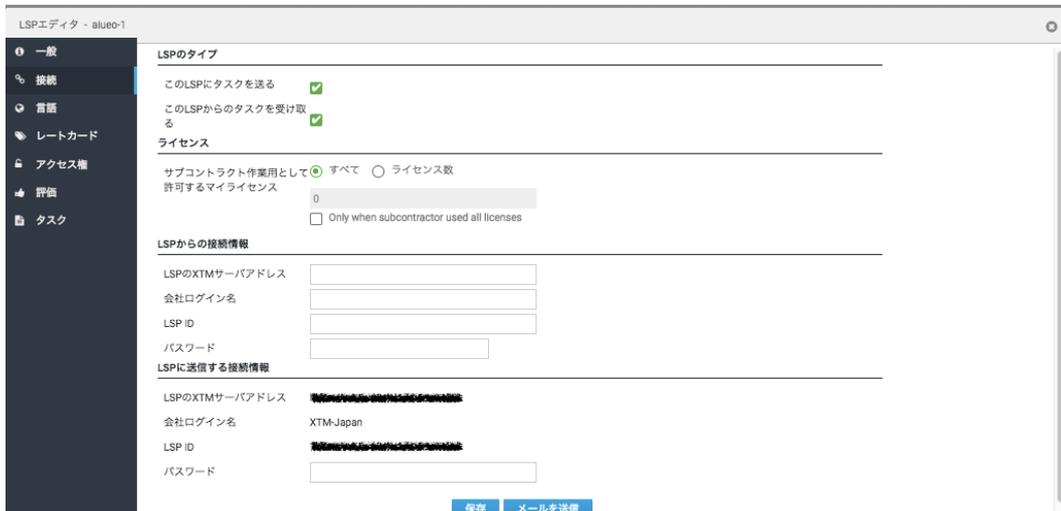
LSPエディタ > アクセス権

サブコントラクタ LSP になるリクエストを受け入れる

企業または LSP に対するサブコントラクタとして作業を予定している場合、タスクをアサインするために XTM 経由での接続設定を希望する旨を通知するメールが届きます。まだ XTM アカウントを保有していない場合、メールに記載されているリンクをクリックしてアカウントを簡単に作成できます。フォームに入力して[送信]ボタンをクリックします。ログイン情報が記載されたメールが届きます。

アカウントを作成し、以下の方法にしたがって発注元のシステムへの接続を設定します。

- お使いの XTM に通常どおりログオンします。
- [コンフィギュレーション] > [設定]タブにて[サブコントラクトを有効化]を選択します。
- [ユーザ]タブに移動して[LSP]を選択します。
- 新しい LSP を追加し、発注元システムの一般情報を入力して[追加]をクリックします。
- [接続]タブにて、受信メールに記載されている詳細を入力して[保存]をクリックします。双方向の接続が確立したことを通知するメッセージが届きます。



LSPとの双方向接続を成立させる

接続設定に問題がある場合、理由に関わらず以下のメッセージが発信されます。

**変更内容が保存されました。**  
**お使いのXTMではこのLSPに接続できません。詳細を確認して再試行してください。**

## LSP 用ライセンス

サブコントラクターは、コントラクターのライセンスを借りることができます。コントラクターは、サブコントラクターに貸すライセンス本数を[ユーザ]タブ > [LSP] > [接続] > [ライセンス]セクションで定義します。また、コントラクターは[ライセンス数]フィールドに「0」(ゼロ)を入力してライセンスを貸与しない、または、サブコントラクターが自らのライセンスを使い切ったときのみ貸与することもできます。

ライセンス

---

サブコントラクター作業用として許可  すべて  ライセンス数  
 するマイライセンス

1

Only when subcontractor used all licenses

*LSP にコントラクターのライセンス使用を許可*

## サブコントラクトされたプロジェクトの管理

サブコントラクターにプロジェクトがアサインされた場合、該当プロジェクトはサブコントラクターのプロジェクト一覧に自動的に表示されます。プロジェクト一覧では、LSP によって作成されたプロジェクトには緑色の星のアイコン  が表示されます。一般に、サブコントラクターは通常どおりプロジェクトを管理できます。

### プロジェクトの名前に関する慣例

デフォルトでは、サブコントラクターのシステム上には、コントラクターのシステム上と同じプロジェクト名が表示されます。サブコントラクターは自らのシステム上でプロジェクト名を変更できます。しかしながら、コントラクターのシステム上のプロジェクト名がコントラクターによって変更された場合、サブコントラクターのシステム上ではコントラクターによって改変された名前と、サブコントラクターによって改変された名前の両方が表示されます。

### サブコントラクトされたプロジェクトのアーカイブと再有効化

サブコントラクターは、コントラクターのシステム上でコントラクターによってアーカイブ済みであるプロジェクトのみをアーカイブできます。また、サブコントラクターのシステム上で再有効化できるアーカイブ済みのプロジェクトは、コントラクターのシステム上で現時点で有効なプロジェクトのみです。

## LSP LQA 結果

LSP から提供された翻訳には、コントラクターの LQA ワークフロー ステップにおいて評価し、スコアをつけることができます。コントラクターの XTM アカウントにて、LSP のアクセス設定として該当オプションが有効にされている場合、コントラクターにとって完了したプロジェクトの LQA レポートをダウンロードしたり、スコアを見ることができます。コントラクターの内部リソースまたはベンダーによって提供された翻訳に対する LQA を LSP が実行したプロジェクトにも、この設定は適用されます。

# XTM ユーザ マニュアル - 管理者

The screenshot displays the XTM user interface for a manager. At the top, there is a navigation bar with the XTM logo and menu items: プロジェクト, カスタマー, ユーザ, タスク, コンコーダンス, TM, 用語集, and Xchange. Below this, a breadcrumb trail shows 'プロジェクト一覧' > 'テンプレート' > 'LSP LQA' > 'Company dashboard'. The main content area features a table with columns for 'プロジェクト名', 'LSP名', 'ソース言語', 'ターゲット言語', 'ワークフローステップ', 'ファイル名', 'スコア', '単語', and 'テスト完了'. Two rows are visible: one for '005-LQA' (0% score) and one for '012\_LQA-170724' (68% score). A context menu is open over the second row, offering options: 'LQAレポートをダウンロード', '拡張レポートをダウンロード', and '削除'. The footer includes the copyright notice 'Copyright 2005 - 2017 XTM International Ltd. All Right Reserved'.

プロジェクト名	LSP名	ソース言語	ターゲット言語	ワークフローステップ	ファイル名	スコア	単語	テスト完了
005-LQA	XTM-Japan	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	0%	24	28-09-2017 09:43
012_LQA-170724	XTM-Japan	英語(英国)	日本語	translate1	2_bbmouse.docx	68%	88	28-09-2017 19:58

プロジェクト > LSP LQA

## 4. XTM:プロジェクトマネージャ向け

管理者により提供されたログインとパスワードを使用し、プロジェクトマネージャ(PM)として XTM にログインします。

### ヘルプと情報

[コンフィギュレーション]画面へ移動するためのギア(歯車)のアイコンと、ユーザ プロファイル画像の間に表示される疑問符(?)をクリックすると[ヘルプと情報]サイドバーが表示され、ヘルプなどの関連情報へクイックアクセスできます。本ユーザマニュアル、Knowledge Base、XTM Webinar に関する情報へのリンクも含まれます。さらに、XTM Community を利用して業界の仲間からの支援を受けたり、弊社のセールスやサポート担当に連絡することもできます。サイドバーにはサブスクリプション利用規約や XTM Privacy Policy へのリンクもあります。



ヘルプと情報

### カスタマー

#### カスタマーを追加する

最初に[カスタマー]タブをクリックし、[カスタマーの追加]ボタンをクリックしてカスタマーの詳細を入力します。

[カスタマーを追加]画面では[カスタマー]の名前のみが入力必須項目です。

「ダミーカスタマー」として操作することで、過去の翻訳メモリ(TM)と用語集をインポートできます。このタイプのカスタマー用にプロジェクトは作成できませんが、ほかのカスタマーのために作成されたプロジェクトに、この TM と用語集を適用させることは可能です。

新規カスタマーにはデフォルトの PM を選択します。ほかの PM もプロジェクトの進捗通知を受信する場合、[プロジェクトウォッチャー]として追加します。

[カスタマーを追加]画面

カスタマーの住所や連絡先を追加して[追加]ボタンをクリックすると、カスタマー一覧にも表示されます。

### カスタマーをインポートする

カスタマーをインポートする

既存のカスタマーを XTM にインポートするには 2 つの方法があります。

- 1) 顧客データを含む Excel ファイルを作成する。[サンプルファイルをダウンロード]の緑色の矢印アイコンをクリックすると、XTM に顧客データをインポートするための適切なフォーマットが保存された Excel のテンプレートファイルを取得できます。
- 2) 顧客データを含む XML ファイルを作成します。XML ファイルの作成例については、本マニュアルの『附録 4』を参照してください。このファイルを作成するために DTD やスキーマが必要な場合は、弊社に連絡してください。

### カスタマーを検索する

特定のカスタマーを検索するには、[検索]フィールドに入力して[検索]ボタンをクリックします。[カスタマー名]、[市]、[国]、[電話番号 1]を対象に検索が実行されます。デフォルトでは検索実行者を PM とみなし、PM が割り当てられていないプロジェクトを対象に検索が実行され、結果が表示されます。

PM が誰であるかに関わらずカスタマーすべてを対象にする場合、[全カスタマー]チェックボックスを選択します。カスタマー一覧には担当 PM の名前も表示されるようになります。



### カスタマーを検索する

### カスタマーを確認する

[カスタマー]タブを選択すると、お使いのシステム上で有効なカスタマーすべてが一覧表示されます。カスタマーのレコードを変更するにはリスト上のカスタマー名をクリックします。最左列のメニューアイコンをクリックすると、以下の操作を実行するためのコンテキストメニューが表示されます。

- 入力または編集
  - カスタマー詳細
  - カスタマー概算見積り係数
  - 主題係数
  - 言語コンビネーション
  - 翻訳の設定
- 無効化: カスタマーを[無効化]した後、追って[休止カスタマー]リストから復旧させることも可能です。
- カスタマーを削除
- カスタマーの[TM マネージャ]を表示
- カスタマーの[用語集マネージャ]を表示



### カスタマーのコンテキストメニュー

カスタマー一覧は、いずれの列見出しをクリックしても並び替えを実行できます。

### カスタマーを編集する

#### カスタマーエディタ - カスタマーの詳細

[カスタマー詳細]タブでカスタマーに関する詳細を編集できます。

カスタマー一覧 > Abcdefg > カスタマー詳細

- ✎ カスタマー詳細
- 🔍 概算見積り係数
- 🔍 概算見積りオプション
- 🗨️ 言語コンビネーション
- 👍 QA
- ★ 主題係数
- ⚙️ 設定

### 基本情報

\* カスタマー:

TMと用語のみ:

カスタマーのニックネーム:

VAT番号:

プロジェクトマネージャ:

プロジェクトウォッチャー:

CPMを表示

---

### 住所

住所1:

住所2:

市:

県/国:

郵便番号:

国:

電話番号1:

電話番号2:

携帯電話:

Fax:

Webサイト:

Skype:

MSN:

---

### 参考資料

アップロードするファイルを選択  選択されていません

ファイル名 ▲	ファイルサイズ	アップロード日
表示するデータがありません。		

0エントリ中0=0を表示  エントリを表示 最初 前 次 最後

カスタマーの詳細を編集する

[プロジェクト ウォッチャー]はプロジェクトの担当ではありませんが、該当プロジェクトに関するすべてのメール通知を受信することを希望しています。システムメールを CC するには CPM(Customer Project Manager)も含めます。

参考資料はプロジェクト特定ではなく、むしろカスタマー特定としてここに保管できます。この参考資料は、該当カスタマーのプロジェクトすべてで利用できるようになります。

## カスタマーエディタ - 概算見積り係数

カスタマーに対する費用と作業期間の見積りを自動的に算出するために使用する係数は、このタブで設定できます。係数には以下の項目があります。

- 1 ページあたりの基本料金
- 1 単語あたりの基本料金
- 1 文字あたりの基本料金
- 1 日あたりの基本単語数
- 1 日あたりの基本文字数
- 最小単語数
- 最小文字数
- 最低料金
- 最低料金に割引を適用
- 1 ページあたりの概算見積りを使用
- 通貨
- 計算方法
- 作業スケジュール
- VAT 支払い
- プロジェクトに対する割引: 日数係数
- プロジェクトに対する割引: 価格係数
- 部数に対する係数
- スピード係数 > 割引: 長時間・安価については 3 つのレベルがあります。
- スピード係数 > プレミアム: 短時間・高価については 3 つのレベルがあります。
- 異なるマッチングのタイプすべてに対するメトリクス係数。
- ワークフロー内の追加ステップに対する価格と期間に関する係数
- 文書認証に対する実際価格または係数

概算見積り係数に関する詳細は、『プロジェクト エディタ』の『概算見積り』を参照してください。

# XTM ユーザ マニュアル - プロジェクトマネージャ

カスタマー一覧 > Abodefg > 概算見積り係数

カスタマー詳細

概算見積り係数

概算見積りオプション

言語コンビネーション

QA

主題係数

設定

基本事項	
1ページあたりの基本料金	0.0
1単語あたりの基本料金	0.10
1文字あたりの基本料金	0.01
1日あたりの基本ページ数	0
1日あたりの基本ワード数	1500
1日あたりの基本文字数	15000
最小単語数	300
最小文字数	3000
最低料金	150.00
最低料金に割引を適用	<input checked="" type="checkbox"/>
1ページごとに概算見積りを算出	<input type="checkbox"/>
通貨	ユーロ(EUR)
計算方法	乗算
作業スケジュール	月～金
日数計算時の端数切り上げ基準値	0.20
VAT支払い	<input checked="" type="checkbox"/>
プロジェクト管理費	0.00
プロジェクト割引日数係数	1.00
プロジェクト割引価格係数	1.00
部数	
1部あたりの価格係数	1.00
1部あたりの価格	0.00
スピード・プレミアム	
もっと早く?	価格レート: 1.50      期間係数: 0.80
メトリクス	
翻訳不要	価格レート: 0.10      1日あたりのテキスト係数: 0.10
ICE	0.00      0.10
レバレッジD	0.30      0.30
DBあいまいマッチ(95%~99%)	0.70      0.50
DBあいまいマッチ(85%~94%)	0.80      0.70
DBあいまいマッチ(75%~84%)	0.90      0.90
リピート	0.50      0.20
あいまいリピート(95%~99%)	0.70      0.50
あいまいリピート(85%~94%)	0.80      0.70
あいまいリピート(75%~84%)	0.90      0.90
MT	1.00      1.00
ワークフロー	
DTP	価格レート: 1.00      期間係数: 1.00
チェック1	1.00      1.00
チェック2	1.00      1.00
チェック3	1.00      1.00
レビュー1	1.00      1.00
レビュー2	1.00      1.00
レビュー3	1.00      1.00
ドキュメント認証	
証明	価格レート: 1.00      期間係数: 1.00      1ファイルあたりの価格: 0.00      1ファイルあたりの期間: 0.00
公証	1.00      1.00      0.00      0.00
アポスタイル	1.00      1.00      0.00      0.00

保存   リセット

任意のカスタマー用の概算見積り係数

## カスタマーエディタ - 概算見積りオプション

XTM Portal を利用している場合、カスタマーごとに多数の追加サービスを表示できます。

概算見積りオプションをカスタマイズする

## カスタマーエディタ - 言語コンビネーション

XTM 管理者は、カスタマーに提供するシステムのデフォルト言語コンビネーションを設定およびカスタマイズできます。

### [カスタマイズ]タブ

[カスタマイズ]タブには、言語コンビネーションを変更および使用するための 3 つのオプションがあります。

1. [システムデフォルトの言語コンビネーション]: 管理者が定義した言語コンビネーションのセット。
2. [カスタマイズ済み言語コンビネーションを伴うシステムデフォルト]: 管理者が定義した言語コンビネーションのセットに、該当カスタマー用に一部のパラメータを自分で変更した可能性がある。
3. [カスタマイズ済み言語コンビネーションのみ]: 該当カスタマー用に自分でカスタマイズした言語コンビネーションのみ。

言語コンビネーションをカスタマイズする

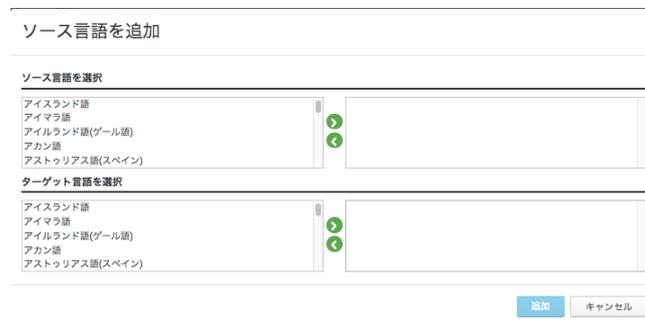
カスタマイズ済みオプションの 1 つを選択した場合、ソース言語とターゲット言語を追加・削除できます。

既存するソース言語に対してターゲット言語を追加するには、まずドロップダウンリストからソース言語を選択します。次に[ターゲット言語を追加]をクリックすると、ターゲット言語一覧の最下部に新しい行が表示されます。プルダウンリストからターゲット言語を選択し、必要に応じて係数を編集します。



### ターゲット言語を追加する

新しいソース言語および、対応するターゲット言語を追加するため、[ソース言語を追加]ボタンをクリックすると下図のウィンドウが表示されます。複数のソース言語とターゲット言語を選択できるので、必要とされる言語コンビネーションのすべてが作成されます。



### 対応するターゲット言語とともにソース言語を追加する

言語コンビネーションを削除するには、最左列のチェックボックスで行を選択して[選択行を削除]ボタンをクリックします。

このページの下部セクションでは、言語コンビネーションごとの概算見積り作成に使用する係数を編集できます。ここで設定する係数はシステム全体のデフォルト値となります。

以下を変更できます。

- **[価格係数]**: ベース価格は価格係数によって乗算されます。価格係数に「1」(デフォルト)が設定されている場合、価格は変更されません。価格係数に「1 よりも大きい数値」が設定されている場合は価格が増加し、価格係数に「1 よりも小さい数値」が設定されている場合は価格が減少します。
- **[期間係数]**: 価格係数に類似して翻訳プロセスの期間を変更し、期日に影響を与えます。
- **[最低料金係数]**: カスタマーの[最低料金]は[最低料金係数]により乗算され、最低料金が増加(>1)、減少(<1)、またはそのまま(=1)にされます。
- **[最小テキストカウント]** (単語または文字): デフォルト値は、指定されたいずれかの値(>= 0)により上書きされます。「-1」はデフォルトを採用するという意味です。
- **[価格設定方法]**: 単語数ではなく文字数を基に請求する場合、ここで設定します。日本語や中国語などの言語には文字数を使用します。

- **[利用可否]:** 以下の 3 つの選択肢があります。
  - [フル]:この言語コンビネーションはカスタマーと PM が利用できます。
  - [PM のみ]:PM のみがこの言語コンビネーションのプロジェクトを作成できます。
  - [停止]:この言語コンビネーションは提供しません。
- **[自動見積り]:** このフィールドによって、翻訳会社が早急に翻訳作業を開始できる一般的に使用される言語コンビネーション(自動見積り)と、まずリンギストに確認しなければ価格や納期を予測できない言語コンビネーション(非自動見積り)を区別できます。
- この列にはどのように言語コンビネーションが定義されたかが表示されます。黄色の星  はコンビネーションがシステム全体に対して定義されたことを示し、星のアイコンが表示されない場合はデフォルトの設定が使用されていることを意味します。

係数の設定変更は自動生成される見積りに反映されます。カスタマーは自動生成された見積りをシステムから受信するか、PM から通知を受けるかについては[自動見積り]列で定義します。

[選択行を更新]によってターゲット言語の数値の変更を一括して実行できます。これを実行するには、まず最左列のチェックボックスで任意の言語を選択し、[選択行を更新]行に設定を実施して[更新を適用](下向き矢印)をクリックします。



ターゲット言語	価格係数	期間係数	最低料金係数	最小テキスト分量	価格設定方法	利用可否	自動見積り
クリンゴン語	1.0	1.0	1.0	-1	1単語あたり	フル	☑️ 🌟
フランス語(フランス)	1.0	1.0	1.0	-1	1単語あたり	フル	☑️ 🌟
中国語(簡体字)	1.0	1.0	1.0	-1	1単語あたり	フル	☑️ 🌟
日本語	1.0	1.0	1.0	-1	1単語あたり	フル	☑️ 🌟
選択...	1.0	1.0	1.0	-1	1単語あたり	フル	☑️ 🌟

### [選択行を更新]機能を使用する

#### [インポート]タブ

[インポート]タブでは、必要な言語コンビネーションが保存された XML ファイルをアップロードできます。緑色の矢印のボタンをクリックするとサンプル ファイルをダウンロードできます。ダウンロードしたサンプルファイルはそのまま使用できます。またはサンプル ファイルをテンプレートとして使用し、必要に応じて変更することもできます。さらに、本マニュアルの末尾の『附録 2』にも例を掲載しています。[参照]ボタンをクリックして準備したファイルを選択し、[インポート]ボタンをクリックします。

[既存コンビネーションを削除]を選択した場合、既存する言語コンビネーションはクリアされ、新たな言語コンビネーションが作成されます。このオプションが選択されていない場合、新規の言語コンビネーションは既存の言語コンビネーションに追加されます。

## カスタマーエディタ - QA

[QA]タブではこのカスタマーに対して実行すべき QA チェックを設定できます。

カスタマー一覧 » Abcdefg » QA

カスタマー詳細

計算見直し併数

計算見直しオプション

言語コンビネーション

QA

主題併数

設定

使用

システムデフォルトQA

カスタマイズ済みQA

数字

不足または不正にフォーマットされた数字

単語内の数字

句読点

句読点後のスペース不足

文章内の句読点の重複

文章内のスペースの重複

句読点前のスペース

No spaces before punctuation marks required for French (Switzerland)

インライン周辺のスペース

2バイト文字周辺のスペース

文頭/文末のタブ/スペース

開き括弧と閉じ括弧の不統一

言語

波括弧内の翻訳不要テキストをチェック

禁止文字

同一のソースとターゲット

単語の重複

スペルエラー

用語集

却下用語の使用

訳語の不足

保存 リセット

カスタマーに対する QA のオプションを設定する

## カスタマーエディタ - 主題係数

[主題係数]タブでは、プロジェクトを作成する際に表示されるソース マテリアルの主題リストをカスタマイズできます。関連する係数を調整することによって、自動的に算出される価格見積りやプロジェクト期間を変更できます。



主題をカスタマイズする

## カスタマーエディタ - 設定

[設定]タブには以下のセクションが表示されます。

- プロジェクトのオプション
- 翻訳
- セットでファイルを結合
- セグメントステータス
- テキスト書式
- ワークフロー
- 機械翻訳
- 品質
- 用語集
- ソースファイルのプレビュー
- 注文書の設定
- TAUS DQF

これらのオプションの表示とデフォルト値は管理者による[コンフィギュレーション] > [翻訳]の設定に依存するものであり、このページではカスタマーごとのシステム設定をカスタマイズできます。

[プロジェクトのオプション]: このカスタマー用のデフォルト設定として変更するには[代替翻訳]を選択します。そして、XTM Editor に表示させる代替翻訳の個数を入力します。翻訳プロジェクト内の機密データをプレースホルダで隠すには[匿名化を使用]を選択します。

カスタマーエディタの設定オプションについての詳細は、本マニュアルの『[設定 — 翻訳](#)』を参照してください。[ソースファイルのプレビュー]:リングストが翻訳作業中にソースファイルをプレビューする外部システムの URL を入力します。

「[http://your\\_server.com](http://your_server.com)」または「[https://your\\_server.com](https://your_server.com)」といった形式の URL を入力するフィールドが 3 つあります。この機能を有効にするには、XTM から送られるパラメータに基づくサーバーコンテンツに対応するサービスを生成する必要があります。

サービスには、以下のパラメータが XTM から自動的に送られます：

- fileName
- srcLang
- tgtLang
- projectName
- projectId

ファイル名は、「ファイルのパス」+「ファイルの名前」で構成されています。ソースファイルが単独ファイルとしてアップロードされた場合、ファイル名はそのままになります。複数のソースファイルがディレクトリ構造を保持したまま ZIP に格納されてアップロードされた場合、ファイル名は「ファイルのパス」+「ファイル名」になります。

任意のカスタマー用の翻訳の設定

## TAUS DQF との統合

XTM に TAUS DQF (Dynamic Quality Framework) を接続させ、翻訳の生産性と品質を追求できます。XTM の[コンフィギュレーション]に TAUS を有効にするためのオプションがあります。TAUS アカウントを作成する前に TAUS に関するオプションを選択した場合、その時点以降に収集されたデータにアクセスできません。

XTM で有効に設定する前に、www.taus.net でアカウントを作成します。XTM から TAUS DQF へ直行して、サブスクライブできます。以下に TAUS へのリンクがあります。

- [コンフィギュレーション] > [ユーザ詳細]
- [ユーザ] > [ユーザを編集] > [一般]

XTM で TAUS プロジェクトを作成すると、TAUS Quality Dashboard に新しいマスター プロジェクトが作成されます。翻訳中に XTM から TAUS へ送られる翻訳ユニットには、ソーステキスト、ターゲットテキスト、XTM Editor 上でユーザにより確定された編集済みテキストが含まれます。

The screenshot shows the '設定' (Settings) page for a customer. The left sidebar contains navigation options like 'カスタマー詳細', '概算見積り係数', '言語コンビネーション', 'QA', '主語係数', and '設定'. The main content area is titled '設定' and includes sections for '用語集' (Glossary), 'ソースファイルのプレビュー' (Source file preview), '注文書の設定' (Invoice settings), and 'TAUS DQF'. The 'TAUS DQF' section is expanded, showing 'TAUS DQFを有効化' (Enable TAUS DQF) checked, '品質' (Quality) set to 'Good enough', and 'コンテンツの種類' (Content type) set to 'Other'. There are '保存' (Save) and 'リセット' (Reset) buttons at the bottom.

カスタマー専用の TAUS コンフィギュレーション

### XTM における TAUS アカウントの設定

- ユーザ専用の TAUS アカウントは、プロジェクトマネージャまたは管理者により[ユーザ] > [ユーザー一覧]にてユーザを選択 > [ユーザを編集] > [一般]で設定できます。
- ユーザは、[コンフィギュレーション]タブ(歯車アイコン) > [ユーザ詳細]タブで個別の TAUS アカウントの詳細を入力できます。

### カスタマー プロジェクトマネージャを追加する

[カスタマー] > [CPM]タブで[CPM を追加]をクリックしてフィールドに入力します。

セクション②では CPM のアクセス権限を設定できます。

The screenshot shows the 'アカウント権限' (Account Permissions) section. It has a header with a question mark icon. Below the header, there are two main sections: '役割' (Role) and 'ワークフローへのアクセス' (Access to workflow). The 'ワークフローへのアクセス' section is expanded, showing a list of actions: '提案', '追加', '更新・承認', '削除', '表示'. The '表示' action is selected. There are also '表示' and '変更' buttons at the bottom of the list.

[CPM を追加]のセクション②

[ルール]リストで、該当する CPM がプロジェクトに対する変更を実行できるかどうかを定義します。

- マネージャは[一般]タブの情報を変更できますが、ワークフローは変更できません。
- 閲覧者は一切の変更を行うことができません。

[ワークフローへのアクセス]には 4 つのオプションがあります。

- [最小]: ファイルの最小ステータスについての情報のみを表示します。バンドルに関する情報は一切含まれません。
- [標準]: 各バンドルのステータスを表示します。
- [信頼済み]: ワークフローの各ステップを表示します。しかしながらリングリストの名前は表示されません。CPM は読み取り専用モードでエディタを開くことができます。
- [エディタアクセスを伴う信頼]: [信頼済み]と同じですが、エディタへのアクセス権を有します。

[用語集へのアクセス]では、CPM に付与する用語集に対する機能性を選択できます。

セクション④では、カスタマーと、該当する CPM が一次窓口担当であるかを選択します。



[CPM を追加]のセクション④

## ユーザ

### ユーザを追加する

管理者はいずれのロールを有するユーザをも追加して編集できます。自分以外に別の管理者を追加することも可能です。プロジェクトマネージャは、管理者以外のロールすべてを有するユーザの追加と編集が可能です。管理者または PM 以外のロールを有するユーザは、ユーザを追加または編集できません。自らの詳細を編集できるのみです。

お使いのシステムでユーザを追加するには[ユーザ]タブをクリックし、ユーザー一覧上の[ユーザを追加]ボタンをクリックします。まず、ユーザに関する一般情報を入力します。入力必須フィールドは赤色のアスタリスクで示されています。[ロール]フィールドでユーザタイプを決定します。ユーザが実行するロールを選択します。ロールに[リングスト]を選択した場合、リングストが参加するワークフロー ステップを下側のボックスで選択します。

[保存]をクリックすると、ほかのタブでの入力を求められます。

### ユーザエディタ - 一般

#### ユーザ > 一般情報

ユーザがリングストである場合、[費用作成のためのダミーユーザ]オプションを選択できます。このユーザは、ワークフローのステップにリングストがまだアサインされていないプロジェクトの費用を算出する際に使用されるレートカードのユーザリストに追加されます。

選択したロールによって左側に表示されるタブが変わります。以下のオプションがあります。

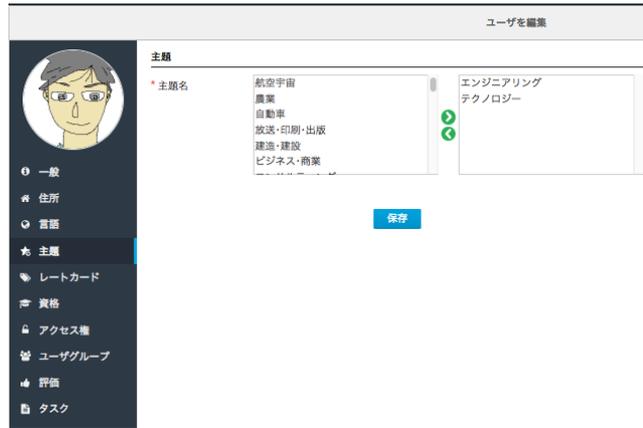
**ユーザエディタ - 住所:** ユーザの住所と、その他の連絡先詳細を入力します。

ユーザ > 住所

**ユーザエディタ - 言語:** ユーザがリンギストの場合、対応可能な言語を定義する必要があります。[言語を追加]ボタンをクリックし、任意のソース言語とターゲット言語を選択して[保存]をクリックします。

ユーザ > 言語

**ユーザエディタ - 主題:**ユーザが専門としている主題を選択します。



ユーザ > 主題

**ユーザエディタ - レートカード** X:TM には柔軟性の高いレートカード機能が装備されており、定義された通貨での請求プロセスを実行できます。

各レートカードには以下を設定できます。

- レートカードを識別するための名前
- 価格決定の概要やレートカードの用途
- レートカードが有効か無効か
- 1つ以上の言語コンビネーション > 単一の言語または言語グループ
- 1つ以上の主題

タスクに関する費用をどのように算出するかを定義できます。係数または実際価格をベースにできます。さらに、単語または文字をベースに算出するかどうかも定義できます。

係数を選択した場合、基本価格を入力する必要があります。費用を算出するには各ステップのマッチタイプごとのパーセンテージ値で乗算されます。

実際価格を選択した場合、各ステップの各マッチタイプに対して実際の価格を入力する必要があります。

どちらの計算においても以下を定義できます。

- 1日あたりの単語数
- 最低料金

[一般固定価格]には以下を定義できます。

- プロジェクトあたりの固定価格
- 言語あたりの固定価格
- ファイルあたりの固定価格
- 管理費(%)

ワークフロー ステップごとに以下を定義できます。

- プロジェクトあたりの固定価格
- 言語あたりの固定価格
- ファイルあたりの固定価格
- 管理費(%)
- 特急案件プレミアム > 急ぎ案件に対する割増(%)
- 最低料金

### 時間あたりの価格

[あいまいマッチ]に対するレートの[係数]および[実際価格]は、グローバルまたは個別の値として帯ごとに設定できます。

 や  のアイコンをクリックしてステップを追加または削除することもでき、下部の青色の矢印を使用してワークフロー ステップ間の値をコピーできます。

レートカードの入力を完了し、[保存]ボタンをクリックします。

### ユーザ > レートカード

**ユーザエディタ - 資格:** ユーザの免許や資格を入力します。

### ユーザ > 資格

**ユーザエディタ - アクセス権:** ユーザに[管理者]以外のロールを付与した場合、[アクセス権]タブが表示されます。このタブでは、これらのエリアにおいて該当ユーザが実行できることを定義できます。

## カスタマー

カスタマーを特定しない場合、ユーザはすべてのカスタマーのプロジェクトで作業が可能です。ユーザが全カスタマーへのアクセスを有する場合、新たに作成されるカスタマーへもアクセスできます。リストから一部のカスタマーが選択された場合、ユーザは選択済みのカスタマーに対してのみアクセスできます。この場合、新たに作成されたカスタマーのプロジェクトは閲覧できません。

## プロジェクト

[このユーザのプロジェクトのみを表示]オプションを選択した場合、ほかのユーザが作成したプロジェクトは閲覧できません。

## エディタ

ユーザに対して任意のセグメントをロックおよびロック解除すること、ロック解除のみすること、またはロックの権限は付与しないよう設定できます。また、ユーザが XTM Editor でメトリクスを表示できるかどうかも決定します。

## LQA

被評価者または評価者に対する LQA 結果を閲覧するためのアクセス権をユーザに付与した場合、[タスク]タブに[LQA]タブが表示されます。付与された権限によって、該当ユーザが被評価者または評価者、もしくは両方として関連したプロジェクトが[LQA]タブが表示されます。

## 用語集と翻訳メモリ

TM と用語集に対して:2 つのアカウント タイプがあります。

- 3) カスタマー限定 - この[アカウントの種類]では、選択されたカスタマーの TM と用語集にのみアクセスできます。このオプションが選択された場合、対象カスタマーをセレクトボックスで選択します。
- 4) グローバル エキスパート - この[アカウントの種類]では、システム上のカスタマーすべての TM と用語集にアクセスできます。

また、ユーザが TM や用語集へアクセスするに際して、[ユーザの言語コンビネーション]にのみ限定するよう設定することもできます。

用語集について、変更、インポート、エクスポート、閲覧、用語の追加をユーザが実行できるかどうかを定義できます。また、TM について、変更、インポート、エクスポート、閲覧をユーザが実行できるかどうかを定義できます。

## コンコーダンス

[TM メタデータとコンコーダンスへのアクセス]: ユーザに対するシステムのグローバル設定を使用するよう、XTM インスタンスに設定できます。もしくは、ユーザごとに権限を定義することもできます。以下のオプションがあります。

- グローバル設定を使用
- フルアクセス
- カスタマーの詳細情報なしでアクセス
- カスタマーまたはプロジェクトの詳細情報なしでアクセス
- アクセスなし



ユーザ > アクセス権

**ユーザエディタ - ユーザグループ:** 対象ユーザをいずれかのユーザグループに追加する場合、[ユーザグループ]タブを選択します。そして、左側のボックスに表示されるユーザグループの内、追加を希望するユーザグループをダブルクリックします。



ユーザ > ユーザグループ

**ユーザエディタ - 評価:** ここには 2 つのタブがあります。

[品質]タブにはリングストに対する LQA (Linguistic Quality Assessment、言語品質評価)の結果が表示されます。リングストがアサインされたステップの後のワークフロー ステップにおいて実行される LQA にて、結果が収集されます。LQA 結果は、[ワークフローエディタ]ウィンドウにて LQA リストから[はい、ユーザレコードに結果を保存]を選択したときのみ、リングストに対して保存されます。

## XTM ユーザ マニュアル - プロジェクトマネージャ

プロジェクト名	ソース言語	ターゲット言語	ワークフローステップ	ファイル名	スコア	単語	評価者	テスト完了
022-TAUS_DQF	英語(英国)	日本語	translate1	1_Pudding.docx	84%	92	光江 麗美宇	2017/04/13 15:06
201704-LQA	英語(英国)	日本語	translate1	1_Pudding.docx	89%	87	光江 麗美宇	2017/04/15 19:41
J15_prj001	英語(英国)	日本語	translate1	J15_prj001.txt	0%	4	光江 麗美宇	2017/07/24 21:29

### リングリストのLQA 結果

[時間厳守]タブにはリングリストによる納品の適時性が値(%)として表示されます。プロジェクトごとに各ワークフロー ステップが完了する際、XTM では自動的に検証され、平均値が算出されます。

このスクリーンには表示されるデータは、平均品質および時間厳守のスコア、さらにプロジェクトごとの個別の品質スコアに関する情報を提供します。期日が守られた、または期日に遅れたプロジェクトの一覧を表示するには、[時間厳守]タブに切り替えます。PM は手元のタスクに対してこのリングリストが適任であるかを確認するべく、スコアやプロジェクトの詳細を確認できます。

**ユーザーエディタ - タスク:** このタブには該当ユーザによって実行された LQA の一覧が表示されます。PM はプロジェクト エディタを開き、一覧から LQA レポートをダウンロードまたは削除できます。

プロジェクト名	ソース言語	ターゲット言語	ワークフローステップ	ファイル名	スコア	単語	評価者	テスト完了
201610-012-LQA	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	83%	69	木王 千江区	2016/10/26 21:44
045_tausdqf-02_20170413	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	94%	95	木王 千江区	2017/04/13 13:34
022-TAUS_DQF	英語(英国)	フランス語(フランス)	translate1	1_Pudding.docx	89%	138	france checker	2017/04/13 14:00
201704-LQA	英語(英国)	日本語	translate1	1_Pudding.docx	84%	92	仮名子 静訳	2017/04/13 15:06
022-TAUS_DQF	英語(英国)	フランス語(フランス)	translate1	1_Pudding.docx	97%	115	Fran&Coet/loise Amelie	2017/04/13 15:08
201704-LQA	英語(英国)	日本語	translate1	1_Pudding.docx	89%	87	仮名子 静訳	2017/04/15 19:41
022-TAUS_DQF-v10.3	英語(英国)	フランス語(フランス)	correct1	1_Pudding.docx	81%	119	france checker	2017/04/24 21:35
067_LQA-assignee	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	25%	4	木王 千江区	2017/07/10 21:20
067_LQA-assignee	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	60%	10	木王 千江区	2017/07/10 21:22
J15_prj001	英語(英国)	日本語	translate1	J15_prj001.txt	0%	4	仮名子 静訳	2017/07/24 21:29
012_LQA-170724	英語(英国)	日本語	translate1	2_bbmouse.docx	0%	8	仮名子 静訳	2017/07/24 22:21
005-LQA	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	0%	3	木王 千江区	2017/08/11 23:23
005-LQA	英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	0%	24	江崎翻訳会社	2017/09/28 09:43

### ユーザ > タスク

## リングリストをインポートする

### リングリストをインポートする

別のコンピュータ システム上に翻訳者やレビューアーのリストがある場合、このリストを Microsoft Excel ファイルにエクスポートし、書式が適切であることを確認してから XTM へインポートすることを推奨します。Excel ファイルのテンプレートは緑色の矢印をクリックしてダウンロードできます。ファイルの仕様については『附録 4』を参照してください。

## ユーザを確認する

[ユーザ]タブで[ユーザー一覧]をクリックするとすべてのリングリストが表示されます。レコードを編集するにはユーザの名前をクリックします。最左列をクリックするか、任意のユーザを右クリックするとコンテキストメニューが表示され、リングリストのレコードを編集または削除できます。コンテキストメニューからは以下を実行できます。

- ユーザを編集
- XTM へのログインや、いずれかのアクションの実行を制御する、もしくは権限を管理するためにユーザを有効化または無効化します。任意のユーザが無効にされた場合、進行中プロジェクトからも担当を解除され、新規プロジェクトにアサインされることは不可能となり、メール通知を受けることなく、[高度な検索]で検出されることもありません。
- [稼働状況]に[対応不可能]を選択することによって、休暇中、病欠、新規案件の受注は見送っている旨を示すことができます。また、受注可能になった場合は[対応可能]を選択します。
- 休止期間が長いために自動的に無効化されたユーザの無効解除
- ユーザを削除



リングリストに対するコンテキストメニュー

最右列のアイコン  をクリックするとユーザに関する追加情報が表示されます。



各ユーザに関するポップアップの情報

## ユーザを検索する

特定のユーザを検索するには[検索]フィールドに入力して[検索]ボタンをクリックします。ユーザ名、名、姓、メールアドレスを対象に検索が実行されます。



リングリストを検索する

## ユーザグループ

XTM では、先着順、優先順、チャット用のユーザグループを作成できます。[先着順]グループおよび[優先順]グループは、ワークフロー上のタスクをアサインできます。新しいタスクが用意されている旨、[先着順]グループのメンバー全員が通知メールを受け取ります。ユーザの1名がタスクを受け入れるとXTMに自動的に記録され、同じグループの他のメンバーにはタスクがすでに利用できないことが通知されます。[優先順]グループには、グループ内の第1メンバーに通知メールが送信されます。メールを受信したリングリストはタスクを受諾または辞退できます。タスクが拒否された場合、グループ内の第2メンバーにメールが送信され、グループ内のいずれかのリングリストが該当タスクを受諾するまで繰り返されます。

[チャット]グループにはワークフロー上のいずれのタスクもアサインできませんが、XTM Messenger機能の[チャット参加者を選択]オプションを使用してオープンされたいずれのチャットにも追加できます。プロジェクトにアサインされた担当者には関与しません。

[ユーザグループ]タブをクリックすると既存のユーザグループが一覧表示されます。

名前	タイプ	概要	ワークフローステップ	ユーザ
EJ_translator	先着順	英日翻訳者、先着順	翻訳	Yumiko Mitsuji 美津 生良 仮名子 翻訳
webinar_group	優先順	Webinarプロジェクト限定翻訳者	翻訳	藤 上 雅 訳 上 雅
トーク	チャット			太玉 千江区 仮名子 翻訳 阿藤 民 ...
仏日翻訳	先着順	フランス語から日本語へ翻訳できる人たち	翻訳	Françoise Amelie 仮名子 翻訳 光江 雅美子

## ユーザグループの一覧

新しいユーザグループを追加するには[追加]ボタンをクリックして詳細を入力します。

## 新しいユーザグループを追加する

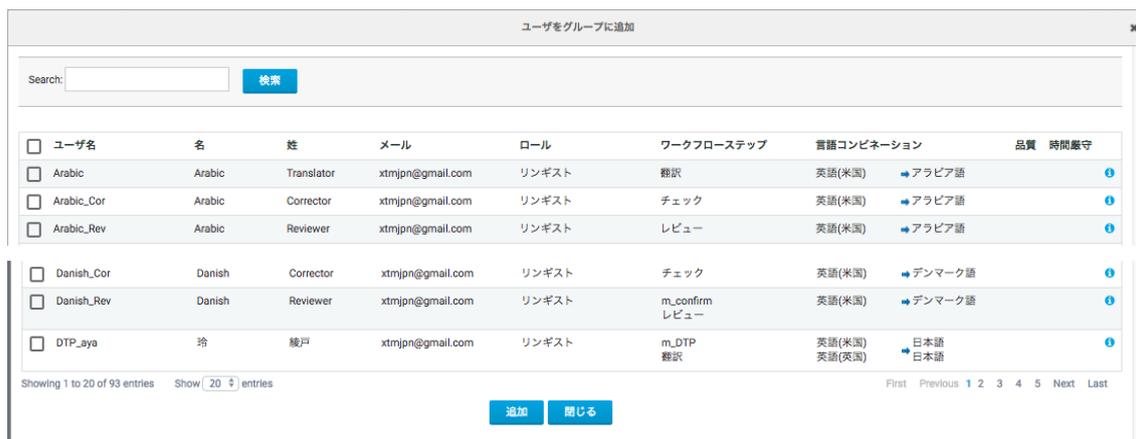
[優先順]ユーザグループを選択した場合: このグループ内で、ワークフローのタスクを自動的にアサインする優先順位を選択できます。優先順を変更するには、該当ユーザを希望の順位へドラッグ アンド ドロップします。

## XTM ユーザ マニュアル - プロジェクトマネージャ



### [優先順]グループ内でユーザの順位を変更する

左側の[ユーザ]タブをクリックするとグループに属するユーザが表示されます。任意のグループへユーザを追加するには、ユーザレコード上でも、[ユーザを追加]ボタンをクリックする操作でも可能です。グループへ追加を希望するユーザのレコード上、最左列のチェックボックスを選択して[追加]ボタンをクリックします。



### ユーザーグループへユーザを追加する

最後に、ユーザーグループに対して言語コンビネーションを定義します。これで、該当する言語コンビネーションのプロジェクトにおけるプロジェクトエディタの[ワークフロー]タブで、ワークフロー上のタスクをユーザーグループにアサインできるようになります。



### ユーザーグループの言語コンビネーションを指定する

## プロジェクト

### プロジェクトを作成する

翻訳の依頼を受けた際、新しいプロジェクトを作成してファイルをアップロードし、ワークフローを定義して、プロジェクトを翻訳チームにアサインする必要があります。XTM Engine によってドキュメントは自動的に解析され、テキストが抽出され、翻訳メモリが適用されます。そして、ワークフロー上のタスクをリングストにアサインします。リングストは保留中のジョブがあるというメールを受け取ります。メールに記載されているリンクをクリックすると XTM が表示されるのでログオンし、翻訳やレビューのタスクに着手します。ワークフローの最終ステップでは翻訳やレビューが完了したことが通知されます。訳文ファイルが自動的に作成され、ダウンロードできるようになります。

プロセスを開始するため、[プロジェクト]タブで[プロジェクトを追加]をクリックします。プロジェクト作成時に表示されるオプションは XTM 管理者によって設定された権限とコンフィギュレーションに依存します。ユーザに対して有効な設定のみが表示されるため、本マニュアル掲載のスクリーンショットとは表示内容が異なることもあります。

### 一般情報

まず、ドロップダウンリストから[カスタマー名]を選択します。

The screenshot shows the XTM web application interface for creating a new project. The top navigation bar includes 'プロジェクト', 'カスタマー', 'ユーザ', 'タスク', 'コンソーダンス', 'TM', '用語集', and 'Xchange'. Below the navigation, there are tabs for 'プロジェクト一覧', 'テンプレート', and 'ダッシュボード', along with a green 'プロジェクトを追加' button. The main content area is titled '一般情報' and contains several input fields: 'カスタマー名' (dropdown menu with 'Test' selected), 'プロジェクト名', '概要' (text area), '参照ID', '期限日', '前の設定を使用' (checkbox), and 'テンプレート' (dropdown menu with '選択...' selected).

#### 新しいプロジェクトを作成する

[カスタマー名]を選択すると[プロジェクト作成]画面の残りのセクションが表示されます。利用可能なランゲージ コンビネーションは、該当するカスタマーまたはシステム全体に対してカスタマイズされた内容が反映されます。

プロジェクトに関する一般情報である[プロジェクト名]、[概要]、[参照 ID]、[主題]、[期限日]を入力します。[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト]タブにて[ワークフローステップ期限日を自動計算]を選択した場合、期日に関する 2 つのオプション[ワークフロー開始日]と[ワークフロー期限日]表示されます。これらのフィールドは、自動的に算出される納期の正確性を増すために記入することも、空にしておいて算出された値を使用することも、代わりに納品期限日を使用することもできます。

[前の設定を使用]オプションを選択すると、このカスタマー用に最後に使用した設定すべてが自動的に反映されます。

グローバル テンプレートや、このカスタマー専用のテンプレートやがある場合、[テンプレート]リストから選択できます。テンプレートに保存されている設定内容が自動的に反映されます。

## 翻訳

[翻訳]セクションではドキュメントのソース言語と、1つ以上のターゲット言語をリストから選択します。[翻訳用]フィールドの[ファイル選択]ボタンをクリックして、翻訳対象のファイルをアップロードします。ファイルを選択して[開く]をクリックすると、このフィールドにドキュメントへのパスが表示されます。複数の翻訳対象ファイルを1つのZIPに格納してアップロードすることもできます。XTMへ1度にアップロードできるファイルサイズは150MBに制限されています。150MB以上のファイルをZIPファイルに格納すると、圧縮されて150MB以下の容量に軽減されることがあります。

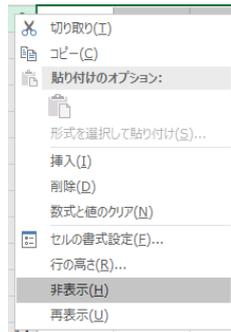
XTMでは、翻訳対象ファイルとして以下のファイル形式をサポートしています。

<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft Office (doc, docx, xls, xlsx, ppt, pptx, xlsx)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Microsoft Visio (vdx)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Open Office (sxw, odt, ods, odp)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Java プロパティファイル</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Adobe FrameMaker (mif)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JSON</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Adobe InDesign (idml, indd, indb)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DITA</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Adobe Photoshop (psd)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>po, pot</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Adobe Illustrator (fxg, svg)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>yml, yaml</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>PDF (Word ファイルへ変換)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>asp, aspx, ascx</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>txt</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>resx, resw</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>rtf</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>rc</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ini</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPhone アプリ(ストリング)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>xlf, xliff</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Android アプリ(xml)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>MemoQ (mqxliff)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>sdf</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Trados Studio (sdlxliff)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テンプレート (tpl)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Trados (ttx)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>svg</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Wordfast (txml)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SubRip text (srt)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>xml</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SalesForce (stf)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>php</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Digia QT (ts)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>html, htm xhtml, xht shtml, shtml</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Markdown (md)</li> </ul>

### MS Office ファイルをプロセスする

Microsoft Word または Excel の文書を翻訳する場合、以下のいずれかのスタイル (Donottranslate、donottranslate、DoNotTranslate、tw4winExternal) を作成してテキストに設定することで翻訳対象外に設定できます。

代替策として、Microsoft Word では対象テキストを隠し文字にする、または Microsoft Excel では該当行・列を非表示にすれば翻訳対象として取り扱われません。



Microsoft Excel で列を非表示にする



Microsoft Word でテキストを隠し文字にする

MS Word ドキュメントに Excel ファイルが埋め込まれている場合、Excel のテキストは翻訳対象となります。しかしながら、翻訳対象は使用された Excel ファイルに依存します。XLS の場合、すべてのシートが翻訳対象とされます。XLSX の場合、アクティブなシートのみが翻訳対象とされます。

Microsoft Word ファイルに目次 (TOC: Table Of Contents) が含まれている場合、翻訳対象としては扱われません。翻訳後、MS Word 上で TOC を自動的に再作成できます。MS Word 上で訳済み文書を開き、右クリックメニューから[フィールドの更新]を選択します。

### XLIFF ファイルをプロセスする

標準 XLIFF ファイルのプロセスに加え、XTM では以下の特殊なパイリンガルの XLIFF ファイルもプロセスできます。

- Easyling
- Ixiasoft
- SDLXLIFF

Easyling と Ixiasoft について、翻訳ユニットに 2 文以上が含まれる場合、セグメントは分割されず翻訳ユニットごとに 1 セグメントに格納されます。

SDLXLIFF には 2 つのオプションがあります。

- 1) セグメント済みソース
- 2) セグメント未処理ソース

オプション 1)、セグメンテーションは保持され、XTM によってさらにセグメント化されることはありません  
 オプション 2)、XTM によってセグメント化されます。SDL セグメンテーションを保持して 2 つのツールの翻訳メモリに一貫性をもたせるには、オプション 1 の使用が推奨されます。

### XTM Visual Editor で HTML ファイルをプロセスする

ビジュアル エディタで HTML ファイルをプロセスするには、WYSIWIG 表示を確実にすべく、画像が適切に取り扱われるよう注意する必要があります。次の例は、イメージへの相対パスを含むシンプルな HTML ファイルです。これを XTM でプロセスする場合、ビジュアル エディタにはイメージは表示されません。

```
<html>
<head>
</head>
<body>

</body>
</html>
```

イメージを表示させるには 2 つの方法があります。

- 1) HTML にはイメージへの完全な URL を含める必要があります。  
例: `<img src=http://xtm-intl.com/stickman.gif>`
- 2) HTML ファイルのヘッダー要素にはベースタグを含める必要があります。  
例:  
`<head>`  
`<base href="http://xtm-intl.com/" target="_blank">`  
`</head>`

### XTM Connect for Adobe InDesign

Adobe InDesign Server とのオプション コネクタを購入済みの場合、追加のプレビュー機能があります。InDesign Server はお客様自身でライセンス許諾を得ていただくか、または弊社インスタンスへのアクセス提供が可能です。

このコネクタによって以下の実行が可能です。

- 1) INDD ファイルのアップロードと解析
- 2) XTM Visual Editor を活用してコンテキストを見ながら翻訳をレビューし、リアルタイムでターゲット テキストを更新します。ドキュメント内の特定のページへジャンプするオプションもあります。
- 3) ターゲットファイルの WYSIWYG PDF の生成
- 4) ただちに、簡易に翻訳します。プレビューPDF には XTM Editor 上の該当セグメントとのライブリンクが含まれます。

INDD または IDML ファイル内のイメージは、埋め込みでも、リンクされていても対応します。お使いの XTM アカウントに InDesign が設定された場合、プロジェクト作成画面の[追加のファイル]セクションに[プレビューファイル]という名前のオプションが置かれます。リンクされたイメージや、ドキュメントのフォントはこのセクションでアップロードできます。



#### プロジェクトを作成する > プレビューファイルをアップロードする

ターゲット言語ごとに、イメージを含むディレクトリ構造を保持した ZIP をアップロードできます。プロジェクトの稼働中はいつでもイメージを更新できます。[プロジェクト エディタ]を開き、[一般情報]タブの[プレビューファイル]セクションでイメージファイルを選択できます。

プレビューファイルの ZIP のディレクトリ構造の例は以下のとおりです。

- path\_to\_image/graphic1.png
- path\_to\_image/graphic2.png
- pl-PL/path\_to\_image/graphic1.png
- fr-FR/path\_to\_image/graphic1.png

InDesign のプレビュー メソッドでは、まず、ローカライズされたディレクトリのレベルからグラフィックスを取得します。グラフィックスがまだローカライズされていない場合、ソースのグラフィックスが使用されます。つまり、グラフィックスはローカライズされている必要はなく、ローカライズ データ用のフォルダに置かれている必要はありません。

プレビュー ファイルの更新は、主たるプロジェクトマネージャが実施する必要があり、サブコントラクタは実行できません。

## その他フィールド

XTM が対応していない形式のファイルをアップロードしようとする警告が表示され、プロジェクトは作成されません。

The screenshot shows the '翻訳' (Translation) settings page. Key fields include:

- ソース言語** (Source Language): 日本語 (Japanese)
- プリプロセス** (Pre-process): はい、ソースのセグメンテーション (Yes, source segmentation)
- 新規ソース言語** (New source language): 選択... (Select...)
- ターゲット言語** (Target Language): ヤップ語(アメリカ), ヨルバ語, ラオチアン語, 英語(英国) (Yapese (USA), Yoruba, Lao, English (UK))
- 主題** (Subject): その他 (Other)
- TAUS DQFを有効化** (Enable TAUS DQF):
- TAUS DQF quality level**: High Quality
- TAUS DQF content type**: User Interface Text
- 翻訳対象** (Translation target): ファイル選択 選択されていません (File selection Not selected)
- 解析テンプレート** (Analysis template): Template Images
- ファイルを結合** (Combine files):
- 追加のファイル** (Additional files):
- 参考資料** (Reference material): ファイル選択 選択されていません (File selection Not selected)
- プレビューファイル** (Preview file): ファイル選択 選択されていません (File selection Not selected)
- セグメントID画像** (Segment ID image): ファイル選択 選択されていません (File selection Not selected)

### プロジェクトを作成する > [翻訳]セクション

プロジェクト作成で[プリプロセス]を利用するには、[コンフィギュレーション]タブで有効にしておく必要があります。[プリプロセス]は以下の目的で使用できます。

- セグメントをロックして翻訳されないようにする。
- オリジナルのソース言語と新規ソース言語に同じ言語を設定して、ターゲット言語への翻訳前にソーステキストを編集する。
- 翻訳プロセスにおいて中間言語を利用する。この場合、ソース言語はまず任意のターゲット言語に翻訳されます。そしてこのターゲット言語が、今度はほかの複数のターゲット言語へ翻訳するための新しいソース言語となります。

**主題**: プロジェクトに対して有意義で正確な翻訳を提供するための知識フィールドを定義します。プロジェクトの主題に一致する専門分野を得意と謳うリングストを選ぶことが推奨されます。

**TAUS DQF を有効化**: TAUS DQF がシステム レベルで有効にされた場合、TAUS DQF サービスを使用して翻訳の品質と生産性を追跡できます。TAUS プロジェクトには追加設定があり、翻訳の品質レベルとして「High Quality (高品質)」か「Good Enough (十分)」が期待されているかを選ぶこともできます。プロジェクト データは TAUS DQF content type (コンテンツの種類)を使用して、TAUS 上でカテゴライズすることも可能です。

**解析テンプレート**: アカウントに対して解析テンプレートが作成されているとこのフィールドが表示されます。[解析テンプレート]は、ソースファイル上の特定のソーステキストに対して多様な目的を達成するために使用できます。たとえば製品名が確実に翻訳されないように、または、翻訳が必要なセグメント上のコードを隠すなどの設定が可能です。ファイル解析プロセスの一部として正規表現を使用して解析テンプレートを設定する場合、弊社が支援いたします。

正規表現は以下のように使用できます。

- 翻訳を開始する前にソーステキストをインライン要素として変換し、ターゲットファイルではオリジナルのテキストとして復元することが可能です。%value%や\${value}のようなテキスト内の変数に対しては特に便利であり、翻訳者によって変数が意図せず破損されることを回避できます。翻訳対象の単語数も削減されます。このプロセスはすべてのファイルタイプに対して、または、任意のプロジェクト専用の「解析テンプレート」の一部として設定できます。
- ソースドキュメントの特定のテキストを変換:たとえば、特定の単語のインスタンスすべてを自動的に別の単語に置き替えることもできます。正規表現は翻訳対象として認識されているコンテンツに対してのみ適用されるので、非表示のコンテンツはそのまま保持されます。このオプションはファイルタイプごとに設定される必要がありますが、解析テンプレートの一部としても設定できます。
- ソースドキュメントの特定のテキストをストリング メタデータへ変換:たとえば、コンテキストまたはストリングのロケーションを記述するためにテキストが使用されているインスタンスすべてを、自動的に XTM Editor の特定のカラムへ変換させることもできます。表示させるメタデータの分量やカラム数に制限はありません。正規表現はメタデータとして定義したコンテンツにのみ適用されます。このオプションはファイルタイプごとに設定される必要がありますが、解析テンプレートの一部としても設定できます。
- ソースドキュメントの特定のテキストをストリング メタデータへ変換:たとえば、ストリング長をリストしたインスタンスすべてを、自動的に XTM Editor 上の長さ制限に変換して使用することもできます。つまり、翻訳テキストが長すぎる時には警告が表示されます。正規表現は、正規表現によって特定されたコンテンツに対してのみ適用されます。このオプションはファイルタイプごとに設定される必要がありますが、解析テンプレートの一部としても設定できます。
- ソースファイルに挿入されたコメントを、標準的なセグメントのコメントとして追加します。こうすることで、ソースファイルに含まれる付加的なコンテキストやストリングに関する指示が遵守されます。
- ソースドキュメントの言語コードを検知:定義された場合、ターゲット言語は適正なエリアに XTM によって自動的に置かれます。たとえば特定のカラムにテキストが置かれていて、ターゲット言語は隣接するカラムに挿入される必要がある場合、これが自動化されることによって多言語ファイルに対する事後作業が軽減されます。このように解析テンプレートを使用するためには、XTM の言語コードを使用してファイルタイプごとにシステム設定(解析テンプレートの一部として設定することも可能)を実施する必要があります。
- ソースドキュメントのストリング ID を検知:定義された場合、セグメントの下部に適正なストリング ID が XTM によって自動的に置かれます。こうすることで、Excel ファイルを対象に[ID ベース マッチング]を使用できます。たとえば XTM でストリング ID ベース マッチングが使用される場合、セグメントと画像をリンクする、XTM Editor 上で ID を基準にしてセグメント フィルターを使用することが可能になります。ソフトウェアのローカリゼーションにおいてはきわめて便利であり、翻訳メモリのマッチングを飛躍的に向上させます。このオプションはファイルタイプごとに設定する必要がありますが、解析テンプレートの一部としても設定できます。

**ファイルを結合:**このオプションによって同じファイル形式のファイルをマージできます。プロジェクトが作成されると、ファイル形式ごとに結合された 1 つのファイルとして表示されます。ファイル結合にはさらにオプションがあり、[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト] > [セットでファイルを結合]で設定します。

こうすることで翻訳ワークフローは大いに簡略化されます。この結合機能を使用するには、全ファイルを単一の ZIP ファイルに格納してアップロードする必要があります。

**追加のファイル:**[参考資料]フィールドには、PDF ファイルや用語解説など翻訳作業を支援する参考資料をアップロードできます。このフィールドは、[プレビュー]ファイルや[セグメント ID 画像]ファイルをアップロードするためにも使用します。

## ワークフロー

[ワークフロー]セクションでは、プロジェクト全体に対してあらかじめ定義されたワークフロー テンプレートの 1 つを選択することも、ターゲット言語ごとに異なるワークフローを選択することもできます。このセクションにはワークフローに関するその他設定も含まれます。

プロジェクトを作成する > [ワークフロー]セクション

**[全セグメントが緑/処理済みの場合はステップを自動的に完了]:** このオプションを使用して、全体的にマッチがあるファイルはワークフロー上の次のステップへ自動的に進めることができます。

**[解析不可能ファイルのワークフロー]:** デフォルトでは、画像などの解析不可能ファイル、破損ファイル、空のファイル、XTM 未対応ファイルがワークフローに含まれることはありません。このオプションを有効にしてこれらのファイルをワークフローに追加し、同じワークフローまたは、これらのファイルに対して別のワークフローを選択できます。

## ワークフロー定義

**プロジェクト** 1 つのソース言語の 1 つ以上のファイルを 1 つ以上のターゲット言語へプロセスすること。  
**ジョブ** 1 つのファイルをソース言語からターゲット言語へプロセスすること。  
**ステップ** XTM のデフォルトのワークフローは複数のステップで構成されています。デフォルトで使用できるステップについては、以下の表を参照してください。

ステップ名	ユーザ機能
翻訳	ターゲットテキストの編集 手動でのコメント挿入
チェック	ターゲットテキストの編集 手動でのコメント挿入。ターゲットテキストが変更された場合、発生した変更を記録するために新規コメントが自動的に作成されます。
レビュー	手動でのコメント挿入
TM 承認	変更されたセグメント、[済み]としてマークされたセグメントや ICE およびレバレッジドマッチ セグメントの TM は自動的に承認されます。
LQA	ユーザが翻訳エラーをチェックできます。

システム管理者はカスタム ステップを作成することもできます。

- バンドル プロジェクトマネージャは、[バンドル]と呼ばれるセクションにテキスト セグメントを分割できます。そしてバンドルごとにリングストをアサインできます。
- タスク 1つのステップでバンドルをプロセスすることを[タスク]と言います。

新規プロジェクトを作成する際、デフォルトではジョブごとにファイルのすべてのセグメントが含まれます (例:ドキュメントに 150 セグメントがある場合、XTM では 1~150 のセグメントに対するタスクが作成されます)。そして PM はデフォルトのタスクを小さなパーツに分割できます。プロジェクトのバンドルそれぞれがワークフロー上の同じステップにしたがいます。

XTM には、下記のとおり多数のワークフローがデフォルトで用意されています。

- 翻訳
- 翻訳 # レビュー
- 翻訳 # レビュー # レビュー
- 翻訳 -> チェック
- 翻訳 -> チェック -> チェック
- 翻訳 , チェック
- 翻訳 , チェック -> レビュー
- 翻訳 , レビュー
- 翻訳 , レビュー -> レビュー
- 翻訳 # チェック
- 翻訳 -> チェック # レビュー

ステップの間では[, ], [-> ], [#]を選択できます。

[, ]では、2つのステップを同時に進行できます。

[->]では、前ステップが終了するまで、各バンドルで次のステップを開始できません。

[>]では、全バンドルの前ステップが完了するまで、次のステップは開始できません。

タスクごとに、リングストは以下の3つを実行できます。

- タスクを完了
- タスクを拒否
- タスクを辞退 - リングストがタスクを辞退した場合、PM は該当タスクを他者にアサインする必要があります。

ワークフローの例 1 で上記にならうと:

**例 1**

	翻訳 1	,	レビュー1	->	レビュー2
バンドル 1	タスク(翻訳 1,バンドル 1)	,	タスク(レビュー1,バンドル 1)	->	タスク(レビュー2,バンドル 1)
バンドル 2	タスク(翻訳 1,バンドル 2)	,	タスク(レビュー1,バンドル 2)	->	タスク(レビュー2,バンドル 2)

このワークフローの例では、

- ワークフローが開始されると、[翻訳者 1]と[レビュアー1]は同時に作業を実行できます。
- ワークフローの開始時、[レビュー2]のタスクはアクティブではありません。
- [レビュアー1]がバンドル 1 のレビュー作業を終了すると、バンドル 1 のタスク[レビュー2]がアクティブになり、[レビュアー2]は作業を開始できます。このとき、バンドル 2 のステータスは考慮されません。

例 2

	翻訳 1	#	チェック 1
バンドル 1	タスク(翻訳 1,バンドル 1)	#	タスク(レビュー1,バンドル 1)
バンドル 2	タスク(翻訳 1,バンドル 2)	#	タスク(レビュー1,バンドル 2)

このワークフローの例では、

- ワークフローが開始されると、[翻訳者 1]のみが作業を開始できます。
- ワークフローの開始時、[チェック 1]のタスクはアクティブではありません。
- [チェック 1]のタスクは、バンドル 1 と 2 の両方の[翻訳 1]が終了した際にのみアクティブになります。

設定

**設定** ?

カスタマーを選択して使用  用語集  TM  用語集とTM

カスタマーを選択 

TestCustomer

Testip

TextFormat

TOIH

→

←

Test

未承認メモリを使用

レポートセグメントを開す

ICEセグメントの編集を許可

[レバレッジドマッチ]を[未承認TM]から[済み]に設定 
 最終ステップを除くすべて  最初のステップのみ  全ステップ

[翻訳不要]を[済み]に設定 
 最終ステップを除くすべて  最初のステップのみ  全ステップ

承認済みTMからの[レバレッジドマッチ]を[済み]に設定 
 最終ステップを除くすべて  最初のステップのみ  全ステップ

未承認TMからの[ICEマッチ]を[済み]に設定 
 最終ステップを除くすべて  最初のステップのみ  全ステップ

セグメントを[ロック済み]に設定

ターゲット長をチェック

代替翻訳

匿名化を使用

用語抽出を実行

TM言語バリエーション ペナルティ プロファイル

言語バリエーションマッチが挿入されたセグメントをハイライト

プロジェクト作成 - [設定]セクション

**プロジェクトで使用する TM と用語集を選択:** XTM では、TM と用語集は自動的にカスタマー名でタグ付けされています。プロジェクトを作成する際、TM と用語集はカスタマーごとに自動的に割り当てられます。[カスタマーを選択]ボックスでカスタマーを選択することにより、他のカスタマーの TM や用語集を使用することも可能です。

**未承認メモリを使用:** デフォルトでは、承認された翻訳メモリのみが XTM でのマッチングに使用されます。[未承認メモリを使用]を選択すると、承認されていない翻訳メモリも利用できます。プロジェクトが完了する際、すべての翻訳が自動的に TM として承認されることに留意してください。つまり[未承認メモリを使用]を選択すると、チェックまたはレビューされていない翻訳もマッチングに使用されることとなります。

**リピートセグメントを隠す:** このオプションを使用して、ファイル内のリピート率が指定値を超過した場合にリピートセグメントを隠すことができます。指定値が超過し、プロジェクトが XTM Editor で開かれると、[リピートを除く全セグメント]フィルターが自動的に稼働します。このフィルターによって重複するセグメントは非表示となり、リピート元を含むその他のタイプのセグメントはすべて表示されます。

このフィルターは XTM Editor 上で無効にし、再有効化できます。ただし、[リピートセグメントを隠す]オプションが選択されていないプロジェクトでは利用できません。

**ICE セグメントの編集を許可:** ICE セグメントを編集するためにアンロックするには、このオプションを選択します。

**マッチを[済み]に設定:** 特定のタイプのマッチや、[翻訳不要]ステータスを XTM Editor 上で確認することなく[済み]にマークするオプションは多数あります。これらのセグメントは[ワークフローの最初のステップ]にて、[いずれのステップ]でも、[最後のステップ以外]で[済み]にマークすることができます。

[レバレッジドマッチ]を[未承認TM]から[済み]に設定	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/> 最終ステップを除くすべて	<input type="radio"/> 最初のステップのみ	<input checked="" type="radio"/> 全ステップ
[翻訳不要]を[済み]に設定	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/> 最終ステップを除くすべて	<input checked="" type="radio"/> 最初のステップのみ	<input type="radio"/> 全ステップ
承認済みTMからの[レバレッジドマッチ]を[済み]に設定	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/> 最終ステップを除くすべて	<input checked="" type="radio"/> 最初のステップのみ	<input type="radio"/> 全ステップ
未承認TMからの[ICEマッチ]を[済み]に設定	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/> 最終ステップを除くすべて	<input checked="" type="radio"/> 最初のステップのみ	<input type="radio"/> 全ステップ

プロジェクト作成 > [設定] > マッチを済みにマークする

**セグメントを[ロック済み]としてマーク:** 以下のセグメントをロックできます。

- マッチタイプ=承認済み/未承認の[ICE]と[レバレッジド]
- マッチタイプ=承認済みの[ICE]と[レバレッジド]

**ターゲット長をチェック:** このオプションを選択すると、ターゲットセグメント上の文字数をリングリストがモニターできます。ターゲットセグメントの文字数制限を設定するためのオプションは 3 つあります。

- 1) ソーステキストの文字数を基に、指定された増減率で上限と下限が算出されます。
- 2) ソーステキストの文字数を基に、指定された文字数を増減して上限と下限が算出されます。
- 3) 指定された文字数そのままを上限と下限とします。

ターゲット長をチェック <input checked="" type="checkbox"/>	
ターゲットを以下より短くしない:	ターゲットを以下より長くしない:
対ソースX%減少	対ソースX%増加
対ソースX文字減少	対ソースX文字増加
X文字	X文字

ターゲットテキストの上限と下限を定義する

XTM では、ターゲット長は文章単位ではなく段落単位で管理されます。XTM Editor では、これらのセグメント(文章)は破線で区切られています。たとえば Excel ファイルを翻訳している際、セル内のテキストすべての長さを制限する、もしくは XML ファイルの任意の要素のテキストすべてを制限することが XTM では可能です。

**代替翻訳:** [コンフィギュレーション] やカスタマーの設定で [代替翻訳] が選択されていると、プロジェクト作成時に [代替翻訳] を選択して代替数を指定できます。

このオプションを選択した場合、ソーステキストは段落ごとにセグメント化され、XTM Editor では各セグメントが指定した回数表示されます。まず推奨訳があり、設定された回数の代替翻訳が続きますが、いずれにしても翻訳者が完成させることができます。各代替翻訳には逆翻訳を入力するためのフィールドがあります。

[コメント] セクションは、各翻訳に対する理由を入力するために使用できます。レビュアーは希望する代替翻訳を選択し、代替翻訳から [推奨訳] にコピーできます。ターゲット ドキュメントの生成には推奨訳のみが使用されます。

さらに、[プロジェクトエディタ] の [ファイル] タブの [プレビュー] で [代替翻訳レポート] を作成・ダウンロードすることもできます。Excel ファイルのレポートにはすべての翻訳、逆翻訳、コメントが含まれます。

**用語抽出を実行:** このオプションを選択した場合、ファイル解析において追加のステップとして用語集の候補リストが抽出されます。候補用語は Excel シートとして、プロジェクト一覧のコンテキストメニューの [ダウンロード] オプションからダウンロードできます。

**承認済み用語のみを使用:** このオプションを使用して [承認済み] ステータスを有する用語のみを使用します。

**用語ハイライトを無効化:** このオプションを選択すると、XTM Editor 上で検出されたソース言語の用語がハイライトされなくなります。このオプションを選択したとしても、ワードを選択してコンテキストメニューから用語集へ追加することは依然として実行できます。

**承認が必要なプロジェクト:** カスタマー プロジェクトマネージャに対して新たにプロジェクトが作成された旨を通知し、翻訳へ進行する旨を確認するようリクエストするためにこのオプションを選択します。特定の顧客に対して作成されたプロジェクトすべて、または設定した単語数を超過するプロジェクトのみに対して承認を必要と認識するためのオプションがあります。

## 機械翻訳

XTM は数多くの機械翻訳エンジンと連携しています。システム管理者はシステム全体または特定の顧客用に、プロジェクト設定時に利用可能な MT エンジンオプションとして表示させることができます。利用可能な MT エンジンは以下のとおりです。

- Google Translate
- Omniscien Technologies
- Tauyou
- SmartMATE
- Microsoft Translator
- Safaba
- KantanMT
- CrossLang MT
- Amplexor MT
- Lingo24
- Oneliner
- Lionbridge GeoFluent
- SYSTRAN Pure Neural™

Google、Touyou、SmartMATE、MS Translator について、XTM Editor 上でセグメント単位でソーステキストがマッチングに送られます。MT マッチングに送られるセグメントについては、[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [機械翻訳]の設定で定義されます。翻訳メモリでマッチが見つからないセグメントは、プロジェクトのメトリクスでは[MT マッチ]として表示されます。使用する MT システムが選択されると、翻訳者は XTM Editor で MT マッチを表示させるオプションが使用できるようになります。

Omniscien Technologies、Safaba、KantanMT、CrossLang、Lingo24、Oneliner、Lionbridge GeoFluent、SYSTRAN Pure Neural™については、全体的な XLIFF がマッチングに送られます。これによって、このオプションが使用される場合はプロジェクト作成に長時間を要することがあります。

Amplexor と Microsoft Translator については、機械翻訳へセグメントが送られるタイミングを[プロジェクト解析中]または、セグメントごとに[XTM Editor で]とするかを決定できます。

MT マッチングを使用する際、データ セキュリティについて検討することが重要です。該当プロセスにおいて、ユーザのデータは XTM システムのセキュリティを一旦離れることとなります。

すべてのフィールドに入力し、ページ最下部の[作成]ボタンをクリックします。

## タグを設定する

[コンフィギュレーション] > [データ] > [タグ]にてタグやペナルティ プロファイルが設定されている場合、[プロジェクト作成]スクリーンの最下部にオプションとして表示されます。

プロジェクトに翻訳メモリまたは用語集どちらかのペナルティ プロファイルを適用するには、プルダウンリストから選択します。ペナルティ プロファイルの条件にマッチする XTM データベースの翻訳メモリまたは用語集いずれもペナルティが付与され、XTM Editor には変更されたマッチが表示されます。

このプロジェクト用に使用するタググループとタグを設定します。したがって、プロジェクトの稼働中に作成される翻訳メモリと用語集はいずれもタグ付けされます。

[コンフィギュレーション]でタグが設定されたことによって表示される[タグ設定]セクション

## ワードカウントの使用

XTM Cloud の Freelance または Group アカウントをお使いの場合、システムを通じてプロセスできる単語数には制限があります。

お使いのアカウントでは指定された単語数が月ごとに自動的にクレジットされ、また、必要に応じてワード数をオンラインで追加購入できます。ジョブをプロセスするにしたがって合計単語数より差し引かれます。

ICE マッチや翻訳不要セグメントの単語数は月間翻訳単語数にカウントされません。

プロジェクト作成時は単語数は差し引かれません。つまりメトリクスのチェックや、XTM Editor で[読み取りモード]を使用してセグメンテーションをチェックすることが可能です。以下のいずれかが発生するとプロジェクトは有効となり、月間翻訳単語数から単語数が差し引かれます。

- XTM Editor が読み書きフルアクセスで開かれる
- [ファイル]タブでいずれかのファイルが生成される
- Group アカウントでワークフローが開始される、ワークフロー上でユーザがアサインされるなどのワークフローに関するアクションが実行される

プロジェクトが有効にされると単語数は差し引かれ、これを元に戻すことはできません。

月末の時点でお使いのアカウントで消費されなかった単語数は、翌月に持ち越されます。これは 1 ヶ月間のみ有効であり、以降は未使用の単語数は消失されます。日付の古い単語数から順に消費されます。

## テンプレート

テンプレートには、プロジェクト作成の設定と翻訳者のアサインが保管されます。カスタマー専用またはグローバルにすることが可能です。グローバル テンプレートは、カスタマーすべてのプロジェクトで使用可能です。プロジェクトを作成するためにテンプレートを使用することによって、1 回のクリックのみで必要な情報すべてを仮想的に入力し、プロジェクト作成に要する時間を削減できます。

テンプレートを保存するには、[プロジェクトを追加]画面でプロジェクトを新規作成する際に最下部で[テンプレートとして保存]をクリックします。または、プロジェクト一覧で最左列のメニュー アイコンから[アクション] > [テンプレートとして保存]を選択します。すると、[テンプレートを作成]ウィンドウが表示されます。

[テンプレートを作成]ウィンドウ

テンプレートを表示して編集するには、[プロジェクト]タブの[テンプレート]をクリックしてテンプレートを一覧表示させます。

名前	概要	カスタマー	作成者	作成日	ソース言語
EJ_standard		Test	Yumiko Metsugi	2016/03/28 20:16	英語(英国)
gamexls		webinar	Yumiko Metsugi	2017/03/16 14:33	英語(英国)

プロジェクト テンプレートの一覧

テンプレートを削除するには、最左列のメニュー アイコンをクリックして[削除]を選択します。



プロジェクト テンプレート一覧のメニュー

テンプレートを編集するため、一覧の最左列のメニュー アイコンをクリックして[編集]を選択するか、テンプレート自体をクリックします。[プロジェクト テンプレート エディタ]が開かれ、いずれの詳細も変更できます。

## XTM ユーザ マニュアル - プロジェクトマネージャ

プロジェクトテンプレートエディタ - test2

① 一般情報

プロジェクト詳細

ワークフロー

\*名前 test2

概要

カスタマー --グローバル--

作成日 2016/06/16 16:01

作成者 Yumiko Metsugi

保存

[プロジェクト テンプレート エディタ] > [一般情報]

プロジェクトテンプレートエディタ - test2

① 一般情報

プロジェクト詳細

ワークフロー

翻訳

ソース言語 英語(英国)

プリプロセス いいえ

ターゲット言語

解析テンプレート

ファイル結合を許可

デフォルト値

ファイル結合オン

ファイル結合オフ

主題 その他

TAUS DQFを有効化

設定

ワークフロー 翻訳

新規ソースワークフロー メインワークフローと同じ

解析不可能ファイルのワークフロー

カスタマーを選択して使用  用語集  TM  TMおよび用語集

カスタマーを選択

未承認メモリの利用を許可

リピートセグメントを隠す

ICEマッチセグメントの編集を許可

ターゲット長をチェック

代替翻訳

匿名化を使用

用語抽出

機械翻訳

Google機械翻訳を使用

CrossLang機械翻訳を使用

選択したマッチの1つが存在する場合、MTマッチは検索しない

ICE  レバレッジド  リピート

95~99%あいまい  85~94%あいまい  75~84%あいまい

95~99%あいまいリピート  85~94%あいまいリピート  75~84%あいまいリピート

マッチをターゲットに挿入 常に実行しない

マッチを[済み]に設定 全ステップ

タグ設定

TMペナルティプロファイル 選択...

用語ペナルティプロファイル 選択...

タグを設定  TMおよび用語集  TMと用語集を別々に

TM用タグと用語タグを設定 選択...

保存

[プロジェクト テンプレート エディタ] > [プロジェクト詳細]



[プロジェクト テンプレート エディタ] > リンギストのアサイン

### プロジェクト一覧でカスタマイズ可能なカラム

プロジェクト一覧に表示させるデータやカラムの順序を選択できます。独自に作成したいいずれのプロジェクト カスタム フィールドも含むことができます。[カラム]ボタンをクリックすると利用可能なフィールドがポップアップ ウィンドウに表示されます。表示するフィールドを確認します。表示列の順序を変更するには、フィールド名をクリックして希望の位置へとドラッグします。

[ツールチップ]セクションでは、プロジェクトの  アイコン上にカーソルをかざしたときにツールチップとして表示させるフィールドを選択します。管理者としてすべてのユーザに対するデフォルトのカラムとツールチップを選択する場合、[保存]をクリックする前に[システムのデフォルトを更新]チェックボックスを選択します。



### プロジェクト一覧



プロジェクト一覧上でカラムのフィールドを希望の位置へとドラッグ



プロジェクトのツールチップを希望の位置へドラッグ

## プロジェクトを検索する

プロジェクト一覧では、サーチライン上のラジオボタン[マイプロジェクト]をクリックして自分のプロジェクトのみ、または、[すべて]をクリックしてすべての PM のプロジェクトを表示させることができます。さらに、[現在]、[アーカイブ済み]、[すべて]のプロジェクトを表示するためのオプションもあります。

検索の精度を上げるため、プロジェクト検索には 2 つのオプションとして[シンプル検索]と[高度な検索]があります。

- 1) [シンプル検索]: [シンプル検索]タブをクリックして検索フィールドに入力します。プロジェクト名、参照 ID、カスタマー名、ソース言語、作成日、期限日、最小ステータス、最大ステータスを対象に検索します。



プロジェクトのシンプル検索

- 2) [高度な検索]: [高度な検索]タブをクリックします。



プロジェクトの高度な検索

検索には以下のフィールドを使用できます。

- プロジェクト名
- プロジェクト ID
- 参照 ID
- カスタマー
- プロジェクトマネージャ
- 作成者
- プロジェクトステータス
- 支払いステータス
- PO 番号
- 作成日
- 期限日
- 完了日
- ワークフロー ステータス
- 担当リングスト
- ソース言語
- ターゲット言語

[ターゲット言語]フィールドには、以下に該当するプロジェクトを検索するオプションがあります。

- 選択したターゲット言語のいずれか
- 選択したターゲット言語すべて
- 選択したターゲット言語のみ

さらに、ターゲット言語のワークフロー ステータスによる抽出も可能です。

- 開始済み
- 未開始
- 完了済み
- 未完了

2つの日付フィールドには日付範囲を選択するためのドロップダウンリストがありますが、自由に日付を入力することもできます。リストから[カスタム範囲]を選択すると、日付を入力するための新しいフィールドが下部に表示されます。

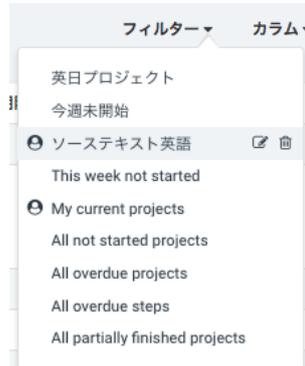
## スマート フィルター

高度な検索の設定を今後のために[スマート フィルター]として保存できます。プロジェクト一覧で[スマート フィルター]を適用して、該当プロジェクトを素早く見つけることができます。

[高度な検索]タブで[スマート フィルター]を作成できます。検索条件を選択して[プロジェクト フィルターとして保存]をクリックします。フィルターを PM 全員または自分のみが利用するかを決定し、フィルター名を入力し、並べ替えの方法を選択して、[保存]をクリックします。

[プロジェクト フィルターとして保存]ダイアログ

[スマート フィルター]はプロジェクト一覧上で利用できます。フィルターを選択すると設定済みの高度な検索が実行され、効率良く結果が返されます。プライベート フィルターにはアイコン  が示されます。フィルターの名前を変更、またはフィルターを削除するには、該当フィルターの名前の右側のアイコンをクリックします。



スマート フィルター

### プロジェクトに対するアクション

[アクション]タブでは、プロジェクトに対して多数のアクションを同時に実行できます。最左列のチェックボックスを選択し、対象とするプロジェクトを選択します。上部のプルダウンリストからアクションを選択して[実行]をクリックします。利用可能なアクションは以下のとおりです。



利用可能なプロジェクトのアクション

### プロジェクトの[アーカイブ]と[有効化]

完了したプロジェクトを ZIP にする、またはアーカイブするのは、バックアップ速度、ディスクへのアクセス速度、ブラウザの速度、データベースの速度、サーバメンテナンスを確実に良好にするための重要なハウスキープ処理というタスクの 1 つです。

ZIP 化は日常的に XTM で実行される自動プロセスの 1 つです。特定のプロジェクトのファイルすべてが ZIP にされますが、[アーカイブ済み]としてマークはされません。一方、手動による[アーカイブ]では任意のプロジェクトのファイルすべてを ZIP に格納し、該当プロジェクトは[アーカイブ済み]としてマークされます。

以下のカテゴリーに適合するプロジェクトはすべて自動的に ZIP 化されます。

1. 5 日間以上使用されていない完了済みプロジェクト
2. 15 日間以上使用されていない未完了のプロジェクト

[使用された]という定義は、プロジェクトが[XTM Editor]か[プロジェクトエディタ]で開かれた、または、プロジェクトに対して[アクション]タブでいずれのアクションも実行されていないプロジェクトのことを指します。

現在のプロジェクトが ZIP 化された場合、プロジェクト一覧には表示されたままになりますが、プロジェクト名は斜体で、メニュー アイコンはグレーで表示されます。

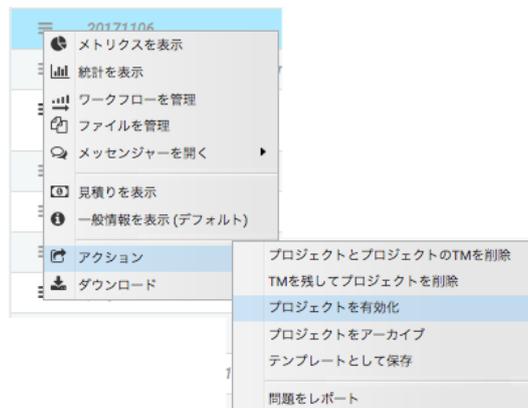
プロジェクトは 2 つのロケーションにて手動でアーカイブすることが可能です。

1. [シンプル検索]タブのプロジェクト一覧: 最左列のコンテキストメニュー アイコンをクリックして[プロジェクトをアーカイブ]を選択することによって、プロジェクトを個別にアーカイブできます。
2. [アクション]タブのプロジェクト一覧: 最左列で対象プロジェクトを選択し、プルダウン メニューから[アーカイブ]を選択して[実行]をクリックします。このオプションは多くのプロジェクトを一括してアーカイブするときに便利です。

アーカイブするプロジェクトが多くある場合は XTM システムでの負荷が高くなることがあるため、ツールチップ メニューから 1 つずつアーカイブすることは推奨されていません。しかしながら[アクション]タブで対象プロジェクトのすべてを選択すると、バッチモードで操作が実行されるため、作業負荷はキューイングされます。

アーカイブ済みのプロジェクトは[稼働中]のプロジェクト一覧には表示されず、表示されるときは斜体で示され、メニュー アイコンはグレーで表示されます。

該当ファイルに再アクセスするため、アーカイブ済み、または ZIP 化されたプロジェクトは、プロジェクト メニューの該当アイテムを選択することによって簡単に再有効化できます。



ZIP 化またはアーカイブ済みのプロジェクトの有効化

## TM を承認

デフォルトでは、プロジェクト内で生成された翻訳メモリは、ワークフローの最終ステップで[承認済み]として設定されます。このデフォルト設定は[ワークフロー エディタ]で変更できます。プロジェクト用に選択された翻訳メモリに加え、[アクション]タブにて手動で[承認済み]として設定できます。

## TM を伴って、または伴わずにプロジェクトを削除する

これらのオプションによって、プロジェクトを削除する際にプロジェクト内で生成された翻訳メモリを保持するかしないかを決定できます。

## ワークフローを管理する

[ワークフローを管理]ウィンドウを開くには以下のステップを実行します。

- プロジェクト一覧上で[アクション]タブに移動します。
- 最左列のチェックボックスを選択し、対象プロジェクトを 1 つ以上選択します。
- [選択プロジェクトに対するアクション]リストから[ワークフローを管理]を選択し、[実行]ボタンをクリックします。

[ワークフローを管理]ウィンドウが開かれ、2 つのタブが表示されます。

- ワークフローを管理: 1 つ以上のプロジェクトのワークフローを管理します。
- リンギストをアサイン: 1 つ以上のプロジェクトで指定されたステップに対してリンギストのアサインを一括して管理し、ワークフローを開始して終了します。

## プロジェクトのカスタム フィールドを更新

複数のプロジェクトに対するカスタム フィールドを一括して更新できます。[アクション]タブで[プロジェクトのカスタム フィールドを更新]を選択すると、[プロジェクト更新の詳細]ウィンドウが表示されます。



[プロジェクト] > [プロジェクト一覧] > [アクション] > [プロジェクトのカスタム フィールドを更新]

ポップアップ ウィンドウで更新するカスタム フィールドを選択すると、新しい値を入力または選択できます。[更新]列で選択されたフィールドのみが更新されます。[新しい値]フィールドが空にされていると、[更新]列のチェック ボックスが選択されない限り、該当カスタム フィールドの旧値が消失されることはありません。

カスタム フィールドが日付の場合、ユーザが選択したタイムゾーンに自動的に変換されます。

プロジェクト詳細を更新する ×

カスタムフィールド	更新	新しい値
Test	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="text" value="123"/>
参照記号	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
管理者承認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
評価	<input type="checkbox"/>	<input type="text" value="選択..."/>

[プロジェクト] > [プロジェクト一覧] > [プロジェクトのカスタム フィールドを更新]

### 更新されたプロジェクトのカスタム フィールドを LSP に対して表示

デフォルトでは、単一の XTM アカウントのユーザすべてに対してカスタム フィールドは更新されます。[アクション]タブでの操作によって更新されたカスタム フィールドの値を該当プロジェクトに関連しているサブコントラクタに対しても表示させるには、弊社サポートチームに連絡してください。更新されたプロジェクトのカスタム フィールドの表示を有効にするため弊社サポートへリクエストをお送りいただく際、対象とするのはすべての LSP か、特定の LSP のみかを明確にお知らせください。

コントラクタが変更を要請したとおりのカスタム フィールド名、種類、選択肢を含め、更新されたカスタム フィールドの値のみがサブコントラクタに表示されます。サブコントラクタには、その他のカスタム フィールドは空白として表示されます。

サブコントラクタの XTM アカウントには存在しないカスタム フィールドがコントラクタによって更新された場合、サブコントラクタにとって変更は発生しません。

サブコントラクタは、更新されたカスタム フィールドの値のみを変更できます。変更が発生した場合、サブコントラクタにとってのみ新しい値は変更されます。コントラクタがカスタム フィールドを再更新した場合、サブコントラクタにとってもカスタム フィールドは上書きされ、再更新されます。

サブコントラクタにはカスタム フィールドの更新値を表示しないようにするには、プロジェクト エディタを使用して個別のプロジェクトごとにカスタム フィールドの値を更新します。

### マルチレベル LSP 言語のデリバリチェーン

コントラクタとサブコントラクタの関係において、言語サービス デリバリーチェーンに複数の LSP が含まれている場合、サブコントラクタとしてほかの LSP を使用している LSP ごとに[更新されたカスタム フィールドの表示]を有効化する必要があります。

### ワークフローを変更する

[ワークフローを管理]タブでは、選択されたプロジェクトすべてのワークフローを一括して編集できます。[プロジェクトエディタ] > [ワークフロー] > [ワークフローを編集]タブの機能に類似しています。

必要に応じてワークフローを変更して[更新]ボタンをクリックします。



[ワークフロー エディタ]ウィンドウ

選択した複数のプロジェクトに異なるワークフローが設定されている場合、編集するワークフローをドロップダウンリストから選択できます。



### 変更対象のワークフローを選択する

一旦ワークフローを選択すると、いずれのプロジェクトがこのワークフローを使用しているかが通知され、このワークフローを使用しているファイルのみが更新されます。また、選択されたワークフローが表示され、通常どおり編集できます。[更新]ボタンをクリックして変更を保存します。

### プロジェクトにリングストをアサインする

選択したプロジェクトでリングストをアサインするには、[リングストをアサイン]タブをクリックします。[リングストの詳細]アイコン(右側の人の形のアイコン)をクリックして表示させるリングスト一覧、またはドロップダウンリストを使用してステップごとにリングストか LSP をアサインします。ワークフローを開始、保存、完了することもできます。いずれのプロジェクトが変更されるかが通知されます。



### ワークフローにリングストをアサインする

ソース言語および/またはワークフローが異なるプロジェクトに対してリングストをアサインします。[リングストをアサイン]タブにて、ドロップダウンリストから[ソース言語]を選択します。



### ワークフローにリングストをアサインする > ソース言語を選択する

設定が異なる場合、指定された[ソース言語]に対してワークフローを選択します。



### ワークフローにリングストをアサインする > ワークフローを選択する

[リングストの詳細]アイコンをクリックして表示させるリングスト一覧、またはドロップダウンリストを使用してステップごとにリングストか LSP をアサインできます。ワークフローを開始、保存、完了することもできます。いずれのプロジェクトが変更されるかが通知されます。選択したプロジェクトにターゲット言語が 2 つ以上ある場合、区切り線が表示されます。

**ワークフローを開始する:**

[リングストをアサイン]タブで必要に応じて変更し、[開始]ボタンをクリックします。ターゲット言語が 2 つ以上あるプロジェクトであっても、リストからすべてのワークフローが開始されることに留意してください。

**ワークフローを終了する:**

[リングストをアサイン]タブにて[完了]ボタンをクリックします。ターゲット言語が 2 つ以上あるプロジェクトであっても、リストからすべてのワークフローが完了されることに留意してください。

**レポート**

直近で生成したレポートを再ダウンロードするには  アイコンをクリックします。このアイコンはレポートが生成された後にのみ表示されます。同じ接続セッション内でのみ、レポートを繰り返してダウンロードできます。

**複合メトリクス**

このオプションを選択すると、選択したプロジェクトすべてのメトリクスを集約したレポートが Excel ファイルとして生成されます。

プロジェクト	Project 1, Project 2				日付	2017/09/28 15:52		
初期	セグメント	単語	単語 %	文字	文字 %	スペースを除いた文字		
合計数	42	294	100	1462	100	1246		
翻訳不要	4	44	15	250	20	250		
<b>TM マッチング</b>								
ICE マッチ	1	2	1	14	1	13		
レバレッジド マッチ	4	7	2	39	3	35		
95-99 あいまい マッチ	0	0	0	0	0	0		
85-94 あいまい マッチ	1	8	3	43	3	36		
75-84 あいまい マッチ	1	3	1	14	1	12		
機械翻訳	0	0	0	0	0	0		
<b>内部 マッチング</b>								
リポート	2	6	2	38	3	34		
95-99 あいまい リポート	0	0	0	0	0	0		
85-94 あいまい リポート	0	0	0	0	0	0		
75-84 あいまい リポート	0	0	0	0	0	0		
マッチなし	29	224	76	1064	73	866		
<b>進捗 - translate1</b>								
済み	4	21	7	105	7	87		
要処理	38	273	93	1357	93	1159		
要チェック	0	0	0	0	0	0		
<b>進捗 - correct1</b>								
済み	0	0	0	0	0	0		
要処理	21	147	100	731	100	623		
要チェック	0	0	0	0	0	0		
<b>進捗 - review1</b>								
済み	0	0	0	0	0	0		
要処理	21	147	100	731	100	623		
要チェック	0	0	0	0	0	0		

典型的な複合メトリクス レポート

**プロジェクトの納期**

この Excel レポートには、各ファイルに対してワークフローでのステップごとの期日が表示され、各ステップが実際に完了した日時が示されます。期日に遅れたステップは赤色でハイライトされます。

## XTM ユーザ マニュアル - プロジェクトマネージャ

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1												
2					XTMプロジェクト納品レポートが生成されました	2017/09/28						
3												
4	ID	名前	リスタマ	ソース言語	作成日時	期日	完了済み	ターゲット言語	ファイル	ステップ1	ステップ2	ステップ3
5	550627	Project 1	Test	en_GB	2017/9/23 15:34		未完了	ja_JP		translate1		
6							未完了		1_Pudding.docx	translate1 期限:2017/09/27 00:00 完了-		
7												
8	550716	Project 2	test2	en_GB	2017/09/28 15:44		未完了	ja_JP				
9							未完了		1_Pudding.docx	translate1 期限:2017/10/03 00:00 完了-	correct1 期限:2017/10/05 00:00 完了-	review1 期限:2017/10/09 00:00 完了-
10												
11												

### プロジェクト納期レポート

#### 統計サマリー

このレポートには以下のフィールドが含まれます。

年月、日付、四半期、カスタマー、プロジェクト名、言語、未翻訳、新規ワード、マッチあり、合計、ICE マッチ、レバレッジドマッチ、95~99%あいまいマッチ、85~94%あいまいマッチ、84~75%あいまいマッチ、95~99%あいまいリポート、85~94%あいまいリポート、84~75%あいまいリポート、リポート、機械翻訳、翻訳不要、マッチなし、アルファベットと数字の組み合わせ、量詞、数値語、句読点。

#### 費用とメトリクス

以下のような費用レポートとメトリクスレポートを生成できます。

費用とメトリクス ✕

レポートタイプ アサインと語数

作成日  -

完了日  -

ステータス すべて

カスタムフィールドを含む

実行

### 担当と単語数のレポート

費用とメトリクス ✕

レポートタイプ リングストごとの費用とメトリクス

作成日  -

完了日  -

リングスト

ステップ

ターゲット言語

カスタムフィールドを含む

ダミーのアサイン 選択... アサインがない場合

レート情報がないときはゼロを使用  時間情報がないときはゼロを使用

実行

### リングストごとの費用とメトリクスのレポート

費用とメトリクスのレポートでは追加のフィルターが利用できるため、レポートの結果をリングスト、ステップ、言語で絞り込むことが可能です。

**カスタマーまたはカスタム フィールドごと費用と語数のレポート**

このレポートは[カスタマー]または[カスタム フィールド]によってデータが抽出されます。

**初期メトリクス、担当、費用のレポート**

このレポートには、プロジェクトに関する最重要データが包括的に掲載されます。特定のリングストにレートカードが作成されていない、または時間追跡が設定されていない場合に、不足レートや時間に対して「ゼロ」を使用するかどうかチェックボックスで選択できます。ワークフロー全体に対して、またはリングストがまだアサインされていない場合、費用概算を生成する際にレートカードを流用することが可能な[ダミーリングスト]のオプションもあります。

**メトリクスとカスタム フィールドを含んだレポート**

費用とメトリクス ✕

レポートタイプ ▼  
ステップごとのプロジェクト費用・メトリクス

作成日 -  
  -  

完了日 -  
  -  

ステータス ▼  
すべて

カスタムフィールドを含む

ダミーのアサイン ▼ ▼  
選択... アサインがない場合

レポート情報がないときはゼロを使用  時間情報がないときはゼロを使用

実行

### ステップごとのプロジェクト費用とメトリクスのレポート

この包括的なレポートにはプロジェクトに関する基本情報が含まれます。

費用とメトリクス ✕

レポートタイプ ▼  
ステップごとのプロジェクト費用・メトリクス・アサイン

作成日 -  
  -  

完了日 -  
  -  

ステータス ▼  
すべて

カスタムフィールドを含む

ダミーのアサイン ▼ ▼  
選択... アサインがない場合

レポート情報がないときはゼロを使用  時間情報がないときはゼロを使用

実行

### ステップごとのプロジェクト費用、メトリクス、担当

このレポートは[ステップごとのプロジェクト費用とメトリクスのレポート]に類似しますが、アサインされた担当者に関する情報も含まれます。

## プロジェクトを確認する

[プロジェクト]タブをクリックすると現在のプロジェクトが一覧表示されます。[高度な検索]タブの機能を使用して、さらにほかのプロジェクトを表示させることもできます。列見出しのいずれかをクリックしてプロジェクトを並べ替えることもできます。

名前	ソース言語	新規ソース	ターゲット言語	作成時刻	期限時刻
2017090802	英語(英国)		日本語	2017/09/28 15:44	
2017092801	英語(英国)		日本語	2017/09/28 15:34	

## プロジェクト一覧

最右列のアイコンにマウスをかざすと、以下のフィールドを含むプロジェクトに関する追加情報が表示されます。

- XTM ID
- 参照 ID
- 主題
- Google 機械翻訳
- 作成日時
- 作成者
- PM
- 期限日
- 税抜最終価格
- 税抜最終自動価格
- 税込み最終価格
- 税抜最終自動価格
- 支払いステータス
- 参考資料ファイル、ソースファイル、ターゲット言語の数。



#### プロジェクトに関する追加情報

最左列のアイコンをクリックし、プロジェクトの表示と管理に関するメニューを表示させます。



#### プロジェクトに関するコンテキストメニュー

このメニューによって、プロジェクトのターゲット言語ごとに以下のタスクを実行できます。

- メトリクスを表示
- 翻訳者統計を表示
- ワークフローを管理
- プロジェクトファイルを管理する - ターゲットファイルの生成とダウンロード
- XTM Editor を開く
- XTM Messenger を開く

そして、一般的なプロジェクトでは以下を実行できます。

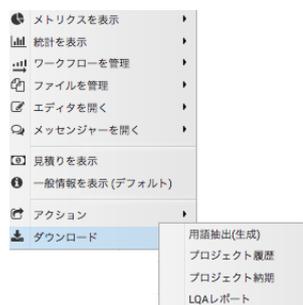
- プロジェクトの概算見積りを表示
- プロジェクトの一般情報を表示
- プロジェクトに対する多くのアクションを実行します。
- レポートをダウンロード



プロジェクトに対する[アクション]メニュー

実行可能なアクション:

- プロジェクトおよび該当プロジェクトで生成した翻訳メモリすべてを削除する。
- 翻訳メモリはそのまま残してプロジェクトは削除する。
- プロジェクトは完了していなくても翻訳メモリを承認する。
- プロジェクトをアーカイブする。これによって[進行中]のプロジェクト一覧から該当プロジェクトは削除されますが、追って復旧することは可能です。
- [プロジェクトの再解析]: マッチングとメトリクスは再計算されますが、ワークフローの割り当てと統計は変更されません。
- [レバレッジドセグメントと ICE セグメントを受け入れる]: これによってオレンジのステータスは緑に変更され、緑のセグメントは[承認済み]の翻訳メモリとして TM データベースに保存されます。
- プロジェクトを確定します。
- このプロジェクトの設定をテンプレートとして保存し、今後のプロジェクトで使用します。
- プロジェクトで経験した問題をレポートします。このオプションを選択すると、問題について詳細を報告するためのウィンドウが表示されます。迅速な解決を目的としてこのメッセージは関連情報すべてとともに XTM サポートチームへ送信されます。
- [プロジェクトを XTM Xchange に公開]: XTM Xchange についての詳細は 9 章を参照してください。



プロジェクトの[ダウンロード]メニュー

ダウンロード可能なレポートはすべて Excel 形式です。

- 抽出された用語: ソースファイルの解析中に自動的に抽出される、用語集へ登録する候補である用語のリスト。用語レポートの列見出しは以下のとおりです。
  - [ソース言語]
  - [表層形式]: ソーステキスト内で使用されている用語の形式
  - [頻度]: ソーステキスト内で用語が使用されている回数
  - [備考]
  - [コンテキスト]: ソーステキストで用語が使用されているコンテキスト
  - [ターゲット言語]: 空白にされています。用語マネージャへ用語がインポートされる前に、翻訳者が訳語を入力できます。

- [プロジェクト履歴]にはプロジェクトでアクションが実行された日時が表示されます。レポートの列見出しは以下のとおりです。
  - [日時](WET: 西ヨーロッパ標準時)
  - [ユーザ ID]
  - [ユーザ名]
  - [LSP ID]: プロジェクトがサブコントラクト(委託)された場合に使用されます。
  - [LSP 名]: プロジェクトがサブコントラクトされた場合に使用されます。
  - [ジョブ ID]
  - [プロジェクト ID]
  - [プロジェクト名]
  - [ターゲット言語]
  - [ファイル名]
  - [アクション名]
  - [追加情報]
  
- プロジェクト内のファイルごとにワークフロー上の各ステップが完了したときと、納期との比較のサマリー。レポートの列見出しは以下のとおりです。
  - [ID]: プロジェクト ID
  - [名前]: プロジェクト名
  - [カスタマー]
  - [ソース言語]
  - [作成日]: プロジェクトが作成された日時
  - [期日]: プロジェクトの期限日時
  - [完了済み]: プロジェクトが完了した、および[未完了]と宣言された日時。期限超過アイテムは赤でハイライトされます
  - [ターゲット言語]: スプレッドシートの左側の列のプラス符号を使用してターゲット言語の表示を拡張する、または折り畳むことができます
  - [ファイル]: ブレッドシートの左側の列のプラス符号を使用してターゲット言語ごとのファイルの表示を拡張する、または折り畳むことができます
  - [ステップ 1]、2、3 など: ワークフロー内の各ステップと各ターゲット言語について、レポートでは期限日時と完了日時が表示されます。期限超過アイテムは赤でハイライトされます
  
- LQA レポート。LQA プロセスとレポートについての詳細は、本マニュアルの『LQA』を参照してください。

## XTM Messenger

プロジェクトに携わるメンバー間の情報交換は XTM Messenger によって簡素化され、促進されます。プロジェクトマネージャはすべてのリングストと、特定の言語のリングストと、または選択したユーザとのかみのカスタム チャットを開始できます。リングストはプロジェクトを作成した PM、同じプロジェクトで同じ言語を担当しているほかのリングストと、もしくはプロジェクトに関連するすべてのリングストとのチャットを開始できます。管理者は[コンフィギュレーション]タブにて、システム全体に対して XTM Messenger を有効または無効に設定できます。

## ニックネームとアバター

チャットのメッセージの隣に表示させるニックネームとアバターは、[コンフィギュレーション]タブの[ユーザ詳細]セクションで設定できます。ニックネームを設定しない場合、チャット ウィンドウには名前(ファーストネーム)が表示されます。

## チャットのコンフィギュレーション

XTM Messenger の設定を開くには[XTM Messenger]をクリックし、さらに歯車(ギア)のアイコンをクリックします。PM は以下を設定できます。

- [新規作成したチャットに関するメールを有効化]: 新たに作成されたチャットについての通知を参加者全員が受け取る
- [PM を伴わないチャットの作成をリングストに許可]: リングストによるチャット開始を有効にする



[XTM Messenger]: リングストとのチャットを開く



新規作成されたチャットに関するメール通知

## XTM Messenger のチャットを開く

チャットを開くには、プロジェクトおよびタスク一覧のコンテキストメニューを使用します。PM は以下のオプションを選択できます。

- PM と全リングストとのチャットを開く
- PM と特定のリングストとのチャットを開く
- チャット参加者を選択...



PM がXTM Messenger を開く

### チャット参加者を選択...

カスタム チャットを作成してチャットの参加者を選択できます。ユーザ、LSP、カテゴリ分けされたグループすべてがポップアップ ウィンドウに表示され、チャットへ追加できます。さらに、プロジェクトにアサインされた担当者のみ、または全員を表示するための切り替えも簡単に選択できます。



### チャット参加者を選択...

### チャット ウィンドウ

開かれたチャット ウィンドウの上部バーには、チャットが関与するプロジェクト名と担当者が表示されます。 アイコンをクリックした後で、チャットへ新たにユーザを追加する、またはチャットに参加しているユーザを確認できます。[ユーザ詳細]か[ユーザエディタ]で指定したアバターが、メッセージの横に表示されます。テキスト入力フィールドにメッセージを入力し、緑色のボタンをクリックするか[Enter]キーを押して送信します。



### 任意のプロジェクト用のチャット ウィンドウ

複数のチャット ウィンドウを同時に開くことができます。XTM が新しいブラウザ ウィンドウで開かれた場合、以前のタブまたはウィンドウで開かれていたチャットは機能しなくなります。直近で開かれたウィンドウまたはタブでチャットは機能します。

### チャットでのファイル送信

XTM Messenger はチャットを通してのファイル転送に対応しています。ファイル選択ウィンドウを開くためにクリップ アイコン  をクリックします。または、ファイルをドラッグ アンド ドロップして送信することもできます。転送するファイルの最大サイズは 10 MB です。



ドラッグ アンド ドロップを使用してチャットでファイルを転送

チャットで送信された画像データはサムネールとして送られ、クリックしたときにフルサイズまたはフルスクリーンで表示されます。画像データをダウンロードするには右クリックして[名前を付けて画像を保存...]を選択します。画像データ以外のファイルの場合、チャット ウィンドウに名前と拡張子が表示され、クリックするとすぐにダウンロードが開始されます。



チャットを通して転送される画像とパッケージ

### 未読メッセージ

XTM Messenger アイコンはスクリーンの右上部に表示されます。このアイコンで既存チャットを開くことができます。まだ読んでいないメッセージがある場合、XTM Messenger のアイコンバッジとして未読メッセージ数が表示されます。チャットの横の赤丸は未読メッセージがあることを示しています。



XTM Messenger チャットの未読メッセージ

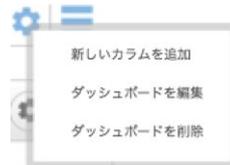
## ダッシュボード

### ダッシュボードの概要

ダッシュボードではお客様のマネジメントの展望を確認できます。複数のダッシュボードを作成し、ダッシュボードごとにお客様が選択した情報を伴うウィジェットやグラフを数多く含めることができます。ダッシュボードに名前を付けてサブメニューバーにドッキングすることもできます。グラフは多数のカラムに表示されます。

ダッシュボードはタイトル バーのアイコンを使用して管理します。

アイコン  によってメニューが表示され、新規カラムを追加する、ダッシュボードの名前を編集する、ダッシュボードを削除するなどが可能です。



### ダッシュボードの設定メニュー

アイコン  をクリックすると下図のポップアップ ウィンドウが表示され、メニュー アイコンをクリックしてダッシュボードを追加、ドッキング、呼び出し、編集、削除できます。



### [ダッシュボードを管理] ウィンドウ

ウィジェット メニュー自体のアイコンを使用してウィジェットを管理します。

-  ウィジェットのデータをリフレッシュする
-  ウィジェットのコンフィギュレーション設定を表示する
-  ウィジェットを削除する

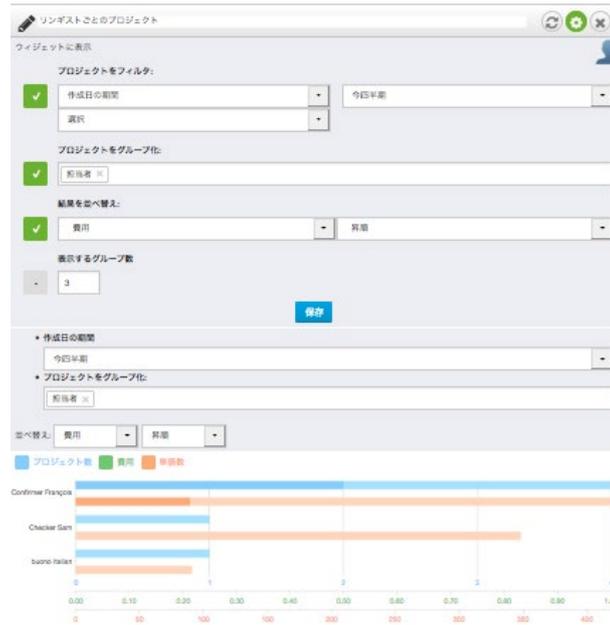
### ウィジェットを設定する

ウィジェットを構成するための設定が 4 つあります。各設定にはチェック ボックスがあり、選択された設定は恒久的に表示されます。

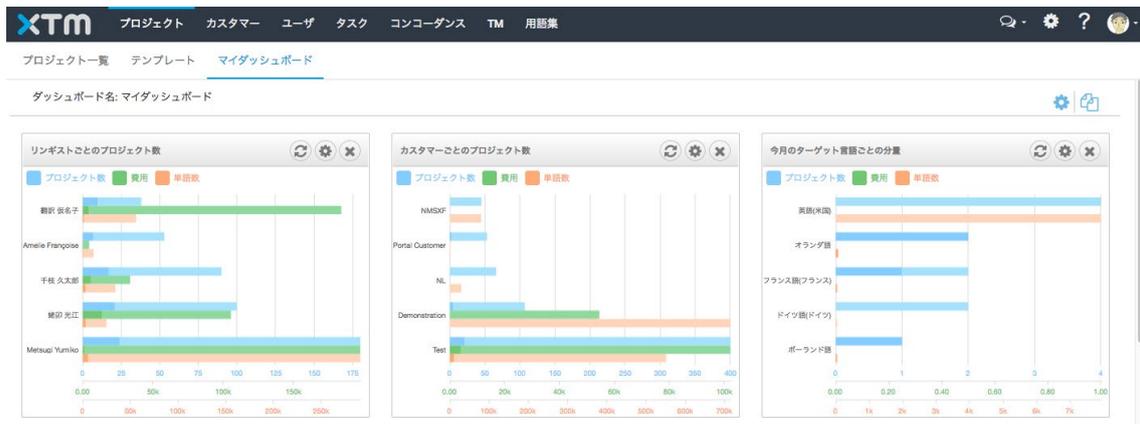
- [プロジェクトをフィルター]: このフィールドによってデータに使用するプロジェクトを選択できます。
- [プロジェクトをグループ化]: このパラメータを設定してグラフの Y 軸を決定します。
- [並べ替え]: グループを並べ替える基準フィールドを入力します。値を昇順にするか降順にするかも選択できます。
- [表示するグループ数]: グラフに表示するグループ数を定義するためのパラメータ。デフォルトでは「10」に設定されています。ヌル値のグループは表示されません。

最後に、タイトルバー上でウィジェットの名前をタイプして設定します。

任意の設定を完了して[保存]ボタンをクリックします。



ウィジェットを設定する



典型的なダッシュボード

## プロジェクト エディタ

プロジェクトをクリックすると、設定と詳細がスクリーンに表示されます。

[プロジェクト エディタ] > [一般情報]

### プロジェクト エディタ - 一般情報

このタブでは数多くの情報の閲覧と編集が可能であり、プロジェクトの設定に大きく関与します。

以下のアイテムを編集できます。

プロジェクト名、概要、参照 ID、支払いステータス、確認ステータス、ターゲット言語、プロジェクトマネージャ、納品期限日、使用 MT、使用 TM、使用しているカスタマーの TM と用語集、ターゲット長のモニタリング

ターゲット言語リストの横には[更新]ボタンがあり、リストを編集できます。ボタンをクリックするとウィンドウが表示され、言語を追加または削除できます。

プロジェクトにターゲット言語を追加、またはプロジェクトからターゲット言語を削除する

期日の自動計算機能が選択されていると、期限に関する追加のオプションが表示されます。

作成日	2018/12/18 09:44
ワークフロー開始日	2018/12/18 09:44
ワークフロー期限日	2018/12/31 00:00
納品期限日	2018/12/31 00:00

自動的に計算された期限日を伴ってプロジェクトに表示される追加の期限日

プロジェクト エディタの[一般情報]ページ内で[TM ペナルティ プロファイル]と[TM タググループ]を編集できます。



プロジェクト エディタで TM ペナルティ プロファイルと TM タググループを編集する

[一般情報]タブの下部には参考資料の閲覧と更新を実行するためのセクションがあります。左手のメニューアイコンで参考資料を削除またはダウンロードできます。



[プロジェクト エディタ]の[参考資料]セクション

## プロジェクト エディタ - メトリクス

このタブではプロジェクトの各言語のメトリクスが表示されます。メトリクスはリアルタイムで更新され、翻訳、チェック、レビューを通してジョブの進行を示します。ウィンドウ下部のボタンをクリックすることによって、メトリクスの値を CSV または XLS 形式でローカルにダウンロードも可能です。

文字を基準とする言語について、係数によって文字数を割ることで「ワード数」が算出されます。これらの係数は[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [メトリクス]で設定します。デフォルトでは以下のように設定されています。

言語	文字/単語
タイ語	6
中国語(簡体字)	2.8
中国語(繁体字)	2.8
中国語(香港)	2.8
日本語	3
韓国語	3.3

アジア言語用に 1 ワードあたりの文字数を編集する

セグメントごとの文字数は該当する係数によって除算され、該当セグメントの単語数を示すために最も近い整数に四捨五入されます。そして各セグメントの単語数が合計され、ドキュメントの合計単語数が算出されます。

プロジェクトエディタ - 2017092801

ターゲット言語: 日本語 | メトリクス履歴 | 次の形式ですべてを保存: Choose...

データ | 進捗 | チャート

1\_Pudding.docx

	初期	セグメント	単語	単語 %	文字	文字 %	スペースを 除いた文字
合計数		21	147	100%	731	100%	623
翻訳不要		2	22	15%	125	17%	125
<b>TMマッチング</b>							
ICEマッチ		1	2	1%	14	2%	13
レバレッジドマッチ		4	7	5%	39	5%	35
95-99% あいまいマッ チ		0	0	0%	0	0%	0
85-94% あいまいマッ チ		1	8	5%	43	6%	36
75-84% あいまいマッ チ		1	3	2%	14	2%	12
機械翻訳		0	0	0%	0	0%	0
内部マッチング							

典型的な[メトリクス]ウィンドウ

メトリクスでの機械翻訳カテゴリーは、MT によって翻訳されたセグメント、単語、文字の数が示されます。この結果を取得するには、1 つ以上の MT エンジンの連携が有効にされている必要があります。デフォルトでは該当する数値はすべてゼロに設定されています。Asia Online MT を使用する場合、ファイル解析において翻訳メモリのマッチングや繰り返しが見つからないテキストは MT に送られます。該当する数値がプロジェクト作成後に表示されます。XTM で使用可能なその他すべての MT では、翻訳作業中に[マッチなし]のセグメント 1 つずつが MT に送られます。したがって、メトリクスの MT 数値はリングストが作業を進行するにしたがってリアルタイムで更新されます。

## プロジェクト エディタ - 統計情報

各リングストが完了した翻訳の分量に関する情報は、プロジェクトのソースおよびターゲット言語両方について[統計情報]タブに表示されます。データは、リングスト、ワークフローのステップ、ファイルごとに示されます。単一のプロジェクトに複数のファイルがある場合は、ワークフロー ステップのリングストごとの合計値が示されます。データは XLSX または CSV ファイルとしてダウンロードできます。ソースとターゲットの統計情報は、セグメントステータスが[済み]に設定される際に自動的に更新されます。

プロジェクトエディタ - 2017092801

ターゲット言語: 日本語 | 全統計を保存 | 統計履歴

統計 | 見本 サンプル

翻訳 1

1\_Pudding.docx

阿部 氏

翻訳 1

1\_Pudding.docx

統計 見本 サンプル

ファイル名: 1\_Pudding.docx  
ステップ名: 翻訳 1

データ | チャート

	初期	セグメント	単語	文字	文字 %	スペースを除 いた文字	翻訳時間 (hh:mm:ss)
合計数		2	22	125	100%	125	00:00:14
翻訳不要		2	22	125	100%	125	00:00:05

[統計]ウィンドウ

統計 見本 サンプル

ファイル名: 1\_Pudding.docx  
ステップ名: 翻訳 1

データ    チャート

ソース						
初期	セグメント	単語	文字	文字 %	スペースを除いた文字	翻訳時間 (hh:mm:ss)
合計数	2	22	125	100%	125	00:00:14
翻訳不要	2	22	125	100%	125	00:00:05
TMマッチング						
変更済みICEマッチ	0	0	0	0%	0	00:00:09
レバレッジドマッチ	0	0	0	0%	0	00:00:00
95-99% あいまいマッチ	0	0	0	0%	0	00:00:00
85-94% あいまいマッチ	0	0	0	0%	0	00:00:00
75-84% あいまいマッチ	0	0	0	0%	0	00:00:00
機械翻訳	0	0	0	0%	0	00:00:00
内部マッチング						
リピート	0	0	0	0%	0	00:00:00
95-99% あいまいリピート	0	0	0	0%	0	00:00:00
85-94% あいまいリピート	0	0	0	0%	0	00:00:00
75-84% あいまいリピート	0	0	0	0%	0	00:00:00
マッチなし	0	0	0	0%	0	00:00:00

XLSX形式で保存    CSV形式で保存

### 統計の詳細

新規の、または修正されたソースファイルがアップロードされてプロジェクトが更新される前に、統計情報は統計履歴に保存されます。[統計履歴]ボタンをクリックすると新しいウィンドウが開かれ、任意の行をクリックして希望する統計履歴にアクセスできます。

### プロジェクト エディタ - メトリクスと統計の比較

[ソース]統計は、特定のユーザによって特定のワークフロー ステップで翻訳されたソーステキストのセグメント・単語・文字の数および文字数に基づく割合に関する情報を示します。

[ターゲット]統計は、特定のユーザによって特定のワークフロー ステップで翻訳されたターゲットテキストのセグメント・単語・文字の数および文字数に基づく割合に関する情報を示します。

メトリクスはプロジェクト全体に対して翻訳済みのテキストおよび、これから翻訳されるテキストのセグメント・単語・文字の数について、文字数・単語数・文字数に基づく割合に関する情報を示します。

つまり統計とメトリクスは、単独のユーザにより実行されるステップに対して同じ値を示します。

例:

ユーザ: リンギスト1が[マッチなし]のソーステキスト 20 ワードをターゲットテキスト 25 ワードへ翻訳した。

メトリクス:

マッチなし、20 ワード

ソース統計:

マッチなし、20 ワード

ターゲット統計:

マッチなし、25 ワード

統計とメトリクスには単一のステップに管理者や PM を含む複数のユーザが関与すると、異なる値が示されます。

例:

ユーザ: リンギスト 1 が[マッチなし]のソーステキスト 8 ワードをターゲットテキスト 11 ワードへ翻訳した。

ユーザ: リンギスト 2 が[マッチなし]のソーステキスト 12 ワードをターゲットテキスト 14 ワードへ翻訳した。

メトリクス:

マッチなし、20 ワード

ソース統計:

リンギスト 1: マッチなし、8 ワード

リンギスト 2: マッチなし、12 ワード

ターゲット統計:

リンギスト 1: マッチなし、11 ワード

リンギスト 2: マッチなし、14 ワード

機械翻訳が使用された場合も、メトリクスと統計には異なる値が示されます。この場合、オリジナルのメトリクスでは、セグメント・単語・文字の数が[マッチなし]カテゴリーの[あいまいマッチ]の項に示されることがあります。翻訳後、設定によって、機械翻訳が使用されたテキストの一部は[あいまいマッチ]として示されることがあります。

## プロジェクト エディタ - ワークフロー

[ワークフロー]タブをクリックするとプロジェクトの詳細が表示されます。言語ごとにことなるワークフローが設定されている場合、表示させる言語を選択するためのドロップダウンリストを使用できます。言語に基づいて抽出表示させることで、同じワークフローを有する言語に対する期日を一括して更新するなどの操作を容易に実行できます。



### ワークフローの概要

このウィンドウでは 1 行に 1 つのターゲット言語が表示され、該当するターゲット言語のファイルすべてへ翻訳リソースをアサインできます。

[情報]アイコン(左側の [i] アイコン)にマウスをかざすと合計ファイル数や、ファイルの状態(正常に解析済み、空、非対応、エラーあり)と数が示されます。言語名のボタンをクリックするか、ウィンドウ上部のプルダウンメニューから言語を選択すると、個別のファイルに関する情報が表示されます。

[ワークフローを編集]ボタンをクリックすると、ステップの追加や削除、ステップ間の遷移の設定や TM 承認のタイミングを設定することによってプロジェクト全体のワークフローを変更できます。ワークフローはプロジェクト全体にも、単一の言語に対しても変更できます。

任意の言語に対するリソースをアサインして[開始]ボタンをクリックすると、その言語のワークフローを開始できます。[保存]ボタンをクリックした場合、アサインしたリソースは保存されますが、ワークフローは開始されません。

このページでは、プロジェクトマネージャはワークフローに関する多数の機能を実行できます。  
例:

1. ファイルを複数のバンドルに分割する
2. リンギストの詳細を表示する
3. リンギストに多様なタスクを割り当てる
4. ワークフロー上でジョブを次へ進める、または前に戻す
5. XLIFF ファイルをダウンロードおよびアップロードする
6. プロジェクトを次へ進める、または前に戻す
7. タスクを見るため、編集モードまたは表示モードでエディタに開く
8. プロジェクトに関するレポートを選択して実行



ワークフローのステージに対してロールを適用

### ファイルを複数のバンドルに分割する

単一のファイルを複数のバンドルに分割すると複数のリンギストが同時に作業をすることが可能となり、スループットタイムを削減できます。最初、テキスト セグメントすべては単一のバンドル内にあるものとしてファイルは表示されます。このファイルを複数のバンドルに分割するには、ファイル名の下側の右側のボックスに現在よりも若い数字を入力します。カーソルを別の位置に移動すると、2 つめのバンドルのセグメント番号を伴うボックスが表示されます。

### タスクにリンギストをアサインする

ワークフロー管理の最初の行はプロジェクト全体のための一般的なラインです。このラインを使用して、プロジェクトのファイルおよびバンドルすべてに翻訳者やレビューアを一括してアサインします。アイコン  を使用して、すでに設定されている名前を置換します。次のラインはプロジェクト内の個別のファイルやバンドルに関連します。

リンギストをアサインするには:

1. タスクごとにプルダウンリストから名前を選択します。ランゲージペアに適したリンギストのみが表示されることに留意してください。
2. アイコン  をクリックするとウィンドウが開かれ、対応可能なリンギストの詳細が表示されます。必要な名前をダブルクリックします。
3. すべてのタスク、ファイル、ステップに対して、プルダウンリストから名前を選択します。
4. 上部のプルダウンリストから名前を選択して全置換アイコン  をクリックすると、すべてのタスク、ファイル、ステップに選択した名前が入力されます。

## ワークフローを保存して開始する

さまざまなタスクにリングストをアサインしたとき、該当画面から移動する前に[保存]ボタンをクリックする必要があります。

ワークフローを開始するには[開始]ボタンをクリックします。選択したワークフローに基づき、タスクが緑色の枠で囲われます。これは、タスクに対してリングストによる作業が可能であることが示されています。

## タスクを完了または拒否する

PM はファイルを次のステップに進めることも、前のステップに戻すこともできます。



### ワークフローを管理する

上図では、セグメント 1~15 のタスクとして[翻訳 1]と[チェック 1]がアクティブにされています。2 つのうちいずれかを完了させて次のステップに移動するには、緑色の矢印をクリックします。同様に、タスクを以前のステップに戻すには赤色の矢印をクリックします。ファイルを移動した場合、[保存]ボタンをクリックするのを忘れないように留意してください。部分的に完成したプロジェクトを完了するには、ワークフローの最後のステップを含む全ステップを通して、プロジェクトを手動で移動します。

## 前進と後退

プロジェクトはワークフロー上の前のステップに戻すこともできます。ワークフロー管理上のコンテキストメニューから[ロールバック]を選択し、続いて希望するステップを選択します。このオプションを選択した場合、ファイルは選択したステップの最後の状態に戻されます。後続のステップで発生した変更はすべて消失されます。また、以前のステップでソースセグメントとターゲットセグメントが異なる限り、生成された翻訳メモリは上書きされます。



### コンテキストメニュー [ロールバック]

ワークフロー上の後続ステップにファイルを進めることもできます。[先に進む]を選択して、さらにステップを選択します。

## ワークフローを修正してステップの期日を設定する

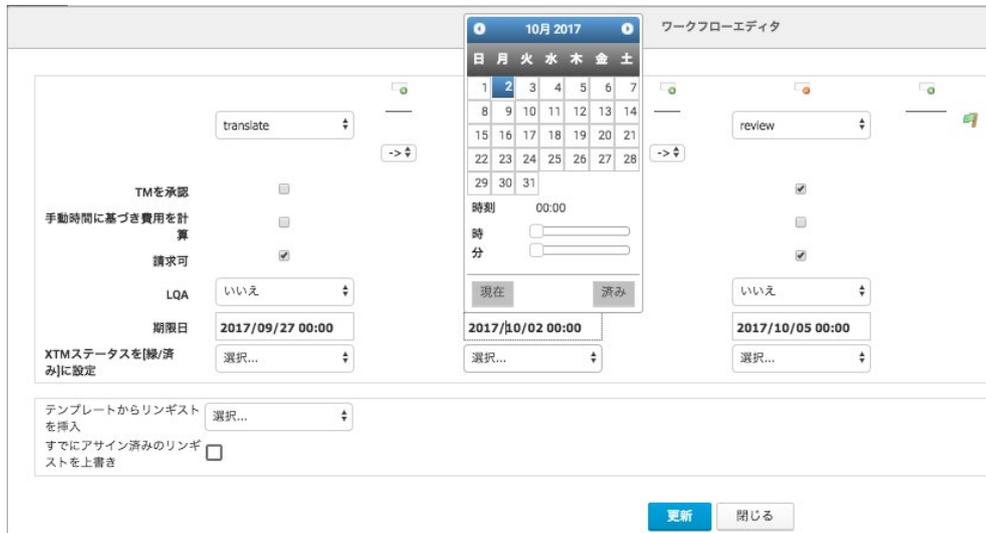
プロジェクトが作成されると、ワークフローを修正することも、期日を設定することもできます。プロジェクト、言語、グループ、ファイルに対して実行できます。同じワークフローを有する言語すべてに対して、期限日を一括して更新できます。

[期日を表示]を選択すると、設定された期日が表示されます。これにより各ステップの下部に期日が表示され、超過した期日は赤色でハイライト表示されます。



期日が表示されたワークフロー

ワークフローを編集する、または期日を追加・変更するには、[ワークフロー/期日を変更]ボタンをクリックします。以下のウィンドウが表示されます。



[ワークフロー エディタ]ウィンドウ

このウィンドウでは以下を実行できます。

- ワークフローのステップを追加
- ワークフロー ステップの機能性を定義
- ステップ間のブロッキング メカニズムを定義
- ワークフローのステップを削除
- 個別のステップに対する LQA 機能を定義
  - いいえ: LQA 機能を無効にする
  - いいえ、ただし既存エラーは表示: 以前のステップで報告された LQA エラーのみを表示
  - はい、ユーザレコードに結果を保存: [ユーザを編集]ウィンドウの[評価]タブで以前のステップの翻訳者に対する LQA 結果を保存
  - はい、ユーザレコードに結果は保存しない: LQA は実行するが、リングスト情報に結果は保存しない

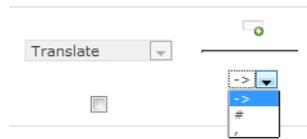
- TM 承認を実行するステップを定義デフォルトではセグメントごとのステータスが[済み]に変更されるワークフロー内の最後のステップにおいて、各セグメントが翻訳メモリとして承認されます。
- ワークフロー上の各ステップに期日を設定します。

ワークフローのステップを追加するには、まず、ステップを挿入する場所でアイコン  をクリックします。新しいステップが表示され、プルダウンメニューからステップの機能を選択します。



ステップの機能を選択する

次に、プルダウンメニューから適切な記号を選択して、ステップ間のブロッキング メカニズムを定義します。



ステップ間のブロッキング メカニズムを定義する

前述ですが、記号は以下のとおり機能します。

- [ , ]では、2つのステップを同時に進行できます。
- [->]では、前ステップが終了するまで、各バンドルで次のステップを開始できません。
- [#]では、全バンドルの前ステップが完了するまで、次のステップは開始できません。

ワークフロー上のステップを削除するにはアイコン  をクリックします。

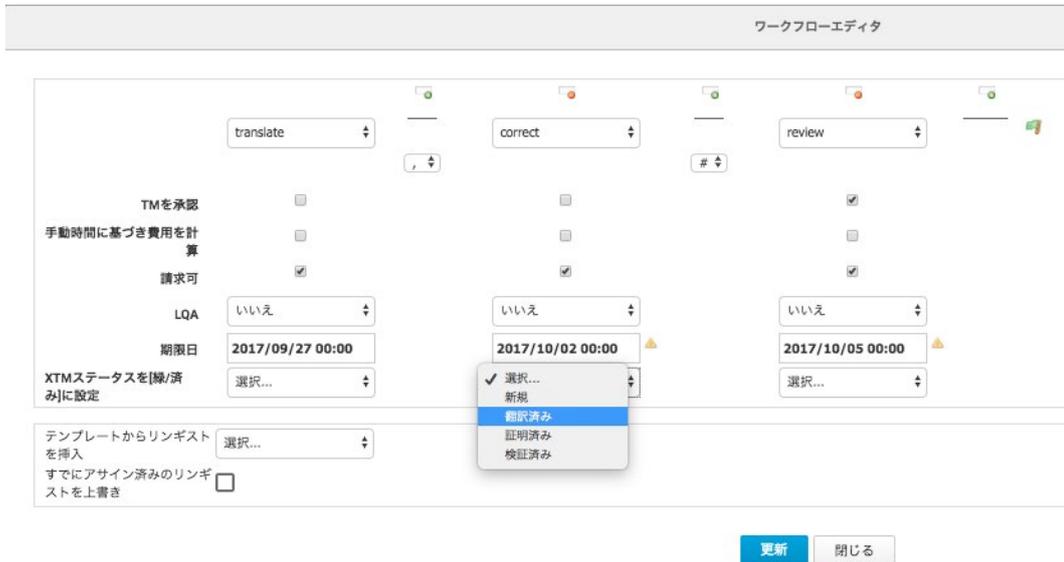
ワークフロー上で翻訳メモリを承認するステップを定義するには、関連するチェックボックスを選択します。

期限日と時刻を入力するには、空白のセルをクリックしてカレンダーをポップアップ表示させて日付を選択します。時刻を設定するには下部のスライダーを使用します。日時はユーザが選択したタイムゾーンで表示されます。

### XTM ステータスを[緑/済み]に設定

[コンフィギュレーション] > [設定] > [システム] > [一般] > [TIPP を有効化]が選択されていると、[ワークフロー エディタ]には新しいフィールド[XTM ステータスを緑/処理済みに設定]が表示されます。これによって、インポートされる XLIFF:doc のステータスを考慮して XTM でのセグメント ステータスを設定できます。

この機能を使用するにはプルダウンメニューから XTM ステータス値を設定します。そして、XLIFF:doc を XTM へインポートする際、設定した値以上のステータスを有するいずれのセグメントにも、XTM 上では[緑/済み]のステータスが自動的に付与されます。



ワークフロー エディタでXTM ステータスを[緑/済み]に設定する

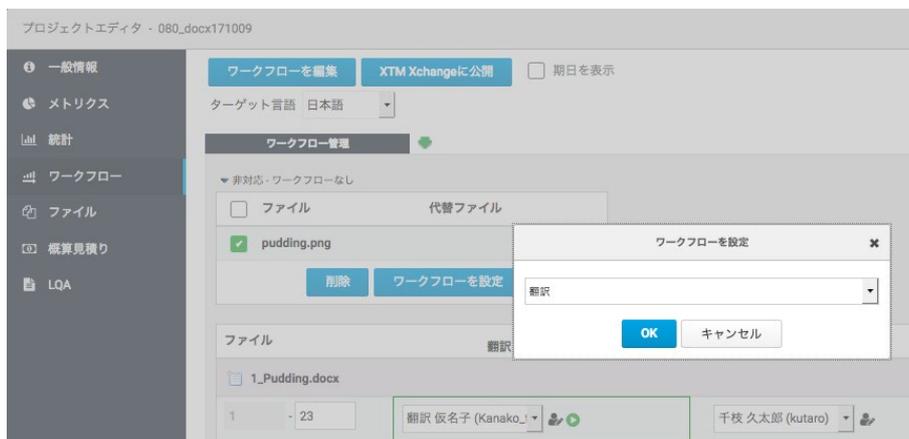
[テンプレートからリングストを挿入]オプションを使用して、すでにアサインされているリングスト情報を上書きするかどうかを決定し、テンプレートを選択してワークフロー ステップにリングスト情報のみを反映させます。

### 解析できないファイル

XTM でプロセスできないファイルには 3 つの理由が考えられます

- 該当ファイルは XTM でサポートされていない。これは、コンテンツを抽出するための適切なファイルフィルタが存在しないことを意味します。たとえば PNG ファイルは XTM ではプロセスできません。
- 該当ファイルは空である。ファイルタイプに対する適切なフィルタはありますが、翻訳対象のテキストが含まれていません。
- 該当ファイルが不正である。このようなファイルは、ファイルフィルタでプロセスできません。ファイル拡張子の変更された、不正な構造を有する XML などが該当します。

この場合、[コンフィギュレーション] > [設定] > [ワークフロー] > [ワークフロー オプション]で[解析不可能ファイルのワークフロー]が選択されると、下図のように該当ファイルが表示され、PM はこのファイルタイプに対してワークフローを設定・管理することが可能となります。



解析不可能ファイルのためにワークフローを設定する

解析不可能ファイルのタスクにリングストをアサインすると、リングストの[タスク]タブに該当ジョブとして表示されます。しかしながら、これをクリックしても実行できるオプションは[ファイルのダウンロード]と[オフライン作業]のみです。XTM Editor は利用できません。

## メール通知

XTM システム上でプロジェクトの進行に関連する特定のイベントが発生すると、メールが送信されます。メールが発信されるイベントと発信先は以下のとおりです。

### XTM メール

イベント	受信者のロール						
	全ユーザ	PM	PM - カスタマー・ プロジェクト	PM - 作成・表示	CPM	リングスト	プロジェクト ウォッチャー
ユーザが新規作成された	✓						
プロジェクトが新規作成された (解析が完了した)		✓	✓ 作成者の 場合	✓ 作成者の 場合	✓		✓
新規タスクがアサイン されて開始された		✓				✓	✓
タスクが無効にされた		✓				✓	✓
タスクが完了された *		✓				✓	✓
タスクが辞退された *		✓					✓
ユーザが削除されて タスクが却下された		✓					✓
タスクが再開された		✓				✓	✓
タスクが再アサイン された						✓	✓
タスクが削除された						✓	✓
パスワード リマインダ	✓						
期限日		✓	✓	✓	✓	✓	✓
グループタスクがアサ インされた						✓	
グループタスクが受諾 された		✓				✓	
グループタスクが受諾 後に拒否された		✓				✓	
優先順グループ用の タスクがリングストによ って拒否された		✓				✓ 次のリン ギストへ	✓
プロジェクトが PM へ と完了された		✓					✓
最後のリングストの タスクが変更された		✓					✓
プロジェクトが確認 された		✓	✓	✓			

\*が付与されたイベントはリングストによるアクションの後にメールが送信され、アクティブなタスクに関してのみメールが送信されます。

変更を実行する人にメールが送信されるわけではありません。つまり PM が翻訳者をアサインする場合、これについてのメールを PM は受信しません。

該当プロジェクトに PM がアサインされていない場合、システム上の PM すべてにメールは送信されます。

### XTM Xchange

イベント	受信者		
	会社	フリーランス	
登録	✓	✓	
ジョブが発行された	✓	✓	[適切なジョブをメールで通知]が選択された場合のみ。
ジョブが更新された	✓	✓	
ユーザとして追加された	✓	✓	
サブコントラクタとして追加された	✓		

### XTM サブコントラクト メール

イベント	受信者
	サブコントラクタ PM
コントラクタがサブコントラクタにプロジェクトをアサインする	✓
コントラクタがプロジェクトを開始する	✓
コントラクタがプロジェクトを更新する	✓
コントラクタがプロジェクトを削除する	✓

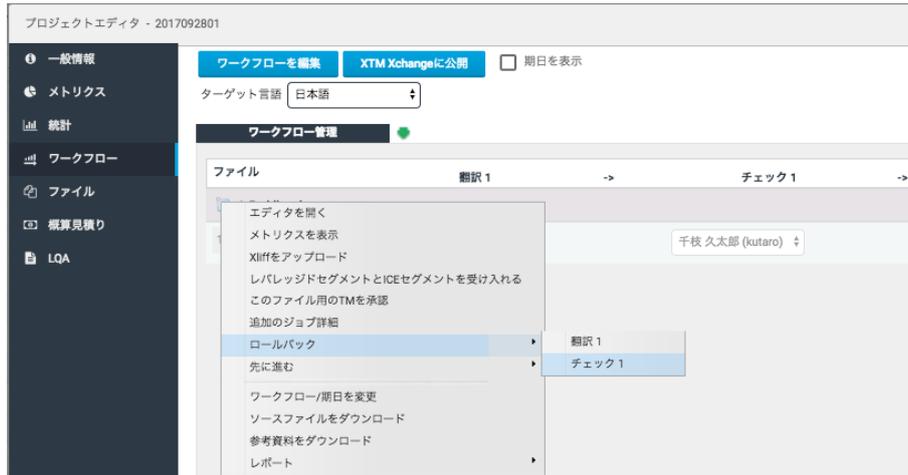
### XTM Portal

上記メールのほかに、以下のメールが XTM Portal から発信されます。

イベント	受信者	
	LSP PM	CPM
カスタマーの連絡先リクエスト	✓	
CPM が登録された	✓	✓
支払い処理が済んだ	✓	✓
支払いページにアクセスされた	✓	

## プロジェクト エディタ - ワークフロー コンテキストメニュー

ファイルそれぞれのアイコンをクリックすると、実行可能な多くのアクションがメニューとして表示されます。



ワークフロー上のファイルごとのメニュー

### エディタを開く

メニューアイテムを選択することによって XTM Editor でジョブを表示できます。1 つめのウィンドウでワークフローのどのステップをどのユーザとして開くか、エディタに読み取り専用としてか、フルアクセスで開くかを選択できます。



ワークフローから XTM Editor を開く

### メトリクスを表示する

メニュー項目からファイルの現在のメトリクスを表示させ、現在の進捗を確認できます。

### XLIFF をアップロードする

オフライン翻訳またはチェックの後に XLIFF ファイルをアップロードするには、メニュー項目[XLIFF をアップロード]を選択します。ウィンドウが開かれ、アップロードするファイルを選択できます。ワークフロー上で完了したステップを特定し、セグメント ステータスを承認するかどうかを選択できます。この承認には 4 つのオプションがあります。

1. 対象セグメントなし
2. XLIFF のセグメント ステータスを使用
3. 変更したセグメントのみ
4. 全セグメント

[XLIFF をアップロード] ウィンドウ

### レバレッジド セグメントと ICE セグメントを受け入れる

このオプションを選択すると 100% マッチのセグメントすべてのステータスが変更され、オレンジから緑色に変更します。

### このファイル用の TM を承認

このメニュー項目を選択すると、該当ファイルに対する翻訳メモリすべてが承認されます。

### 追加のジョブ詳細

ウィンドウが開かれ、ジョブ ID、言語コード、プロジェクト ID、カスタマー ID などプロジェクトに関する詳細なデータが表示されます。

追加のジョブ詳細	
ジョブID	550634
言語コード	ja_JP
言語ID	550628
ワークフローインスタンスID	550817
ワークフロー定義ID	2350
XTMドキュメントID	aeca34d195e848f48f731a4b86a636f8
XLIFFファイルID	550636
プロジェクトID	550627
カスタマーID	3092

[追加のジョブ詳細] ウィンドウ

### ロールバック

ワークフロー上で選択したステップにジョブを差し戻します。

### 先に進む

ワークフロー上で選択したステップにジョブを先へ進めます。

### メインワークフローを開始する

プリプロセスを伴うプロジェクトでは、選択された言語または全言語のメインワークフローにてプリプロセスのステップが完了していなくても、このオプションによって開始されます。プリプロセス ステップが完了する前にメインワークフローが開始された場合、プリプロセス ステップが進行するにつれてメインワークフローのソーステキストは変更されることがあります。更新されたメインワークフローのソーステキストに TM マッチは適用され、メインワークフローのソースファイルの前版テキストに対する翻訳も含まれます。

### ワークフロー/期日を変更

このメニュー項目を選択すると該当ファイルに対するワークフローを編集し、期日を設定するためのウィンドウが表示されます。

### ソースファイルと参考資料をダウンロードする

プロジェクトの全ファイルに対するソースファイルまたは参考資料をダウンロードするには、下向きの矢印  をクリックします。1 つのファイルに対するソースファイルまたは参考資料をダウンロードするには、該当するメニュー項目を選択します。

## レポート

このメニュー項目には 5 つのオプションがあります。

1. チェッカーによる変更のレポートを表示
2. チェッカーによる変更のレポートを Excel ファイルとしてダウンロード
3. 全コメントをファイルとしてダウンロード
4. ファイル履歴を表示
5. LQA レポートを表示

ID	ソース	ターゲット
8	2	2-2個
16	Again, place each of the mugs into the microwave oven and heat it (600 W, 2.5 min.).	<del>もう一度、それぞれのマグカップを電子レンジに置いて温めます。</del> マグカップそれぞれを再度電子レンジに置いて温めます (600 W, 2分半)。
18	Chill them for 3 hours in the refrigerator.	<del>3時間冷蔵庫で冷やします。</del> 冷蔵庫で3時間冷やします。

[HTMLとして保存](#)

### チェッカーによる変更を表示

A	B	C	D	E
ID	Source	Previous target	Current target	
8	2	2	2個	
16	Again, place each of the mugs into the microwave oven and heat it (600 W, 2.5 min.).	<del>もう一度、それぞれのマグカップを電子レンジに置いて温めます (600 W, 2分半)。</del>	マグカップそれぞれを再度電子レンジに置いて温めます (600 W, 2分半)。	
18	Chill them for 3 hours in the refrigerator.	<del>3時間冷蔵庫で冷やします。</del>	冷蔵庫で3時間冷やします。	

### チェッカーによる変更の Excel レポート

## ファイルをもう一度開く

ファイルを再度開くには 3 つのオプションがあります。

- [再度開く]: ワークフローを再度開き、プリプロセスを伴わないワークフローの最終ステップを有効にします。
- [メインワークフローを再度開き、閉じる]: プリプロセスのステップを再度開き、メインワークフローを閉じます。
- [メインワークフローを再度開き、稼働したままに放置]: メインワークフローは一切変更せずに、プリプロセス ステップを再度開きます。

ワークフローを再度開いたとしても、ワークフロー上のファイルに対して以前に入力した翻訳が取り除かれることはありません。

## プロジェクト エディタ - ファイル



## [ファイル管理]ウィンドウ &gt; 複数のターゲット言語

このタブで以下のファイルのいずれについても生成してダウンロードが可能であり、特定のファイルはアップロードもできます。

- ソース
  - ターゲット: 4つのオプションがあります。
    - 現状のターゲットファイル。ワークフローの終わりに自動的にターゲットファイルを生成させる。
    - ワークフロー上で選択したステップの後のターゲットファイル。
    - 全テキストがアンダースコアで置き換えられた擬似ターゲットファイル。これによってテキストが適正に翻訳用に抽出されているかを迅速にチェックできます。
    - ソースファイルごとに、以下に基づいてテキストを色付けしたターゲットファイルを生成できます。
      - マッチレート
      - ステータス
  - PDF プレビュー: ソースファイルによって 5つのオプションがあります。
    - ターゲットファイルの WYSIWYG ビュー
    - ソース/ターゲット テーブル
    - 同じ段落の全テキストが同じセルに格納されるソース/ターゲット テーブル
    - HTML5 のソースファイルについては、以下に基づいてテキストを色付けしたプレビューを生成できます。
      - マッチレート
      - ステータス
    - 以下のいずれかの列を選択したソース/ターゲット拡張テーブル:
      - セグメント番号
      - ターゲットテキスト
      - コメント
      - マッチ
      - QA 警告
      - ソーステキスト
      - XLIFF:doc ステータス
      - XTM ステータス
      - 改訂版数
- このレポートでは、希望に応じて以下を選択できます。
- 全言語を表示
  - プロジェクトの全ファイルを 1つのレポートに含む
  - QA 警告があるセグメントのみを含む
  - ターゲットセルにソーステキストを挿入
  - ユーザ名を表示

- HTML プレビュー - 3つのオプションがあります。
  - ターゲットファイルの WYSIWYG ビュー
  - ソース/ターゲット テーブル
  - ソース/ターゲット拡張テーブル - 上記の PDF 版に類似
- TMX ファイル: TMX ファイルはプロジェクトの XLIFF ファイルに基づいており、プロジェクトの TM マッチと翻訳済みセグメントがすべて含まれています。
- 翻訳やレビューをオフラインで実行し、作業の完了後にドキュメントをアップロードします。以下のファイルタイプをダウンロードできます。
  - XLIFF
  - Multi-File XLIFF - 複数のソースファイルがあるときに利用できます。単一の XLIFF ファイルを作成するのでオフラインでの翻訳作業の管理が容易になります。
  - XLIFF:doc ファイルを含む TIPP パッケージは memoQ などの互換性を有するプログラムで開き、編集し、XTM へ再度アップロードすることもできます。TIPP と XLIFF の定義は以下のとおりです。
    - TIPP パッケージ - TIPP (Translation Interoperability Protocol Package) は、独立した異なる TMS (Translation Management System、翻訳管理システム) 間の情報交換をシームレスに行うことを可能とする情報コンテナです。
    - XLIFF:doc - XLIFF ファイル内のドキュメントを代表するリファレンス ガイドです。XLIFF:doc の主要目的は、ローカリゼーション ワークフロー上のツール間で XLIFF データの交換を漏れなく行うためのメカニズムをもたらすことです。
  - Excel ファイル - XTM Off Line Editor を使用するためにこのファイルをダウンロードします。詳細は本ユーザガイドの 6 章『XTM Off Line Editor』を参照してください。
  - レビュー用 PDF ファイルではセグメントごとにコメントを追加できます。追ってファイルを XTM へアップロードすると、XTM Editor 内の標準コメントとして保存されます。
- ソース言語とターゲット言語の両方を含む Unclean Doc。このオプションは MS Word のソースファイルに対してのみ使用可能です。

### ソースドキュメントを変更する

プロジェクトのソースファイルを編集または更新するには、ページ上部の[ソースファイルの管理]ボタンをクリックします。



### プロジェクトのソースファイルを追加または削除する

プロジェクトに新規ファイルを追加する際、新しい名前のファイルをアップロードするとプロジェクトの既存ソースファイルに追加されます。しかしながらプロジェクトに既存するファイルと同じ名前である場合、ソースファイルを更新するかと尋ねられます。この場合、すべての翻訳および、コメントのようなセグメントに関する情報すべてを含め、両方のファイルに含まれる全セグメントが保持されます。新規または変更済みのテキストを含むセグメントはプロジェクトに追加され、削除されたテキストはプロジェクトからも削除されます。ワークフローは最初のステップにリセットされますが、リソースのアサインは変更されません。統計とメトリクスのスナップショットはプロジェクト更新前に作成され、[メトリクス]や[統計]の[履歴]ボタンをクリックすれば Excel 形式でダウンロードできます。

プロジェクトからソースファイルを削除するにはファイル横のチェックボックスを選択し、全言語か一部の言語のファイルのみを削除するかを決定し、[削除]ボタンをクリックします。

## ファイルを生成してダウンロードする

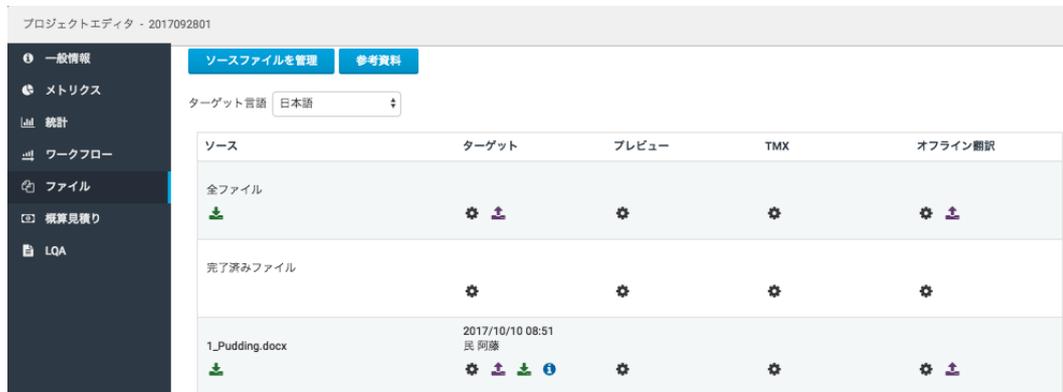
ワークフローの全ステップを完了するとターゲットファイルが自動的に生成されます。また、翻訳の進行中いずれの時点においても手動でファイルを生成できます。

各セルのアイコンをクリックすると以下のアクションを実行できます。

アイコン	アクション
	その時点で最新のファイルを生成する
	ファイルをダウンロードする
	ファイル生成の詳細と履歴を表示させ、旧版ファイルをダウンロードできる
	ファイルをアップロードする

複数のターゲット言語を有するプロジェクトで[ファイル]タブを最初にクリックすると、プロジェクト内の全ファイルを、またはワークフロー上で終了したファイルのみを生成してダウンロードするオプションがあります。

特定のターゲット言語用のファイルを管理するには、上部のプルダウンメニューから該当する言語を選択します。再度、全ファイルまたは終了したファイルのみを生成してダウンロードできますが、特定の言語に対してのみ可能です。



[ファイル管理]ウィンドウ

[生成]アイコンをクリックすると、生成日時およびファイルの作成者が表示されます。 アイコンをクリックすると、生成されたファイルの履歴が表示されます。ファイルをダウンロードするには緑色の矢印をクリックし、システムから履歴を削除するには赤色の矢印をクリックします。直近で生成したファイルの詳細は各セルで確認できます。

ソースファイルをダウンロードするにはソースファイル名の緑色の矢印をクリックします。

## プロジェクト エディタ - 概算見積り

[概算見積り]タブには2つのセクションがあります

- 1) [提案]: ユーザ自身から顧客に対する請求予定
- 2) [費用]: フリーランス翻訳者などのサプライヤからユーザに対する請求予定



[概算見積り]ウィンドウ

**提案の概要**

このタブではプロジェクトに対する顧客への概算見積りを確認して編集できます。プロジェクトの費用と期間、そして納品日が表示されます。以下に対する概算見積りが可能です。

- プロジェクト全体(全言語)
- ターゲット言語ごと
- ファイルごと

プロジェクトのいずれかのセルをクリックすると見積りの詳細が表示されます。プロジェクトの詳細、各言語、各ジョブを確認できます。



メトリクス					
	単語数	価格係数	値引き [¥]	期間係数	期間割引 [日]
翻訳不要	22	1.00	0.00	0.10	-0.01
ICE	16	0.00	-320.00	0.10	-0.01
レバレッジド	0	2.00	0.00	0.30	0.00
DBあいまいマッチ(95%~99%)	7.00	0.00	0.50	0.00	
DBあいまいマッチ(85%~94%)	7.00	840.00	0.70	0.00	
DBあいまいマッチ(75%~84%)	7.00	0.00	0.90	0.00	
リピート	3	5.00	240.00	0.20	0.00
あいまいリピート(95%~99%)	4.00	0.00	0.50	0.00	
あいまいリピート(85%~94%)	4.00	0.00	0.70	0.00	
あいまいリピート(75%~84%)	4.00	0.00	0.90	0.00	
MT	0	1.00	0.00	1.00	0.00
マッチなし	99	1.00	0.00	1.00	0.00
合計	147	1.26	760.00	0.71	-0.02

[ジョブ概算見積り]ウィンドウ

概算見積りは XTM によって算出されますが、プロジェクトマネージャは最終値を手動で編集できます。

### 概算見積りパラメータと係数

まず翻訳プロジェクトに対する基本料金と期間が算出され、正確な推定値を割り出すためにこの費用を調整するべく係数とパラメータを適用します。プロジェクトの費用と期間を算出するために使用されるパラメータと係数は、以下のとおりです。

- ページ、単語、文字あたりの基本料金
- 1日あたりの単語または文字の基本数
- 概算見積りのための最小の単語または文字カウント
- プロジェクトの最低料金
- 通貨
- 計算方法
- 作業スケジュール
- VAT(付加価値税)を適用するかしないか
- 期間の繰り上げポイント
- 納品速度
- メトリクス
- 言語コンビネーション
- ワークフロー内の追加ステップに対する価格と期間に関する係数
- 文書認証に対する実際価格または係数

概算見積り係数は XTM がセットアップされた際にデフォルト値が設定されていますが、カスタマーレベルでの設定が可能です

カスタマー一覧 > test2 > 概算見積り係数

🔍 カスタマー詳細

🔍 概算見積り係数

🔍 概算見積りオプション

🗨️ 言語コンビネーション

👍 QA

★ 主題係数

⚙️ 設定

### 基本事項

1ページあたりの基本料金	<input type="text" value="3000.0"/>
1単語あたりの基本料金	<input type="text" value="20.00"/>
1文字あたりの基本料金	<input type="text" value="10.00"/>
1日あたりの基本ページ数	<input type="text" value="30"/>
1日あたりの基本ワード数	<input type="text" value="3000"/>
1日あたりの基本文字数	<input type="text" value="7000"/>
最小単語数	<input type="text" value="250"/>
最小文字数	<input type="text" value="500"/>
最低料金	<input type="text" value="3000.00"/>
最低料金に割引を適用	<input type="checkbox"/>
1ページごとに概算見積りを算出	<input type="checkbox"/>
通貨	<input type="text" value="日本円(JPY)"/>
計算方法	<input type="text" value="乗算"/>
作業スケジュール	<input type="text" value="月～金"/>
日数計算時の端数切り上げ基準値	<input type="text" value="0.20"/>
VAT支払い	<input checked="" type="checkbox"/>
プロジェクト管理費	<input type="text" value="5000.00"/>
プロジェクト割引日数係数	<input type="text" value="1.00"/>
プロジェクト割引価格係数	<input type="text" value="1.00"/>

### 部数

1部あたりの価格係数	<input type="text" value="1.00"/>
1部あたりの価格	<input type="text" value="0.00"/>

### スピード - プレミアム

もっと早く?	<input type="text" value="30.00"/>	<input type="text" value="0.80"/>
--------	------------------------------------	-----------------------------------

### メトリクス

	価格レート	1日あたりのテキスト係数
翻訳不要	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.10"/>
ICE	<input type="text" value="0.00"/>	<input type="text" value="0.10"/>
レバレッジド	<input type="text" value="6.00"/>	<input type="text" value="0.30"/>
DBあいまいマッチ(95%~99%)	<input type="text" value="12.00"/>	<input type="text" value="0.50"/>
DBあいまいマッチ(85%~94%)	<input type="text" value="12.00"/>	<input type="text" value="0.70"/>
DBあいまいマッチ(75%~84%)	<input type="text" value="12.00"/>	<input type="text" value="0.90"/>
リピート	<input type="text" value="10.00"/>	<input type="text" value="0.20"/>
あいまいリピート(95%~99%)	<input type="text" value="8.00"/>	<input type="text" value="0.50"/>
あいまいリピート(85%~94%)	<input type="text" value="8.00"/>	<input type="text" value="0.70"/>
あいまいリピート(75%~84%)	<input type="text" value="8.00"/>	<input type="text" value="0.90"/>
MT	<input type="text" value="4.00"/>	<input type="text" value="1.00"/>

カスタマーに対する概算見積り係数を設定する

管理者はシステム全体を対象として言語コンビネーション係数も設定できます。

カスタマーに対して係数が設定されていない場合、システムのデフォルト値が使用されます。各係数には概算見積りに影響を及ぼす値があります。

- デフォルト値は 1 で概算見積り値に影響を与えません。
- 1 よりも値が大きければ概算見積り値は増加します。
- 値が 1 未満だと概算見積り値は減少します。

## 最低料金

単語と文字のカウント最小値と、ジョブに対する最低料金を設定できます。

## 作業スケジュール

[月～金]、[月～土]、[毎日]という 3 つのオプションがあります。

## 納品スピード係数

以下の 7 つの納品タイプがあります。タイプごとに価格と期間係数が指定されます。

- 標準
- さらに安く - レベル 1
- さらに安く - レベル 2
- さらに安く - レベル 3
- さらに早く - レベル 1
- さらに早く - レベル 2
- さらに早く - レベル 3

標準のデフォルト値は 1 です。最初にプロジェクトの見積りが作成される際に使用される値です。

ユーザはプロジェクトの概算見積りを準備する際、納品タイプを選択できます。

ユーザはプロジェクト全体のジョブごとに納品タイプや言語コンビネーション係数を変更できます。概算見積りは言語コンビネーション係数や納品タイプが変更されるたびに再計算されます。

ユーザがオプションのセットを削減した係数を簡易に反映させることもあります。[さらに早く?]ボタンをクリックすると価格が上昇します(さらに早く:レベル 2)。そして、[さらに安く]ボタンが表示されます。これをクリックすると標準に戻ります。

## 日数計算時の端数切り上げ基準値

[日数計算時の端数切り上げ基準値]によって、日数を算出する際に小数点以下の端数を切り上げます。たとえば「0.2」が設定された場合、小数点以下に「0.2」以上の数値を伴う期間は切り上げられます。したがって 2.1 は 2 に、2.3 は 3 にされます。この値は PM によって、1 未満の 10 進値で設定されます。

## メトリクス係数

以下のタイプのマッチ セグメントそれぞれには価格と期間の係数があります。

- 翻訳不要
- 完全一致
- レバレッジマッチ
- あいまいマッチには 3 つのカテゴリーがあります(75%～84%、85%～94%、95%～99%)
- リピート
- あいまいリピートには 3 つのカテゴリーがあります(75%～84%、85%～94%、95%～99%)

係数とテキスト カウントそれぞれを使用して、以下の式にしたがってグローバルなメトリクス係数が算出されます。

$$\text{グローバル メトリクス係数} = (\text{テキスト入力カウント} / \text{テキストカウント合計} \times \text{タイプ係数})$$

以下はメトリクス係数試算の一例です。

メトリクス	ワード カウント	価格係数	割引価格 係数	期間係数	割引期間 係数
総計	1000	1	1	1	1
翻訳不要	100	0.1	0.01	0.15	0.02
ICE	150	0.2	0.03	0.25	0.04
レバレッジ	50	0.3	0.02	0.35	0.02
あいまい 99%	5	0.8	0	0.9	0
あいまい 94%	10	0.85	0.01	0.85	0.01
あいまい 84%	15	0.9	0.01	0.9	0.01
リピート	200	0.3	0.06	0.5	0.1
文書内 99%	1	0.8	0	0.8	0
文書内 94%	2	0.85	0	0.85	0
文書内 84%	3	0.9	0	0.9	0
マッチなし	464	1	0.46	1	0.46
合計			0.61		0.67

グローバル メトリクス価格係数 = 0.61

グローバル メトリクス期間係数 = 0.67

### 言語コンビネーション係数

管理者はシステム全体および、カスタマーごとの PM に対して言語コンビネーションをカスタマイズできます。これによってプロジェクト作成において利用可能な言語ペアや、言語ペアごとに期間や価格係数を設定できません。ランゲージペアのカスタマイズは[カスタマーを編集]ウィンドウで設定し、本マニュアルの『カスタマー エディタ』章の詳細を参照してください。

The screenshot shows the '言語コンビネーション' (Language Combination) configuration page. It includes a sidebar with navigation options like 'カスタマー詳細', '概算見積りの計算', and '設定'. The main content area has radio buttons for 'システムデフォルトの言語コンビネーション' (selected), 'システムデフォルトおよびカスタマイズ済み言語コンビネーション', and 'カスタマイズ済み言語コンビネーションのみ'. Below this is a 'ソース言語' (Source Language) dropdown set to '英語(英国)'. There are three dropdown menus for '選択行を更新:' with labels '価格係数', '期間係数', and '最低料金係数'. A table below lists target languages with columns for 'ターゲット言語', '価格係数', '期間係数', '最低料金係数', '最小テキスト分量', '価格設定方法', '利用可否', and '自動見積り'. The table shows settings for 'フランス語(フランス)' and '日本語'. At the bottom, there are buttons for '保存', 'リセット', 'ソース言語を追加', 'ターゲット言語を追加', '選択行を削除', and 'インポート'.

### カスタマー用の言語コンビネーション係数を設定する

### 概算見積りの計算

#### 基本料金と期間の計算

XTM は、まずプロジェクトに対して基本料金と基本期間を計算します。

基本料金は以下の式にしたがって計算されます。

$$\text{基本料金} = \text{ワードまたは文字の合計カウント} \times \text{ワードまたは文字あたりの基本料金}$$

基本期間は以下の式にしたがって計算されます。

$$\text{基本期間} = \text{単語または文字の合計カウント} / 1 \text{日あたりの基本単語または文字}$$

#### 計算方法:乗算または加算

加算:以下の式にしたがってすべての係数を足し、基本料金を掛け算します。

$$\text{最終価格} = \text{基本料金} \times (1 + (\text{言語コンビネーション係数} - 1) + (\text{メトリクス係数} - 1) + (\text{納品タイプ係数} - 1))$$

乗算:以下の式にしたがってすべての係数を基本料金で掛け算します。

$$\text{最終価格} = \text{基本料金} \times \text{言語コンビネーション係数} \times \text{メトリクス係数} \times \text{納品タイプ係数}$$

#### ジョブ価格期間と納品日時の見積り

ジョブ見積りはジョブが解析された後に計算され、既述の係数すべてに基づいています。

納品日時の見積りは、見積り期間 + 1 日と作業予定、さらに設定可能な[日数計算時の端数切り上げ基準値]を使用して算出されます。

見積り価格/期間と最終価格/期間は、最初は相互に等しくありますが、PM は見積りを確認して最終値を変更できます。

最終の言語コンビネーション納品日時とプロジェクト納品日時はジョブ見積りに基づき、XTM によってジョブごとに期間が保存されます。納品日時は合計することができないため、作業時間(納品日時ではない)はジョブレベルで変更できます。

#### ターゲット言語価格期間と納品日時の概算見積り

ジョブすべてが計算された後にターゲット言語ごとの概算見積りが、ターゲット言語でジョブすべての値が合計されることによって算出されます。

さらに、最低テキスト カウント(単語/文字)係数も考慮されます。現在のターゲット言語のジョブすべての合計が最低テキスト分量に満たないとき、最低料金が採択されます。

最低テキスト分量を満たしているジョブでは、パラメータ[割引最低料金]が選択されます。概算見積り価格が最低料金よりも低いとき、最低料金が概算見積り価格として採択されます。

上記のように価格を調整した後、言語コンビネーション レベルでの割引が考慮されます(ジョブレベル)。

算出価格は[概算見積り価格]と認識され、この段階ではこれが「最終ターゲット言語価格」となります。概算見積り期間と納品日は、ジョブの期間と納品日と同様に算出されています。ジョブ試算と同様に作業時間のみは変更可能ですが、納品日は変更できません。

#### プロジェクト価格、期間、納品日の概算見積り

プロジェクトの概算見積りは、ターゲット言語の概算見積りすべてを合計して算出されます。

カスタマー割引が考慮され、概算見積りが増減されることがあります。

同時に、プロジェクト レベルでの割引規則が考慮されます(ジョブレベルを参照)。

算出された価格は[概算見積り]として認識され、この段階では PM による変更が可能な「最終」価格となります。概算見積り期間と納品は、ジョブの期間と納品と同様に算出されています。

この段階では、作業時間と納品日時はいずれも変更できます。

プロジェクトには、最終自動価格、最終自動期間、納品日時もあります。しかしながら、この機能は言語コンビネーションごとに有効にする必要があります。

## 費用に関する概要

[費用]タブではプロジェクトを翻訳する直接的な費用を計算できます。合計数は、ワークフロー上のタスクにアサインされたリングストのレートカードに基づいています。プルダウンメニューから関連するオプションを選択し、ソース言語またはターゲット言語の時間、メトリクス、統計情報に基づいて計算するよう選択できます。ワークフロー全体、またはリングストがまだアサインされていない場合、費用概算を生成する際にレートカードを流用することが可能な[ダミーリングスト]や、レートを 0(ゼロ)で置き換えるオプションもあります。[作成]ボタンをクリックするたびに費用は再計算され、新しい行に保管されます。費用は時間、ソース言語やターゲット言語のメトリクス、または時間によって抽出できます。



### [プロジェクト エディタ] > 費用の概算見積り

継続プロジェクトを運用中で、[コンフィギュレーション] > [データ] > [概算見積り] > [費用の設定]にて継続プロジェクトに対する自動化オプションを設定した場合、プロジェクトの再解析や、プロジェクト内に既存するファイルと同じ名前の新規ファイルをアップロードするなど特定のイベントにおいて、発生したプロジェクト費用とプロジェクトのフェーズごとの期間が入力されることに留意してください。

継続プロジェクトに対する重要な列は以下のとおりです。

- [価格]列には、概算見積りごとの個別費用が示されます。
- [プロジェクト フェーズ期間]列には、特定の継続プロジェクトのフェーズが翻訳中であった期間が示されます。
- [発生したプロジェクト費用]列には、[プロジェクト フェーズ期間]列にエントリを有する旧費用の合計(完了済みプロジェクト フェーズの費用と、最新フェーズの完了以降に発生したすべての費用のみが合計される)が示されます。
- 列によって生成された場合、手動か自動か、費用が発生した原因であるイベントについてなどが示されます。

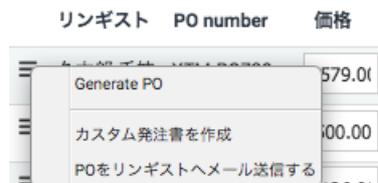
費用の詳細を確認するには該当行をクリックします。リングストごとの費用は行別に表示されます。解析不可能ファイルと追加費用に対する費用はいずれも固定費または基本価格に対する割合として定義できます。

リンギスト	価格	解析不能ファイル	追加費用	リンギスト価格	ワークフローステップ	納品日	単語	ICE	レバレッジド	時刻	メールステータス
Franoise Amelle	0.00 ¥	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥	翻訳 1	2017/09/27 00:00	147	16	0 0:00
france checker	0.00 ¥	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥	チェック 1		147	16	0 0:00
久太郎 千枝	2434.0 ¥	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥+	0.00 %	2434.00 ¥	チェック 1	2017/10/02 00:00	147	2	7 0:00
仮名子 翻訳	1107.0 ¥	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥+	0.00 %	1107.00 ¥	翻訳 1	2017/09/27 00:00	147	2	7 0:00
光江 藤美宇	4000.0 ¥	0.00 ¥+	0.00 %	0.00 ¥+	0.00 %	4000.00 ¥	レビュー 1	2017/10/05 00:00	294	18	7 0:00

保存

[プロジェクト エディタ] > 費用見積りの詳細

費用を完全に算出できない場合、価格には赤色のアスタリスクが示され、最右列に警報アイコンが表示されます。警報アイコンにカーソルをかざすと、費用が完全に算出されない理由がポップアップ メッセージとして表示されます。



[プロジェクト エディタ] > サプライヤ向けの発注書を生成する

そして、リンギスト用に発注書(Purchase Order: PO)を生成できます。ポップアップ ウィンドウが表示され、PO ファイルの形式、計算方法、カスタム フィールドを選択できます。基準レートや言語ごと、言語とワークフロー ステップごとの経費内訳を含めるかを定義できます。また、PO をリンギストに自動的に送信する、コメントを追加する、フッターをカスタマイズする、フォントを指定するなども指定できます。

カスタム発注書を作成

ファイル形式  PDF  Excel

費用内訳 内訳なし

レートを含む

計算方法  減算  加算

カスタムフィールド

コメント

フッター

作成

[プロジェクト エディタ] > カスタム発注書を生成

時間のログを取得する

管理者はリンギストがタスクを実行するために費やした時間を XTM で自動的に記録するように、またはユーザが手動で時間を記録できるように設定できます。これは[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト]タブで設定します。

時間が手動で入力され、リンギストのレートカードに時間単位のレートが定義されている場合、タスク実行の費用を算出するために使用されます。

## プロジェクト エディタ - LQA

任意のプロジェクトで実行された LQA 評価は[LQA]タブに記録されます。このタブには、言語コンビネーション、ワークフロー ステップ、ファイル名、スコア、単語数、翻訳が評価されたリングスト、評価を実施したリングスト、日時を含む評価に関する情報が包括的に表示されます。

プロジェクトマネージャは Excel 形式の LQA レポートや拡張レポートをダウンロードしたり、評価レコードをリストから削除できます。標準的な LQA レポートの内容に加え、拡張レポートには各セグメントのエラーカテゴリや重要度の一覧が含まれます。レポートはファイルごとまたは言語ごとにダウンロードできます。

ソース言語	ターゲット言語	ワークフローステップ	ファイル名	スコア	単語	被評価者	評価者	テスト完了
英語(英国)	日本語	correct1	1_Pudding.docx	0%	3	久太郎 千枝	光江 麗美子	2017/08/11 23:23
LQAレポートをダウンロード	本語	correct1	1_Pudding.docx	87%	147	久太郎 千枝	光江 麗美子	2017/09/19 15:51
拡張レポートをダウンロード	本語	correct1	1_Pudding.docx	0%	24	江崎翻訳会社	光江 麗美子	2017/09/28 09:43

### プロジェクト エディタ > LQA

## プロジェクト エディタ - グループ

プロジェクトに多数のファイルがある場合、ファイル個別ではなくグループで管理の方が容易になる傾向があります。XTM にはファイルを簡単にグループ化するための機能があります。定義したファイル数を超過すると、[プロジェクト エディタ]に[グループ]タブが自動的に表示されます。管理者は[コンフィギュレーション] > [設定] > [プロジェクト]でこの制限ファイル数を設定します。



### グループ化と言語ビューが確認できるようにプロジェクトのファイル数を設定する

また、多数のファイルを伴う単言語のプロジェクトがある場合、ファイルレベルではなく言語レベルでプロジェクトを管理することもできます。言語ビューを表示させる単一言語プロジェクトのファイル数を同様に設定できます。

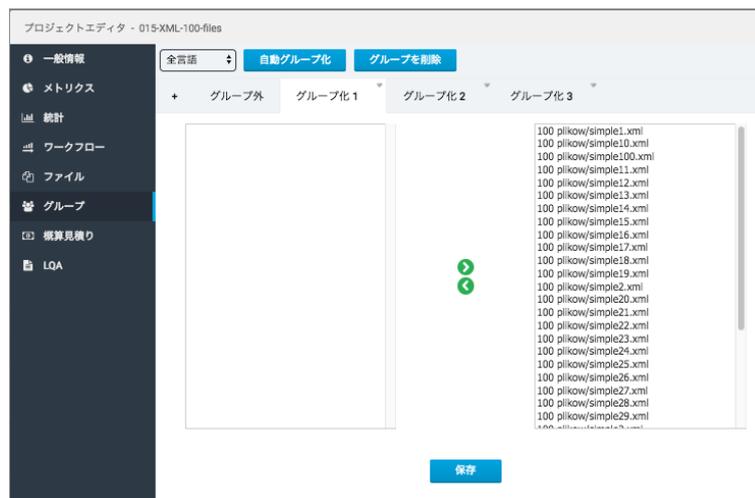
ファイルのグループを作成するには[グループ]タブをクリックします。

- 1) [ターゲット言語を選択する]メニューから特定の言語を選択するか、[全言語]のままにしておきます。
- 2) 自動的にグループ化させるには[自動グループ化]ボタンをクリックします。
- 3) ポップアップ ウィンドウでは[グループごとのファイル数]か[グループ数]を選択でき、関連するボックスに数値を入力して[ファイルのグループ化]ボタンをクリックします。



自動グループ化の設定

- 4) グループを手動で作成するには[+]タブをクリックします。[+]タブをクリックすると新規グループのためのタブが表示され、グループに入れるファイルを右側のボックスへ移動させます。グループに割り当てないファイルは、左のボックスに残しておきます。次のグループ用のタブへ移動する前に[保存]ボタンをクリックします。



グループを作成してファイルを割り当てる

- 5) グループを削除するにはグループタブ右上の小さい三角(▼)をクリックしてプルダウンメニューから[削除]を選択します。

グループビューと言語ビューの利点は、[ワークフロー]タブ上でファイル個別にではなく、グループのファイルすべてに対して翻訳リソースを容易にアサインできることです。



プロジェクトのワークフローが言語ビューで表示されている

## XTM ユーザ マニュアル - プロジェクトマネージャ

The screenshot displays the 'Workflow Management' (ワークフロー管理) section of the XTM Project Manager. On the left is a dark sidebar with navigation options: 一般情報, メトリクス, 統計, ワークフロー (highlighted), ファイル, グループ, 概算見直し, and LQA. The main content area has a top bar with 'ワークフローを編集' (Edit Workflow) and a checkbox for '期限日を表示' (Show Deadlines). Below this, 'ターゲット言語' (Target Language) is set to '日本語' (Japanese) and 'グループ' (Group) is set to '全グループ' (All Groups). The main area is titled 'ワークフロー管理' and contains two workflow groups, 'グループ化1' and 'グループ化2'. Each group has a table with columns for '翻訳1' (Translation 1), '#', and 'チェック1' (Check 1). In 'グループ化1', the '翻訳1' cell contains '翻訳 仮名子 (Kanakano...)' and the 'チェック1' cell contains '妹卯 光江 (Mitsue\_Rev...)', both with user icons and status indicators. In 'グループ化2', the '翻訳1' cell contains '生須 笑夢 (Emu\_trans...)' and the 'チェック1' cell contains '妹卯 光江 (Mitsue\_Rev...)', also with user icons and status indicators.

プロジェクトのワークフローが任意の言語に対してグループビューで表示されている

## コンフィギュレーション:

### ユーザ詳細

このタブでは、使用中のパスワードおよびインターフェース言語、自分の住所や連絡先を含む個人の詳細を変更できます。

ヘルプと情報 ユーザ詳細 マイアカウント データ 設定

**パスワードを変更**

旧パスワード  
新規パスワード  
新規パスワードを再入力

**個人情報**

敬称 Mr  
\* 名 阿藤  
\* 姓 民  
役職  
\* ユーザ名 AtomADMIN  
ニックネーム AtomADMIN  
\* メール xtmjpn@gmail.com  
TAUSメール xtmjpn@gmail.com  
TAUSパスワード  
表示言語 日本語  
稼働状況 対応可能

**住所**

住所1 上野2-12-18  
住所2 池之端ヒロハイツ2階 インスタエリア内  
市 台東区  
県/国 東京都  
郵便番号 110-0005  
国 日本  
タイムゾーン (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京  
日付形式 yyyy/MM/dd (2017/10/19)  
時刻形式 HH:mm (13:31)  
週の開始日 日曜日  
電話番号1 +81 (0)3-4405-9854  
電話番号2  
携帯電話  
Fax  
Webサイト https://xtm-intl.com/  
Skype  
MSN

保存

Copyright 2005 - 2017 XTM International Ltd. All Right Reserved

[ユーザ詳細]ウィンドウ

## 5. XTM: 翻訳者、チェッカー、レビュアー向け

プロジェクトマネージャによりジョブがアサインされるとタスクを通知するためのメールが XTM から発信されます。メールを開きリンクをクリックするとブラウザが開いて XTM のログオンページへ移動します。PM から通知された自分のログイン名とパスワードを入力します。ログインすると[タスク]画面に移動します。

### ヘルプと情報

[コンフィギュレーション]画面へ移動するためのギア(歯車)のアイコンと、ユーザ プロファイル画像の間に表示される疑問符(?)をクリックすると[ヘルプと情報]サイドバーが表示され、ヘルプなどの関連情報へクイックアクセスできます。本ユーザマニュアル、Knowledge Base、XTM Webinar に関する情報へのリンクも含まれます。さらに、XTM Community を利用して業界の仲間からの支援を受けたり、弊社のセールスやサポート担当に連絡することもできます。サイドバーにはサブスクリプション利用規約や XTM Privacy Policy へのリンクもあります。



ヘルプと情報

### タスク

翻訳、チェック、レビューが進行中のタスクすべては、[稼働中]タブに一覧表示されます。タスクをクリックすると XTM Editor で開かれます。

プロジェクト	カスタマー	ファイル	ソース	ターゲット	期限日	ステップ	ステップタイプ	ロール	セグメント	請求可	時刻	単語	進捗
2017090802		1_Pudding.docx	英語(英国)	日本語	31-10-2017 00:00	翻訳 1	翻訳	翻訳者	すべて: 1 - 21	☑		14 7	🔍
080_docx171009	Test	1_Pudding.docx	英語(英国)	日本語		翻訳 1	翻訳	翻訳者	すべて: 1 - 23	☑		14 9	🔍
004-indd_eng-sentence_alt	Demo	file2.indd	英語(英国)	日本語		翻訳 1	翻訳	翻訳者	1 - 54	☑		22 4	🔍

リングリストのタスク一覧

タスク一覧上部の[検索]ボックスはプロジェクト検索に使用できます。プロジェクト名の一部または全部を入力して[検索]ボタンをクリックします。

タスク一覧の下部にはタスク数が表示されます。ページ上に表示させるタスク数を指定し、必要に応じて次のページへ移動することも可能です。

## LQA

PM が個別のユーザーに対して有効化した場合、[LQA]タブが表示されます。このタブには、該当ユーザーが LQA (Linguistic Quality Assessment、翻訳品質評価) 評価を受けた、または評価を実施したプロジェクトが一覧表示されます。

付与されたアクセス権によって表示される LQA 結果のセクションが異なります。

プロジェクト名	ソース言語	ターゲット言語	ワークフローステップ	ファイル名	スコア	単語	テスト完了
012_LQA-170724	英語(英国)	日本語	translate1	2_bbmouse.docx	0%	8	24-07-2017 22:21
J15_prj001	英語(英国)	日本語	translate1	J15_prj001.txt	0%	4	24-07-2017 21:29
201704-LQA	英語(英国)	日本語	translate1	1_Pudding.docx	89%	87	15-04-2017 19:41
022-TAUS_DQF	英語(英国)	日本語	translate1	1_Pudding.docx	84%	92	13-04-2017 15:06

### 該当リンギストに関連したLQA プロジェクトの一覧

## タスクのコンテキストメニュー

各ファイルの横にあるアイコン  で、以下のメニューを呼び出します。



### タスクメニュー

このメニューでは以下を実行できます。

- 標準エディタを開く
- ファイルマネージャを開く

ソース	ターゲット	プレビュー	オフライン翻訳
全ファイル			
1_Pudding.docx			

### ファイルマネージャ

アクセス権によって以下のファイルのいずれも生成してダウンロードすることができ、特定のファイルをアップロードすることもできます。

- ソース
- ターゲット。3つのオプションがあります。
  - 現状のターゲットファイル。ワークフローの終わりに自動的にターゲットファイルを生成させる。
  - ワークフロー上で選択したステップの後のターゲットファイル
  - 全テキストがアンダースコアで置き換えられた擬似ターゲットファイル。これによってテキストが適正に翻訳用に抽出されているかを迅速にチェックできます。
- PDF プレビュー。ソースファイルによって4つのオプションがあります。
  - ターゲットファイルの WYSIWYG ビュー
  - ソース/ターゲット テーブル
  - 同じ段落の全テキストが同じセルに格納されるソース/ターゲット テーブル
  - 以下のいずれかの列を選択したソース/ターゲット拡張テーブル:
    - セグメント番号
    - ターゲットテキスト
    - コメント
    - マッチ
    - QA 警告
    - ソーステキスト
    - XLIFF:doc ステータス
    - XTM ステータス
    - 改訂版数
 このレポートでは、希望に応じて以下を選択できます。
    - QA 警告があるセグメントのみを含む
    - ターゲットセルにソーステキストを挿入
    - ユーザ名を表示
- HTML プレビュー - 3つのオプションがあります。
  - ターゲットファイルの WYSIWYG ビュー
  - ソース/ターゲット テーブル
  - ソース/ターゲット拡張テーブル - 上記の PDF 版に類似
- TMX ファイル。システム管理者は、ユーザがダウンロードできる翻訳メモリを事前に定義しています。以下のオプションがあります。
  - 翻訳済みセグメントおよびファイル全体からのマッチすべて
  - ファイル全体から割り当てられた翻訳済みセグメント
  - 翻訳済みセグメントおよびユーザにアサインされたマッチすべて
  - ユーザにアサインされた翻訳済みセグメント
  - ユーザによって修正された翻訳済みセグメントのみ
- 翻訳やレビューをオフラインで実行し、作業の完了後にドキュメントをアップロードします。以下のファイルタイプをダウンロードできます。
  - XLIFF
  - Multi-File XLIFF - 複数のソースファイルがあるときに利用できます。単一の XLIFF ファイルを作成するため、オフラインでの翻訳作業の管理が容易になります。
  - XLIFF:doc ファイルを含む TIPP パッケージは、memoQ などの互換性を有するプログラムで開き、編集し、XTM へ再度アップロードすることもできます。
  - Excel ファイル - XTM Off Line Editor を使用するためにこのファイルをダウンロードします。詳細は本ユーザガイドの6章『XTM Off Line Editor』を参照してください。
  - レビュー用 PDF ファイルではセグメントごとにコメントを追加できます。追ってファイルを XTM へアップロードすると、XTM Editor 内の標準コメントとして保存されます。
- 用語集を開く - 用語集が別のウィンドウに開かれます。

- メトリクスを表示 - 以下のウィンドウが表示されます。

初期	セグメント	単語	単語 %	文字	文字 %	除いた文字
合計数	21	147	100%	731	100%	623
翻訳不要	2	22	15%	125	17%	125
<b>TM マッチング</b>						
ICE マッチ	0	0	0%	0	0%	0
レバレッジド マッチ	0	0	0%	0	0%	0
95-99% あいまい マッチ	0	0	0%	0	0%	0
85-94% あいまい マッチ	0	0	0%	0	0%	0
75-84% あいまい マッチ	0	0	0%	0	0%	0
機械翻訳	0	0	0%	0	0%	0
<b>内部 マッチング</b>						
リピート	1	3	2%	19	3%	17
95-99% あいまい リピート	0	0	0%	0	0%	0
85-94% あいまい リピート	0	0	0%	0	0%	0
75-84% あいまい リピート	0	0	0%	0	0%	0
マッチなし	18	122	83%	587	80%	481
<b>進捗 - 翻訳 1</b>						
済み	0	0	0%	0	0%	0
要処理	21	147	100%	731	100%	623
要チェック	0	0	0%	0	0%	0

全体の進捗

XLSX形式で保存 CSV形式で保存

典型的な[メトリクス]ウィンドウ

メトリクスはリアルタイムで更新され、プロジェクトの進捗が表示されます。メトリクスは XLSX または CSV としてダウンロードできます。

- [チェッカーの変更]を開くと、チェッカーが変更した項目の詳細がレポートとして表示されます。
- [タスクを完了] によって、翻訳の完了後にワークフローの次のステージへジョブが進行します。

- タスクを完了

翻訳、チェック、レビューの完了後、メニューから[タスクを完了]を選択します。

これによって以下のような効果がもたらされます。

- タスクが完了すると[稼働中]一覧には表示されなくなります。
- 該当タスクは[完了]タスク一覧で確認できるようになります。
- ファイルは、ワークフロー上の次のステップへ移動されます。
- この変更を通知するメールがプロジェクトマネージャ宛に発信されます。

[要編集]のユニットがある状態でレビュアーが[タスクを完了]をクリックした場合、該当タスクは翻訳者へ戻されることに留意してください。

- [タスクを辞退] によって PM からアサインされたプロジェクトを拒否できます。
- [タスクを却下] オプションは、チェッカーとレビュアーに対してメニューに表示されます。ワークフロー上のタスクを前のステップの担当者に戻すことができます。

## XTM Messenger

プロジェクトに携わるメンバー間の情報交換は XTM Messenger によって簡素化され、促進されます。ユーザは、プロジェクトを作成した PM、同じプロジェクトで同じ言語を担当しているほかのリングストとのチャットを開始できます。

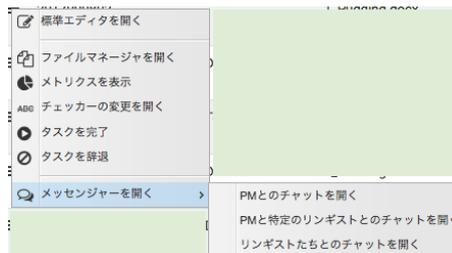
## ニックネーム

チャットのメッセージ上部に表示させるニックネームは、[コンフィギュレーション]タブ(画面右上部の[歯車]アイコン)の[ユーザ詳細] > [ニックネーム]フィールドで設定できます。ニックネームを設定しない場合、チャット ウィンドウには名前(ファーストネーム)が表示されます。

## XTM Messenger のチャットを開く

チャットを開くには、タスク一覧のコンテキストメニューを使用します。リングストは以下のオプションを選択できます。

- PM とのチャットを開く
- PM と特定のリングストとのチャットを開く
- リングスト用にチャットを開く(PM が有効に設定した場合)



リングストが XTM Messenger を開く

## チャット ウィンドウ

新規または既存のチャットを開く際、コミュニケーションをする相手との会話を始められる状態でチャット ウィンドウが表示されます。チャット ウィンドウの上部バーには、チャットが開かれたプロジェクト名と会話に参与する担当者が表示されます。テキスト入力フィールドにメッセージを入力し、緑色のボタンをクリックするか [Enter]キーを押して送信します。



任意のプロジェクト用のチャット ウィンドウ

複数のチャット ウィンドウを同時に開いたままにできます。XTM が新しいブラウザ ウィンドウで開かれた場合、以前のタブまたはウィンドウで開かれていたチャットは機能しくなります。直近で開かれたウィンドウまたはタブでチャットは機能します。

### 未読メッセージ

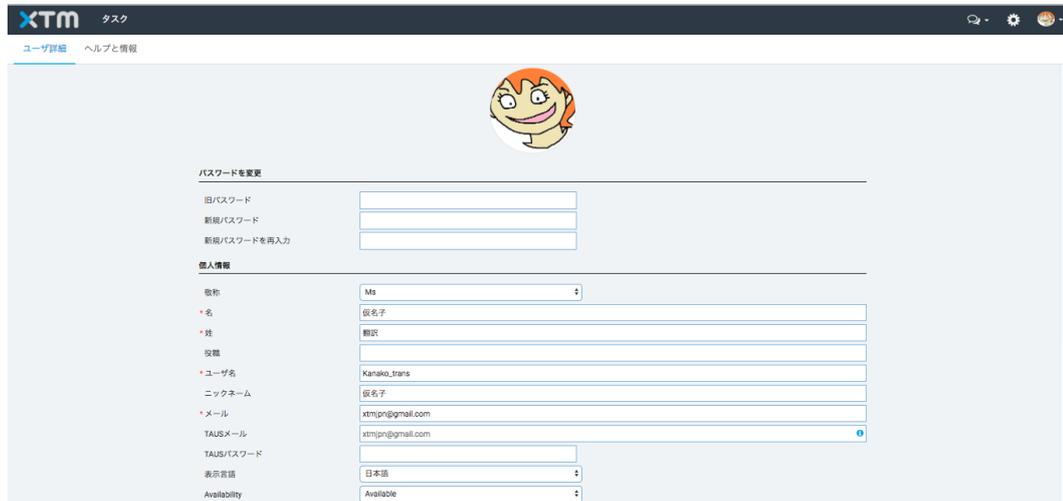
XTM Messenger アイコンはスクリーンの右上部に表示されます。このアイコンで既存チャットを開くことができます。まだ読んでいないメッセージがある場合、XTM Messenger のアイコンバッジとして未読メッセージ数が表示されます。チャットの横の赤丸は未読メッセージがあることを示しています。



XTM Messenger チャットの未読メッセージ

### コンフィギュレーション

[コンフィギュレーション]タブでは自分に関する情報を設定できます。これには、パスワード、メールアドレスやダイアログ言語、住所、電話番号、タイムゾーンや連絡先についてなど個人の詳細が含まれます。

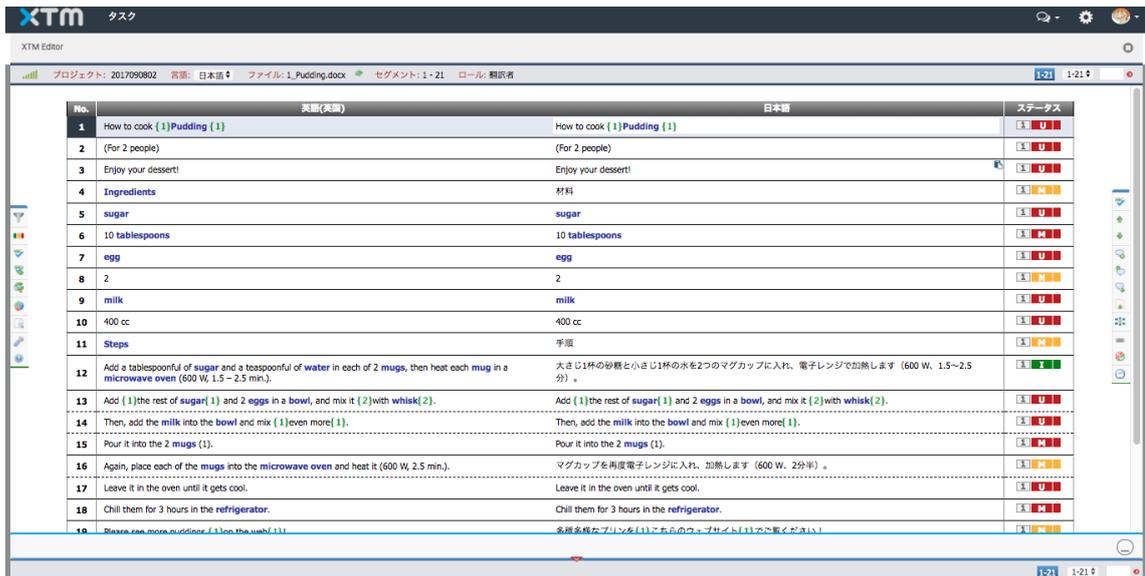


[ユーザ詳細] ウィンドウ

### XTM Workbench の概要

翻訳メモリを適用するため、XTM ではソースドキュメントは文章やフレーズにセグメント化されます。ドキュメントはエディタ上で 4 つのカラムに表示されます (以下、左から右へ)。

1. セグメント ID
2. ソース言語テキスト
3. ターゲット言語テキスト
4. セグメント ステータス



XTM の Web ベースの翻訳者向けインターフェース

### 翻訳メモリのマッチング

翻訳メモリのマッチングにおいて、XTM は語幹に基づいた高度なテキストサーチ技術を活用しています。マッチングは、メトリクスでは以下のようにグループ化されています。

翻訳メモリのマッチング:	内部マッチング:
ICE マッチ	レポート
レバレッジドマッチ	95~99%あいまいレポート
95~99%あいまいマッチ	85~94%あいまいレポート
85~94%あいまいマッチ	75~84%あいまいレポート
75~84%あいまいマッチ	

### ICE (In Context Exact) マッチ

「ICE」または「インコンテキスト エグザクト」マッチとは、翻訳メモリのデータベースと現在のドキュメントにおいて、前後のセグメントも同一である 100% 文脈に沿って活用されるマッチのことです。TM セグメントのインラインは、翻訳ドキュメントのインラインと同一である必要があります。ICE マッチがある場合、ターゲット言語ボックスには自動的に翻訳が挿入され、ステータス フィールドは緑色になります。

ICE マッチは解析中にのみ作成されます。適正なマッチが利用可能だとしても、翻訳中は ICE マッチは作成されません。

### 100%レバレッジドマッチ

100%レバレッジドマッチとは、ICE マッチではあるもののコンテキストが相違します。つまり翻訳者による確認が必要です。ソーステキストに対する[100%レバレッジドマッチ]が TM に見つかった場合、ターゲット言語ボックスには翻訳が挿入されます。ただしステータス フィールドはチェックが必要であることを示すオレンジ色になります。

### あいまいマッチ

あいまいマッチは、ターゲット言語ボックスの下部にマッチ率とともに表示されます。また、あいまいマッチのソース側についても、削除された単語は赤色で取り消し線を伴って、追加された単語は青色で示されます。あいまいマッチのステータスは赤色に設定されています。

## TM プロパゲート

同じドキュメント内の後方またはプロジェクト内の別ドキュメントで繰り返されるセグメントを翻訳する際、お使いの XTM の設定に基づいて TM 内のマッチが自動的に検出され、リピート セグメントには翻訳が挿入されます。あいまいマッチの場合は翻訳者に訳が示されます。この機能は、同一のドキュメントで作業している複数の翻訳者に対しても有効です。

## 機械翻訳マッチ

あるセグメントに対するマッチが旧プロジェクト、現在のドキュメント、または翻訳メモリに見つからない場合、デフォルトではソース言語テキストが両方のカラムに表示されます。[コンフィギュレーション]タブの[翻訳]セクションで[ターゲットセルにソーステキストを挿入]を非選択すれば、ターゲット言語ボックスを空にできます。プロジェクトマネージャが機械翻訳の使用を選択した場合、利用可能であれば機械翻訳マッチが提供されます。

## ID ベース マッチング

ソースファイルが XML、YAML、プロパティファイル、Microsoft Excel、もしくは同じファイルの別のバージョンの場合、ID に基づいたマッチングを使用するよう設定できます。この種類のマッチングは、特にコンテキストが関連性を示さないソフトウェアのインターフェース テキストやゲームを翻訳するにはきわめて便利です。レバレッジドマッチがエグザクト ID マッチとして表示されるため、マッチングが向上します。お使いの XTM インスタンスで ID ベース マッチングを有効化するには、管理者に [support@xtm-intl.com](mailto:support@xtm-intl.com) へ連絡するよう依頼してください。

## セグメント ID 画像

XTM では、セグメント ID としてソースファイル内で定義されたキーパラメータ値に相当する名前の画像ファイルが提供されたセグメントに関与する画像を表示させることができます。セグメント ID 画像には、画像形式として PNG、JPG、GIF に対応しています。ソースファイル内のキーパラメータには、拡張子のないファイル名のみが許容されます。

例、画像ファイルの名前: ImageName.JPG

パラメータ: key="ImageName"

画像ファイルは、アップロードされる ZIP 内のいずれのディレクトリにでも置くことが可能です。ソースファイルのパラメータ キーにスラッシュを使用して、ディレクトリの親子関係を示します。

例、key="MainFolder/SubFolder/ImageName": 画像ファイルは「MainFolder」の下位層の「SubFolder」のに格納されていることが示されています。

No.	画像	英語(英国)	日本語	ステータス
1		This is an animal. ID: img/cat	This is an animal.	
2		This is a vehicle.	This is a vehicle.	
3		This is an electric device.	This is an electric device.	


セグメント ID 画像

セグメントの画像がアップロードされると、セグメント番号とソーステキストの間に画像のサムネイルが表示されます。サムネイルにマウスをかざすと画像は拡大表示され、クリックするとスクリーンサイズで最大化表示されます。

お使いの XTM インスタンスで[セグメント ID 画像]を有効化するには、管理者に [support@xtm-intl.com](mailto:support@xtm-intl.com) へ連絡するよう依頼してください。

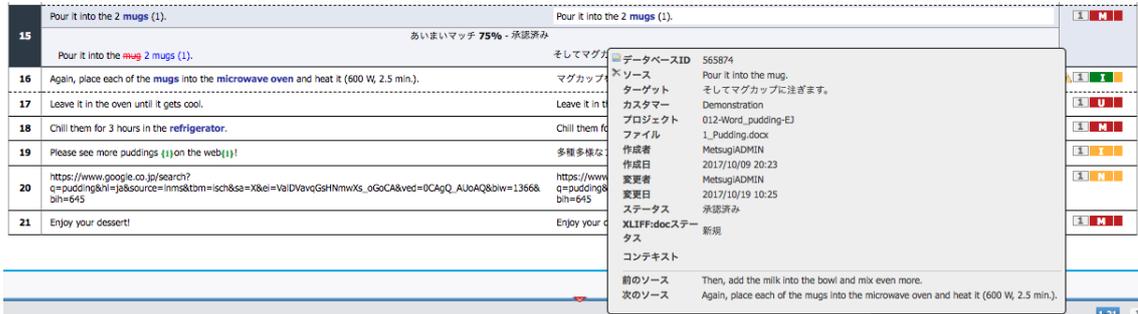
## XTM Editor でマッチを表示させる

XTM Editor では各セグメントの下部に最大で 3 つのマッチが表示されます。まずマッチタイプごとに、それから作成日もしくは変更日の順に並べられます。順序は、ICE マッチ、レバレッジマッチ、リピート、DB あいまいマッチ、内部あいまいマッチ(スコア順、そして日付順)、Google MT マッチとなります。

XTM Editor 上でマッチをクリックすると、ポップアップに以下の詳細が表示されます。

- ID
- ソース
- ターゲット
- カスタマー
- プロジェクト
- ファイル
- 作成者と作成日
- 変更者と変更日
- ステータス
- 前後のソースセグメント、そして前後のターゲットセグメントを表示するコンテキスト。

[コンフィギュレーション] > [設定] > [セキュリティ] > [プライバシー]で、[作成者]や[変更者]を表示させないように設定できます。



レバレッジドマッチの詳細を表示しているポップアップ

データベース ID の左側の鉛筆アイコンをクリックすると、翻訳メモリを編集するためのウィンドウが表示されます。TM セグメントのステータスを設定し、翻訳メモリから該当セグメントを削除できます。



[TM 更新]ウィンドウ

## 翻訳メモリを保管する

翻訳作業中に新たに作成される翻訳メモリは、該当セグメントから離れる際に、サーバ上のデータベースに自動的に保管されます。ソース セグメントとターゲット セグメント、メタデータ、STEM処理された形式の単語が保存されます。テキストとSTEMは Lucene を使用してインデックスされ、あいまい検索、コンコーダンス サーチ、TM マネージャでの検索に使用されます。

## リピート

翻訳者によるドキュメントの作業を通して、XTM は TM データベースをチェックし、XTM Editor 上に表示されるマッチを更新します。これは、リピート セグメントに関してとても重要です。プロジェクト作成中にリピートは

識別されます。そして、繰り返しの最初のインスタンスが翻訳されると、ページ上に表示されるドキュメント上の繰り返しすべてに訳文がプロパゲート(反映)されます。



### リピートされているセグメント

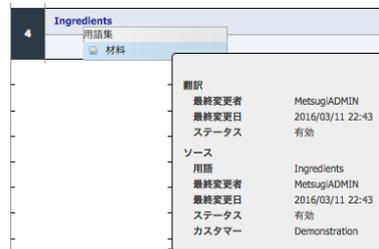
[リピート]リンクをクリックすると、[リピート]フィルターが自動的に適用され、ドキュメント内のリピート セグメントが表示されます。

[リピート]フィルターを適用させるとアイコン  が表示されます。リピート セグメントの1つに変更を加えてクリックすると、その他のリピート セグメントに変更がプロパゲートされます。

リピート セグメント翻訳が更新された場合、ソーステキストとターゲットテキストが同じ場合のみ、更新は自動的にプロパゲートされます。ドキュメントを通しての作業中に、初期に使用されていたマッチよりも新しいマッチが検出された場合、オレンジ色の境界線で強調されて提示されます。

## 用語

既存する用語はソーステキスト上で青色で表示されます。青色の単語をクリックするとターゲット言語の承認済みの訳語が表示されます。訳語にマウスをかざすとツールチップとして詳細が表示されます。



### 訳語を伴ってハイライトされた用語

ターゲット用語の左側の鉛筆アイコンをクリックすると、用語詳細を編集するためのウィンドウが表示されます。



### 用語エディタ

ターゲットセグメントに用語を挿入するには2つのオプションがあります。

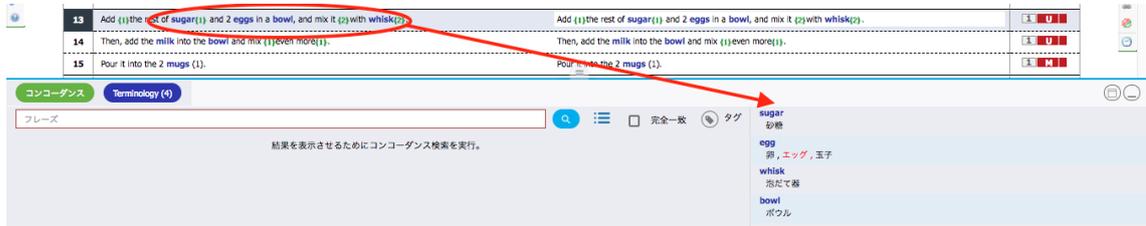
- 1) ターゲットセグメントにソーステキストが置かれている場合、用語は青色でハイライトされます。青色でハイライトされた用語はクリックすることができ、ポップアップメニューから翻訳を選択できます。このメニューを呼び出すためのデフォルトのショートカットキーは[Control] + [Shift] + [T]ですが、XTM Editor 上の [設定] > [ショートカット] > [用語を挿入] で変更することもできます。
- 2) ターゲット セグメントにソース言語用語が置かれていない場合でも、ショートカットキーを押すと該当セグメントの全用語一覧が表示されます。矢印キーを使用して正しい用語をハイライトさせ、[Enter]キーで用語を挿入できます。



ターゲットセグメントに用語を挿入する

用語認識

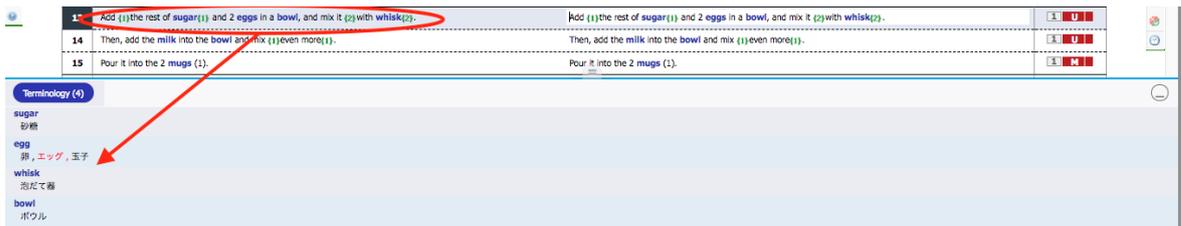
XTM Editor では、アクティブなセグメントで認識されたソース用語すべてはターゲット言語の訳語とともに表示させることができます。スクリーン右下部のアイコン  をクリックすると[用語認識]ウィンドウが表示されます。コンコーダンス機能の設定によってコンコーダンス検索と結果も表示されます。[用語]ボタンに示される数字はアクティブなセグメントで認識されている用語の数です。



コンコーダンスとドッキングしている[用語認識]ウィンドウ

[用語認識]ウィンドウのサイズは変更できます。[コンコーダンス]セクションと[用語]セクションの間の境界線を右または左ヘドラッグし、必要に応じてサイズを変更します。

コンコーダンス機能をポップアップウィンドウで使用する場合、XTM Editor の下部には[用語認識]のみが保持されます。



コンコーダンスがポップアップ ウィンドウに表示された[用語認識]ウィンドウ

テキストに対するコンテキストメニュー

ソースまたはターゲットのテキストを右クリックすると右手または左手に表示されるツールバーで利用可能な機能のみでなく、[コンコーダンス]、[Google で検索]、[用語集]などの項目も含むコンテキストメニューが表示されます。

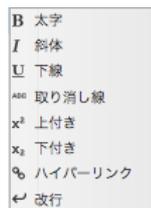
用語集: お使いのアカウントで用語集に対するアクセス権が付与されている場合のみメニュー項目として表示されることに留意してください。



テキストに対するコンテキストメニュー

### テキスト書式

プロジェクトに対して[テキスト書式]機能が有効にされている場合のみ、コンテキストメニューから利用することができます。



追加のテキスト書式のためのメニュー

### 次の未完セグメントに移動

編集が必要な赤またはオレンジのステータスのセグメントへ移動します。これはコンテキストメニューでもショートカット キーでも利用できます。

### 現ユーザが編集した前のセグメントに移動

このバンドルを XTM Editor で開いたユーザによって以前に編集されたセグメントへ移動します。該当する直前のセグメントがリピートだった場合、リピートの最後のセグメントへ移動します。これはコンテキストメニューでもショートカット キーでも利用できます。

### コメントを追加

[コメントを追加]ウィンドウが表示されます。コメントは、右手ツールバーの  アイコンをクリックしても追加できます。

### コンコーダンス

コンテキストメニューからこの項目を選択する前に、ソースまたはターゲットいずれかのテキストから任意の単語をハイライトします。コンコーダンス検索を実行するには、あらかじめ定義したショートカット キーを使用することもできます。コンコーダンス検索は、ハイライトされた用語の場所によってソーステキストまたはターゲットテキストで実行されます。

ポップアップ ウィンドウ、新しいウィンドウまたはスクリーン下部にドッキングされたパネルにコンコーダンスが開かれます。翻訳メモリ内の最新のフレーズがソース言語とターゲット言語で表示されます。また、変更日やカスタマー名も表示されます。ドッキング パネルで開かれた場合、[コンコーダンス]は左側に、[用語認識]は右側に表示されます。[コンコーダンス]セクションと[用語]セクションの間の境界線を右または左へドラッグし、必要に応じてサイズを変更できます。  にマウスをかざすとセグメントの追加のメタデータが表示されます。

コンコーダンスのコンテキストメニューには 2 つのオプションがあります。

デフォルト - 結果には選択した単語の言語幹が含まれ、別の形式にもマッチングを実行します。これによって該当する単語が以前はどのように翻訳されたかを確認できます。適合性の順で、さまざまなセグメントが表示されます。



### 典型的な[コンコーダンス]ウィンドウ

[完全一致]: 単語の一意の形式のみを対象とする場合は[完全一致]オプションを使用します。

[承認済みメモリのみ]: [承認済み]のステータスを有する TM からの結果のみを表示させるにはこのオプションを使用します。

メタデータ行の下向き矢印のボタン  でスコア、カスタマー、プロジェクト、作成日、変更日、ファイル名、セグメント ID の項目に対する並べ替えを実行できます。結果は、まず選択された条件によって、続いてスコアによって並べ替えられます。

### TM に翻訳を保存しない

特定のセグメントの翻訳を翻訳メモリに保存しないためには、この機能を使用します。右手ツールバーのアイコン  でも実行できます。

### 検索と置換

下図の[検索と置換]ウィンドウを表示させるには、コンテキストメニューの[検索と置換]を選択する、左手ツールバーの  アイコンをクリックする、またはショートカット キー [Alt]+[F](デフォルト)を押します。



### [検索と置換]ウィンドウ

ソーステキストとターゲットテキスト、いずれかを対象として単語を検索できます。ただしソーステキストは検索できるのみで置換は実行できないため、[置換]ボタンはグレーアウトされます。セグメント ID ベース マッチングをオンにしている場合、セグメント ID を対象として検索する別のオプションもあります。

ほかにも以下のとおり、多数の検索オプションがあります。

- 大/小文字を区別
- 完全に一致する単語のみ
- 完全一致セグメント
- ターゲット履歴も検索
- 読み取り専用セグメントも検索
- プロジェクトの全ファイルも検索

XTM Editor 上で検索ワードを事前にハイライトしなかった場合、[検索]フィールドに入力します。そして[置換]フィールドにも入力します。[検索]ボタンをクリックします。該当する単語が検出されると、[検索]ボタンと[置換/検索]ボタンがアクティブになります。単純に単語を置き換えるには[置換]ボタンをクリックします。単語を置き換えて同じインスタンスの検索を続行するには[置換/検索]ボタンをクリックします。検出した単語を置き換えずにインスタンスの検索を続行するには[検索]をクリックします。

[すべて置換]をクリックすると、ドキュメントまたはプロジェクト内で該当する単語すべてが置換されます。[すべて置換]が実行されている間、ドキュメント内のセグメントはすべてロックされ、XTM Editor 上ではセグメントはグレイアウトされて表示されます。ドキュメントのサイズによりませんが、[すべて置換]には数分を要することもあります。

### セグメント履歴から復元

この機能を使用して任意のセグメントの旧訳を復元することができます。右手ツールバーのアイコン  でも実行できます。

### Google で検索

このメニュー項目を選択する前に、ソースまたはターゲットいずれかのテキストから任意の単語をハイライトします。ハイライトされた単語の Google 検索結果が新しいウィンドウに表示されます。

### 用語集

3つのオプションがあります。

[用語の追加 - クイック]: XTM Editor での作業中に用語ベースへ用語を追加するには単語を範囲指定し、右クリックして[用語集] > [用語の追加 - クイック]を選択します。下図のウィンドウが表示されます。



エディタから用語を追加する

ターゲット フィールドに訳語を入力する、またはターゲット セグメント上ですでに翻訳された訳語を範囲指定して[選択範囲に決定]をクリックし、さらに[用語を保存]をクリックします。

[用語を追加 - フル]: 完全な[用語]ウィンドウを直接開くには、テキストに対するコンテキストメニューから[用語集] > [用語を追加 - フル]を選択します。用語に関するフィールドすべてにデータを入力できます。

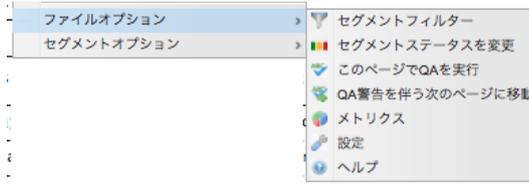
[用語集を開く]: このカスタマー用の完全な用語一覧を閲覧するには、[用語集] > [用語集を開く]を選択します。

### プレビュー

XTM で開かれたファイルのプレビューを作成してクイックアクセスできます。左手ツールバーのアイコン  でも実行できます。

### ファイル オプション

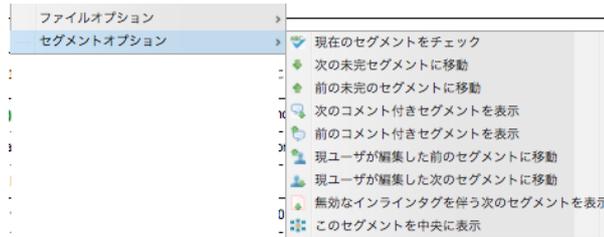
[ファイル オプション]を使用して、左手ツールバーで利用可能な機能へクイックアクセスできます。



テキストに対するコンテキストメニューの[ファイル オプション]

## セグメント オプション

[セグメント オプション]を使用して、セグメント間の移動や、特定のセグメントに対して実行するアクションに関する機能へクイックアクセスできます。



テキストに対するコンテキストメニューの[セグメント オプション]

## インライン要素

テキスト書式などのインライン要素はタグとも呼ばれますが、翻訳用テキスト内では **{1}** のように波括弧に囲まれた数字で示されます。コンテンツを伴うインライン要素は、緑色の波括弧で囲まれた番号が対象テキストの開始部と終了部にペアとして置かれます。ソース文書が Microsoft Word の場合、[インライン要素のヒントを表示]オプションが選択されていると、XTM Editor ではセグメントの下部にインライン要素の意味が表示されます。



下段にインライン要素の意味が表示されているセグメント

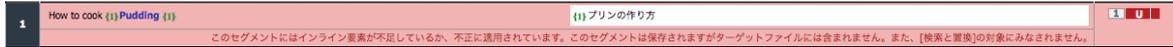


セグメントの下段にインライン要素のヒントを表示させるオプション

コンテンツを伴わないインライン要素はペアにはなっておらず、青色で示されます。

ソースセグメントに含まれているのと同じ数のインラインタグがターゲットセグメントにも必要です。ターゲットセグメントにインライン要素を挿入するには任意の位置にカーソルを置き、キーボードで[Alt]+[波括弧内の番号]を押します。インライン要素が不足するセグメントは全体が赤色で表示され、ページ下部とセグメント上にメ

ページが表示されます。メッセージにしたがって修正しない場合、セグメントは保存されますがターゲット文書が生成される時や、検索と置換には使用されません。



### インラインタグが不足しているセグメント

また、ページ上に赤色のセグメントがある状態で次のページに進もうとすると、無効なインラインタグが含まれるセグメントがあるとのメッセージがポップアップ ウィンドウに表示されます。

## 品質保証

セグメントを[翻訳済み]としてマークするときや、QA アイコンの 1 つ  をクリックすると、QA チェックが自動的に実行されます。左手ツールバーのアイコン  はアクティブなセグメントをチェックするときのみ使用します。左手ツールバーのアイコン  をクリックすると、より広い範囲のセグメントを QA チェックの対象とします。



### QA チェックのオプション

## スペルチェック

スペルミスが検出された単語は黄色でハイライトされます。単語をクリックすると、XTM によりさまざまなスペルの単語が提示されます。提示された単語の 1 つを選択し、不適正と見なされた単語はデフォルトのカスタム辞書に登録し、該当セグメントまたはプロジェクト全体で無視させるオプションがあります。



### スペルミスを修正する

スペルチェックには、『附録 3』にリストされている 90 以上の言語に対応している OpenOffice 辞書を使用しています。カスタム辞書は、別途にカスタマーごとに作成されます。これは、同じカスタマーのためのプロジェクトで作業する複数の翻訳者が、同じカスタム辞書を使用することを意味します。

## その他 QA チェック

スペルのほか、QA モジュールは以下をチェックします。

## 数字

- 不足または不正にフォーマットされた数字
- 単語内の数字

## 句読点

- 句読点後のスペース不足
- 文章内の句読点の重複
- 文章内のスペースの重複
- 句読点前のスペース
- インライン周辺のスペース
- 2 バイト文字周辺のスペース
- 文頭/文末のタブ/スペース
- 開き括弧と閉じ括弧の不統一

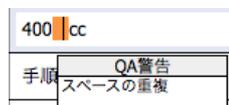
## 言語

- 波括弧内の翻訳不要テキストをチェック
- 禁止文字 - システム管理者指定
- 同一のソースとターゲット
- 単語の重複
- スペルエラー

## 用語集

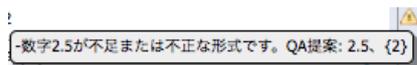
- 却下用語の使用
- 訳語の不足

QA エラーが検出されるとオレンジ色のマークが挿入され、問題点がハイライトされます。



QA エラーの例 - ハイライトされた連続スペース

さらに、三角警告がステータス ボックスの横に表示されます。この三角警告にカーソルをかざすと、問題の詳細が表示されます。



典型的な QA の警告

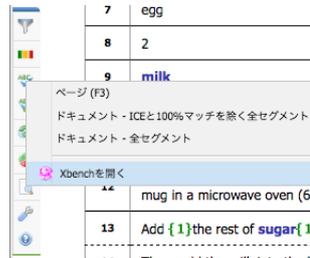
## Xbench との連携

Xbench は翻訳品質を検証するためのサードパーティーのツールであり、XTM Editor から開くことができます。Xbench は XTM サブスクリプションに含まれてはならず、別途にライセンスが必要です。  
<https://www.xbench.net/>にて購入およびダウンロードが可能です。XTM と連携させるには、お使いのコンビ

ユーザに Xbench 3.0 build 1434 またはそれ以上のバージョンがインストールされている必要があります。

### XTM Editor から Xbench を起動する

QA メニューにて[Xbench を開く]をクリックして、Xbench パッケージ(.xbpkg)をダウンロードします。品質検証のため、このファイルを Xbench で開くことができます。



XTM Editor から Xbench を開く

Xbench は XTM Editor にてダイレクトに開くことが可能ですが、ダウンロードしたファイルを自動的に開くには Web ブラウザでの設定が必要です。

たとえば、Chrome では:

- Google Chrome のオプション[ダウンロード前にファイルの保存場所を確認する]を無効にします (参照: <https://support.google.com/chrome/answer/95759?co=GENIE.Platform%3DDesktop&hl=en>)。
- [この種類のファイルは常に開く]を選択します。Xbench の xbpkg ファイルをダウンロードします。Chrome の下部に表示されるので矢印をクリックし、[この種類のファイルは常に開く]を選択します。



Chrome のオプション[この種類のファイルは常に開く]

### Xbench から XTM Editor 上の該当セグメントを選択する

Xbench からダイレクトに、XTM 上のエラー セグメントにジャンプできます。修正するために XTM Editor の該当セグメントに移動するには、Xbench で示されたエラーに[Ctrl] + [E]を押します。この機能は、XTM Editor と Xbench で同じファイルが開かれているときにのみ利用できます。

### LQA マーキング

システム管理者が LQA を設定すると選択された 이슈がリストされます。重要度係数と 이슈の重みが設定されます。

ワークフロー上のステップが LQA 用にマークされる、または該当ステップがデフォルトの LQA ステップであるとき、セグメントの下部に LQA セクションが表示されます。



### 任意のセグメントのLQA セクション - 階層ビュー



### 任意のセグメントのLQA セクション - フラットビュー

イシューを入力するには LQA セクションでアイテムを選択し、青、オレンジ、赤のアイコンいずれかをクリックして重要度を選択します。選択されたイシューは LQA セクションの最上部に表示され、ステータス列にはオレンジ色の三角が表示され、これにマウスをかざすとポップアップに詳細が表示されます。

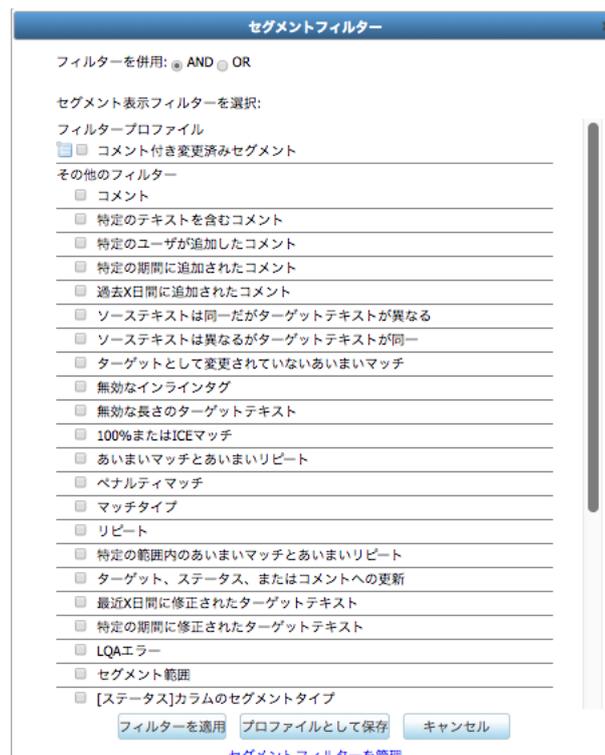
チェック ステップの一部として LQA が使用されると、イシュー評価によってエラーが記録され、チェックが修正されると自動的にコメントが生成されます。

LQA レポートは自動的に生成され、PM はプロジェクト一覧のコンテキストメニューからダウンロードできません。

## XTM Workbench のその他機能

### セグメント フィルター

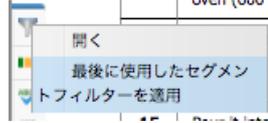
左手ツールバーのアイコン  をクリックすると、適用できるセグメント フィルターの一覧が表示されます。任意のフィルターを選択して[フィルターを適用]をクリックします。



### セグメント フィルターを選択する

1つ以上のセグメント フィルターが適用されるとアイコン  が XTM Editor のタイトルバーに表示されます。このアイコンをクリックするとフィルターはただちに解除され、すべてのセグメントが表示されます。

[フィルターの適用]アイコンを右クリックするとコンテキストメニューが表示され、[フィルター]ウィンドウを開く、または最後に使用したセグメント フィルターをただちに適用できます。



フィルター アイコンを右クリックする

最後に使用したセグメント フィルターを適用する、および適用したフィルターを無効にするためのショートカット キーもあります。このショートカット キーのデフォルトは[Ctrl]+[Shift]+[F]です。

## フィルター プロファイル

2つ以上のセグメント フィルターを AND/OR 演算子を使用して結合し、組み合わせをフィルター プロファイルとして保存することによって、カスタマイズした高度なフィルターを作成できます。簡易に再利用できるように、頻繁に使用する設定を単独のフィルターとして保存することもできます。保存されたフィルター プロファイルは、[その他のフィルター]リストの上部に、左側にアイコン  を伴って表示されます。

### フィルター プロファイルを作成する

左手ツールバーのアイコン  をクリックして、[セグメント フィルター]ウィンドウを表示します。

1. リスト上で希望する 1つ以上のフィルターの隣のチェックボックスを選択し、パラメータを設定します。条件に一致するセグメントを表示させない場合、[除外]を選択します。
2. 2つ以上のフィルターが選択された場合、フィルターリスト上部のラジオボタン ([AND]と[OR])を使用して、組み合わせるかどうかを決定します。
  - a. [AND]ボタンを選択すると、すべての条件に合致するセグメントが表示されます。
  - b. [OR]ボタンを選択すると、選択した条件のいずれか 1つに一致するセグメントが表示されます。
3. [プロファイルとして保存]ボタンをクリックします。
4. [フィルター プロファイルを追加]ウィンドウでは、[フィルター プロファイル名]フィールドに分かりやすい名前を入力して[保存]ボタンをクリックします。新しいフィルター プロファイルは、セグメント フィルター リストの最上部に表示されます。

### フィルター プロファイルを適用する

左手ツールバーのアイコン  をクリックして[セグメント フィルター]ウィンドウを表示します。[フィルター プロファイル]リストから希望するフィルターの横のボックスを選択し、[フィルターを適用]ボタンをクリックします。

### 管理者が作成したプロファイル

システム管理者が作成したフィルター プロファイルは、リスト上でアイコン  によって示されます。これらのプロファイルは通常どおり適用できますが、管理者プロファイルは編集できません。しかしながら管理者プロファイル名の横のアイコンをクリックし、ドロップダウンリストから[表示]を選択すれば設定を確認できます。[フィルター プロファイルを編集]ウィンドウの最上部には、管理者が作成したプロファイルであることが黄色の文字で注意書きされています。このプロファイルの設定を変更して新しい名前を付け、自分のプロファイルとして保存できます。

### フィルター プロファイルを変更する

フィルター プロファイル名の左側のアイコン  をクリックしてドロップダウン メニューから[編集]を選択し、[フィルター プロファイルの編集]ウィンドウを開きます。現在の[プロファイル名]、[AND]と[OR]のラジオボタン、選択されたフィルターおよびパラメータが表示されます。プロファイル設定に任意の変更を実施して[保存]をクリックします。

### フィルター プロファイルを削除する

フィルター プロファイル名の左側のアイコン  をクリックして、ドロップダウン メニューから[削除]を選択します。[確認]ウィンドウが表示されるので[OK]をクリックします。

### レポートをコピーする

[レポート]フィルターを適用させるとアイコン  が表示されます。レポート セグメントの 1 つに変更を加えてクリックすると、その他のレポート セグメントに変更がプロパゲート(反映)されます。

### セグメントを中央に配置する

ページ上の最後のセグメントを、コンテキストとともに次のページに表示させるには、[中央配置]アイコン  をクリックします。

### セグメントをマージする

現在のセグメントを 1 つ上のセグメントとマージさせるには、[セグメントをマージ]アイコン  をクリックします。セグメントのマージおよびマージ解除の運用には規則があります。

- オリジナル ドキュメント内で同じ段落に由来するセグメントのみをマージできます。XTM Editor ではマージ可能なセグメントは破線で区切られています。別の段落からのセグメントとはマージできません。マージ不可能なセグメントは実線で区切られています。
- 3 つ以上のセグメントをマージする場合、常に最後方のセグメントからマージします。つまりセグメント 1 と 2 と 3 をマージする場合、まず 3 と 2 をマージし、その後で 2 と 1 をマージします。
- マージを解除する場合は逆に、前方のセグメントから解除します。
- 読み取り専用のセグメントとはマージできません。

マージした 2 つのセグメントを解除するには[上のセグメントとマージしました]と表示されているセグメントをクリックし、[セグメントをマージ]アイコン  をクリックします。

### 保存する、バージョンングする、旧バージョンを復元する

それぞれのセグメントから離れる際、セグメント上で行ったすべての変更は自動的に保存されます。セグメントごとの履歴が完全に XTM に保管されます。保管メカニズムは 2 つあります。

1. 変更されたセグメントは、自動的にサーバ上にファイルとして保存されます。
2. 加えて、ブラウザの一時的なキャッシュとしてローカルにセグメントが保存されます。インターネット接続がダウンした場合には、バックアップの役目を果たします。

セグメントが保存されるたび、履歴に追加されます。変更者の変更日時も保管情報に含まれます。セグメント履歴を確認するにはアイコン  をクリックします。



バージョン	ターゲット	翻訳者	作成日
3	そしてボウルに牛乳を注ぎ、{1}さらに{1}かき混ぜます。	kutaro	2017/11/02 13:40
2	そして、ボウルに牛乳を加えて{1}さらに{1}かき混ぜます。	Kaneko_trans	2017/11/02 13:38
1	Then, add the milk into the bowl and mix {1}even more{1}.		
ローカルバックアップ	そしてボウルに牛乳を注ぎ、{1}さらに{1}かき混ぜます。		

[バージョン履歴]ウィンドウ - 現在のセグメント

このウィンドウから、現在のセグメントのすべての旧版を確認できます。



[バージョン履歴]ウィンドウ - すべてのセグメント

2つめの[全セグメント]タブには、ページ上の一部またはすべてのセグメントの最新バックアップを復元するオプションがあります。

翻訳を入力する

翻訳メモリのマッチングがないとき、自分の翻訳を入力するには希望するセグメントのターゲット言語フィールドをクリックし、ソーステキストを上書きします。

翻訳メモリのマッチングがあるときは  をクリックして[あいまいマッチ]を取り込み、ターゲットフィールドに翻訳を挿入します。翻訳メモリの訳例にインライン要素が保存されている場合、2つのオプションがあります。 をクリックしてインライン要素を含まずにマッチ訳例をコピーする、および  をコピーしてインライン要素を伴ってマッチ訳例をコピーします。いずれにしても、必要に応じてテキストを編集します。



翻訳メモリマッチを選択する

XTM Editor で特殊文字を挿入する

ときとして、「スマートクォーテーション」などキーボードでは入力できない特殊文字を入力する必要があります。

該当するターゲット言語において特殊な文字を入力するには、[Alt]+[0]を押します。デフォルトの{sp}を含む、対象言語用に特殊文字を選択するためのウィンドウが表示されます。



[特殊文字]ウィンドウ

このウィンドウに表示されない特殊文字については、Windows の[文字コード表]をご利用ください。

[Windows] > [アクセサリ] > [システムツール] > [文字コード表]を選択します。

[文字コード表]アプリケーションでは、頻繁に使用する文字を選択して[コピーする文字]フィールドに表示させます。そして、その文字を XTM Editor へコピーして貼り付けることができます。

ASCII または ANSI のコードも入力できます。便利なコードの例は以下のとおりです。

- [Alt]+[0132]: 下付二重引用符
- [Alt]+[0147]: 左二重引用符
- [Alt]+[0148]: 右二重引用符
- [Alt]+[0139]: シングル フレンチ クォーテーション(左)
- [Alt]+[0155]: シングル フレンチ クォーテーション(右)
- [Alt]+[0128]: ユーロ

これらのキーを押す際、Alt キーを押したままにして、コード番号の数字をテンキーでタイプします。

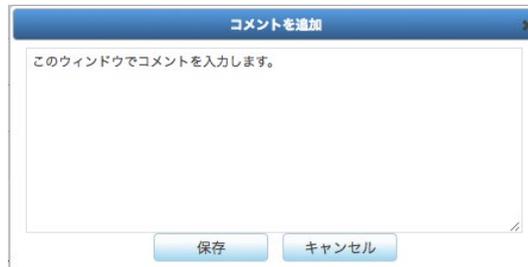
ASCII 文字セットは <http://ascii-table.com/ascii.php> を参照してください。

完全な ANSI の文字セットは <http://ascii-table.com/ansi-codes.php> を参照してください。

頻繁に使用する特殊文字に対してはショートカットキーも作成できます。デフォルトでは、ノーブレーク スペースを挿入するためのショートカットキーは[Ctrl]+[Shift]+[スペース]ですが、任意のショートカットキーを設定できます。

## セグメントのコメント

アクティブなセグメントにコメントを追加するには、右手ツールバーのアイコン  をクリックします。表示されるボックスにコメントを入力して[保存]ボタンをクリックします。コメントはユーザ名と時刻を伴って保存されます。



### コメントを追加する



### コメント付きセグメント

セグメントにコメントが含まれていると、[コメント:]というテキストが表示されます。テキストを表示させるためにアイコン  をクリックします。[設定] > [オプション]でコメント表示のデフォルト設定を変更できます。コメントを編集するには  を、コメントを削除するには  をクリックします。コメントを入力した本人のみがワークフローで定められた担当ステップの実行中にのみ、編集または削除できることに注意してください。

コメントを含む次のセグメントを確認する際、右手ツールバーの[次のコメント]アイコン  をクリックします。

## XTM Editor のタイトルバー

タイトルバーの左部には XTM Server への接続スピードを示すアイコン  が表示されています。接続速度が落ちると、このアイコンはオレンジ色または赤色  に変わります。

接続速度	接続評価	アイコンまたは警告メッセージ
>1900 msec	非常に悪い	
>1001<1899 msec	悪い	
>601<1000 msec	普通	
>400<600 msec	良い	
<400 msec	非常に良い	

続いてプロジェクト名、ターゲット言語、ファイル名、[完了]ボタンと[却下]ボタン、セグメント範囲、ユーザーロールが表示されています。単一のプロジェクトで複数の言語やファイルがアサインされた場合、プルダウンメニューまたはファイル名矢印(例: [>])を使用して、言語やファイルをまたがって移動できます。

XTM Editor でのタスクを完了または却下する: 担当タスクにもよりますが、[コンフィギュレーション]で手動のオプションが選択されている場合、2つの矢印が表示されます - 赤色の矢印 をクリックするとタスクを却下してワークフロー上の前のステップに戻し、緑色の矢印 をクリックするとタスクを完了し、ワークフロー上の次のステップへ自動的に移動します。XTM がセットアップされ、セグメントのステータスによってタスクが自動的に終了または却下されると、矢印のアイコンは双方向を示す赤/緑アイコン に変更されます。

セグメントフィルターが稼働中の場合、赤色の漏斗のアイコン が表示されます。このアイコンをクリックするとセグメントフィルターは解除され、すべてのセグメントが表示されます。

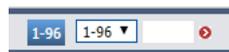


利用可能なファイル名や言語のプルダウンリストを伴うXTM Editor のタイトルバー

## ドキュメント内の移動

エディタの各ページには 10~500 セグメントが含まれます。アイコン をクリックして[設定]セクションを開き、ページごとに表示するセグメント数を設定できます。

ページの上部または下部に表示される範囲(例: [201-300])か矢印(例: [>])をクリックする、もしくはプルダウンリストから範囲(例: [500-1000])を選択すると次のページへ移動できます。空のボックスにセグメント番号を入力して、特定のセグメントへも移動できます。

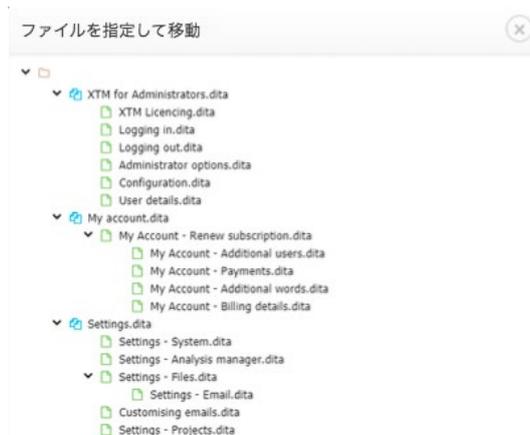


ページの下部または上部に表示される移動パネル

1 ページに表示するセグメント数を決定する際、ほかの翻訳者、レビュアー、チェッカーもこのページを表示することも考慮してください。ほかの担当者に対して該当ページのセグメントは表示はされますがロックされ、一切の変更ができなくなります。

## 結合ファイル間のナビゲーション

DITA のようなファイルをプロジェクト作成の際に結合すると、アイコン をクリックして簡単に移動できます。これによってファイルがツリー構造で表示されます。ツリー構造は[こちら](#)の説明のとおり、ファイル結合の設定に基づいています。



典型的なファイルのツリー構造

### ターゲット ファイルのプレビュー

左手ツールバーの[プレビュー]アイコンをクリックすると、下図のようなドキュメント プレビューのタイプを選択するためのサブメニューが表示されます。



プレビュー メニュー

XML ファイルを翻訳している場合、XSLT スタイルシートを使用してプレビューを生成できます。スタイルシートの選択は、ソース XML ファイルのルート要素を使用して設定できます。XTM ヘスタイルシートをロードするには [support@xtm-intl.com](mailto:support@xtm-intl.com) へ依頼してください。

カスタム スタイルシートがない場合、DITA プレビューは DITA Open Tool Kit のフレームワークをベースにします。ターゲット XML はスタイルシートに渡され、HTML としてレンダリングされます。

### XTM Connect for Adobe InDesign

Adobe InDesign Server とのオプション コネクタを購入済みの場合、追加のプレビュー機能があります。InDesign Server はお客様にてライセンス許諾を得ていただくか、または弊社のインスタンスへのアクセスを提供できます。

このコネクタによって以下の実行が可能です。

- 5) INDD ファイルのアップロードと解析
- 6) ターゲットファイルの WYSIWYG PDF の生成
- 7) ただちに、簡易に翻訳します。プレビューPDF には、XTM Editor 上の該当セグメントとのライブリンクが含まれます。

イメージは InDesign ドキュメントに埋め込まれているか、リンクフォルダに格納する必要があり、[プレビューファイル]としてプロジェクトマネージャが XTM へアップロードします。

## セグメント ステータス

### セグメント ステータスの概要

セグメント ステータスとターゲットテキストの出典に関する情報は右列に表示されます。

セグメントの現在のステータスは背景色で示されます。色は以下のように定義されています。

色	ステップのステータス	意味
赤	要翻訳 要改訂 要レビュー	リングストによる作業が必要なセグメントです。
黄	要確認	翻訳不要または 100%レバレッジドマッチのセグメントです。
青	要修正	ある作業ステップ(例: レビュー)で却下され、前のステップで修正が必要なセグメントです。
緑	翻訳済み 改訂済み レビュー済み	リングストが完成したセグメントです。
	完了済み	ICE (In Context Exact) マッチまたは上のセグメントとマージされたセグメントです。

ステータス ボックスのイニシャルは、解析時のマッチタイプを以下のとおり示しています。

イニシャル文字	マッチタイプ
U	Unmatched、マッチなし
MT	Machine Translation Matched、機械翻訳マッチ
M	Matched、マッチあり
I	In Context Exact match、コンテキスト完全一致マッチ(ICE マッチ)
N	Non-translatable、翻訳不要

ステータス ボックスでイニシャルを変更できるのは[N]のみです。その他はワークフローを通して保持されず。

### 前後のステップのステータス:

15	Pour it into the 2 mugs (1).	あいまいマッチ 75% - 承認済み	そして2つのマグカップ(1)に注ぎます。	
	Pour it into the mug 2 mugs (1).		そしてマグカップに注ぎます。	

前、現在、次のステップのステータスを示しているセグメント

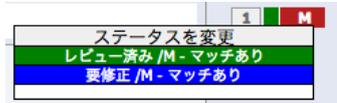
色付きのブロックをセクション分けすれば、ワークフローの前、現在、次のステップのステータスがステータス カラムに表示されます。上記の例では、第 1 ステップが完了済みであり、現在と次のステップで作業が必要であると示されています。

## セグメントのステータスを変更する

セグメントのステータスを自動的に、または手動で変更するよう設定できます。

セグメント ステータスが自動的に変更されるようシステム設定が実施されている場合、セグメントを離れる際にステータスが変更されます。ステータスを自動的に変更するための設定方法は 5 章『コンフィギュレーション』を参照してください。

ステータスを自動的に変更させない場合、キーボード ショートカット[Alt][+]を使用する、またはステータスボックス自体をクリックしてコンテキストメニューから[翻訳済み]、[改訂済み]、[レビュー済み]を選択します。



レビュアーによるセグメント ステータスの変更

## セグメントの XLIFF:doc ステータス

[コンフィギュレーション] > [設定]で TIPP が有効にされている場合、XTM Editor の[標準 XTM ステータス]の左側に[XLIFF:doc セグメント ステータス]が表示されます。セグメントのステータスを変更するには、数字をクリックしてポップアップ リストから任意のステータスを選択します。



セグメントの XLIFF:doc ステータスを変更する

## ロックされたセグメント

セグメントが灰色で、セグメント ステータスの右側に南京錠のアイコンが表示されている場合、セグメントはロックされていて変更は一切できません。セグメントがロックされている理由を確認するには、マウスを南京錠アイコンにかざします。セグメントがロックされる理由は以下のとおりです。

- このセグメントは自分にアサインされていない
- このセグメントは前のステップで完了していない
- このセグメントは別のユーザによりロックされている
- ICE マッチは[編集不可]に設定されている
- 閲覧者に編集権限が付与されていない

ログアウトするかブラウザを閉じて XTM Editor を終了させることは、全ユーザにとって重要です。あるユーザが XTM Editor を開いたまま放置すると 1 時間後にセッション期限が切れ、この間に開かれているページの全セグメントはロックされます。翻訳者が XTM Editor を終了させた場合、セッションは 5 分後に期限切れとなり、セグメントはほかのユーザに解放されます。

## ターゲットテキストの長さ制限

プロジェクトを作成する際またはプロジェクト エディタで、ターゲットテキストの文字数をモニタリングし、あらかじめ定義した上限または下限と比較するよう設定できます。文字数が設定した制限を超えるとセグメント全体が赤色に変わり、警告が表示されます。

XTM ではターゲット長は文章単位ではなく段落単位で管理されます。XTM Editor では、これらのセグメント(文章)は破線で区切られています。たとえば Excel ファイルを翻訳している際、セル内のテキストすべての長さを制限する、もしくは XML ファイルの任意の要素のテキストすべてを制限することが XTM では可能です。

No.	英語(英国)	フランス語(フランス)	ステータス
1	How to cook {1}Pudding {1}	Comment faire un {1}pudding {1}	
	ICE マッチ - 承認済み	Comment faire un {1}pudding {1}	

ステータス列にターゲットテキストの長さ制限が表示されているセグメント

## 代替翻訳と逆翻訳

[代替翻訳]機能を使用するプロジェクトが作成されると、各セグメントは複数回表示されます。まず推奨訳があり、設定された回数の代替翻訳が続きます。各代替翻訳には、逆翻訳を入力するためのフィールドがあります。また、代替翻訳を伴うプロジェクトには段落単位のセグメンテーションが使用されます。

代替翻訳と逆翻訳を入力してください。[コメント]セクションは各翻訳に対する理由を入力するために使用できます。レビュー作業では希望する代替翻訳を選択し、代替翻訳から[推奨訳]にコピーできます。ターゲットドキュメントの生成には推奨訳のみが使用されます。

プロジェクトマネージャは、翻訳、代替翻訳、逆翻訳、コメントを一覧表示する Excel ファイルを作成してダウンロードできます。

No.	英語(英国)	日本語	ステータス
1	XTM for Enterprises	エンタープライズ向けXTM	
	逆翻訳	XTM designed for Enterprise	
	Recommended Translation		
	ICE マッチ - 承認済み	会社のためのXTM	
	コメント: ☺		
2	XTM for Enterprises Alternative Translation 1	企業向けXTM	
	逆翻訳	XTM designed for coporate	
3	XTM for Enterprises Alternative Translation 2	会社のためのXTM	
	逆翻訳	XTM for company	
	コメント: ☺		

逆翻訳を伴う2つの代替翻訳を有するセグメント

## 翻訳メモリを保管して更新する

### 翻訳メモリを保管する

任意のセグメントのターゲットテキストが変更され、カーソルが該当セグメントから離れる際、翻訳メモリのデータベースは自動的に更新されます。この翻訳に対する後続の変更すべてによって TM は自動的に更新されます。

TM に保存するためにセグメントを[済み](緑)としてマークする必要はありません。しかしながら、ソーステキストと完全に同一のターゲットテキストを保存する場合は、該当セグメントを[済み](緑)としてマークする必要があります。

ファイルとセグメントには変更がなく、プロジェクトのみが変更された場合、該当する TM エントリは更新されません。つまり任意のセグメントが翻訳され、チェッカーにより翻訳が更新されると、最新版の翻訳のみが TM に保管されます。セグメントが変更されるとタイムスタンプが更新されます。タイムスタンプはマッチの並べ替えに使用され、最新版を表示させます。

すべての TM エントリは、ドキュメント内の前後の文章のチェックサムを伴って保管されます。これによって、ドキュメント内の文脈コンテキストに基づく ICE マッチを識別することが可能となります。

### 翻訳メモリ:[承認済み] 対 [未承認]

TM エントリのステータスはワークフローの設定により、[承認済み]または[未承認]に設定されます。デフォルトでは、ワークフローに複数のステップがある場合、TM エントリの初期値には[未承認]が設定されます。ワークフローの最終ステップが完了すると、TM エントリは自動的に[承認済み]に設定されます。

この設定は調整できるので、いずれのステップにおいても[承認済み]としてセグメントを保管できます。これに加えて、特殊なワークフローを設定することも可能です。最終ステップが完了するまで、すべてのセグメントを[未承認]として保管できます。そして自動プロセスを実行して、ワークフローの完了に際して翻訳メモリを承認させます。

### 複製の管理

異なるプロジェクトでの作業中、TM に既存する文章を翻訳すると、以下の場合は複製が作成されます。

1. TM に既存するターゲットテキストと異なる
2. TM に保管されている前後の文章が異なる

複数のプロジェクトで翻訳される同じセグメントに対する TM エントリを複製させないように、管理者は XTM インスタンスに設定することも可能です。これが設定されて TM に該当セグメントが既存する場合、異なる翻訳が入力されても TM に新規エントリは作成されず、既存する TM エントリが新規翻訳で更新されます。このオプションを設定するには、[コンフィギュレーション] > [設定] > [翻訳] > [TM] タブにて、[全般オプション]の[プロジェクト セグメントが同じ場合、既存の TM レコードを修正する]を選択します。

### 右から左へ書く言語

以下の言語は XTM Editor で、自動的に右から左の方向へ表示するように設定されています。

- アラビア語
- ヘブライ語
- ディベヒ語
- パシュトウ語
- ペルシア語
- シリア語
- ウルドゥー語
- イディッシュ語
- イディッシュ語(イスラエル)

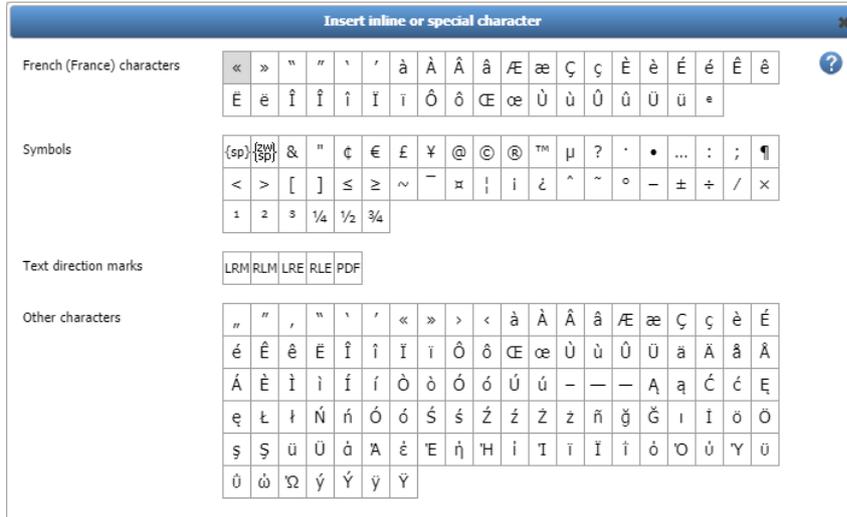
Windows PC で希望する言語がインストールされていることを確実にするため、まずキーボードを変更します。[コントロールパネル] > [地域と言語] > [キーボードと言語]で設定します。言語がインストールされれば、スクリーン右下のポップアップメニューで希望する言語を選択できます。



キーボードの入力言語を選択する

### 双方向テキスト

ターゲット言語を書くのとは逆の方向にテキストを入力する必要がある場合、テキスト方向マーカを使用できます。テキスト方向マーカは[インラインまたは特殊文字を挿入]ウィンドウで選択します。



[インラインまたは特殊文字を挿入]ウィンドウのテキスト方向マーカ

[LRM]、[RLM]、[LRE]、[RLE]は、テキスト方向マーカを開きます。[LRM]と[LRE]はテキスト方向を「左から右へ」に変更します。[LRM]と[LRE]はテキスト方向を「右から左へ」に変更します。[PDF]は閉じマーカです。



双方向テキストの例

## 設定

[設定]ウィンドウには[オプション]、[フォント]、[ショートカット]、[セグメント フィルター]という4つのタブがあります。

## オプション



[設定]ウィンドウ > [オプション]

[オプション]タブで設定できる項目は以下のとおりです。

- ターゲットセルにソーステキストを挿入
- セグメントステータスを自動的に変更
- MT マッチを表示
- アクティブなセグメントのマッチのみ表示
- 自動的に全コメントを表示
- セグメントが[済み]にマークされたら自動的に QA を実行

- ICE マッチに対して QA を実行
- ソース言語のままの単語に対して QA 警告を表示 — デフォルトでは[いいえ]が設定されています。翻訳不要の単語やトークンが含まれている場合は誤検出を回避すべきです。
- [ターゲット長をチェック]が選択されている場合のみは、テキストの入力中またはセグメントを離れる際にターゲットの長さが計算されます。
- ページあたりのセグメント数 — パフォーマンスを向上させるためには低い数値を入力します。
- セグメントの下段にインライン要素のヒントを表示
- ショートカットまたはマウスの使用中はウィンドウを自動的にスクロール

## フォント



[設定]ウィンドウ > [フォント]

XTM Editor で使用するフォントをここで設定します。プロジェクトのターゲット言語に適したフォントを選択すべきです。以下のフォントを使用できます。

フォント	ターゲット言語
SimSun	中国語
MS 明朝または MS ゴシック	日本語
DaunPenh	カンボジア語
Preeti	ネパール語
Vrinda	ベンガル語

## キーボード ショートカット



[設定]ウィンドウ > [ショートカット]

現在のキーボード ショートカットをこのウィンドウに表示させてカスタマイズできます。ショートカットを変更するには[新規ショートカットを入力]ボックスをクリックし、新しいショートカットを入力して[保存]をクリックします。一部ブラウザの不統一により、3 列目のショートカット キーが正しく表示されないことがあります。該当する項目をクリックするとショートカット キーを更新できます。

ショートカットはブラウザに依存するため、変更したショートカットは設定されたブラウザでのみ利用できます。その他のブラウザでは以前のショートカットのままです。

デフォルトの Mac 用ショートカットは XTM が Safari で表示されたときのみ適用されます。その他のサポート対象ブラウザではショートカットが異なる可能性があります。

デフォルト設定は以下のとおりです。

説明	PC 用のショートカット	Mac 用のショートカット
<b>移動</b>		
次のセグメントに移動	Alt + 下矢印	Alt + 下矢印
前のセグメントに移動	Alt + 上矢印	Alt + 上矢印
次の未完セグメントに移動	Alt + 右矢印	Alt + 右矢印
前の未完セグメントに移動	Alt + 左矢印	Alt + 左矢印
現ユーザが編集した次のセグメントに移動		
現ユーザが編集した前のセグメントに移動		
次のページに移動	Ctrl + Page down	Ctrl + Page down
前のページに移動	Ctrl + Page up	Ctrl + Page up
次のコメント付きセグメントを表示	Alt + .	Alt + .
前のコメント付きセグメントを表示	Alt + ,	Alt + ,
次のファイルに移動		
前のファイルに移動		
ターゲット入力フィールドに戻る		
<b>翻訳/ターゲット</b>		
セグメントを完了にする	Alt + ;	
セグメントを完了して次の未完セグメントに移動	Alt + +	Alt + +
セグメントを未完にする	Alt + -	Alt + -
TM に翻訳を保存する/しない	Alt + /	Alt + /
ターゲット セグメントをクリア	Alt + Delete	Ctrl + Delete
ソーステキストをターゲットセルにコピー	Alt + Insert	Ctrl+Shift+I
ノーブレークスペースを挿入	Ctrl + Shift + Space	Ctrl + Shift + Space
ゼロ幅スペースを挿入		
選択テキストの大/小文字を切り替え	Shift + F2	
上のセグメントとマージ	Alt + Page up	Ctrl + U
カスタム属性をフォーカス	Tab	Tab
用語を挿入	Ctrl + Shift + T	
元に戻す	Ctrl + Z	Ctrl + Z
やり直す	Ctrl + Y	
ターゲット セグメントの末尾までテキストを削除	設定なし	
次のインラインタグまでテキストを削除	設定なし	
<b>テキスト書式</b>		
太字		
斜体		
下線		
取り消し線		
上付き		
下付き		
ハイパーリンク		
改行		

<b>マッチ</b>		
マッチをインラインなしで書き込む (マッチが複数ある場合はベストマッチを選択する)	Alt + M	Alt + M
マッチをインライン付きで書き込む (マッチが複数ある場合はベストマッチを選択する)	Alt + I	Alt + I
確定 & 次のセグメントへ移動してベストマッチを選択	Enter	
2 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 2	
3 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 3	
4 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 4	
5 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 5	
6 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 6	
7 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 7	
8 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 8	
9 個目のマッチをインライン付きで書き込む	Alt + Ctrl + 9	
<b>インラインタグ</b>		
インラインまたは特殊文字を挿入	Alt + 0	Alt + 0
最初のインラインタグを書き込む	Alt + 1	
2 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 2	
3 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 3	
4 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 4	
5 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 5	
6 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 6	
7 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 7	
8 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 8	
9 個目のインラインタグを書き込む	Alt + 9	
<b>コメント</b>		
コメントを追加	Alt + C	
<b>QA</b>		
現在のセグメントをチェック	F7	
QA 警告を含む次のページに移動	F10	F4
QA マーキングを削除	F8	
このページで QA を実行	F9	F3
LQA フォームを表示する/隠す	Ctrl + Q	
<b>一般</b>		
ポップアップを閉じる	Esc	Esc
最後に使用したセグメント フィルターを適用/解除	Ctrl + Shift + F	
コンコーダンスを開く	Alt + ¥	Alt + ¥
ソース言語でのコンコーダンス検索	設定なし	
ターゲット言語でのコンコーダンス検索	設定なし	
ページをリフレッシュ	F5	F5
メトリクスを表示	Alt + Enter	
[検索と置換]を表示	Alt + F	
ドッキング パネルを閉じる		

## 特殊文字に対するカスタム ショートカット

特殊文字に対して独自のショートカットを作成できます。[新しいショートカットを追加]ボタンをクリックして対象の文字を入力する、または、キーボードのアイコンをクリックしてポップアップから選択します。そして、任意のショートカットを入力します。

## セグメント フィルター

[セグメント フィルター]タブには[フィルター]と[フィルター プロファイル]が一覧表示され、表示させないよう[無効]にすることもできます。[フィルター プロファイル]はセグメント フィルター個別の一覧の上部に別途リストされます。管理者によって作成されたフィルター プロファイルはアイコン  によって示されます。管理者によって作成されたプロフィールは通常どおり使用できますが、編集は不可能です。

セグメント フィルターは[お気に入り]としてマークし、一覧の上部に表示させることができます。デフォルトではすべてのフィルターが有効であり、いずれもお気に入りとしてマークされていません。システム管理者はこのデフォルト設定を変更できます。

選択したフィルターやプロフィールに[有効]、[無効]、[お気に入り]を設定して、[保存]をクリックします。



[設定]ウィンドウ > [セグメント フィルター]

## ツールバー

### 左手ツールバー

左手ツールバーはページやファイルに関連します。

アイコン	アクション	概要
	セグメント フィルター	ポップアップ ウィンドウが表示され、セグメント フィルターを選択して適用できます。
	セグメント ステータスを変更	任意のページ上または自分にアサインされたセグメントすべてに対し、XTM ステータスや XLIFF:doc セグメント ステータスを一括して変更できます。
	品質保証	任意のページのセグメントすべてに対してスペルチェックと QA チェックを実行します。
	品質保証	ドキュメント全体をチェックして QA 警告がある次のページへ移動します。
	検索と置換	[検索と置換]ウィンドウが表示されます。
	メトリクス	翻訳中のドキュメントについて進捗を示す統計情報がポップアップ ウィンドウに表示されます。テキストの数やマッチング数も含まれます。
	プレビュー	ソースファイルの種類とシステム設定によって表示されるメニューが変わります。HTML テーブル、PDF、インタラクティブ PDF、PDF テーブル、Excel 拡張テーブル、HTML、ターゲット ファイルとしてドキュメントをプレビューするオプションがあります。 
	カスタマイズ	XTM Editor の機能性、表示、フォント、キーボード ショートカット、セグメント フィルターをカスタマイズできます。
	ヘルプ	システムの機能についての説明はヘルプを参照してください。

## 右手ツールバー

右手ツールバーは個別のセグメントに関連します。

アイコン	アクション	概要
	品質保証	スペルと句読点をチェックします。 [F7]キーを押して実行、または次のセグメントへ移動する際に自動的に実行します。
	前の未完セグメントに移動	前の翻訳が完成していないセグメント(赤色のステータスを伴う前のセグメント)に移動します。
	次の未完セグメントに移動	次の翻訳が完成していないセグメント(赤色のステータスを伴う次のセグメント)に移動します。
	コメントを追加	コメントを入力するためのフィールドをソースセグメントに作成します。
	前のコメント付きセグメントに移動	前のコメント付きセグメントに移動します。
	次のコメント付きセグメントに移動	次のコメント付きセグメントに移動します。
	次のインライン エラーを含むセグメントに移動	次のインライン エラーを含むセグメントに移動します。
	このユニットを中央に表示	選択したセグメントをページの中央に表示させます。
	マージ	選択したセグメントを1つ上のユニットとマージします。
	TMに翻訳を保存しない	セグメント(ソースとターゲットのペア)を翻訳メモリと同等には設定せず、再利用しません。もう一度クリックして、このアクションを取り消すこともできます。
	セグメント履歴	[セグメントの履歴]ウィンドウには2つのタブがあります。 [現在のセグメント]タブには現在のセグメントの履歴がすべて表示され、以前のいずれのバージョンの復元も可能です。2つのオプションがあります。 1. サーバに保管されている旧バージョンから復元 2. ローカルのバックアップからの復元 [全セグメント]タブには、ページ上の一部またはすべてのセグメントの最新バックアップを復元するオプションがあります。

## タスクのグループ化

XTMには2種類のユーザグループがあります。

- 1) 先着順グループ
- 2) 優先順グループ

PMが「先着順ユーザグループ」グループへタスクをアサインした場合、メンバーにはメール通知が届きます。

メールに記載されているタスクリンクをクリックすると、XTM のログイン画面に移動し、XTM Editor が読み取り専用モードで表示されます。先着順の場合、タスクを引き受けるかが問われます。

[受諾する]ボタンをクリックすると、タスクがアサインされます。すると、ほかのメンバーには該当タスクはすでに担当者が決定した旨がメールで通知されます。



ユーザグループにアサインされたタスクを受諾します。

PM が「優先順ユーザグループ」へタスクをアサインした場合、グループ内の「一番手」にタスクが自動的に送られます。「一番手」はタスクを受諾することも、拒否することもできます。タスクが拒否された場合、自動的にグループ内の「二番手」に送られ、グループ内の誰かが受諾するまでタスクは送られ続けます。

PM が「先着順ユーザグループ」へタスクをアサインした場合、メンバーにはメール通知が届きます。

## XTM Visual Editor

XTM Visual Editor はソースファイルが HTML と XML の場合に使用できます。XML ファイルの種類によってはビジュアル エディタで XML ファイルを表示させるため、関連する XSLT スタイルシートを伴うシステム設定をプロジェクトを作成する前に行う必要があります。この作業については弊社サポートチームへご依頼ください。



タスクのコンテキストメニュー

XTM Visual Editor の目的はソースファイルとターゲットファイルのプレビューを表示することです。プレビュー上のテキストをクリックすると下部のセクションで翻訳を入力できます。ターゲットプレビューは入力した翻訳がただちに反映されます。作業中に翻訳の完全なコンテキストを見ることができます。



### XTM WYSIWYG Editor

タビュラー エディタの豊富な機能がこの WYSIWYG エディタに組み込まれました。このウィンドウには以下のアイコンが表示されます。

アイコン	アクション
	次/前の未完セグメントに移動
	次/前のコメント付きセグメントに移動
	コメントを追加
	QA チェック
	-
	セグメント履歴を表示
	翻訳を TM に保存しない
	マッチを選択して翻訳テキストを挿入
	コメントを編集
	コメントを削除
	高さ調節スライダー
	幅調節スライダー
	セグメント編集セクションを最大化/最小化
	設定
	ドロップダウンメニュー
	タスクの完了または却下
	タスクを完了
	タスクを却下

ページレイアウトは高さや幅を調節するためのスライダー、[最小化]ボタン、[最大化]ボタンを使用してカスタマイズできます。[プレビュー]セクションと[セグメント編集]セクションのサイズを調整可能です。

[セグメント編集]セクションでは、色付きボタンによってセグメント、マッチ、コメントの表示をオン/オフ切り替えできます。



### XTM WYSIWYG Editor – セグメントを編集する

セグメント ステータスは左手に表示されます。必要に応じて、前後ステップのステータスも併って表示されます。セグメント ステータスをクリックして、手動でステータスを変更できます。

セグメント自体のいずれかの場所を右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。



### セグメント コンテキストメニュー

マッチを翻訳として使用するには緑の[✓]をクリックします。

登録されている用語は青でハイライトされます。用語をクリックするとポップアップ ウィンドウに関連するメタデータが表示されます。



### 用語のメタデータ

上部バーのドロップダウン メニューによって、テキスト装飾を表示するか隠すかを選択できます。テキスト装飾が選択されている場合、ICE マッチ セグメントは明るい緑色で表示され、現在のセグメントは黄色で表示されます。

[設定]アイコンをクリックすると以下のウィンドウが表示されます。



[設定]ウィンドウ

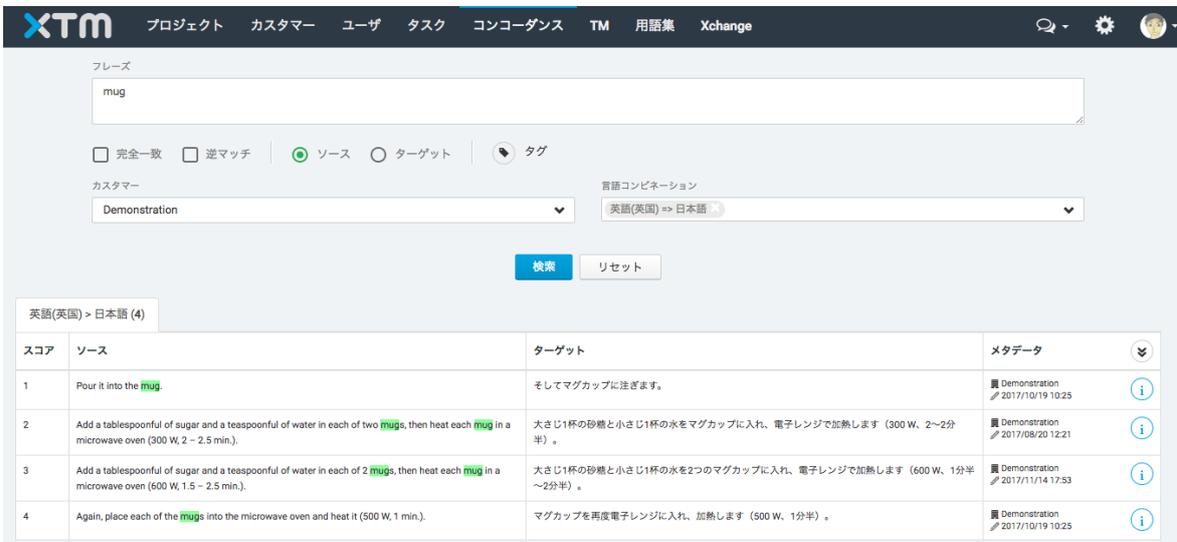
## [コンコーダンス]ウィンドウ

システム管理者が[コンフィギュレーション] > [サーバ設定] > [翻訳] > [ワークフローとアクセス]で有効にした場合、リングストに対しても[コンコーダンス]タブが表示されます。このウィンドウでは、XTM Editor を使用していない場合でもユーザがコンコーダンスにアクセスできます。コンコーダンスは別のウィンドウで開き、簡単にアクセスできます。[コンコーダンス]タブを右クリックしてコンテキストメニューから[新しいウィンドウで開く]を選択します。



[コンコーダンス]タブを右クリックする

単語やフレーズを入力して[検索]ボタンをクリックすると、翻訳中ドキュメントおよび翻訳メモリ内の一致テキストがすべて表示されます。デフォルトでは検索ワードがステミングされて検索が実行されますが、[完全一致]オプションを選択することもできます。また、翻訳メモリすべて、もしくは特定のカスタマーの翻訳メモリのみを検索対象とするかを選択できます。



[コンコーダンス]ウィンドウ

## 6. XTM Off-Line Editor

---

### はじめに

XTM Offline Editor はオフラインで翻訳、チェック、レビューを実行できる内蔵式の Microsoft Excel アプリケーションです。これを使用するためには、適正なバージョンの Microsoft Excel のインストールのみが必要とされます。

XTM Offline Editor は、オンラインで使用するブラウザベースの XTM Editor の動作に類似します。XTM Editor をすでに使用したことがある場合、XTM Offline Editor の主要原理は覚えがあるものと感じることでしょう。コメントは Excel のコメントとして、ターゲット セグメント カラムの右側に表示されます。

### ソフトウェアの最小要件

XTM Offline Editor を実行するには以下のソフトウェア構成が必要とされます。

1. Microsoft Windows XP 以上
2. Microsoft Excel 2007/2010/2013、32 ビット版

アプリケーションは 64 ビット版の Excel でも動作しますが一部制限があります。32 ビット版での使用を推奨します。

アプリケーションは Mac 用の MS Office 2011 でも動作します。

### ハードウェアの最小要件

RAM 512 MB 以上、Pentium 4 プロセッサ以上 (Core 2 Duo 以上が推奨) の CPU が搭載された Windows PC。

### マクロを有効化する

Excel のマクロを必ず有効にしてください。

1. [ファイル] > [オプション]を選択します。



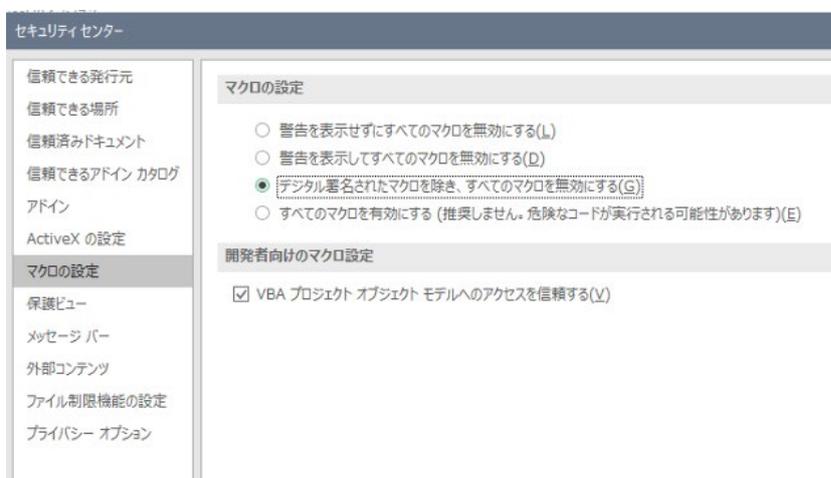
2. [セキュリティ センター]



3. 右側の[セキュリティ センターの設定...]を選択します。

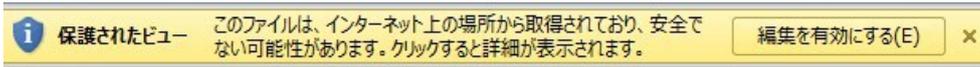


4. [マクロの設定]を選択し、[デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする]を選択します。

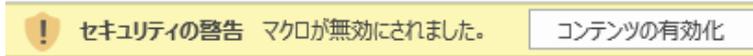


## XTM Offline Editor を開始する

Excel を使用して XTM Offline Editor ファイルを開く際、編集を有効にする必要があります。



コンテンツを有効にします。



使用する Excel のバージョンによってメッセージは異なることがあります。

## アイコンバー

オンラインの XTM Editor で使用するアイコンに似ています。



フローティング アイコンバーを使用して主機能へのクイックアクセスが可能です。

アイコン	機能
	ターゲット言語セグメントすべてをスペルチェック
	前の未完セグメントに移動
	次の未完セグメントに移動
	コメントを追加(右クリックメニューからも実行できる機能)
	前のコメント付きセグメントに移動
	次のコメント付きセグメントに移動
	次のインラインエラーを含むセグメントに移動
	[検索と置換]ウィンドウの表示
	[設定]ウィンドウを表示させ、[ターゲット セグメントごとの自動スペルチェック]のオン・オフを切り替え、[用語すべてを表示]や[コメントを表示]ができます。
	ヘルプを表示

## フィールドへ移動

ヘッダー部の[移動先]フィールドによって、任意のセグメント ID へダイレクトに移動できます。



## キーボード ショートカット

XTM Offline Editor のキーボード ショートカットは、オンラインの XTM Editor のキーボード ショートカットとは異なります。

ショートカットキー	機能
Tab	現在のセグメントを保存して次のセグメントへ移動します。
Shift + Tab	前のコメント付きセグメントに移動します。
Enter	現在のセグメントを保存して次のセグメントへ移動し、検出された場合は 1 番目のマッチを次のセグメントのターゲットフィールドへコピーします。
ESC	現在のセグメントの編集すべてを取り消し、次のセグメントへ移動します。
F1	ヘルプ文書を開きます。
CTRL + X	切り取り
CTRL + C	コピー
CTRL + V	貼り付け
CTRL + F	[検索と置換]ウィンドウを表示
CTRL + G	[移動]ウィンドウを表示
CTRL + M	現在のセグメントにコメントを追加
CTRL + O	コンコーダンス
CTRL + P	印刷
CTRL + T	ソーステキストをターゲットセグメントにコピーします。
CTRL + End	最後のセグメントへ移動
CTRL + Home	最初のセグメントへ移動
CTRL + ↑	前の未完セグメントに移動
CTRL + ↓	次の未完セグメントに移動
CTRL + ,	前のコメント付きセグメントに移動
CTRL + .	次のコメント付きセグメントに移動
CTRL + ¥	コンコーダンス
CTRL + E	次のエラーを含むセグメントに移動
CTRL + 0~9	インライン要素を挿入 例: CTRL + 1 = {1}、CTRL + 0 = {10}
CTRL + スペース	ハードスペースの制御文字 {sp} を挿入します。

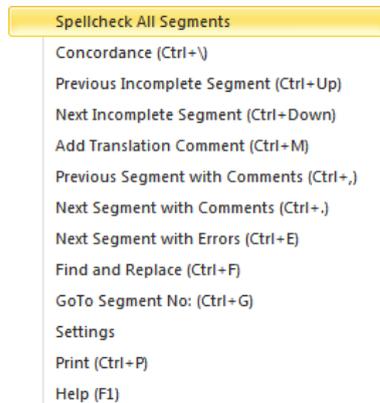
## マウスを使用する

マウスを使用することで以下のような効果を得られるエリアがあります。

クリックするエリア	機能
ターゲットセグメント	インライン要素の詳細、用語やマッチングが表示されます。任意のターゲットセグメント テキストにカーソルを置き、テキスト全体を選択します。 [Tab]キーか[Enter]キーを押して、次のセグメントへ移動します。
ソースセグメント	ソーステキストをターゲットセグメントにコピーします。
いずれかの用語	ターゲットセグメント内でソース用語をターゲット用語と置き換えます。
いずれかのマッチ	マッチをターゲットセグメントにコピーします。

## マウスの右クリックを使用する

セグメントの編集集中にマウスで右クリックをしても効果はありません。ターゲットセルの外側でマウスで右クリックをすると、以下のメニューが表示されます。



これらのメニュー項目はアイコンバーにオプションである[指定番号のセグメントへ移動]、[コンコーダンス]、[印刷]が追加されています。

## 印刷する

ページを印刷するためにキーボード ショートカット[Ctrl] + [P]を使用すると、標準的な[印刷]ウィンドウが表示されます。[印刷範囲]には[すべて]、[印刷対象]には[選択した部分]が自動的に選択されます。[プリンタ]と[印刷部数]を設定できます。

## スペルチェック

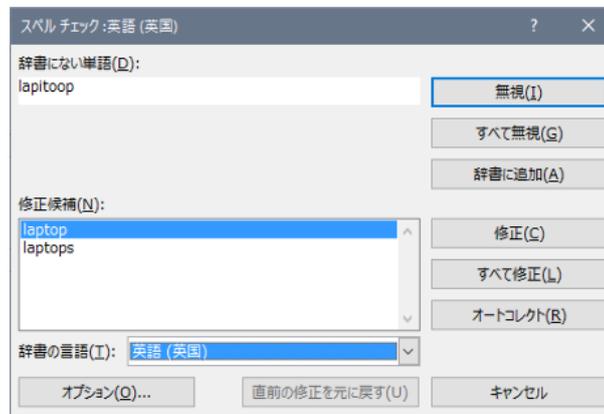
スペルチェックには内蔵された Microsoft スペルチェッカーが使用されます。すべてのターゲットセグメントに対してスペルチェックを実行するには  アイコンをクリックします。

スペルチェックを実行する前に、プロジェクトのターゲット言語をデフォルトの編集言語として確実に設定してください。このためには Excel で[ファイル] > [オプション] > [言語] に移動します。



プロジェクト全体にスペルチェックを実行する際、[すべて無視]オプションは現在のセグメントにのみ適用されます。ファイル全体で特定の単語を無視する場合、該当する単語をユーザー辞書に追加します。

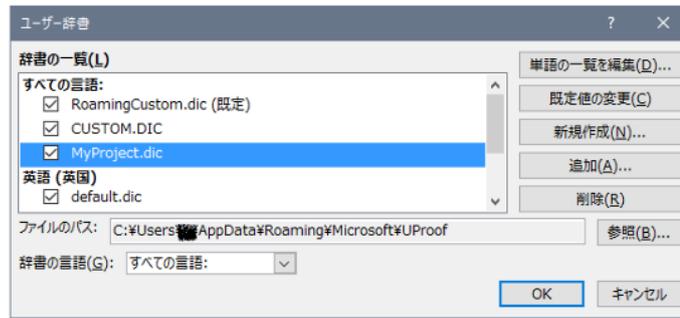
このためには[スペルチェック]ウィンドウで[オプション...]を選択します。



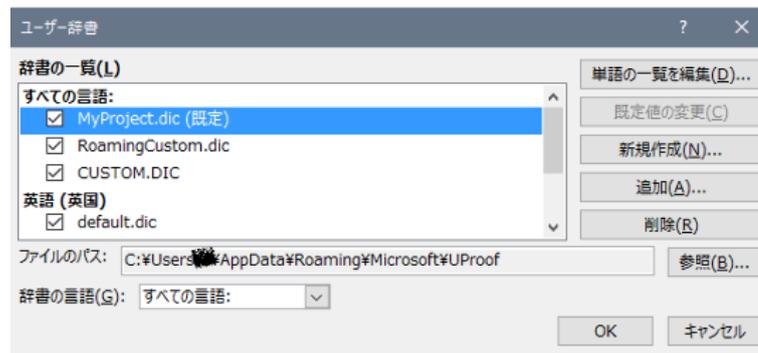
そして、[ユーザー辞書]をクリックします。



プロジェクト用に新しい辞書を作成します。



最後に、デフォルトの既定辞書に設定します。



## 7. XTM Terminology

### 概要

XTM には包括的な用語集モジュールが組み込まれています。これは、[コンセプト]、[定義]、[コンテキスト]、[画像]、[多言語訳]、[備考]を含む用語のデータベースです。XTM Editor では、用語ベースに登録された用語のソーステキストがシステムによって識別され、ハイライト表示されます。現在のセグメントで認識された用語の承認済み訳語はドッキング パネルに表示されます。マウスマウスカーソルをかざすとさらに詳細が表示されます。この機能によって承認された用語を一貫して使用することが推進されます。ユーザは XTM に用語集をインポートやエクスポートでき、XTM Editor から直接編集する、および新しい用語を追加することが可能です。より詳細なカテゴリー化と関連用語の表示のため、用語に対してカスタム タグを追加できます。

用語集は別のウィンドウで開き、簡単にアクセスできます。[用語集]タブを右クリックして、コンテキストメニューから[新しいウィンドウで開く]を選択します。



[用語集]タブを右クリックする

[管理]タブでは、カスタマーの用語ベースのコンセプトや用語を検索、追加、修正、削除できます。必要に応じて用語を更新または編集するため、抽出または検索できます。

[インポート]タブでは、外部ソースの用語集リストをインポートすることによって用語ベースを作成、更新、同期できます。インポートできるファイル形式は、XLS、XSLX、TBX、MTF です。用語集のインポート履歴が記録されるため、用語ベースに対する変更を追跡できます。

[エクスポート]タブでは、レビューまたは交換するため、用語集リストを標準ファイル形式である XLS、TBX、MTF としてダウンロードできます。用語集のエクスポート履歴が記録されるため、用語ベースに対する変更を追跡できます。

### 用語を検索する

[用語]ウィンドウ上部の[検索]エリアにて値を選択することによって、検索やビューを設定できます。1 つ以上のカスタマー、言語、または設定可能なフィールドの値や特定のテキスト スtringを入力することによって検索を狭めることが可能です。

検索条件に一致する用語は、画面左側の[検索結果]リストボックスに表示されます。検索結果を直接エクスポートするには、[管理]タブにて用語リスト上部の[エクスポート]ボタン  をクリックします。



XTM Terminology Manager で用語を検索する

標準的なレイアウトで検索を実行する場合、用語集コンフィギュレーションを使用してフィールドを制御できます。そして、[作成者]、[作成日]、[変更者]、[変更日]、[メモ]や、[提案]があるか、[用語]や[コンセプト]を ID で検索可能かなど追加の検索条件を選択できます。さらに、フィールドを配置するカラム数を選択し、単一の検索結果ページに表示させる結果数、自動検索を無効にするかなども選択できます。

用語集検索コンフィギュレーション

### 高度な検索

精緻な検索条件を使用して用語を検索するには、[高度な検索]を開いて必要なフィールドを使用します。青色の円形は[高度な検索]が適用されていることを示しています。



[高度な検索]条件が適用されていることを示す青色の円形

標準と高度な検索条件に加えて、用語はタグによっても抽出できます。利用可能なタグフィルターのリストは、[コンフィギュレーション] > [データ] > [タグ] > [タグ]の内容に依存します。青色の円形は[タグフィルター]が適用されていることを示しています。



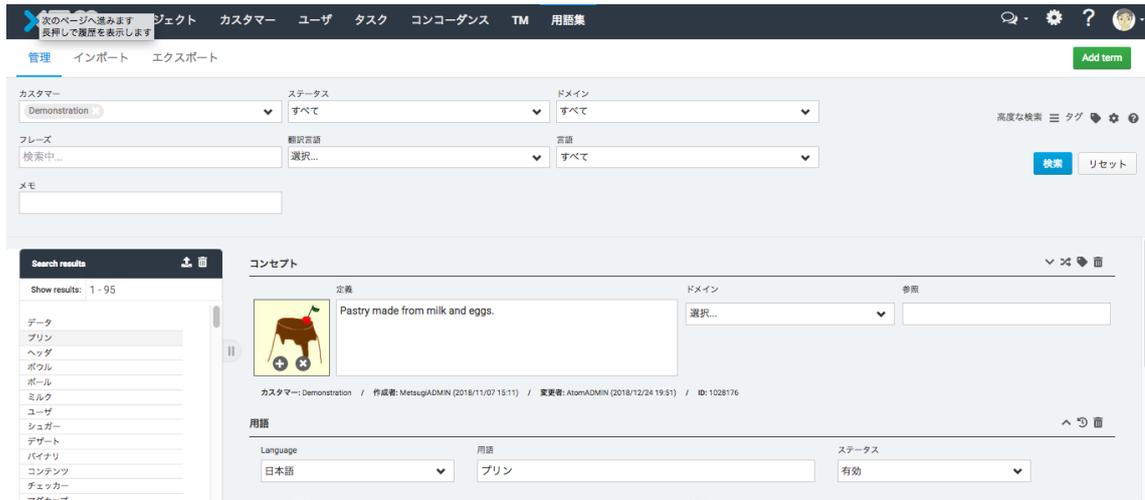
[タグフィルター]が適用されていることを示す青色の円形

### タグを使用する

[コンフィギュレーション] > [データ] > [タグ]であらかじめタグを設定してコンセプトに割り当てることによって、用語をさらにカテゴリー化できます。コンセプトの隣の[タグ]アイコンをクリックして表示される[タグ]ウインドウにて利用可能なタググループをドロップダウンリストから選択し、コンセプトに割り当てます。用語集リストをインポートする際や用語ベース検索に条件として使用される際、コンセプトに対して一括してタグを割り当てることもできます。コンセプトからタグを削除するには、コンセプト詳細の下部に表示されているタグの隣の[×]をクリックします。

## 用語を表示する

リスト内の用語をクリックすると、右側に該当用語のコンセプト、メタデータ、訳語が表示されます。



用語マネージャで用語集を表示する

標準的な検索に類似し、用語集コンフィギュレーションを使用してコンセプトや用語の詳細なビューをカスタマイズできます。こうすることで制御が可能となり、簡易および拡張ビューにて表示させるフィールドを選択し、コンセプトに関する画像やフッターを表示させ、フィールドが配置されるカラム数を変更できます。



用語コンセプトの表示に関するオプション

XTM Editor で作業するリングストに対して、選択済みフィールドと追加情報は利用可能となります。ただし[メモ]フィールドは例外として、用語集モジュールでのみ表示される用語に対する注記を保存します。

[コンフィギュレーション]タブで作成されたアクティブなカスタム用語集フィールドは、拡張ビューのオプションとして下部のドロップダウンリストで選択できます。

## 用語を追加する

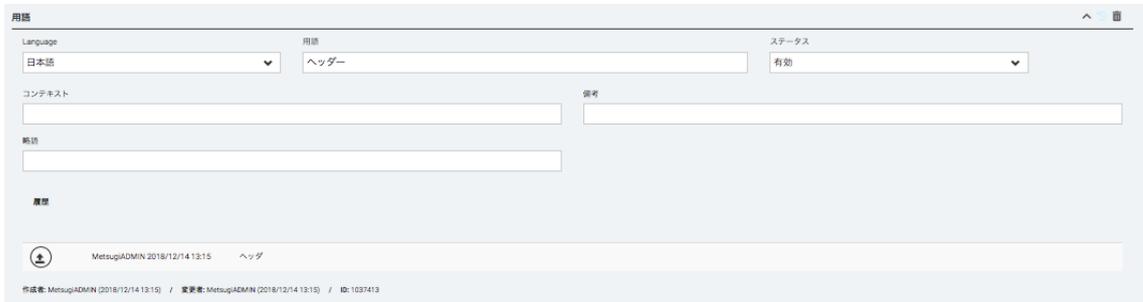
[管理]タブ右上部の[用語を追加]ボタンをクリックして任意の用語を追加できます。用語に関する詳細や訳語、承認ステータスを入力して[保存]をクリックします。新しい訳語を追加するには、既存する用語に対して[新規翻訳を追加]ボタンをクリックして[保存]をクリックします。

また、用語コンセプトを図示するために画像をアップロードできます。ファイル形式は、jpg、jpeg、bmp、png、gif に対応しています。最大ファイルサイズは 25 MB です。高解像度画像は、画像として対応している最大解像度 600 × 600 px に縮小されます。

用語は XTM Editor 内で直接追加することもできます。希望する用語を XTM Editor 上で選択し、右クリックしてコンテキストメニューを表示させ、以下のいずれかの用語オプションを選択します。最低限の情報を伴って用語を追加するには[用語の追加-クイック]を、用語に関する詳細も追加するためには[用語の追加-フル]、[Terminology Manager]ウィンドウを完全に開くには[用語集を開く]をクリックします。

### 用語を編集する

用語を編集するには[管理]タブにて、もしくは XTM Editor 上で直接行います。[管理]タブでは任意の用語を検索して選択します。変更して[保存]をクリックします。変更履歴を表示するには時計アイコン  をクリックします。旧用語を復元するには、選択して復元アイコン  をクリックします。



### 用語の履歴

### 用語を承認する

用語集を[更新-承認]する権限を有するユーザは、翻訳中にリングストから提案される用語を承認できます。[管理]タブで未承認の用語を検索し、ステータスを[有効]に変更することによって用語を承認できます。翻訳での使用が望まれていない用語に対しては、[禁止]や[却下済み]のステータスを付与できます。これらの用語は XTM Editor 上で赤色で表示されます。

### 用語を削除する

[管理]タブでは、用語詳細の右側にあるゴミ箱のアイコンをクリックすることによって任意のコ用語の言語ごとの訳を削除できます。関連する用語と訳語すべてを伴うコンセプト全体を削除するにはコンセプト詳細の右側の[ゴミ箱]アイコンをクリックし、確認を促すメッセージに対して[はい]をクリックします。

用語の検索結果セクションでは、ゴミ箱アイコンをクリックすることによって検出用語すべてを一括して削除できます。

### 用語をインポートする

[インポート]タブにてカスタマーを選択し、顧客用の用語ベースを作成または更新するため、標準形式である XLS、XLSX、TBX、MTF のいずれか 1 つをインポートできます。



### 用語集 > [インポート]タブ

訳語を有する列のヘッダには UTF-8 の言語コードを付与します。XTM が対応している UTF-8 の言語コード一覧は本マニュアルの『[附録 2](#)』を参照してください。インポート対象ファイルには、最低でも言語リストおよび訳語が保存されている必要があります。その他の用語フィールドはすべて任意です。

インポートする際に用語ステータスを設定できます。インポート ファイルには、[有効]、[却下済み]、[禁止]、[未承認]いずれかのステータスが入力された[ステータス]列が必要です。インポート ファイルに記載する日時の形式は[yyy-mm-dd hh:mm:ss]に対応しています。用語コンセプトの画像は例外であり、インポートできません。

[既存コンセプトに追加]チェックボックスを選択し、重複を判別するための言語を選択することによって用語ベース上に新しいコンセプトを作成するのではなく、重複する用語は既存するコンセプトへ追加できます。



用語集をインポートする際のステータスに関するオプション

インポートされる用語すべてに対するステータスを設定できます。インポート ファイル内の用語にステータスが含まれている場合、ステータスもインポートできます。インポート ファイル内のステータスが有効でなくても、ステータスを指定できます。また、用語集のカテゴリー化を向上させるため、インポート時に用語リストへタグを付与できます。

### 既存コンセプトに追加

XTM の用語はすべてコンセプトにリンクされています。したがって訳語が追加される際、用語ベースに保管されてコンセプトにリンクされます。

[既存コンセプトに追加]を選択せずに用語をインポートした場合、用語ベースに同じ用語が 1 つ以上存在するに関わらず、行ごとにコンセプトが作成されます。

[既存コンセプトに追加]を選択した場合、言語リストが表示されます。デフォルトでは[すべて]に設定されています。このデフォルト設定を使用すると、既存用語すべてと、インポートする用語すべてが比較されます。そして既存する用語が見つかった場合、コンセプトと用語の重複を回避するため、該当する用語はインポートされず、同じ行のほかの用語は既存コンセプトへリンクされます。

2 つ以上の意味を有する用語をインポートする際、この機能の使用は推奨されません。実質的に、用語はリンクされますが、新しい、不正な用語がコンセプトに追加されることがあります。

代替策として言語リストから任意の言語を選択します。特定の言語でのみ、該当する用語が既存するかがチェックされることになります。

上記について、以下の例を参考にしてください。

1 つのコンセプトに以下の複数の用語がリンクされています。英語: lock – ポーランド語: zamek

次の用語を新たにインポートします。英語: castle – ポーランド語: zamek

[既存コンセプトに追加]を選択した場合、1 つのコンセプトに 3 つの用語がリンクされます。

英語: lock - 英語: castle – ポーランド語: zamek、これは明らかに不正です。

しかしながら[選択した言語でのみ重複をチェック]に英語を選択した場合、2 つのコンセプトそれぞれに 2 つの用語がリンクされます。

英語:lock – ポーランド語:zamek

と

英語:castle – ポーランド語:zamek

## 用語をエクスポートする

[エクスポート]タブでは、用語リストをレビューまたは交換するため、標準ファイル形式である XLS、TBX、MTF としてダウンロードできます。

ファイルタイプ	カスタマー	開始時刻	合計時間	主要言語	翻訳言語	ステータス	ステータス	ダウンロード
XLSX	Demonstration	2018/12/25 09:42	1 秒	すべて	すべて	すべて	成功	<a href="#">ダウンロード</a>
XLSX	Test	2018/12/25 09:41	1 秒	すべて	すべて	すべて	成功	<a href="#">ダウンロード</a>

### 用語集 > [エクスポート]タブ

用語に含めるデータは、XTM が提供するタグや包括的なフィールドのセットから自由に構成できます。加えて、エクスポートの実行前に翻訳言語を選択する、もしくは[検索からの用語のみをエクスポート]を選択することによって用語をフィルターできます。用語コンセプトの画像は例外であり、エクスポートできません。

### 用語集のエクスポートに関するオプション

[検索結果]セクションの[エクスポート]ボタンを使用して、[管理]タブで検出された用語をエクスポートできます。また、用語集の[エクスポート履歴]にはエクスポートの詳細がリストされ、エクスポート済みファイルをダウンロードするオプションもあります。

## 8. XTM TM Manager

TM マネージャにて、翻訳メモリをインポート、編集、エクスポートします。

TM マネージャは別のウィンドウに開いて、クイックアクセスすることもできます。[TM]タブを右クリックして、コンテキストメニューから[新しいウィンドウで開く]を選択します。



[TM]タブを右クリックする

### 翻訳メモリ内でセグメントを検索して編集する

[TM]タブをクリックします。このタブではセグメントを検索して修正し、スペルチェックも含めて品質保証を実行し、TMX や XLIFF のインポートやこれらの形式へのエクスポートを実行できます。



TM マネージャ

翻訳メモリにはカスタマー、プロジェクト、ドキュメントがタグ付けられています。したがって TM マネージャを操作する際、最初に[カスタマー]を選択する必要があります。

次に、検索条件を入力して[検索]ボタンをクリックすることによって、管理対象のセグメントを検出します。

検索には以下のフィールドを使用できます: カスタマー、ソース言語、プロジェクト、ターゲット言語、セグメント ID、ステータス、作成日、フレーズ。フレーズを検索する場合、ソースセグメントかターゲットセグメントのいずれかを検索対象として指定する必要があります。また、検索にはステミングをオプションとして使用したり、大文字と小文字を区別することも設定できます。

[編集]アイコン  をクリックすると[ターゲット言語]ウィンドウが表示され、複数のターゲット言語を選択して検索を実行できます。



TM マネージャにて複数のターゲット言語を選択

複数のターゲット言語が選択されている場合、検索結果は言語ごとに各タブに表示されます。

ID	英語(英国)	日本語	ステータス
14486	The supercar with beautiful body	車体が美しいスーパーカー	承認済み
14487	Its blue ocean body reflects the sun-shine.	太陽の日差しに映える青い海原のような車体が美しい。	承認済み
14488	It's selected for "the most beautiful car in the world 2010".	「2010年、世界で最も美しい車」に選ばれました。	承認済み
81790	Open the door.	ドアを開いてください。	承認済み
81832	Open the door.	扉を開く。	承認済み

### TM マネージャにて複数のターゲット言語を表示

検出セグメント数およびセグメントそのものはスクリーンの下半分に表示されます。

[i]アイコンにマウスをかざすとセグメントとともに保管されている以下のメタデータが表示されます。

- カスタマー
- プロジェクト
- ファイル名
- 作成者
- 作成日
- 変更者
- 変更日
- セグメントに関連付けられたタグ
- セグメントのコンテキスト。

604044	Add the milk into the bowl and mix <b>{1}</b> even more <b>{1}</b> .	ボウルに牛乳を注ぎ、 <b>{1}</b> さらに <b>{1}</b> かき混ぜます。	承認済み
--------	--	--	------

カスタマー	Demonstration
プロジェクト	012-Word_pudding-EJ
ファイル	1_Pudding.docx
作成者	MetsugiADMIN
作成日	2017/11/17 08:55
変更者	MetsugiADMIN
変更日	2017/11/17 08:56
コンテキスト	
前のソース	Add the rest of sugar and 2 eggs in a bowl, and mix it with whisk.
次のソース	Pour it into the 2 mugs (1).

### TM マネージャにてポップアップ表示されるセグメントのメタデータ

希望するセグメントが検出された場合、ソースまたはターゲットのフレーズを手動で変更したり、セグメント ステータスを変更したり、検索や置換を実行できます。[検索と置換]を使用するには[検索フレーズ]フィールドに検索対象の単語を1つ以上入力し、[置換]フィールドに置き換えるテキストを入力します。[置換]ボタンと[次へ]ボタンを組み合わせで使用するか、[置換して次へ]ボタンを使用して最後のセグメントまで作業します。すべてのセグメントを一括して置換するには[すべて置換]ボタンをクリックします。変更されたセグメント数がメッセージとして表示されます。

検出されたセグメントすべてを削除するには[すべて削除]ボタンをクリックします。

### 左手ツールバー

左手ツールバーは、現在のページに表示されているセグメントすべてに関連します。

アイコン	アクション
	このページ上のすべてのセグメントを削除します

## 右手ツールバー

右手ツールバーは個別のセグメントに関連します。

アイコン	アクション
	現在のセグメントに対して QA チェックを実行します
	現在のセグメントを削除します
	現在のセグメントに対して QA を実行します
	ステータスを元に戻します

## 翻訳メモリをインポートする

TMX、XLIFF、Excel ファイルから XTM へ翻訳メモリをインポートできます。最善の結果を得るためには、TMX バージョン 1.4b の使用が推奨されています。

TMX、XLIFF、Excel ファイルのいずれかを XTM へインポートするには、[TM インポート]タブをクリックして以下のステップを実行します。

- プルダウンリストから[カスタマー]を選択します。
- [インポート プロジェクト]に名前を付けます。
- [ソース言語]と[ターゲット言語]を設定
- インポートされた翻訳メモリのステータスを設定するため、プルダウンリストから選択します。
- XLIFF ファイルをインポートする場合、XLIFF ファイルに保管されているマッピング データをインポートするには[XLIFF ファイルから alt-trans 要素をインポートする]チェックボックスを選択します。
- 重複レコードをインポートするために設定します。
- インポートする翻訳メモリにタグを設定します。
- [ファイルを選択]ボタンをクリックしてインポート対象のファイルを選択します。
- [インポート]ボタンをクリックします。

[インポート履歴]セクションに新規レコードが作成され、インポートのステータスが表示されます。インポートが完了するとステータスが[進行中]から[済み]に変わります。



## [TM インポート]ウィンドウ

タグを伴う TMX ファイルをインポートするときのタググループやタグに対する適切な構文の例:

```
<prop type="Domain">Therapies</prop>
```

タググループは「Domain」、タグ名は「Therapies」です。

TMX ファイルをインポートする前に XTM で[タググループ]と[タグ]を作成しておく必要があります。[タググループ]と[タグ]の名前には、英語のアルファベット、数字、ダッシュ、アンダースコアのみを使用できます。

## 翻訳メモリをエクスポートする

翻訳メモリをエクスポートするには[TM エクスポート]タブをクリックします。自分の翻訳メモリすべてを、またはソース言語、プロジェクト、ターゲット言語、ステータスに基づいてサブセットを選択してエクスポートすることもできます。また、セグメント ID を指定することによってエクスポート対象をフィルターすることもできます。エクスポートするファイルタイプに[TMX]、[Excel]、[単一言語 XLIFF]いずれかを選択し、[エクスポート]ボタンをクリックします。ファイルは ZIP としてダウンロードされます。エクスポート履歴が下部に表示されます。



[TM エクスポート]ウィンドウ

## ソースファイルのセグメント ID に基づいて翻訳ユニットをエクスポートする

[セグメント ID]フィールド(入力用)の右側の[...]をクリックすると、[セグメント ID]ウィンドウ(複数選択用)が開かれます。



[セグメント ID]複数選択ウィンドウ

[セグメント ID]ウィンドウに、複数のソースファイルのセグメント ID をタイプまたは貼り付けます。セグメント ID は 1 行に 1 つずつ入力します。

## XTM Align

XTM Align によって、過去に翻訳したドキュメントから素早く簡単に対訳データを作成できます。対訳データには、原文と訳文がセグメント レベルで並列に並べられます。対訳データは将来のプロジェクトで使用するために XTM へ翻訳メモリとしてアップロードできます。

### ドキュメントをアライメントする

ドキュメントをアライメントするにはまず[参照名]を入力し、[ソース言語]と[ターゲット言語]を設定します。[ソースファイル]と[ターゲットファイル]をアップロードし、[カスタマー]を選択して[アライメント]ボタンをクリックします。アライメントのプロセスは、ドキュメントのサイズ、2 言語辞書が XTM 内に既存するか、システムにより生成されるかなどによって時間を要することがあります。アライメントが完了するとステータスが[済み]に変更され、[アライメント履歴]セクションに[ダウンロード]ボタンが表示されます。このリンクをクリックすると、アライメント済みのテキストが保存された Excel ファイルがダウンロードされます。



### [アライメント]ウィンドウ

XTM Align によってアライメント作業用に 2 つの Excel ファイルが作成されます。

- ファイル名に「90+」が付与された Excel ファイルには、綿密な整合の確立が 90%以上のセグメントのみが含まれます。このファイルは多くの作業を必要とせず目視確認のみで完結できるため、内容をただちに確認して翻訳メモリとしてアップロードするには便利です。
- もう 1 つのファイルにはアライメント内容が完全に含まれています。個別のセルは削除が可能であり、ソーステキストのセグメント化と並列してターゲットテキストが置かれるように調整します。

このファイルのソースセグメントは変更できません。マージも編集もできません。ソーステキストはセグメント化されているのみです。ターゲットセグメントはソーステキストのセグメンテーションに一致するべく調整できます。たとえば、複数のセルに分かれてしまったテキストは結合します。

### Excel ファイルの概要

XTM Align は Excel ファイルを出力します。

A	B	C	D	E
Src Seg.	en_GB	ja_JP	Tgt Seg.	Probability
	Unmatched <span style="color:red">■</span> Not sure <span style="color:orange">■</span> Merged <span style="color:blue">■</span> Very good <span style="color:green">■</span>			
	As there are significant differences between the source and target document structures, it was not possible to provide an accurate alignment. 22.0% of the segments were unmatched.			
0	This file is for alignment.	これはアライメント用のファイルです。	0	0.5744

### Excel ファイルに表示されたアライメント テキスト

Excel ファイルの各列には以下の内容が表示されます。

列	見出し	内容
A	ソースセグメント	ソースセグメント番号
B	ソース言語コード	ソースセグメント テキスト
C	ターゲット言語コード	ターゲットセグメント テキスト
D	ターゲットセグメント	ターゲットセグメント番号
E	確立	マッチの確立スコアが 0~1 のスケールで示されます。 0 は確立が皆無である旨を示し、1 は絶対的に綿密な確立を示します。

さらに、セルの背景色はマッチングの正確さによって色分けされています。

色	マッチングの正確さ
赤	ソースまたはターゲットのセルがマッチしていない
黄	マッチ品質が不確実
青	複数のセグメントにまたがっているテキストをマージする必要がある
緑	とても良いマッチ 良いマッチ

いずれの場合もセグメントのアライメントは、完成して XTM へ翻訳メモリとしてアップロードされる前に PM またはリングリストが確認する必要があります。

### Microsoft Excel でアライメントをチェックする

Excel ファイルでアライメント修正を行う場合の規則:

1. ソース列またはターゲット列のセルを削除する際、[上方向にシフト]を選択する必要があります。
2. ターゲットセルのテキストのみを分割またはマージできます。

ソースセグメントを反映した訳にする必要がある場合、ターゲット言語セルのテキストを複数のセルに分割できます。たとえば複数のソースセグメントの訳が単一の文章に集約されている場合、ソーステキストのセグメンテーションにしたがって「再翻訳」することもできます。また必要に応じて、複数のターゲットセルにまたがる訳文を単一にマージさせることもできます。

ソーステキストは決して変更できません。

### XTM へ翻訳メモリをアップロードする

Excel 上でのアライメントの確認と修正が完了すると、[TM]タブで[TM インポート]のアップロード オプションを使用して XTM へ翻訳メモリをアップロードできます。Excel ファイルはそのまま XTM へアップロードできません。

ソースセルまたはターゲットセルが空の場合、以下の規則が適用されます。

1. 相当するターゲットセルにマッチテキストがないソースセグメントはアップロードされません
2. 相当するソースセルにマッチテキストがないターゲットセグメントはアップロードされません
3. ソースセルおよび相当するターゲットセルの両方が空の場合、いずれもアップロードされません

## 9. iOS/Android 用の XTM アプリ

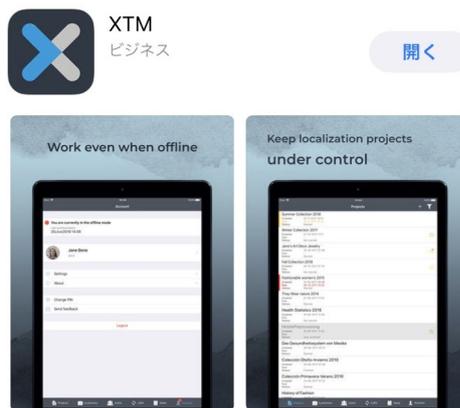
### 前提条件

XTM app を使用するには、お使いのモバイル デバイス上に iOS 9.0 以上または Android 4.2 以上がインストールされている必要があります。

### iPhone および iPad でのインストール

お使いの iPhone または iPad で App Store を開きます。[検索]フィールドに「XTM」と入力して[検索]ボタンをタッチします。結果リスト上に「XTM App」を見つけてください。銀と青の「X」アイコンおよび、XTM International によって開発されたアプリであることを確認してください。

[インストール]アイコンをタッチします。XTM アプリが追加されます。



App Store 上の XTM App

### Android デバイスでのインストール

お使いの Android デバイスで Google Play を開いてください。[検索]フィールドに「XTM」と入力して[検索]ボタンをタッチします。結果リスト上に「XTM App」を見つけてください。銀と青の「X」アイコンおよび、XTM International によって開発されたアプリであることを確認してください。



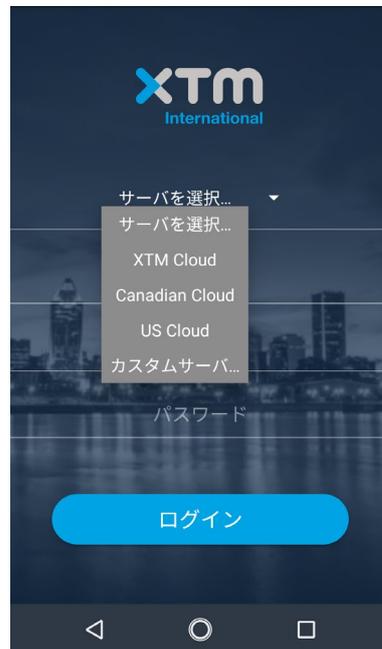
Google Play 上の XTM アプリ

これをタッチします。XTM App の詳細が表示されるので[インストール]をタッチします。電話、デバイス ID、通話情報へアクセスする必要があるとのメッセージが表示されます。[同意する]をタッチします。お使いのモバイル デバイスへ XTM App のインストールが開始されます。インストールが完了すると、[インストール]ボタンが[アンインストール]および[開く]ボタンに変わります。お使いのモバイル デバイスのホーム画面およびアプリのメニューに XTM App のアイコンが追加されます。

## XTM App を初めて起動するとき

初めて XTM App を使用する際、サーバを選択し、既存の認証情報を使用してログインするよう求められます。

- XTM アカウントが標準の XTM Cloud に設定されていて、コンピュータでは <https://www.xtm-cloud.com/>へアクセスしている場合、[サーバを選択...]リストから[XTM Cloud]を選択します。
- XTM アカウントが US XTM Cloud に設定されていて、コンピュータでは <https://www.us.xtm-cloud.com/>へアクセスしている場合、[サーバを選択...]リストから[XTM Cloud US]を選択します。
- XTM アカウントが Canadian XTM Cloud に設定されていて、コンピュータでは <https://www.ca.xtm-cloud.com/>へアクセスしている場合、[サーバを選択...]リストから[XTM Cloud Canada]を選択します。
- お使いの XTM アカウントが Private Cloud または XTM Suite(オンプレミス サーバ)に設定されている場合、[サーバを選択...]リストから[カスタムサーバ...]を選択します。そして、コンピュータで使用する XTM インスタンスへの URL を入力します。

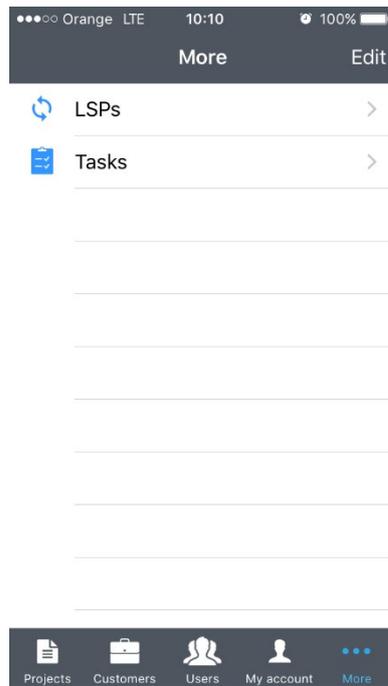


ログイン対象のサーバを選択する

[会社ログイン名]、[ユーザ名]、[パスワード]を入力して[ログイン]ボタンをタッチします。アプリ内へ移動する前に新しい PIN コードを選択するよう求められます。XTM App が開かれてから 5 分以上使用されない場合、アンロックするために PIN コードの入力が求められます。お使いのモバイル デバイスに指紋リーダーが搭載されている場合、PIN コードの代わりに指紋認証を使用することもできます。

## 移動

移動メニューはスクリーンの下部にあります。XTM App では[さらに]アイコンの下に利用可能な LSP やタスクを含め、自分のプロジェクト、カスタマー、ユーザ、マイアカウント情報へアクセスできます。



### メニュー

[プロジェクト]、[カスタマー]、[ユーザ]の画面では、現在のページに表示されているアイテムの数がスクリーン下部に表示されます(例:1~6)。四角で囲まれている数字をタッチして単一のページに表示するアイテムの数を変更し、スクリーン下部の左矢印と右矢印をタッチしてページ間を移動できます。

## プロジェクト

### プロジェクト一覧

[プロジェクト]画面では、コンピュータでXTMにログインしたときと同じプロジェクトが一覧表示されます。プロジェクト一覧には以下の情報が表示されます。

- プロジェクト名
- 作成時刻
- 期限時刻:
  - プロジェクトに期限時刻が設定されていない場合、「 - 」が表示されます。
  - 期限時刻まで 24 時間以上ある場合、プロジェクトは通常どおりに表示されます。
  - 期限時刻までに 24 時間ない場合、プロジェクト項目の左端にオレンジ色の縦棒が表示されます。期限時刻自体もオレンジ色で表示されます。
  - プロジェクトの期限が経過している場合、プロジェクト項目の左端に赤色の縦棒が表示されます。期限時刻自体も赤色で表示されます。
- プロジェクト ステータス。XTM App ではプロジェクトに以下のステータスがあります: 未開始、一部開始済み、開始済み、完了済み、アーカイブ済み、自動アーカイブ済み。プロジェクトが[アーカイブ済み]または[自動アーカイブ済み]にされた場合、プロジェクト一覧上ではグレイアウトされます。



プロジェクト一覧

### 新しいプロジェクトを作成する

お使いのモバイル デバイスで新しい翻訳プロジェクトを作成できます。スクリーン最上部の[+]アイコンをタッチして新規プロジェクトの作成を開始します。[カスタマー]を選択し、最小でも[プロジェクト名]、[ソース言語]、[ターゲット言語]、[ワークフロー]を選択します。任意の情報を入力することも、テンプレートを使用して設定情報を自動入力させることもできます。スクリーンの右上部の[作成]をタッチします。作成されたプロジェクトは XTM App で利用できるのみでなく、パソコンのインターネット ブラウザからもアクセスできます。新しいプロジェクトの作成中に[オフラインモード]が有効にされた場合、進捗が保存されます。インターネット接続が回復してプロジェクトを追加するための[+]アイコンがタッチされると、プロジェクト作成が再開されます。

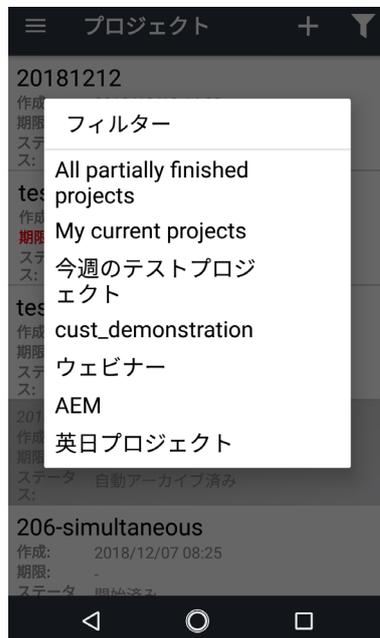


XTM App で新しいプロジェクトを作成する

## スマート フィルター

スクリーンの右上部にはフィルター アイコン  があります。これをタッチすると[スマート フィルター]のメニューが表示されます。デスクトップ版 XTM の設定と同様に、標準およびカスタマイズ済みのフィルターを利用できます。いずれかのフィルターを適用すると、[スマート フィルター]アイコンを再タッチすると元のプロジェクト一覧に戻り、検索条件を選択できます。

コンピュータ上で[スマートフィルター]を追加または編集した場合、XTM App で[スマート フィルター]メニューを開いて[同期を実行]をタッチするとフィルターリストが更新されます。



スマート フィルター

## プロジェクトの詳細

プロジェクト一覧上の任意のプロジェクトをタッチすると、[プロジェクト詳細]スクリーンに移動します。[プロジェクト詳細]スクリーンには 2 つのタブがあります。

- 一般情報
- ワークフロー
- メトリクス

### 一般情報

[一般情報]タブには、プロジェクト名、参照 ID、概要、カスタマー、プロジェクトマネージャ、ソース言語、ターゲット言語、主題、作成者、作成日、期限を含むプロジェクトの基本情報が含まれます。

### ワークフロー

[ワークフロー]タブには、稼働中のワークフロー ステップまたは該当言語に対するワークフローが完了したかの情報を伴ってターゲット言語のリストが表示されます。言語をタッチするとワークフローや担当が表示されます。各言語の下側に表示される青色のバーは翻訳の進捗を示します。担当がまだアサインされていない場合、ワークフロー ステップに対してリングリストを選択する、または該当言語のワークフロー ステップの担当をアサインする、もしくは既存の担当を上書きするためにテンプレートを使用できます。



プロジェクトのターゲット言語および稼働中のワークフロー ステップ

ワークフローが開始されていない言語が 1 つでもある場合、「ジョブが開始されていません、開始してください」というメッセージが表示されます。言語ごとの最初のワークフロー ステップにリングリストがアサインされていることを確認し、緑の矢印をタッチしてプロジェクトのワークフローを開始します。

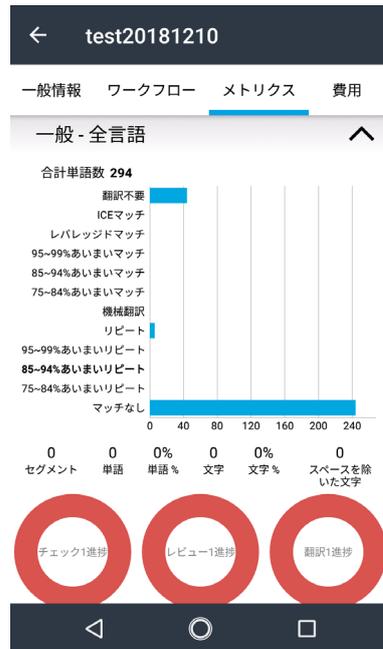


テンプレートからリングリストをアサインする

現時点で稼働中のワークフロー ステップは[翻訳 1]、[チェック 1]などのワークフロー ステップ名と担当者が緑線の四角で囲まれ、緑色で表示されます。現時点で稼働中のワークフロー ステップであっても担当者は変更可能です。

## メトリクス

メトリクスはプロジェクト内ですでに翻訳済み、またはこれから翻訳するセグメント・単語・文字の数および、文字または単語の割合に関する情報を示します。



プロジェクト メトリクス

## 費用

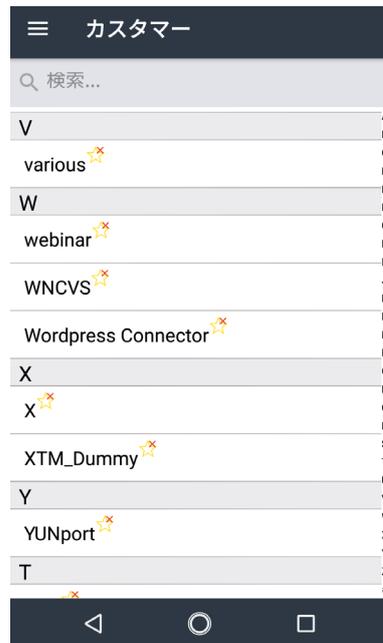
[費用]タブには、任意のプロジェクトで見込まれる費用の情報が表示されます。XTM のプロジェクトの[概算見積り]タブの[費用]セクションで算出される値です。XTM のデスクトップ版に類似して、費用の詳細を表示させることができます。お使いのデフォルト通貨でリングストごとに表示されます。通貨変換アイコン  をタッチすると、ほかの通貨に費用を換算できます。



[プロジェクト] > [費用]

## カスタマー

[カスタマー]画面では、有効なカスタマーおよび PM がアサインされていないカスタマーが表示されます。カスタマーに PM が 1 名もアサインされていない場合、右側にアイコン  が表示されます。

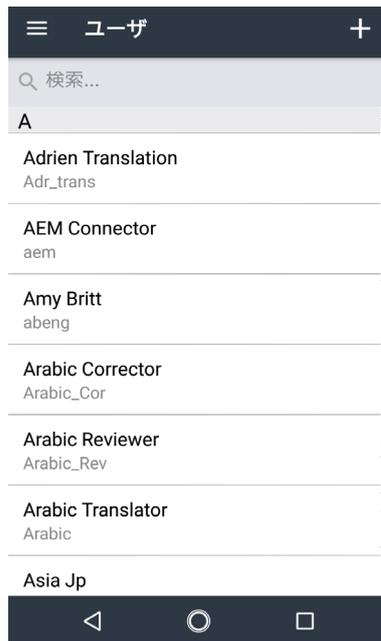


XTM Mobile App のカスタマーリスト

一覧上の任意のカスタマーをタッチすると、[住所]、[電話番号]、[VAT 番号]などの詳細が表示されます。[電話番号]が 1 つ以上登録されているカスタマーには、アプリから直接電話をかけることが可能です。2 つ以上の[電話番号]が登録されている場合、発信先を選択できます。カスタマーがモバイル端末を所有している場合、テキスト メッセージを送信することもできます。

## ユーザ

この画面ではお使いのシステム上のユーザー一覧が表示されます。一覧上の任意のユーザをタッチすると、[電話番号]、[言語コンビネーション]、[メールアドレス]、[ロール]、担当[ワークフロー ステップ]などの詳細が表示されます。



XTM Mobile App のユーザリスト

[電話番号]が1つ以上登録されているユーザにはアプリから直接電話をかけたり、メールを送ることが可能です。2つ以上の[電話番号]が登録されている場合、発信先を選択できます。ユーザがモバイル端末を所有している場合、テキストメッセージを送信することもできます。

#### ユーザを追加する

新規ユーザを追加するには画面右上部のプラス符号のアイコン  をタッチします。新規ユーザを作成するためには Web 版の XTM と同様の情報の入力が必要です。



新規ユーザを追加する

## LSP

このセクションには LSP (Language Service Provider、翻訳会社) の一覧が表示されます。カスタマーに PM がまったくアサインされていない場合、右側にアイコン  が表示されます。接続が成立している LSP は黒で表示されます。接続が成立できていない LSP は赤で表示されます。



XTM Mobile App の LSP リスト

### LSP 詳細

任意の LSP をタッチすると[LSP 詳細]画面へ移動します。[LSP 詳細]画面には 2 つのタブがあります。

- 一般情報
- 接続

#### 一般情報

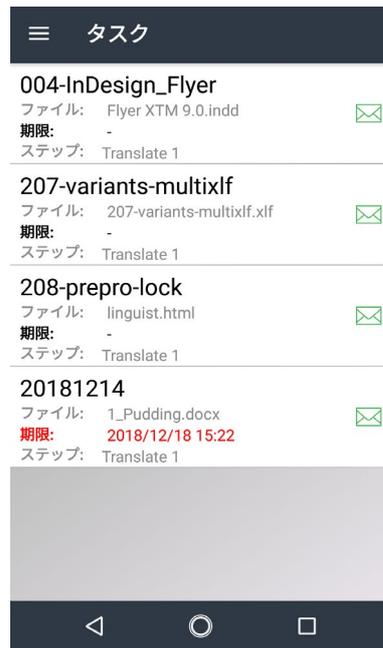
[一般情報]タブには、[会社名]、[担当プロジェクトマネージャ]、[住所]、[メールアドレス]、[電話番号]、[VAT 番号]を含む LSP の基本情報が含まれます。LSP がモバイル端末を含む電話番号を登録している場合、電話をかける、またはテキスト メッセージを送ることができます。メールを送ることも可能です。

#### 接続

[接続]タブには LSP との双方向接続に関する情報も含まれます。

### タスク

[タスク]画面には自分の現在の担当タスク一覧が表示されます。[プロジェクト名]、担当[ファイル]、担当[ワークフロー ステップ]や[期日]が表示されます。

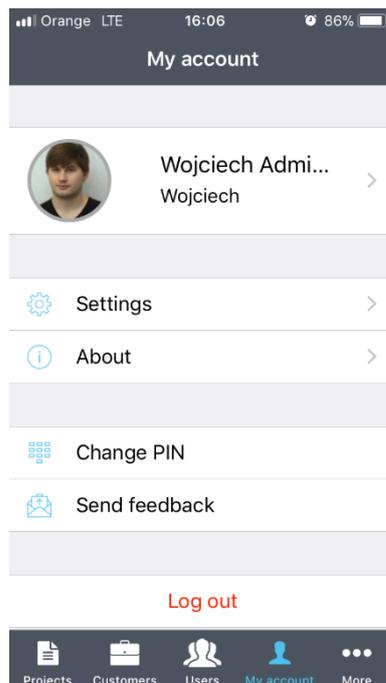


ユーザにアサインされたタスクの一覧

## マイアカウント

スクリーンの上部にはユーザ自身の名前とロールが表示されます。メールアドレス、電話番号、住所を含む自分の情報を表示するには、ユーザ名の辺りをタッチします。自分に関するデータに誤りや不足がある場合、ここで変更できます。

自分の名前とロールの下には 2 つのタブがあり、[設定]と[アカウント]、および[PIN を変更]と[フィードバックを送信]が表示されます。さらに下部には[ログアウト]ボタンもあります。



マイアカウント

## 設定

[設定]タブには地図アプリを変更するためのオプションと、アプリをアンロックするための指紋リーダーを有効または無効にするためのオプションがあります。

## 当社について

[当社について]では、弊社の「個人情報保護方針」と「サードパーティーに関する通知」を参照できます。

## PIN を変更する

XTM App が 5 分間以上使用されていなかった場合にログインに必要とされる PIN コードは、XTM App のコンテキストメニューから[PIN を変更]オプションをタッチして変更できます。

## フィードバックを送信する

[フィードバックを送信]をタッチすると、XTM App に関するご意見を弊社宛に送信していただけます。

## ログアウト

XTM App のコンテキストメニューから[ログアウト]オプションをタッチすると、アプリからログアウトする、もしくは別のアカウントやサーバへログインできます。

## オフライン モード

インターネット接続が失われたとき、オフライン モードが有効にされます。オフライン モードではアプリケーションの閲覧は通常と同様に可能ですが、変更は一切できません。

## 10. XTM Connect for Google Sheets

### はじめに

Google スプレッドシート用の XTM Connect は、XTM でのプロジェクト作成を自動化するための、補助の XTM アプリケーションです。翻訳が完了した際、翻訳済みテキストが Google スプレッドシートに返されます。アドオンは Google スプレッドシートに直接インストールされ、いずれの Web ブラウザでも使用できます。

このアプリケーションの使用は、標準的な XTM のライセンス許諾またはサブスクリプション契約には含まれておらず、別のソフトウェア ライセンス条項の下に提供されます。

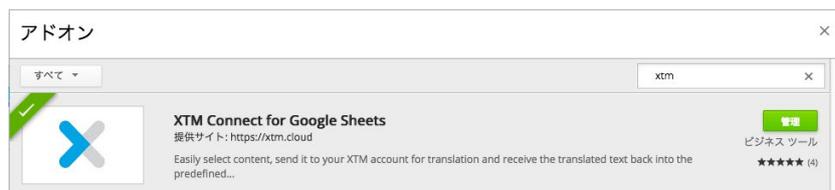
### インストール

XTM Add-on をインストールする Google スプレッドシートを開きます。アドオンをクリックして表示させます。



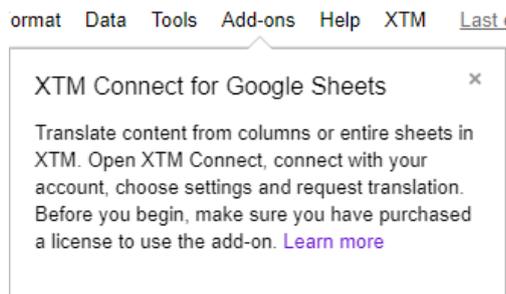
XTM Connect: Google スプレッドシート - インストール手順 1

[アドオンを検索]フィールドに[XTM]と入力します。インストールを開始するには[+ 無料]ボタンをクリックします。継続するため、Google アカウントにログインするよう求められることがあります。この場合、アプリケーションで必要とされる権限とアクセスを許可してください。



XTM Connect: Google スプレッドシート - インストール手順 2

インストールが完了するとメニューに[XTM]アイテムが新たに追加され、下部にヒントが表示されます。

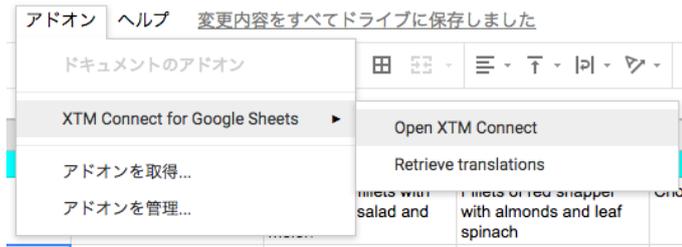


XTM Connect: Google スプレッドシート - インストール手順 完了

### 概要

#### ログイン

アドオンを起動するには[XTM] > [Open XTM Connect]を選択します。



Google スプレッドシートでXTM Connect を開く

右側にパネルが新たに開かれます。すべてのフィールドに入力して[Connect to XTM]をクリックします。

XTM Connect for Google Sheets へログインする

XTM Connect for Google Sheets へのユーザ ログインには、API の使用が許可されている必要があります。ユーザ アクセスは XTM の[ユーザ] > [ユーザを編集] > [アクセス権] > [認証] > [アクセス]にて有効にできます。[ユーザインターフェースとAPI]または[APIのみ]のいずれかを選択します。そうでなければ、アドオン利用に際してユーザログインができません。



任意のユーザに対してAPI アクセスを有効化する

XTM の[カスタマー] > [カスタマー一覧]でアイコン  にマウスをかざすと[カスタマーID]が表示されます。



[XTM] > [カスタマー] > [カスタマー一覧]

## 言語コンビネーション

アドオンとXTMを接続すると、ログインに使用されるカスタマーIDの言語コンビネーションがチェックされます。該当カスタマーには[カスタマイズされた言語コンビネーションのみ]を設定しておく必要があります。該当カスタマーのソース言語とターゲット言語は、XTM Connect for Google Sheetsで使用できます。



該当カスタマーおよびXTM Connect for Google Sheets で言語を同期させるため [カスタマイズされた言語コンビネーションのみ]を使用する必要があります

## 翻訳モード

お使いの認証情報がアプリケーションによって記憶されるため、2回目以降のログイン時には入力を求められません。XTM Connect for Google Sheetsでは、特定の列または現在のシート全体を翻訳できます。モードごとにあらかじめ定義したテンプレートと組み合わせることが可能であり、プロジェクトの納期も選択できます。

## 列を翻訳する

このモードではソーステキストが入力されている列を指定し、任意の言語に翻訳されたテキストを返す列を指定できます。また、翻訳対象のセル範囲も選択できます。

## 言語をマッピングする

XTM Connect for Google Sheetsでは、見出し文字によって対象シートの列および1行目のセルのコンテンツを認識します。翻訳リクエストを実行する前にソース言語とターゲット言語の列をマップする必要があります。

例:

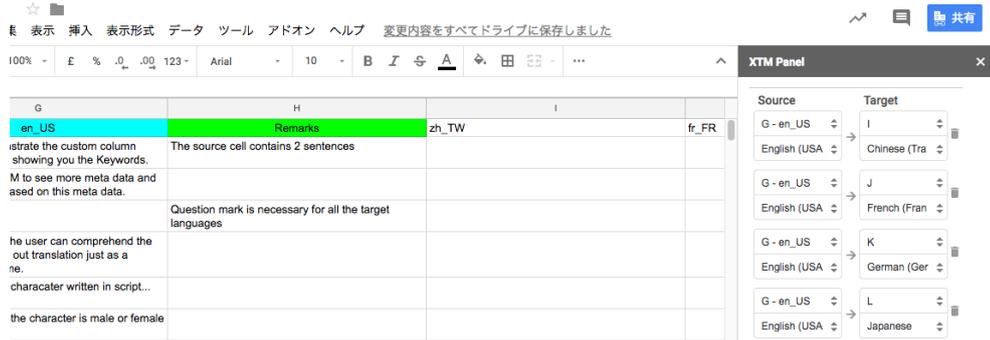
ソース言語

ソーステキストがA列の英語であり、1行目のセルに「en\_UK」と入力されています。これは、「English (UK)」としてマップする必要があります。

さらに

ターゲット言語

同じシートの B 列 1 行目に「da\_DK」と入力されており、この下にデンマーク語の翻訳を受け取り、C 列 1 行目「de\_DE」の下にドイツ語の翻訳を受け取ることを希望する場合、下図のようにカスタマーの言語として値をマップする必要があります。



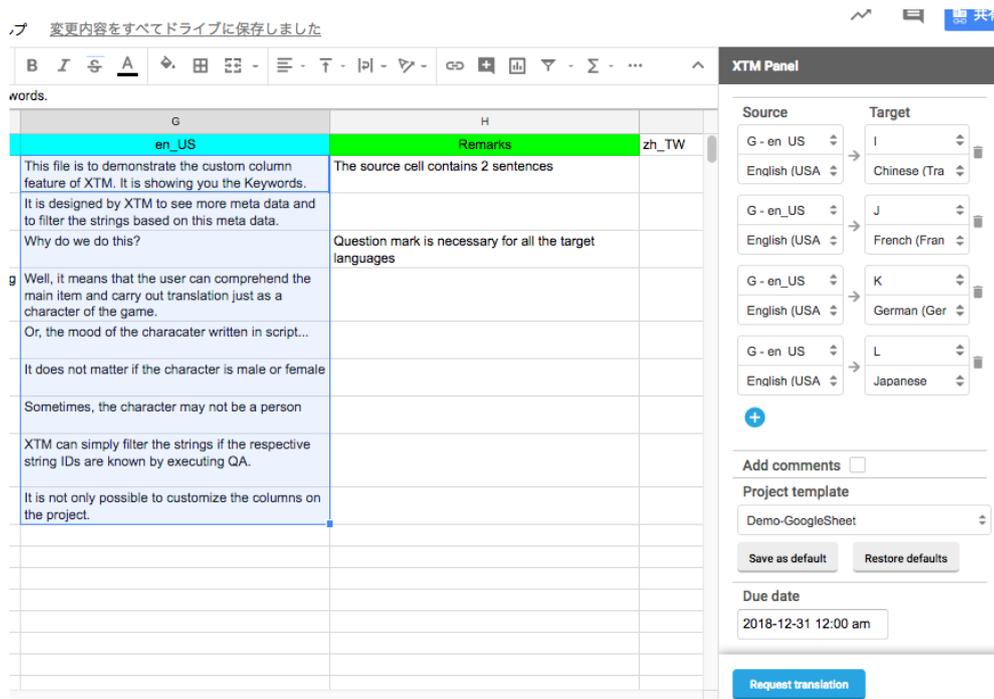
[ソース言語]と[ターゲット言語]をマップする

### デフォルトを保存する/復元する

プロジェクト テンプレートの選択と言語のマッピングを合わせて、デフォルトとして保存します。デフォルト値はログインするたびにロードされます。この設定を変更した後、元の設定に戻すには、[Restore the defaults] (デフォルトの復元) をクリックします。

### 翻訳をリクエストする

言語のマッピングが正確であるかを確認し、プロジェクト テンプレートを選択して、プロジェクトの期日を指定します。そして、ソーステキストが入力されている列にて翻訳対象のセルを選択します。[Ctrl]キーや[Shift]キーを押しながら複数のセルを選択できます。翻訳を戻すためのターゲットセルは空であることを確実にしてください。翻訳リクエストを実行し、プロジェクトが作成されたことを確認します。



ソース列のセルを選択して翻訳をリクエストする

翻訳がリクエストされると、翻訳テキストが返される予定のセルにテキスト「Do not edit! Waiting for translation from XTM」(編集しないでください！XTMからの翻訳を待機中です。)が表示されます。また、各セルには[セル

ID]が入力された注釈が付与されます。これらのセルは変更しないでください。翻訳テキストを受け入れるため、セルのコンテンツをそのままにしておく必要があります。

## シートを翻訳する

このモードでは、現在のシートが 1 つ以上の言語へ翻訳する対象として取り扱われます。翻訳をリクエストできるのは 1 度に 1 シートのみです。

## 翻訳をリクエストする

ソース言語とターゲット言語、さらにオプションとしてプロジェクト テンプレートおよびプロジェクトの納期を選択できます。そして、[Request translation] (翻訳をリクエストする) をクリックします。

G	H	I
en_US	Remarks	zh_TW
This file is to demonstrate the custom column feature of XTM. It is showing you the Keywords.	The source cell contains 2 sentences	DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
It is designed by XTM to see more meta data and to filter the strings based on this meta data.		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
Why do we do this?	Question mark is necessary for all the target languages	DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
Well, it means that the user can comprehend the main item and carry out translation just as a character of the game.		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
Or, the mood of the character written in script...		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
It does not matter if the character is male or female		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
Sometimes, the character may not be a person		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
XTM can simply filter the strings if the respective string IDs are known by executing QA.		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM
It is not only possible to customize the columns on the project.		DO NOT EDIT! Waiting for translation from XTM. 25-12-2018 12:18 PM

1 project created successfully!

OK

## シート全体の翻訳をリクエストする

翻訳がリクエストされると、元のシート名にターゲット言語コードが付与された新しいタブが作成されます。新たに作成されたタブ上のセルの一部には、テキスト「Do not edit!Waiting for translation from XTM.」(編集しないでください！XTM からの翻訳を待機中です。)が表示されます。また、各セルには[セル ID]が入力された注釈が付与されます。これらのセルは変更しないでください。翻訳テキストを受け入れるため、セルのコンテンツをそのままにしておく必要があります。

## 11. XTM Xchange

XTM Xchange は、翻訳案件を有する翻訳者と団体を引き合わせる XTM のモジュールです。2つのセクションがあります。

- 1) フリーランス翻訳者と企業のディレクトリ
- 2) 翻訳リソースを求めているプロジェクトマネージャがジョブを公開し、登録ユーザが作業に対する見積りを提示できるマーケット プレイスです。PM は見積りを確認し、候補者の中から適任者を選択し、該当者をユーザ情報に取り込むかサブコントラクタとしてタスクをアサインします。

### XTM Xchange に登録する

XTM Xchange へは誰もが登録可能であり、すでに XTM ユーザであるかどうかによって登録プロセスは異なります。

#### XTM ユーザとして未登録の個人や企業

XTM アカウントをまだ有していない場合、XTM International の Web サイトにてフォームへ入力して送信する必要があります。その後、ログイン情報が記載されたメールが届きます。フォームは <http://www.xtm-intl.com/xchange-register> にあります。

#### 既存の XTM ユーザ

すでに XTM アカウントを有している場合、XTM Xchange を有効にして登録を進めるには、以下のステップにしたがいます。

- 1) [コンフィギュレーション] > [設定]へ移動し、[XTM Xchange を有効化]を選択します。
- 2) [保存]をクリックします。
- 3) 上部に[Xchange]タブが表示され、[登録]ボタンが表示されます。

#### XTM Xchange を有効化する

- 4) [登録]ボタンをクリックします。

[一般情報]のフィールドには、自分に関する詳細がデフォルトで表示されます。不足情報を追加入力して[保存]をクリックします。

### XTM Xchange を有効化する

初期データを保存するとさらに情報を入力できるようになり、個人であるか企業であるかを選択します。

[XTM Xchange] > [マイプロフィール] > [一般情報]

XTM Xchange で自分のレコードを公開する場合、[マイレコードを公開(連絡先詳細を除く)]を選択します。連絡先情報の公開も希望する場合、[連絡先詳細も含む]を選択します。

そして、[住所]、[言語]、[主題]、[レートカード]のタブで情報を入力します。

[XTM Xchange]の[マイプロフィール]の[住所]



[XTM Xchange]の[マイプロフィール]の[言語]



[XTM Xchange]の[マイプロフィール]の[主題]

XTM では以下の要素の組み合わせごとに複数のレートカードを作成できます。

- アクティビティの種類
- 言語コンビネーション
- 主題

レートカード通貨のデフォルトは[一般情報]タブと一致していますが、レートカードはいずれの通貨でも手動で設定できます。また、為替レートを入力できるため、レートカードを基準に自動計算させて別の通貨での見積りを作成することも可能です。



[XTM Xchange]の[マイプロフィール]の[レートカード]

**レートカードを追加**

アクティビティの種類: 翻訳 | ソース言語: 英語

主題: テクノロジー | ターゲット言語: 日本語

最低料金: 3000 ¥

費用計算:  1単語あたりの費用  1時間あたりの費用

マッチング	価格 ¥
マッチなし	20
75-84% あいまい	14
85-94% あいまい	14
95-99% あいまい	14
100% マッチ	7
ICEマッチ	4

追加 | リセット

新規レートカードを追加する

**為替レートを管理**

為替レートを追加 (+) | 選択した為替レートを削除 (-)

通貨	通貨元通貨	レート	通貨先通貨
<input type="checkbox"/>	1 ユーロ(EUR)	=	135.00000 日本円(JPY)
<input type="checkbox"/>	1 (アメリカドル(USD))	=	115 日本円(JPY)

1 エントリ中1-1を表示 | 20 エントリを表示

保存された変更 | 保存 | キャンセル

新規通貨の為替レートを追加する

企業ディレクトリ

[企業]タブをクリックすると XTM Xchange に登録した企業すべてが一覧表示されます。任意の企業が詳細は公開しないと選択した場合、もしくは XTM のデモユーザに対しては、情報の一部が星の記号「\*\*\*」として表示されます。

XTM | プロジェクト | カスタマー | ユーザ | タスク | コンコダンス | TM | 用語集 | Xchange

ジョブ | **会社** | フリーランス | マイプロフィール

検索:  | 検索

会社名	国	メール	電話	品質評価	登録日
***	インド			0 (0)	14-04-2016 11:47
***	中国			0 (0)	01-12-2015 15:43
***	カナダ			0 (0)	25-10-2015 07:45
***	中国			0 (0)	16-11-2017 06:55
***	インド			0 (0)	20-08-2013 07:19
***	米国			0 (0)	16-12-2014 17:34
***	オーストラリア			0 (0)	08-08-2013 08:51
***	中国			0 (0)	28-03-2017 09:20
***	トルコ			0 (0)	30-05-2017 10:03
***	イスラエル			0 (0)	01-04-2014 14:22
***	メキシコ			0 (0)	10-11-2014 18:16
***	ドイツ			0 (0)	28-08-2015 12:16
***	トルコ			0 (0)	16-03-2016 08:11
***	中国			0 (0)	16-11-2017 05:13
***	ポーランド			0 (0)	24-03-2016 10:06
***	スペイン			0 (0)	30-03-2015 22:45
***	英国			0 (0)	14-07-2017 17:24
***	米国			0 (0)	22-07-2013 22:18
***	カナダ			0 (0)	11-10-2012 17:16
***	ブラジル			0 (0)	03-06-2014 22:04

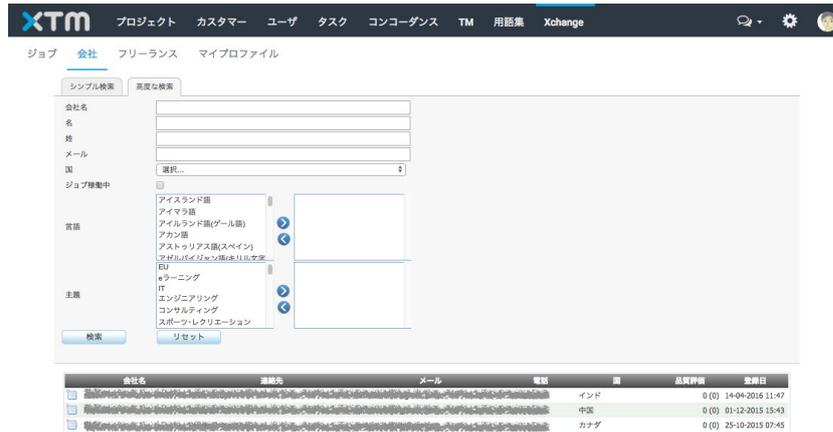
231 エントリ中1-20を表示 | First | Previous | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | Next | Last | 20 エントリを表示

XTM Xchange 企業リスト

詳細を表示するには企業ごとにダブルクリックします。

特定の企業を検索するには[クイック検索]を使用できます。

または[高度な検索]タブをクリックし、言語や主題を指定して検索することも可能です。



XTM Xchange で企業に対する高度な検索

## フリーランサー ディレクトリ

[フリーランサー]タブをクリックすると XTM Xchange に登録したフリーランサーすべてが一覧表示されます。フリーランサーが詳細は公開しないと選択した場合、または XTM のデモユーザに対しては、情報の一部が星の記号「\*\*\*」として表示されます。



XTM Xchange のフリーランサー一覧

詳細を表示するにはフリーランサーごとにダブルクリックします。



XTM Xchange でフリーランサーに対する高度な検索

## ジョブリスト

[ジョブ]タブをクリックすると完全なジョブ一覧が表示されます。上部の検索フィールドを使用する、または表示のラジオボタンを使用することによって、ジョブをフィルターできます。

- 現在、過去、すべてのジョブ
- マイジョブ、または、すべてのジョブ

依頼者	ジョブ名	ソース言語	ターゲット言語	合計単語数	マッチ	主題	公開日	更新日	期日
t***		中国語(繁体字)	英語(米国)	209	0	その他	2015/05/18 08:37		
a***		英語(米国)	スペイン語(スペイン)	19831	0	農業	2015/05/25 02:08		
p***		英語(英国)	イタリア語, オランダ語, スペイン語(スペイン), ドイツ語(ドイツ), フランス語(フランス)	2715	0	その他	2015/06/02 20:33		2015/06/05 13:00
N***		英語(米国)	トルコ語	17869	0	その他	2015/08/07 18:19		2015/08/09 09:46
B***		英語(米国)	イタリア語, オランダ語, ギリシャ語, スウェーデン語, スペイン語(スペイン), スロバキア語, チェコ語, デンマーク語, ドイツ語(ドイツ), トルコ語, ルウェー語, ハンガリー語, フィンランド語, フランス語(フランス), ブルガリア語, ポルトガル語, ポルトガル語(ブラジル), ポーランド語, ルーマニア語, ロシア語	160	0	その他	2015/11/25 16:20		2015/10/05 16:00

## XTM Xchange ジョブリスト

[高度な検索]タブではジョブに対する詳細な検索を実行できます。

依頼者	ジョブ名	ソース言語	ターゲット言語	合計単語数	マッチ	主題	公開日	更新日	期日
t***		中国語(繁体字)	英語(米国)	209	0	その他	2015/05/18 08:37		
a***		英語(米国)	スペイン語(スペイン)	19831	0	農業	2015/05/25 02:08		
p***		英語(英国)	イタリア語, オランダ語, スペイン語(スペイン), ドイツ語(ドイツ), フランス語(フランス)	2715	0	その他	2015/06/02 20:33		2015/06/05 13:00

## XTM Xchange でジョブに対する高度な検索

## ジョブに対する見積りを提出

ジョブを見つけたらダブルクリックして詳細を確認します。4つのタブがあります。

- [一般情報]: 主題、言語や期日の要件を確認します。
- [マトリクス]: 単語数、TM マッチやレポートを確認します。
- [見積りの提出]: ジョブ全体、ターゲット言語全体、任意のターゲット言語の任意のステップに対する見積りを入力します。

- [提出済みの見積り]: 提出済みの見積りを見直します。

ジョブエディタ - 見積り

一般情報	ジョブ名	XXXXXXXXXX
メトリクス	概要	-
見積りを提出	ソース言語	XXXXXXXXXX
提出済みの見積り	主題	-
	ターゲット言語	XXXXXXXXXX
	投稿者	XXXXXXXXXX
	ジョブ通貨	イギリスポンド(GBP)(£)
	公開日	13-03-2016 16:24
	更新日	-
	期日	17-03-2016 01:00
	完了日	-
	締切日	-
	見積り期日	14-03-2016 01:00

ジョブについての一般情報

見積りを提出: 全言語, 全ステップ

見積り通貨: イギリスポンド(GBP)(GBP)

為替レートが見つかりません。今すぐ定義します: 1 JPY = 160.00000 GBP

一部のレートカードが見つかりません。

	総計	translate1	review1
XXXXXXXXXX	単語 910 レート 52.0000 価格(GBP) 852052.00	単語 910 レート 22.0000 価格(GBP) 20020.00	単語 910 レート 30.0000 価格(GBP) 27300.00

見積りを入力する対象の言語やステップを選択

見積りを提出: 全言語, 全ステップ

見積り通貨: イギリスポンド(GBP)(GBP)

為替レートが見つかりません。今すぐ定義します: 1 JPY = 160.00000 GBP

一部のレートカードが見つかりません。

	総計	translate1	review1
XXXXXXXXXX	単語 910 レート 52.0000 価格(GBP) 852052.00	単語 910 レート 22.0000 価格(GBP) 20020.00	単語 910 レート 30.0000 価格(GBP) 27300.00

メモ

ジョブに対する見積りを入力

## ジョブを公開する

XTM Xchange でジョブを公開するには、[ワークフロー]タブで[XTM Xchange に公開]ボタンをクリックします。



[XTM Xchange で公開]ボタンが表示されているプロジェクト エディタの[ワークフロー]タブ

多数のオプションを設定できるウィンドウが表示されます。まず、プロジェクト全体、選択した言語についてのみ、ワークフロー上の特定のステップのみを公開するかを選択できます。補足説明するためのテキストも追加でき、納期や見積り期日を設定します。XTM Xchange へプロジェクトを公開するためにボタンをクリックします。



選択した言語とワークフロー ステップをジョブとして公開

## ジョブに対する見積りを見直す

ジョブ一覧から自分のジョブを選択し、詳細を表示させます。[受け取り済みの見積り]タブをクリックします。

The screenshot shows the 'Job editor - Notebooks 3' window. On the left, there are tabs for 'General information', 'Metrics', and 'Quotes received'. The main area displays a summary of the job and a table of quotes.

Company name	Language	Step	Rate	Total word count	Price	Date quoted	Date accepted	Accepted
zuzkk			0.00	1482	0.00	23-11-2012		
Details of Quoter								
Accept as subcontractor	(UK)	translate1	5.00	494	2470.00	23-11-2012	23-11-2012	✓
Accept as user		review1	10.00	494	4940.00	23-11-2012	23-11-2012	✓
tomiki	French	review1	10.00	494	4940.00	23-11-2012		
wjeczak	German		110.00	494	54340.00	23-11-2012	23-11-2012	✓

Showing 1 to 5 of 5 entries  
Show 20 entries

### ジョブに対する見積りを確認

デフォルトではすべての見積りが一覧に表示されます。上部のボタンを使用して見積りを抽出することもできます。一覧には見積りの詳細や合計額も表示されます。

見積り者を確認するにはメニューアイコン  をクリックしてアイテムを選択します。価格に伴う情報を基に最善の見積りを受理できます。見積りを受諾するには2つのオプションがあります。

- 1) フリーランサーの詳細をお使いの XTM ヘインポートし、[プロジェクト エディタ]の[ワークフロー]タブでタスクをアサインします。
- 2) 見積り者をサブコントラクターとして設定します。この場合、自分の XTM インスタンスと、見積り者の XTM インスタンスの間に接続が自動的に作成されます。ワークフロー上でタスクが自動的にアサインされます。

## アカウント評価を提出する

公開者または見積り者として、作業をともにしたすべての人や企業を評価できます。[マイプロフィール]タブの[アカウント評価の提出]には、XTM Xchange メンバーとの交流すべてがリストされます。評価を実施した交流は緑色のチェック記号  で示されます。

Company name	Job name	Feedback type	Date published	Date completed	Rated
zuzikk	Notebooks 3	To quoter	23-11-2012		
zuzikk	Notebooks 3	To quoter	23-11-2012		
wjeczalk	Notebooks 3	To quoter	23-11-2012		✓
tomiki	Notebooks	To quoter	23-11-2012		
Ponders	laptops test	To quoter	06-11-2012		✓
ap1	Friends	To publisher	06-11-2012		✓
ap1	test xchange	To quoter	05-11-2012		✓
XTMINTL1	test xchange	To quoter	05-11-2012		✓
tomiki	test xchange	To quoter	05-11-2012		✓

提出された評価の確認中、または提出の待機中

新しい評価を入力するには該当行をダブルクリックして、評価のためのポップアップ ウィンドウを表示されます。上部に該当ジョブの基本情報が表示され、[ジョブ詳細]アイコンをクリックすると、ジョブのメトリクスや見積りが表示されます。

星の数をクリックすることで個別のアトリビュートに対する値を設定することも可能であり、自分に対する全体的な評価を算出させたり、全体的な評価を入力することもできます。

評価を入力する

[保存]ボタンをクリックしてこのウィンドウを閉じます。

## 12. 附録 1

---

### 用語解説

**API (Application Programming Interface).** アプリケーション プログラミング インターフェース。アプリケーション間の相互コミュニケーションを可能にするためのソフトウェア インターフェース。API は、根底にあるオペレーション システムまたはサービス プログラムによって提供される特定の機能やサービスを取得するため、アプリケーション プログラム内にコード化され得るプログラム言語構成またはステートメントのセットである。

**Bidirectional (writing system).** 双方向性(書き込みシステム)。通常のテキストの流れは右方向であり、大部分の文字は右から左の方向へ書くのに、一部のテキストは左から右の方向へ書き込むシステムのこと。現時点では、アラビア語とヘブライ語のみが双方向システムとして該当する。

**Bundle.** バンドル。PM は単独ジョブのテキスト セグメントを「バンドル」と呼ばれるセクションに分割できる。そして、バンドルごとにリングストをアサインできる。

**CAT (Computer Aided Translation).** コンピュータ支援翻訳。ある言語から別の言語へテキストを翻訳する行為を支援するコンピュータ テクノロジーのアプリケーション。

**Concordance.** コンコーダンス。ソーステキストのワードまたはフレーズのアルファベット順のインデックスであり、ドキュメントおよび翻訳メモリにて該当するワードまたはフレーズのすべての文脈的な発生が示される。

**CMS (Content Management System).** コンテンツ マネージメント システム。大量のデータを保管し、次いで検索して取り出すために使用されるシステム。CMS は当初、コンテンツの翻訳やローカリゼーションを同期するために設計されてはいなかった。したがって、大部分はグローバル化ゼーション管理システム (Globalization Management Systems: GMS)と連携していた。

**DITA (Darwin Information Typing Architecture).** DITA。オーサリング、製作、テクニカル情報を配信するための XML ベースのアーキテクチャ。このアーキテクチャは、トピックレベルで「情報タイプ化された」モジュールを作成する、およびオンライン ヘルプや Web 上の製品サポートポータルのようにコンテンツ配信を利用するデザイン原理のセットで構成される。

**Domain.** ドメイン。ユーザが興味のある、またはコミュニケーションの対象としている知識分野。共通のディレクトリ データベースを共有し、ユニットとして管理されているコンピュータまたはデバイスのグループ。

**Fuzzy match.** あいまいマッチ。翻訳メモリ内の文章またはフレーズが、翻訳者が現在作業中の文章またはフレーズに類似している(しかし 100%一致してはいない)際の状況を指す。翻訳メモリツールでは、類似度または「あいまい度」がパーセンテージで算出される。

**GMS (Globalization Management System).** グローバリゼーション マネージメント システム。翻訳管理システム (Translation Management System: TMS)としても知られ、ソースコンテンツ管理との同期や翻訳やローカリゼーション サイクルの管理にフォーカスを置く。グローバル コンテンツを跨るブランディングのスタンダードと専門用語集を活用し、翻訳データベースの形式にて言語アセットを集中管理する機能性を提供。

**GMX-V (Global information management Metrics eXchange – Volume).** GMX-V。電子ドキュメント用のワードおよび文字カウントの標準。GMX-V は LISA (Localization Industry Standards Association) の分科会である OSCAR (Open Standards for Container/Content Allowing Re-use)により開発され、支持されている。LISA の三部構成標準の一つである GMX-V は、電子ドキュメントのメトリクスを考慮している。GMX は以下のスタンダードから成る: GMX-V — Volume (容量)、GMX-C — Complexity (複雑さ)、GMX-Q — Quality (品質)。

**HTML (Hyper Text Markup Language). HTML.** HTML は見出し、段落、リスト、リンクなどテキストを構成するためにタグを使用するマークアップ言語であり、Web ページでどのようにテキストやイメージを表示させるかを命じる。

**ICE (In Context Exact) match. ICE マッチ.** 翻訳メモリ内の文章またはフレーズが、翻訳者が現在作業中の文章またはフレーズと同じ文脈であり同一である際の状況を指す。

**Internationalization (i18n). インターナショナルライゼーション.** 製品を一般化するプロセス。再設計する必要を伴わず、多言語と文化的な慣例を取り扱う。*Internationalization* の一般的な略記である i18n において、18 は *i* と *n* の間の文字数「18」を指している。

**ITS (Internationalization Tag Set). ITS.** 国際化されている、効率的なローカライゼーションをもたらす XML を簡易に生成するテクノロジー。

**Java. Java.** 元々は Sun Microsystems で開発され、Sun の Java プラットフォームのコア構成要素として 1995 年にリリースされたプログラミング言語。C および C++ 言語からシンタックスは多く派生しているが、よりシンプルなオブジェクト モデルとより少ない低レベル ファシリティを有する。Java アプリケーションは典型的には、コンピュータ アーキテクチャに関わらず、いずれの Java 仮想マシン上でも稼働可能なバイトコードでコンパイルされている。

**JavaScript. JavaScript.** インタラクティブな Web サイトのデザインのための、オープンソースのスクリプト言語。JavaScript は、Web デベロッパーがダイナミック コンテンツを使用できるよう、HTML ソースコードと連携が可能。たとえば JavaScript は、ユーザが開始するイベント(例: フォーム入力)について、CGI を使用することなく簡単に応答することが可能。

**Job. ジョブ.** XTM のワークフローでは、1 つのファイルをソース言語からターゲット言語へプロセスすることを「ジョブ」と呼んでいる。

**JSP. JSP.** Java Server Pages (JSP) は、HTML がさらに機能することを支援するために静的要素(実際のデザインとページ表示)からページ論理を切り離し、HTML コードと連携して作用する動的なスクリプティングの機能性を有する。

**Leveraged match. レバレッジドマッチ.** 翻訳メモリ内の文章またはフレーズが、翻訳者が現在作業中の文章またはフレーズと文脈は異なるがテキストが同一である際の状況を指す。

**Localization (l10n). ローカライゼーション.** 特定の地域で自然にとらえられるよう、特定の国際的な言語または文化に合わせて製品を適合させるプロセス。真のローカライゼーションとは、ターゲット地域の言語、文化、習慣、特徴を考慮している。高い頻度でソフトウェアのライティング システム、キーボードとフォント、日時や通貨の形式変更を伴う。*localization* の一般的な略記である l10n において、10 は *l* と *n* の間の文字数「10」を指している。

**Machine Translation (MT). 機械翻訳.** 専門用語集や高度な文法的、構文的、意味論的な解析テクニックを利用して 1 つの人間語から別の言語へテキストを翻訳するテクノロジー。

**Metrics. メトリクス.** ソース ドキュメント内のセグメント、ワード、文字の数の計量。翻訳メモリが適用された後のさまざまな種類のマッチングの要約を伴う。ドキュメント内やリピートのマッチングも含む。

**OAXAL (Open Architecture for XML Authoring and Localization). OAXAL.** オープン スタandard に基づく XML オーサリングおよびローカライゼーションのための効果的で効率的なシステムを構築する方法の規範モデル。

**Project. プロジェクト.** XTM で 1 つのソース言語の 1 つ以上のファイルを、1 つ以上のターゲット言語へプロセスすること。

**Project management (PM). プロジェクト管理。**プロジェクト管理ではプロジェクトの費用、時間、パフォーマンスの目的を達成するため、アサインしたリソースを管理し、体系的な計画と編成を実施する。通常、プロジェクト管理はリスクを伴う、時間制限のある、繰り返されることのない、集中的なアクティビティとなります。

**Project Manager. プロジェクトマネージャ。**「プロジェクト管理」というフィールドの専門家。いずれのプロジェクトに関しても計画、実行、完了の責任を負う。主要な PM の責務には、明確で達成可能なプロジェクトの目標の確立、プロジェクト要件の構築、プロジェクトの 3 大制限 (費用、時間、スコープ) の管理が含まれる。

**Quality Assurance (QA). 品質保証。**品質に関するアクティビティが効率的に実行されているかが考慮されている際、信頼性を確立するために必要とされる証拠を提供するためのアクティビティ。品質にする要件を製品またはサービスが満たす適切な信頼性を提供するために必要な計画的または体系的なアクションすべて。QA は、設計、開発、精算、導入からサービス提供およびドキュメンテーションまでのすべてをカバーする。

**Right-to-left languages. 右から左へ書く言語。**ヘブライ語、アラビア語、ウルドゥ語、ファルシ語などの言語は主として右から左の方向へ書かれる。このテキストの流れはテキストとグラフィック レイアウトに重大な関わりをもたらす。

**Software as a service ( SaaS).** SaaS。インターネットを介して展開されるソフトウェア。プロバイダーは、従量課金制のサブスクリプションを通して、オンデマンド サービスとして顧客にアプリケーションの使用を許諾する。XTM の SaaS 版は「XTM Cloud」と呼ばれる。

**Segment. セグメント。**翻訳メモリに対してマッチングするために CAT ツールで生成するテキストのユニット。ユニットは、単独の単語、単独のフレーズ、複数の文章、さらに大きなブロックとなることもある。

**Segmentation Rules eXchange (SRX). SRX。**セグメント化されたテキストを翻訳および言語プロセス ツールでどのようにプロセスするかが記述されているベンダーに中立なスタンダード。翻訳メモリおよびその他の言語ツールにさらなる処理のためテキストをセグメント化する (通常は文章または段落) 言語特有のプロセスを記述することを可能とする。

**Source language. ソース言語。**別の言語へ翻訳されるテキストの言語。

**Step. ステップ。**XTM のワークフローはステップで構成されている。デフォルトのステップには、翻訳、チェック、レビューがある。

**Target language. ターゲット言語。**別の言語で記載された言語から翻訳される先の言語

**Task. タスク。**XTM では、複数セグメントから成るバンドルが 1 つのステップでプロセスされることを「タスク」と呼ぶ。

**Terminology management. 用語集管理。**辞書の発行、用語集データベースの保守、翻訳作業にて用語を多言語で揃えるなどの *当座の問題* を解決する、技術文書作成において新規用語集を作成するなど特定の目的のために用語集リソースをコントロールすることを主として考慮している。翻訳メモリソフトのインターフェース ウィンドウに用語を自動的に表示する、または用語集データベースのエントリを表示するためのホットキーの使用を介することによって、ドキュメントに含まれる用語を与えられた用語集データベースで自動的に検索する手段を用語管理ソフトは翻訳者に提供している。

**Terminology manager. 用語マネージャ。**任意の言語から別の言語へのテキスト翻訳を支援するためのコンピュータ テクノロジー アプリケーション。

**Translation. 翻訳。**ソース言語からターゲット言語へ、すべてのテキストまたはワードを変換するプロセス。同一の内容をターゲット言語で伝達することを確立するためには、ソース言語の意味や文脈を理解することが必須である。

**Translation Memory (TM). 翻訳メモリ.** 文章単位で、そのままの状態またはその一部のみを再利用することができる過去に翻訳された文章を保管する特殊なデータベース。データベースはソース言語とターゲット言語のペアでマッチングする。

**Translation Memory eXchange (TMX). TMX.** CAT ツール間で翻訳メモリを交換するための XML ベースのオープン スタandard。

**Unicode. Unicode.** Unicode Worldwide Character Standard は、コンピュータ処理するためのテキストに対する文字エンコーディングのStandard。当初は 65,000 文字を対象とするべく設計されたが、今や 1,000,000 文字以上を対象としている。

**UNIX. UNIX.** マルチユーザの、マルチタスクのオペレーション システム。ハードウェアに依存することのない、より高いレベルのプログラミング言語で書かれた初のオペレーション システムの 1 つであった。

**UTF-8 (Unicode transfer format). UTF-8.** ASCII に対する逆方向の互換性と、世界の大部分の言語の文字に対応する Unicode のエンコーディング形式の 1 つ。

**Web service. Web サービス.** アプリケーションまたはシステムの間で、データを交換するために使用されるプロトコルやStandardの集まり。

**XLIFF (XML Localization Interchange File Format). XLIFF.** ローカリゼーション データを交換するための XML ベースの形式。2002 年 4 月に OASIS により標準化され、ローカリゼーション業界を対象としていた。XLIFF ではローカリゼーション作業を支援するため、要素と属性が特定されている。XLIFF は、ソフトウェア発行者とローカリゼーション ベンダーのような企業間や、翻訳メモリツールと機械翻訳システムのようなローカリゼーション ツール間でのデータ交換のためにも使用が可能。

**XML (eXtensible Markup Language). XML.** XML は元々、大規模な電子出版の課題を満たすために設計されたシンプルで柔軟性の高いテキスト形式。XML は、Web に限定せず多くの場所で多様なデータ交換において、重要な役割を果たす需要が高まっている。

**xml:tm** XML ベースのテキスト メモリ。オーサーと翻訳メモリのための LISA OSCAR Standard。

## 13. 附録 2

## 言語コード

XTM は UTF-8 をベースとしており、全言語に対応しています。XTM で現時点で利用可能な言語およびコードは以下のとおりです。必要な言語が一覧に見当たらない場合は [support@xtm-intl.com](mailto:support@xtm-intl.com) に連絡してください。

コード	言語
ab	アブハズ語
aa_ET	アフール語
af_ZA	アフリカーンス語(南アフリカ)
sq_AL	アルバニア語
am_ET	アムハラ語
am_ER	アムハラ語(エリトリア)
grc_GR	古代ギリシャ語
ar_AA	アラビア語
ar_AE	アラビア語(UAE)
ar_BH	アラビア語(バーレーン)
ar_DZ	アラビア語(アルジェリア)
ar_EG	アラビア語(エジプト)
ar_EH	アラビア語(西サハラ)
ar_IQ	アラビア語(イラク)
ar_JO	アラビア語(ヨルダン)
ar_KW	アラビア語(クウェート)
ar_LB	アラビア語(レバノン)
ar_LY	アラビア語(リビア)
ar_MA	アラビア語(モロッコ)
ar_MR	アラビア語(モーリタニア)
ar_OM	アラビア語(オマーン)
ar_PS	アラビア語(パレスチナ地域)
ar_QA	アラビア語(カタール)
ar_SA	アラビア語(サウジアラビア)
ar_SD	アラビア語(スーダン)
ar_SY	アラビア語(シリア)
ar_TD	アラビア語(チャド)
ar_TN	アラビア語(チュニジア)
ar_YE	アラビア語(イエメン)
hy_AM	アルメニア語
hy_AM_arevela	アルメニア語(東)
hy_AM_arevmda	アルメニア語(西)
as_IN	アッサム語
ast_ES	アストウリアス語(スペイン)
ay_BO	アイマラ語
az_AZ_Cyrl	アゼルバイジャン語 (キリル文字-アゼルバイジャン)
az_AZ_Latn	アゼルバイジャン語 (ラテン文字-アゼルバイジャン)
ba_RU	バシキール語
eu_ES	バスク語
bbc	バタク・トバ語
bn_IN	ベンガル語
bn_BD	ベンガル語(バングラデシュ)
bal_IR	ブータン語
bh_IN	ビハール語
bi_VU	ビスラマ語
bs_BA_Cyrl	ボスニア語(キリル文字)
bs_BA_Latn	ボスニア語(ラテン文字)
br_FR	ブルターニュ語
bg_BG	ブルガリア語
my_MM	ビルマ語

コード	言語
be_BY	ベラルーシ語
cal	カロリン語
ca_AD	カタロニア語
ca_ES	カタロニア語(スペイン)
ceb	セブアノ語
cha	チャモロ語
ny_MW	バンツール語(マラウイ)
zh_YUE	中国語(広東語)
zh_HK	中国語(香港)
zh_CN	中国語(簡体字)
zh_TW	中国語(繁体字)
zh_SG	中国語(シンガポール)
cmn	中国語(Mandarin Traditional)
goyu	中国語(Mandarin Trad. Taiwan)
chk	チューク語
co_FR	コルシカ方言
hr_HR	クロアチア語
cs_CZ	チェコ語
da_DK	デンマーク語
prs_AF	ダリー語
dv_IN	ディベヒ語
mis	ドスラク語
nl_NL	オランダ語
nl_BE	オランダ語(ベルギー)
en_142	英語(アジア)
en_BS	英語(バハマ)
en_AE	英語(UAE)
en_AU	英語(オーストラリア)
en_CA	英語(カナダ)
en_DE	英語(ドイツ)
en_NL	英語(オランダ)
en_HK	英語(香港)
en_IN	英語(インド)
en_IE	英語(アイルランド)
en_KE	英語(ケニア)
en_MY	英語(マレーシア)
en_ZA	英語(南アフリカ)
en_CH	英語(スイス)
en_GB	英語(英国)
en_SG	英語(シンガポール)
en_US	英語(米国)
en_NZ	英語(ニュージーランド)
en_AT	英語(オーストリア)
en_NT	英語(ニュートラル)
en_CY	英語(キプロス)
cfm	ファラム・チン語
eo	エスペラント語
et_EE	エストニア語
ee_GH	エウエ語(ガーナ)
fo_FO	フェロー語(フェロー諸島)

XTM ユーザ マニュアル - 言語コード

コード	言語
fj_FJ	フィジー語
fil_PH	フィリピン語
fi_FI	フィンランド語
fr_FR	フランス語(フランス)
fr_BE	フランス語(ベルギー)
fr_CA	フランス語(カナダ)
fr_CG	フランス語(コンゴ)
fr_SN	フランス語(セネガル)
fr_CH	フランス語(スイス)
fr_LU	フランス語(ルクセンブルグ)
fr_MA	フランス語(モロッコ)
fr_SN	フランス語(セネガル)
fy	フリジア語
fu	フラ語
gl_ES	ガリシア語(スペイン)
ka_GE	グルジア語
de_DE	ドイツ語(ドイツ)
de_AT	ドイツ語(オーストリア)
de_BE	ドイツ語(ベルギー)
de_CH	ドイツ語(スイス)
de_LU	ドイツ語(ルクセンブルグ)
de_NL	ドイツ語(オランダ)
el_GR	ギリシャ語
el_CY	ギリシャ語(キプロス)
kl_GL	グリーンランド語
grn	グアラニ語
gu_IN	グジャラート語
ht_HT	ハイチ語
ha_NG	ハウサ語
xz_AF	ハザラギ語(アフガニスタン)
he_IL	ヘブライ語
hi_IN	ヒンディー語
hil	ヒリガイノン語
hmn	モン語
hmn_US	モン語(米国)
hu_HU	ハンガリー語
haw	ハワイ語
is_IS	アイスランド語
ig	イボ語
ilo	イロカノ語
id_ID	インドネシア語
ia	インターリングア
ie	インターリング
iu	イヌクティウト語
ium	ヤオ語
ik	イヌピアック語
ga_IE	アイルランド語
it_IT	イタリア語
it_CH	イタリア語(スイス)
ja_JP	日本語
jv_ID	ジャワ語
kar	カレン語
ksw	カレン語(スゴー諸語)
kn_IN	カンナダ語
ks	カシミール語
kk_KZ	カザフ語
ogo	カナ語(オゴニ小語群)

コード	言語
km_KH	クメール語
kg_CG	コンゴ語(コンゴ)
rw_RW	キンヤルワンダ語(ルワンダ)
ky	キルギス語
rn	キルンディ語
sw_KE	スワヒリ語(アフリカ)
tlh	クリンゴン語
kok_IN	コンカニ語(インド)
ko_KR	韓国語
kos	コスラエ語
kun	クナマ語(エリトリア西部)
ku_TR	クルド語(トルコ)
kmr	クルド語(クルマンジー)
ckb	クルド語(ソラニー)
ku_IQ	クルド語(イラク)
lo_LA	ラオチアン語
la	ラテン語
lua	ルバルルア語
lug	ルガンダ語
lb_LU	ルクセンブルク語
lv_LV	ラトビア語
ln_CG	リンガラ語
lt_LT	リトニア語
mk_MK	マケドニア語
mg_MG	マダガスカル語(マダガスカル)
ms_MY	マレー語(マレーシア)
ms_SG	マレー語(シンガポール)
ml_IN	マラーヤラム語(インド)
mt_MT	マルタ語
mah	マーシャル語
mi_NZ	マオリ語
mr_IN	マラーティー語
mo_MD	モルダビア語
mn_MN	モンゴル語
sla_ME	モンテネグロ語
mfe_MU	モーリシャスクレオール語 (モーリシャス)
na_NR	ナウル語
nv	ナバホ語
nd_ZW	ヌデベレ語
ne_NP	ネパール語
nso_ZA	北部ソト語(南アフリカ)
no_NO	ノルウェー語
nb_NO	ノルウェー語(ボクマール)
nn_NO	ノルウェー語(ニーノシュク)
oc_FR	オック語
or_IN	オリヤー語
om_ET	オロモ語
ota	オスマントルコ語
pau	パラオ語
ps	パシュトウ語
ps_PK	パシュトー語(パキスタン)
fa_IR	ペルシア語
pon	ポンペイ語
pl_PL	ポーランド語
pt_PT	ポルトガル語
pt_BR	ポルトガル語(ブラジル)
pt_MZ	ポルトガル語(モザンビーク)

XTM ユーザ マニュアル - 言語コード

コード	言語
pt_AO	ポルトガル語(アンゴラ)
pa_PA	パンジャブ語
pa_IN	パンジャブ語(インド)
pa_PK	パンジャブ語(パキスタン)
qu_PE	ケチュア語
qya	クウェンヤ語
rm_CH	レトロロマンス語
xr_MM	ロヒンギャ語(ミャンマー)
ro_RO	ルーマニア語
ro_MD	ルーマニア語(モルドバ)
ru_RU	ロシア語
ru_AM	ロシア語(アルメニア)
ru_AZ	ロシア語(アゼルバイジャン)
ru_GE	ロシア語(ジョージア)
ru_MD	ロシア語(モルドバ)
ru_UA	ロシア語(ウクライナ)
sm_WS	サモア語
SG	サングロ語
sa_IN	サンスクリット語
sc_IT	サルデーニャ語
sco_IE	スコットランド語(アイルランド)
sco_GB	スコットランド語(英国)
gd_GB	スコットランドゲール語
sr_YU	セルビア語
sr_RS_Cyrl	セルビア語(キリル文字)
sr_ME_Cyrl	セルビア語-モンテネグロ (キリル文字)
sr_ME_Latn	セルビア語-モンテネグロ (ラテン文字)
sr_RS_Latn	セルビア語-セルビア(ラテン文字)
st	セソト語
tn_ZA	セツワナ語(アフリカ)
sn	ショナ語
sjn	シンダール語
sd_PK	シンド語
si_LK	シンハラ語
ss	シスワティ語
sk_SK	スロバキア語
sl_SI	スロベニア語
so_SO	ソマリ語
dsb_DE	ソルブ語(下)
hsb_DE	ソルブ語(上)
es_ES	スペイン語(スペイン)
es_AR	スペイン語(アルゼンチン)
es_BO	スペイン語(ボリビア)
es_CL	スペイン語(チリ)
es_CO	スペイン語(コロンビア)
es_CR	スペイン語(コスタリカ)
es_CU	スペイン語(キューバ)
es_DO	スペイン語(ドミニカ共和国)
es_EC	スペイン語(エクアドル)
es_SV	スペイン語(エルサルバドル)
es_GT	スペイン語(グアテマラ)
es_HN	スペイン語(ホンジュラス)
es_419	スペイン語(ラテンアメリカ)
es_MX	スペイン語(メキシコ)
es_NI	スペイン語(ニカラグア)
es_PA	スペイン語(パナマ)

コード	言語
es_PY	スペイン語(パラグアイ)
es_PE	スペイン語(ペルー)
es_PR	スペイン語(プエルトリコ)
es_US	スペイン語(米国)
es_UY	スペイン語(ウルグアイ)
es_VE	スペイン語(ベネズエラ)
es_001	スペイン語(インターナショナル)
es_NT	スペイン語(ニュートラル)
apd_SD	スーダンアラビア語
apd_SD_Latn	スーダンアラビア語(ラテン)
sun	スンダ語
sw_SO	スワヒリ語(ソマリア)
sw_TZ	スワヒリ語(タンザニア)
sw_UG	スワヒリ語(ウガンダ)
sv_SE	スウェーデン語
sv_FI	スウェーデン語(フィンランド)
syr_TR	シリア語
tl_PH	タガログ語
tg_TJ	タジク語
ta_IN	タミル語
ta_SG	タミル語(シンガポール)
ta_LK	タミル語(スリランカ)
tt_RU	タタール語
te_IN	テルグ語
tet_ID	テトウン語(インドネシア)
tet_TL	テトウン語(東ティモール)
th_TH	タイ語
bo	チベット語
ti	ティグリニャ語
to_TO	トンガ
ts_ZA	ツォンガ語
tn_BW	ツワナ語
tr_TR	トルコ語
tk_TM	トルクメン語
tw	トウイ語
uk_UA	ウクライナ語
ur_IN	ウルドゥー語
ur_PK	ウルドゥー語(パキスタン)
ug_CN	ウイグル語(中国)
uz	ウズベク語
uz_UZ_Cyrl	ウズベク語(キリル文字)
uz_UZ_Latn	ウズベク語(ラテン文字)
uz_AF	ウズベク語(アフガニスタン)
vi_VN	ベトナム語
vo	ヴォラビュク語
cy_GB	ウェールズ語
wo	ウォロフ語
xh_ZA	コーサ語(南アフリカ)
yap	ヤップ語
yi	イディッシュ語
yi_IL	イディッシュ語(イスラエル)
yi_US	ヤップ語(アメリカ)
yo_NG	ヨルバ語
zu_ZA	ズールー語(南アフリカ)

## 14. 附録 3

### スペル辞書

XTM にはスペルチェック用に以下の辞書が含まれています。

アフリカーンス語	クルド語(トルコ)
アムハラ語	ラテン語
アラビア語	ラトビア語
バスク語	リトアニア語
ベンガル語	マケドニア語
ブルガリア語	マダガスカル語(マダガスカル)
ベラルーシ語	マレー語(マレーシア)
カタロニア語	マラヤーラム語(インド)
カタロニア語(スペイン)	マオリ語
バンツー語(マラウイ)	マラーティー語
クロアチア語	モンゴル語
チェコ語	北部ソト語(南アフリカ)
デンマーク語	ノルウェー語
オランダ語	ノルウェー語(ボクマール)
英語(オーストラリア)	ノルウェー語(ニーノシュク)
英語(カナダ)	ペルシア語
英語(南アフリカ)	ポーランド語
英語(英国)	ポルトガル語
英語(米国)	ポルトガル語(ブラジル)
エスペラント語	パンジャブ語
エストニア語	ケチュア語
フェロー語(フェロー諸島)	ルーマニア語
フランス語	ロシア語
フランス語(ベルギー)	スコットランドゲール語
フランス語(カナダ)	セルビア語
フランス語(スイス)	スロバキア語
ガリシア語(スペイン)	スロベニア語
ドイツ語	南ヌデベレ語
ドイツ語(オーストリア)	スペイン語
ドイツ語(スイス)	スペイン語(ラテンアメリカ)
ギリシャ語	スペイン語(メキシコ)
グジャラート語	スウェーデン語
ヘブライ語	タガログ語
ヒンディー語	タミル語
ハンガリー語	タイ語
アイスランド語	ツォンガ語
インドネシア語	ツワナ語
アイルランド語	ウクライナ語
イタリア語	ウルドゥー語
カンナダ語	ウズベク語(キリル文字)
カザフ語	ベトナム語
クメール語	ウェールズ語
キンヤルワンダ語(ルワンダ)	コーサ語(南アフリカ)
スワヒリ語(アフリカ)	ズールー語(アフリカ)
韓国語	

## 15. 附録 4

## リンギスト情報をインポートするための Excel ファイル書式

列	サンプルデータ 1	サンプルデータ 2	フォーマット	コメント
敬称	Mr		テキスト	
名	John	Pierwsze	テキスト	必須フィールド
姓	Smith	Ostatnie	テキスト	必須フィールド
役職	リンギスト		テキスト	
ロール	翻訳者、レビュアー、TM 管理者、用語管理者	翻訳者	テキスト	必須フィールド
ユーザ名	JohnADMIN	uzytownik	テキスト	必須フィールド
パスワード	john	haslo	テキスト	必須フィールド
メールアドレス	<a href="mailto:noreply@xtm-intl.com">noreply@xtm-intl.com</a>	<a href="mailto:noreply@xtm-intl.com">noreply@xtm-intl.com</a>	テキスト	必須フィールド
住所 1	1 Lower Loxley		テキスト	
住所 2	High Street		テキスト	
市	Ambridge		テキスト	
州/群	Wessex		テキスト	
郵便番号	SL16 3PJ		テキスト	
国	GBR	FRA	テキスト	国名ではなく 3 文字のコードを使用する必要があります。
電話番号 1	+441494532343		テキスト	
電話番号 2	+441494532344		テキスト	
携帯電話	+447966477181		テキスト	
Fax 番号	+447966477180		テキスト	
WWW	<a href="http://www.gmail.com">www.gmail.com</a>		テキスト	
Skype	skypeld		テキスト	
MSN	msnld		テキスト	
言語コンビネーション	(fr_CA->en_US)	pl_PL->en_GB	テキスト	必須フィールド (ソース言語コード->ターゲット言語コード)
資格	en_GB->資格名称、en_GB->BSc		テキスト	言語コード->資格
ドメイン	自動車、薬剤学		テキスト	
TM へのアクセス権	修正、エクスポート		テキスト	オプション: 表示、追加、変更、エクスポート、インポート
用語集へのアクセス権	追加、修正		テキスト	オプション: 表示、追加、変更、エクスポート、インポート

TM と用語集へのアクセス権を追加するには、該当ユーザに適切なロールを選択しておく必要があります

## リングスト情報をインポートするための XML ファイル(例)

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<suppliers>
  <supplier>
    <user>
      <firstname>TestFirstname</firstname>
      <lastname>TestLastname</lastname>
      <emailaddress>TestEmailaddress</emailaddress>
      <username>TestUsername</username>
      <password>TestPassword</password>
      <title>TestTitle</title>
      <timezone>TestTimezone</timezone>
      <preferredlanguage>en_GB</preferredlanguage><!-- underscored or dashed IANA codes -->
    </user>
    <address>
      <street>TestStreat</street>
      <number>TestNumber</number>
      <city>TestCity</city>
      <state>TestState</state>
      <postalCode>TestPostalCode</postalCode>
      <country>TestCountry</country>
      <phone1>TestPhone1</phone1>
      <phone2>TestPhone2</phone2>
      <mobilephone>TestMobilephone</mobilephone>
      <fax>TestFax</fax>
      <www>TestWWW</www>
      <skypeld>TestSkypeld</skypeld>
      <msnId>TestMSN</msnId>
      <icqId>TestICQ</icqId>
      <jabberId>TestJabber</jabberId>
    </address>
    <roles><!-- uppercase or lowercase, values: translator, reviewer, corrector -->
      <role>translator</role>
      <role>reviewer</role>
    </roles>
    <languagecombinations>
      <!-- currency values: dollar, euro, morrocan_dirham, pound, yen -->
      <!-- underscored or dashed IANA codes -->
      <combination source="en_GB" target="pl_PL" costperword="1" currencyperword="euro" costperhour="1"
currencyperhour="euro" />
      <combination source="en_GB" target="fr_FR" costperword="2" currencyperword="euro" costperhour="2"
currencyperhour="euro" />
    </languagecombinations>
    <domains>
      <!--
AEROSPACE,AGRICULTURE,AUTOMOTIVE,PRINTING,BUILDING_AND_CONSTRUCTION,BUISNESS_AND_COMMERCE,CONSULTIN
G,ECONOMICS,EDUCATION,ELECTRICAL_GOODS,ENGINEERING,FINANCE,INFORMATION_TECHNOLOGY,LAW,MEDICAL,MUSIC_A
ND_ARTS,PHARMACEUTICAL,REAL_ESTATE,RETAIL,SPORTS_RECREATION,TELECOMMUNICATIONS,TRANSPORT,TRAVEL -->
      <domain>LAW</domain>
      <domain>MEDICAL</domain>
    </domains>
    <qualifications>
      <!-- underscored or dashed IANA codes -->
      <qualification date="2009-01-01" language="en_GB">
        <name>TestQualificationName1</name>
        <description>Test description of qualification</description>
      </qualification>
    </qualifications>
  </supplier>
  <supplier>
    <user>
      <firstname>TestFirstname</firstname>
      <lastname>TestLastname</lastname>
      <emailaddress>TestEmailaddress</emailaddress>
      <username>TestUsername</username>
      <password>TestPassword</password>
    </user>
    <address>
      <city>ObligatoryTestCity</city>
      <country>ObligatoryTestCountry</country>
      <phone1>ObligatoryTestPhone1</phone1>
    </address>
    <languagecombinations>
      <combination source="en_GB" target="pl_PL" costperword="1" currencyperword="euro" costperhour="1"
currencyperhour="euro" />
    </languagecombinations>
  </supplier>
</suppliers>

```

## カスタマー情報をインポートするためのファイル(例)

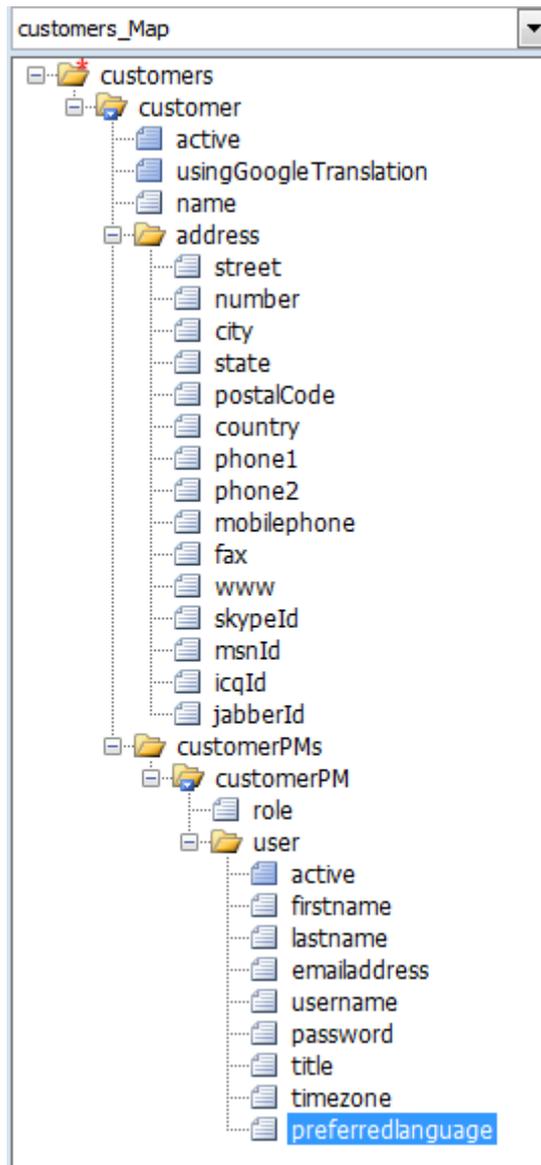
```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<customers>
  <customer active="true" usingGoogleTranslation="true"><!-- true,false -->
    <name>TestName</name><!-- unique value -->
    <address>
      <street>TestStreat</street>
      <number>TestNumer</number>
      <city>TestCity</city>
      <state>TestState</state>
      <postalCode>TestPostalCode</postalCode>
      <country>TestCountry</country>
      <phone1>TestPhone1</phone1>
      <phone2>TestPhone2</phone2>
      <mobilephone>TestMobilephone</mobilephone>
      <fax>TestFax</fax>
      <www>TestWWW</www>
      <skypeld>TestSkypeld</skypeld>
      <msnId>TestMSN</msnId>
      <icqId>TestICQ</icqId>
      <jabberId>TestJabber</jabberId>
    </address>
    <customerPMs>
      <customerPM>
        <role>MANAGER</role><!-- MANAGE, VIEWER -->
        <user active="true">
          <firstName>TestFirstname</firstName>
          <lastName>TestLastname</lastName>
          <emailaddress>TestEmailaddress</emailaddress>
          <username>TestUsername</username>
          <password>TestPassword</password>
          <title>TestTitle</title>
          <timezone>TestTimezone</timezone>
          <preferredlanguage>en_GB</preferredlanguage><!-- undescored or dashed
IANA codes -->
        </user>
      </customerPM>
    </customerPMs>
  </customer>

  <customer active="true" usingGoogleTranslation="true"><!-- true,false -->
    <name>TestName2</name>
    <address>
      <city>ObligatoryTestCity</city>
      <country>ObligatoryTestCountry</country>
      <phone1>ObligatoryTestPhone1</phone1>
    </address>
    <customerPMs>
      <customerPM>
        <role></role>
        <user active="true">
          <firstName>ObligatoryTestFirstname</firstName>
          <lastName>ObligatoryTestLastname</lastName>
          <emailaddress>ObligatoryTestEmailaddress</emailaddress>
          <username>ObligatoryTestUsername</username>
          <password>ObligatoryTestPassword</password>
        </user>
      </customerPM>
      <customerPM>
        <role></role>
        <user active="true">
          <firstName>ObligatoryTestFirstname2</firstName>
          <lastName>ObligatoryTestLastname2</lastName>
          <emailaddress>ObligatoryTestEmailaddress2</emailaddress>
          <username>ObligatoryTestUsername2</username>
          <password>ObligatoryTestPassword2</password>
        </user>
      </customerPM>
    </customerPMs>
  </customer>
</customers>

```

赤文字のセクションは完全なデータセットを、青文字のセクションは必須のサブセットを示しています。XML ファイルにはすべてのカスタマーが含まれており、個別のカスタマー要素はそれぞれのカスタマーを示しています。XTM にカスタマーがすでに存在している場合、該当レコードはスキップされ、インポートされません。



カスタマー マップ

### 言語コンビネーションを設定するためのファイル(例)

```

</languagecombinations>
<language-combination source="en_GB" target="af_ZA" pricefactor="1.0" durationfactor="1.0" autoQuoting="false"
percharacters="false" minimumchargefactor="1.0" minimumtextcount="-1" activity="true"/>
<language-combination source="en_GB" target="sq_SQ" pricefactor="1.0" durationfactor="1.0" autoQuoting="false"
percharacters="false" minimumchargefactor="1.0" minimumtextcount="-1" activity="true"/>
<language-combination source="en_GB" target="ar_AA" pricefactor="1.0" durationfactor="1.0" autoQuoting="true"
percharacters="false" minimumchargefactor="1.0" minimumtextcount="-1" activity="true"/>
<language-combination source="en_GB" target="be_BY" pricefactor="1.0" durationfactor="1.0" autoQuoting="false"
percharacters="false" minimumchargefactor="1.0" minimumtextcount="-1" activity="true"/>
</languagecombinations>

```

## 16. 附録 5

---

### ITS 規則ファイルの例 1

各 ITS ファイルには、特定のファイル形式のための ITS 規則が含まれています。以下の例を参照してください。

```
<?xmlversion="1.0"encoding="UTF-8"?>
<its:rulesits:version="1.0"xmlns:its="http://www.w3.org/2005/11/its">

  <its:translateRuleselector="/*"translate="no"/>
  <its:translateRuleselector="//text"translate="yes"/>

  <its:withinTextRuleselector="//var"withinText="yes"/>

</its:rules>
```

### ITS 規則ファイルの例 2

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<its:rules version="1.0" xmlns:its="http://www.w3.org/2005/11/its">
  <its:translateRule selector="//P" translate="yes"/>
  <its:withinTextRule selector="//P" withinText="no"/>

  <its:translateRule selector="//Br" translate="no"/>
  <its:withinTextRule selector="//Br" withinText="nested"/>

  <its:translateRule selector="//B" translate="yes"/>
  <its:withinTextRule selector="//B" withinText="yes"/>
</its:rules>
```

ITS 規則に関する詳細はインターネット上で公開されています。<http://www.w3.org/TR/its/>を参照してください。

## SRX 規則ファイルの例

```

<?xml version="1.0"?>
<srx version="2.0" xmlns="http://www.lisa.org/srx20" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-
instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.lisa.org/srx20 srx20.xsd">
  <header cascade="no" segmentsubflows="no">
    <formathandle type="start" include="no"/>
    <formathandle type="end" include="yes"/>
    <formathandle type="isolated" include="yes"/>
  </header>
  <body>
    <languagerules>
      <languagerule languagerulename="English">
        <rule break="no">
          <beforebreak>(^|¥s|¥p{Ps}|¥p{Po})(&lt;[^\&gt;]*>))Std¥. </beforebreak>
          <afterbreak>¥s </afterbreak>
        </rule>

        <rule break="yes">
          <beforebreak>[.?!:] </beforebreak>

          <afterbreak>(¥s|&#xA0;)*+(&lt;[^\&gt;]*&gt;|¥s|&#xA0;)*+(&lt;[^\&gt;]*&gt;|¥s|&#xA0;)*+&#xA0; </afterbreak>
        </rule>
      </languagerule>
    </languagerules>
    <maprules>
      <maprule maprulename="Default">
        <languagemap languagepattern="en*" languagerulename="English"/>
      </maprule>
    </maprules>
  </body>
</srx>

```

## 17. 附録 6

---

### サーバの最小要件

サーバのスペックはコンカレント ユーザの見込数に依存します。コンカレント ユーザ数ごとのサーバ スペックの相違については、以下の表を参照してください。

コンカレント ユーザ数	10	25	50	100	200
マシンごとの CPU コア	2	4	6~8	4~8	8~16
マシンごとの RAM (GB)	32~64	64	64	64	64~128
アクティブなプロジェクトファイルに対するディスクスペース (GB)	50 GB	125 GB	250 GB	500 GB	1TB
クラスタのマシン数	1	1	1	2	3~4
OS - 64 ビット版	Linux / Windows	Linux / Windows	Linux / Windows	Linux	Linux

#### ソフトウェア実行時環境

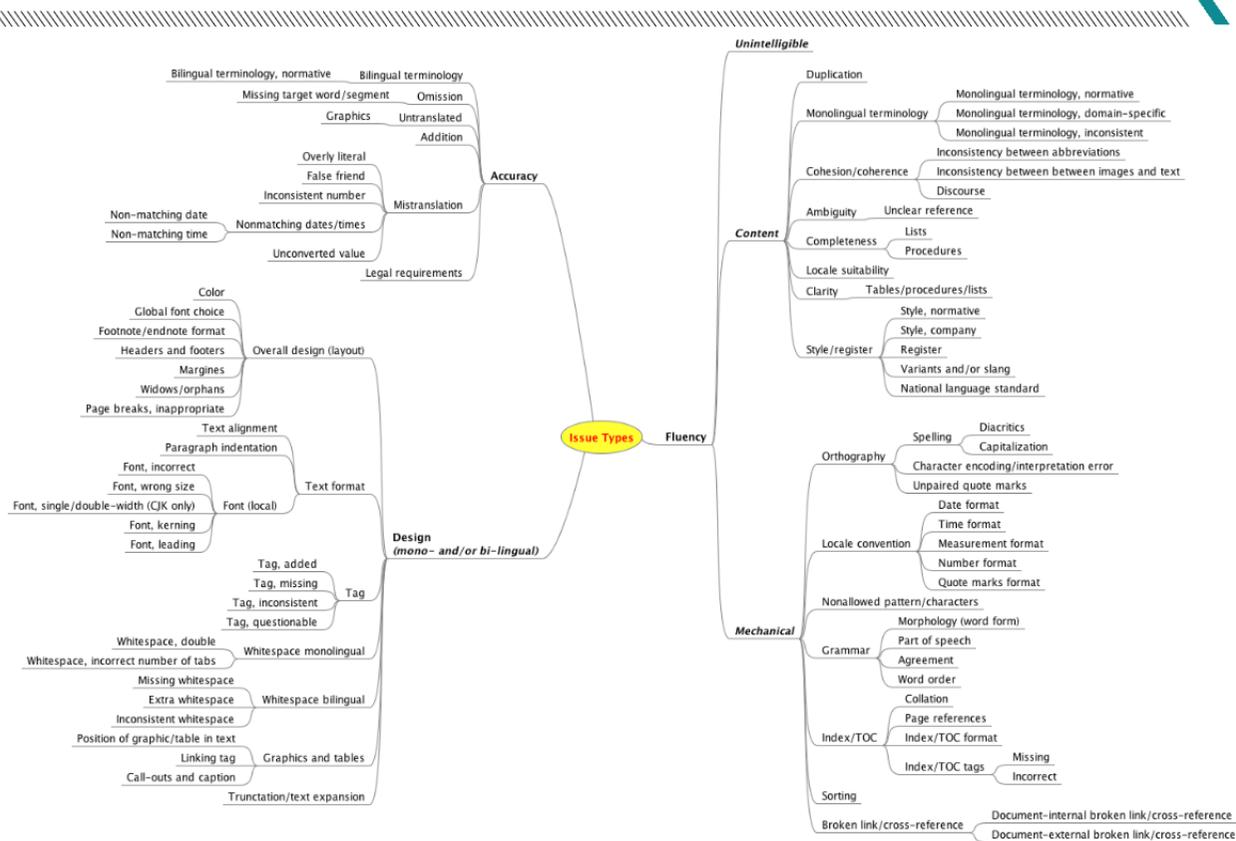
- Java 1.8.121 以上
- アプリケーション
  - Libre/Open Office v3.0 以上
  - データベース
    - PostgreSQL 9.5 以上
    - Microsoft SQL Server 2003 以上

インストール条件にそったサーバ要件やコンフィギュレーションについては弊社へお問い合わせください。

18. 附録 7

LQA - MQM イシューの階層

# Issue types (1)



タイプごとの例と概要を含む MQM (Multidimensional Quality Metrics) のイシュータイプのセットの構造概要については、オンライン [概要でイシュータイプをご確認ください](#)。



XTM-International Ltd, PO Box 2167, Gerrards Cross, SL9 8XF, UK  
Tel.: +44 (0)1753 480467 Fax: +44 (0)1753 480465 email: [sales@xtm-intl.com](mailto:sales@xtm-intl.com) <http://www.xtm-intl.com>